

2015(平成27)年9月 実施

第44回 足立区政に関する世論調査

定住性／大震災などの災害への備え／洪水対策／区の情報発信のあり方／
健康／ビューティフル・ウィンドウズ運動／
環境・地域活動／「孤立ゼロプロジェクト」など／区取り組み

はじめに

日々の生活からはなかなか見えづらいものの、足立区を取り巻く環境は大きく変化しています。まず人口構造ですが、当区はこの30年間で23区の中で子どもや生産年齢人口が多い「若い」自治体から、「高齢化」が急激に進んだ自治体へと大逆転現象が顕著になりました。

一方、駅前や拠点の開発、2本の新線開業による交通利便性の向上、さらには千住地域を中心に5つの大学が進出するなど、区内外から都市機能面の評価が高まりつつあり、特に若年子育て世代を中心に人口は増加を続けています。また、今後も花畑・江北・綾瀬・六町などのエリアデザイン地域として指定した場所を中心に、街のにぎわいが進んでいくことが予想されます。

このように様々な変化の真ただ中にある足立区だからこそ、区民の皆様のお考えや思いがどこにあるのか、しっかりと把握し、方向性や優先順位を見定めた区政運営が一層重要になってまいりました。

この度の世論調査にご協力をいただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

平成28年3月

足立区長 近藤 やすい

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	3
2. 調査の内容	3
3. 調査の設計	3
4. 調査ブロック	4
5. 調査方法	5
6. 回収結果	5
7. 報告書の見方	7
8. 標本構成	10
第2章 調査結果の要約	15
1. 定住性	17
2. 大震災などの災害への備え	18
3. 洪水対策	19
4. 区の情報発信のあり方	20
5. 健康	21
6. ビューティフル・ウィンドウズ運動	22
7. 環境・地域活動	24
8. 「孤立ゼロプロジェクト」など	25
9. 区の取り組み	26
第3章 調査結果の分析	29
1. 定住性	33
(1) 居住地域の評価	33
(2) 居住地域評価の経年比較	43
(3) 地域の暮らしやすさ	49
(4) 特に暮らしにくいと感じること	54
(5) 定住意向	58
2. 大震災などの災害への備え	67
(1) 備蓄や防災用具などの用意	67
(2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容	71
(3) 備蓄量	74
(4) 災害発生時の水や食料の確保	79
(5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策	82
(6) 対策をしていない理由	85
(7) 家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知	87
(8) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと	91
3. 洪水対策	97

(1) 「足立区洪水ハザードマップ」の認知	97
(2) 河川はん濫による浸水被害の際の対処	100
(3) 荒川がはん濫した際の最初の避難先	106
4. 区の情報発信のあり方	111
(1) 区に関する情報の入手手段	111
(2) 区が発信する必要がある情報	115
(3) 必要な時に必要とする区の情報入手状況	117
(4) 区の情報得られない理由	119
(5) 区の情報得られない理由の詳細	120
(6) 「お問い合わせコールあだち」の利用状況	121
5. 健康	125
(1) 糖尿病の認知状況	125
(2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識	127
(3) 食事の際に野菜から食べ始めることが、糖尿病予防に効果があることの認知	129
(4) 1日野菜350g以上の摂取	131
(5) 体調や習慣	133
(6) 健康維持のために実行している、心がけているもの	138
6. ビューティフル・ウィンドウズ運動	143
(1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況	143
(2) 治安が改善していることの認知	146
(3) 居住地域の治安状況	149
(4) 区内の治安が良いと感じる点	152
(5) 区内の治安が悪いと感じる点	155
(6) 治安対策として区に力を入れてほしいこと	158
(7) 駐輪時の鍵かけ状況	161
7. 環境・地域活動	169
(1) 環境のために心がけていること	169
(2) この1年間に参加した活動と今後の参加意向	171
(3) 区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業推進の評価	176
8. 「孤立ゼロプロジェクト」など	181
(1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況	181
(2) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知経路	184
(3) 「地域包括支援センター」の認知状況	185
(4) 「地域包括支援センター」の認知経路	188
(5) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向	189
(6) 協力意向がある活動内容	192
(7) 「成年後見制度」の認知状況	194
9. 区の取り組み	199
(1) 満足度と重要度	199
(2) 区政への区民意見の反映度	228

(3) 区に対する気持ち	231
(4) 区に愛着や誇りをもてない、区を人に勧めたくないと思う理由（自由回答）	242
(5) 区政についてのご意見、ご要望（自由回答）	246
(6) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度	251

第4章 使用した調査票	253
--------------------	------------

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、区政の各分野について区民の生活実態、意識や意向、意見や要望などを把握し、これを今後の区政運営に反映させることを目的としたものである。

2. 調査の内容

今回の調査では9項目について調査した。

- (1) 定住性
- (2) 大震災などの災害への備え
- (3) 洪水対策
- (4) 区の情報発信のあり方
- (5) 健康
- (6) ビューティフル・ウィンドウズ運動
- (7) 環境・地域活動
- (8) 「孤立ゼロプロジェクト」など
- (9) 区の取り組み

3. 調査の設計

- | | |
|--------------|-----------------------|
| (1) 調査地域 | 足立区全域 |
| (2) 調査対象 | 足立区在住の満20歳以上の男女個人 |
| (3) 標本数 | 3,000サンプル |
| (4) 調査対象者の抽出 | 足立区住民基本台帳より単純無作為抽出法 |
| (5) 調査期間 | 平成27年9月1日(火)～9月25日(金) |
| (6) 調査機関 | (株)サーベイリサーチセンター |

4. 調査ブロック

図1 ブロック区分図



表1 調査ブロック-町丁目対応表

ブロック名	地 区 町 丁 目 名
第1ブロック	千住関屋町、千住曙町、千住東一丁目～二丁目、千住旭町、柳原一丁目～二丁目、日ノ出町、千住橋戸町、千住河原町、千住仲町、千住緑町一丁目～三丁目、千住宮元町、千住中居町、千住龍田町、千住桜木一丁目～二丁目、千住一丁目～五丁目、千住大川町、千住寿町、千住元町、千住柳町
第2ブロック	小台一丁目～二丁目、宮城一丁目～二丁目、新田一丁目～三丁目、鹿浜一丁目、堀之内一丁目～二丁目、椿一丁目、江北一丁目～五丁目、扇二丁目
第3ブロック	西新井本町一丁目～五丁目、扇一丁目、扇三丁目、興野一丁目～二丁目、本木一丁目～二丁目、本木東町、本木西町、本木南町、本木北町、西新井栄町三丁目
第4ブロック	西新井栄町一丁目～二丁目、関原一丁目～三丁目、梅田一丁目～八丁目、梅島一丁目～三丁目
第5ブロック	足立一丁目～四丁目、西綾瀬一丁目～四丁目、中央本町一丁目～五丁目、弘道一丁目～二丁目、青井一丁目～六丁目
第6ブロック	加平一丁目、綾瀬一丁目～七丁目、東綾瀬一丁目～三丁目、谷中一丁目～二丁目、東和一丁目～五丁目、中川一丁目～五丁目
第7ブロック	大谷田一丁目～五丁目、佐野一丁目～二丁目、辰沼一丁目～二丁目、六木一丁目～四丁目、神明一丁目～三丁目、神明南一丁目～二丁目、北加平町、加平二丁目～三丁目、谷中三丁目～五丁目
第8ブロック	西加平一丁目～二丁目、六町一丁目～四丁目、一ツ家一丁目～四丁目、保塚町、東六月町、平野一丁目～三丁目、保木間一丁目、保木間二丁目(12番を除く)、南花畑一丁目～三丁目、東保木間一丁目～二丁目
第9ブロック	花畑一丁目～八丁目、南花畑四丁目～五丁目、保木間二丁目(12番のみ)、保木間三丁目～五丁目
第10ブロック	西保木間一丁目～四丁目、竹の塚一丁目～七丁目、六月一丁目～三丁目、島根一丁目～四丁目、栗原一丁目～二丁目
第11ブロック	西新井一丁目～七丁目、谷在家一丁目、西伊興町、古千谷一丁目(7、12、13、18番地)、栗原三丁目～四丁目、西伊興一丁目～二丁目、伊興一丁目～三丁目、西竹の塚一丁目～二丁目(1～7番[4番21・23・24の一部・26～30、7番20の一部・21～22を除く])
第12ブロック	鹿浜二丁目～八丁目、椿二丁目、江北六丁目～七丁目、谷在家二丁目～三丁目、加賀一丁目～二丁目、皿沼一丁目～三丁目
第13ブロック	舎人一丁目～六丁目、入谷一丁目～九丁目、古千谷一丁目(4～5、8～11、14～17番地)、古千谷二丁目、古千谷本町一丁目～四丁目、西竹の塚二丁目(4番21・23・24の一部・26～30、7番20の一部・21～22、8～17番)、入谷町、伊興四丁目～五丁目、西伊興三丁目～四丁目、東伊興一丁目～四丁目、舎人町、舎人公園、伊興本町一丁目～二丁目

5. 調査方法

- (1) 調査方法 郵送配布郵送回収法（依頼状、督促状ともに1回）
 (2) 調査票 4章の調査票を使用

6. 回収結果

- (1) 標本数 3,000票
 (2) 有効回収数 1,929票 有効回収率 64.3%
 (3) 回収不能数 1,071票 回収不能率 35.7%

- (4) 地区別回収結果

表2 調査ブロックー地区別回収結果

ブロック名	20歳以上人口	構成比	標本数	有効回収数	有効回収率
区全体	565,772	100.0%	3,000票	1,929票	64.3%
第1ブロック	63,636	11.2	334	240	71.9
第2ブロック	40,258	7.1	214	134	62.6
第3ブロック	35,960	6.4	192	127	66.1
第4ブロック	47,361	8.4	252	164	65.1
第5ブロック	52,164	9.2	277	174	62.8
第6ブロック	62,207	11.0	331	201	60.7
第7ブロック	45,443	8.0	242	141	58.3
第8ブロック	37,306	6.6	198	121	61.1
第9ブロック	27,752	4.9	148	98	66.2
第10ブロック	47,532	8.4	253	173	68.4
第11ブロック	35,813	6.3	190	120	63.2
第12ブロック	29,981	5.3	160	94	58.8
第13ブロック	40,359	7.1	209	141	67.5

(20歳以上人口は平成27年8月1日現在)

※有効回収数のうち1票はブロック不明

第1章 調査の概要

(5) 性別・年代別回収結果

表3 性別・年代別回収結果

性・年代	標本数	有効回収数	有効回収率
全 体	3,000票	1,929票	64.3%
男性（計）	1,493	834	55.9
20 代	205	61	29.8
30 代	235	101	43.0
40 代	326	162	49.7
50 代	213	126	59.2
60 代	253	184	72.7
70歳以上	261	200	76.6
女性（計）	1,507	1,033	68.5
20 代	177	77	43.5
30 代	244	142	58.2
40 代	283	201	71.0
50 代	221	178	80.5
60 代	212	175	82.5
70歳以上	370	260	70.3
無 回 答		62	

(注) この表での無回答は「性」を回答していない数を掲載している。また、「年代」においては、「性」を回答していても「年代」を回答していない方、又はその逆に「年代」を回答していても「性」を回答していない方がいるため、各年代の数を足し上げて「性」(計)の数とは一致しない。

7. 報告書の見方

- (1) 回答の比率(%)はすべて百分比で表し、小数点第2位を四捨五入した。そのため、百分比の合計が100%に満たない、または上回ることがある。
- (2) 基数となるべき実数は、nで表している。nは、回答者総数または該当設問の該当者数である。
- (3) 複数回答の設問は、各選択肢を1つだけでなく、2つ以上選択するため、各選択肢の合計数字が100%を超える場合がある。
- (4) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (5) 性・年代などのクロス分析の場合、分析軸の「その他」、「無回答」を掲載していないため、調査回答者全員の人数より少なくなることがある。
- (6) 集計は、単純集計、フェイスシートとのクロス集計、設問間クロス集計の3種類を行った。
- (7) 問1の〈居住地域の評価〉における『そう思う(計)』のように、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」等の2つ以上の選択肢を合わせた項目の比率を表記する場合、その比率は、それぞれの選択肢の実数値を合計して、比率を再計算したものを使用している。
- (8) 標本誤差

標本誤差とは、今回のように全体(母集団)の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあるが、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、誤差を数学的に計算することが可能である。

今回の調査の回答結果から、母集団(足立区在住の満20歳以上の男女)全体の比率を推定するため、無作為抽出法の場合の標本誤差の〈算出式〉と〈早見表〉を示した。

標本誤差および〈早見表〉は、以下のように使用する。

例えば、問3の「あなたは、あなたのお住まいの地域について、暮らしやすいと感じますか。」という質問に対して、「暮らしやすい」と答えた人は、1,929人のうち23.7%であった。

回答者数が1,929人、回答率が20%前後のときの標本誤差は、〈早見表〉では±1.82%であるから、「暮らしやすい」と考えている人は、足立区在住の満20歳以上の男女全体(母集団)の21.88%から25.52%であると推定できる。

〈標本誤差算出式〉

$$b = 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

<p>b = 標本誤差 N = 母集団数 (足立区の20歳以上人口) n = 比率算出の基数 (回答者数) P = 回答の比率 (0 ≤ P ≤ 1)</p>
--

〈 早見表 〉

回答の比率(P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,929	± 1.37	± 1.82	± 2.09	± 2.23	± 2.28
1,000	± 1.90	± 2.53	± 2.90	± 3.10	± 3.16
800	± 2.12	± 2.83	± 3.24	± 3.46	± 3.54
600	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
400	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
200	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
100	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	±10.00

〈 早見表 - 性・年代別 〉

回答の比率(P) 基数(n)		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
全 体	1,929	± 1.37	± 1.82	± 2.09	± 2.23	± 2.28
男性 (計)	834	± 2.08	± 2.77	± 3.17	± 3.39	± 3.46
20 代	61	± 7.68	±10.24	±11.73	±12.55	±12.80
30 代	101	± 5.97	± 7.96	± 9.12	± 9.75	± 9.95
40 代	162	± 4.71	± 6.29	± 7.20	± 7.70	± 7.86
50 代	126	± 5.35	± 7.13	± 8.16	± 8.73	± 8.91
60 代	184	± 4.42	± 5.90	± 6.76	± 7.22	± 7.37
70歳以上	200	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
女性 (計)	1,033	± 1.87	± 2.49	± 2.85	± 3.05	± 3.11
20 代	77	± 6.84	± 9.12	±10.44	±11.17	±11.40
30 代	142	± 5.04	± 6.71	± 7.69	± 8.22	± 8.39
40 代	201	± 4.23	± 5.64	± 6.46	± 6.91	± 7.05
50 代	178	± 4.50	± 6.00	± 6.87	± 7.34	± 7.50
60 代	175	± 4.54	± 6.05	± 6.93	± 7.41	± 7.56
70歳以上	260	± 3.72	± 4.96	± 5.68	± 6.08	± 6.20

(注1) Nはnより非常に大きく、 $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$ とみなせるので、 $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として計算した。

(注2) 「年代」においては、「性」を回答していても「年代」を回答していない方、又はその逆に「年代」を回答していても「性」を回答していない方がいるため、各年代の数を足し上げて「性」(計)の数とは一致しない。

(9) 分類した項目の定義

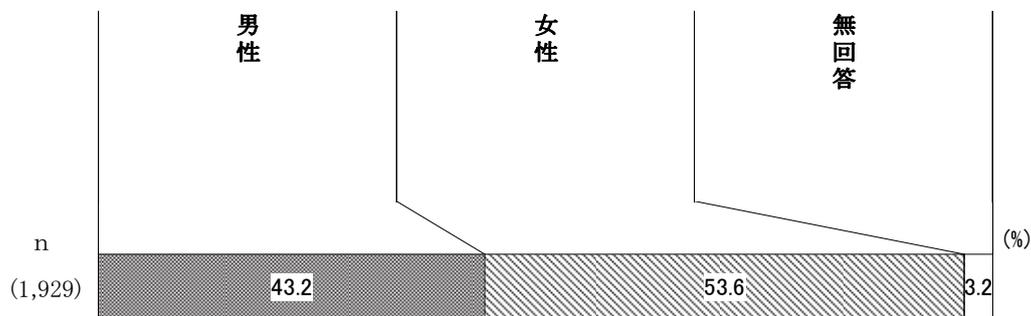
質問に対して、分類（表側）に使用した項目は以下のとおりである。

- ① 地域ブロック別……（13カテゴリ）
- ② 性別……（2カテゴリ）
- ③ 性・年代別……（12カテゴリ）
- ④ ライフステージ別……（7カテゴリ）
 - ・独身期 40歳未満の独身者
 - ・家族形成期 40歳未満で子どものいない夫婦、または本人が64歳以下で一番上の子どもが小学校入学前の人
 - ・家族成長前期 本人が64歳以下で一番上の子どもが小・中学生の人
 - （家族成長小学校期） 本人が64歳以下で一番上の子どもが小学生の人
 - （家族成長中学校期） 本人が64歳以下で一番上の子どもが中学生の人
 - ・家族成長後期 本人が64歳以下で一番上の子どもが高校生・大学生の人
 - ・家族成熟期 本人が64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
 - ・高齢期 本人が65歳以上の人
 - （一人暮らし高齢者） 本人が65歳以上で一人暮らしの人
 - （夫婦二人暮らし高齢者） 本人が65歳以上で夫婦二人暮らしの人
 - （その他の高齢者） 本人が65歳以上で一人暮らし、夫婦二人暮らし以外の人
 - ・その他壮年期 本人が40歳～64歳で独身、または本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
 - （壮年独身者） 本人が40歳～64歳で独身
 - （壮年夫婦のみ者） 本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
- ⑤ 住居形態別……（8カテゴリ）
- ⑥ 職業別……（8カテゴリ）
- ⑦ 就労（就学場所）別……（6カテゴリ）
- ⑧ 居住年数別……（5カテゴリ）

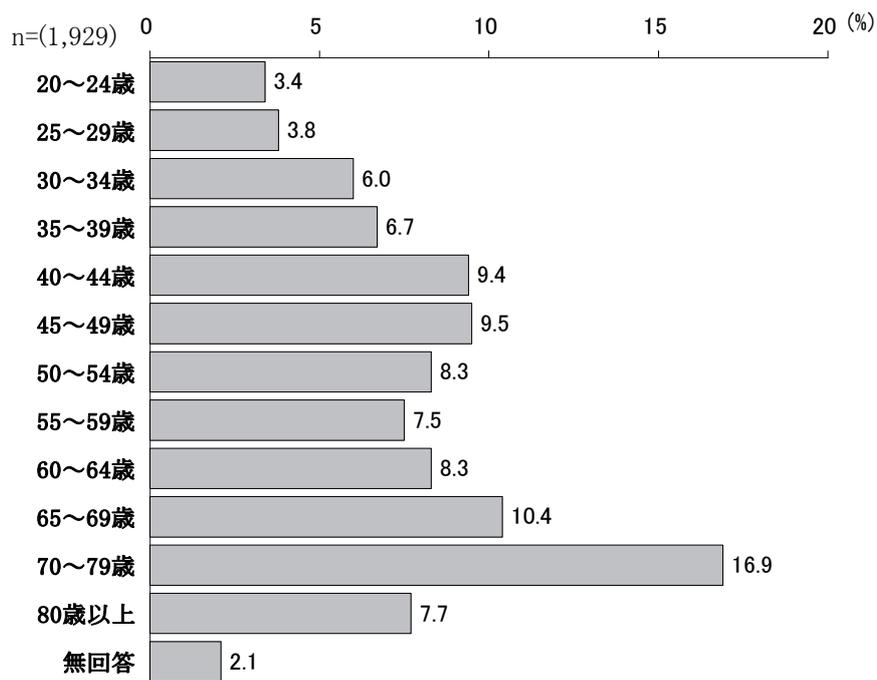
※本文中、表側に使用した項目の回答者数が少ない選択肢は誤差が大きいため、分析の対象としていない場合がある。

8. 標本構成

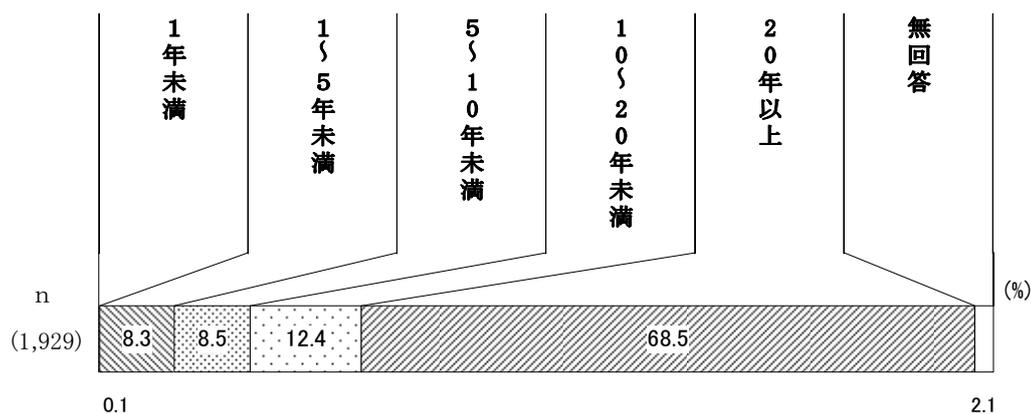
F1 性別



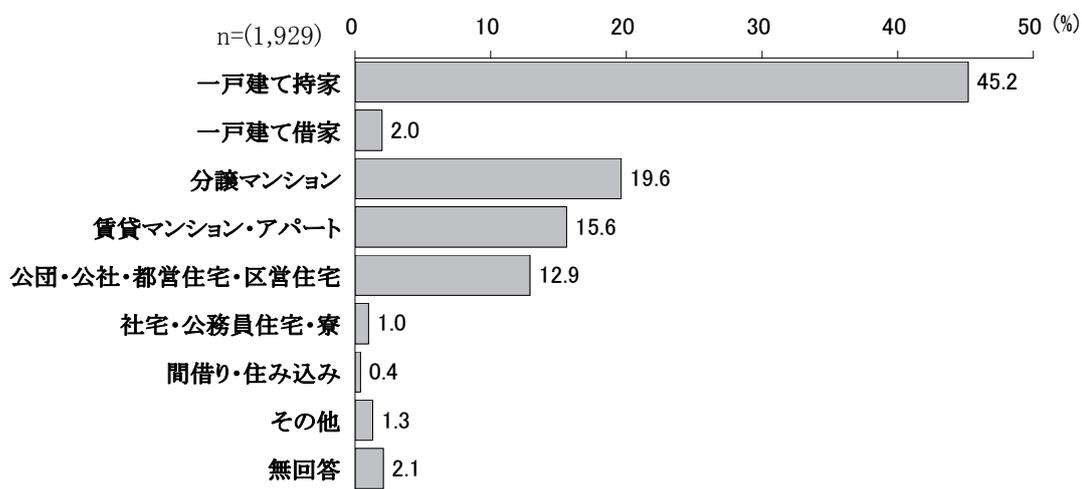
F2 年齢



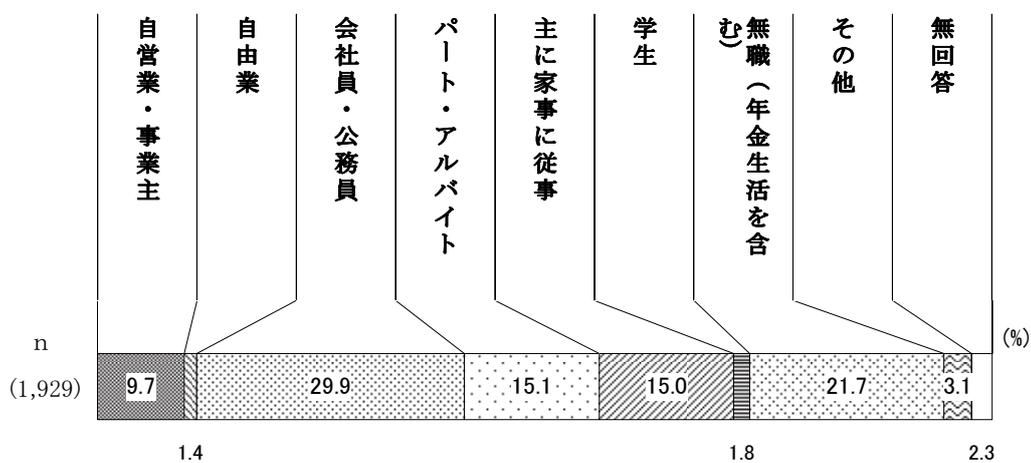
F 3 居住年数



F 4 住居形態

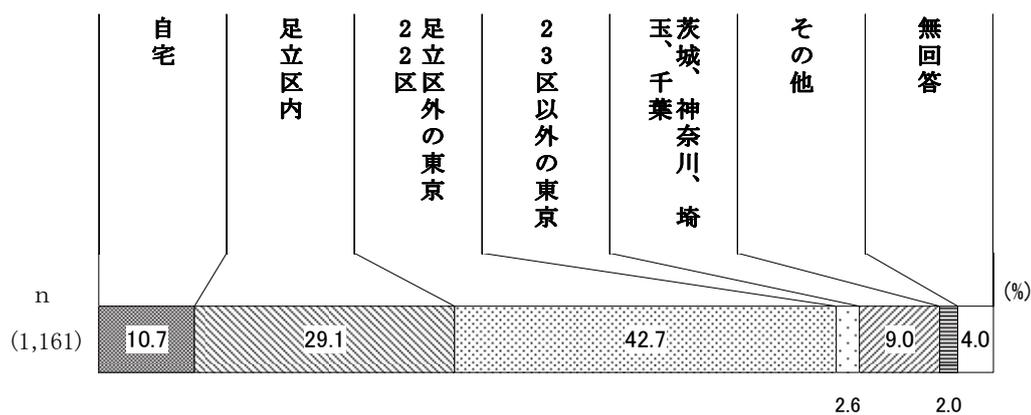


F 5 職業

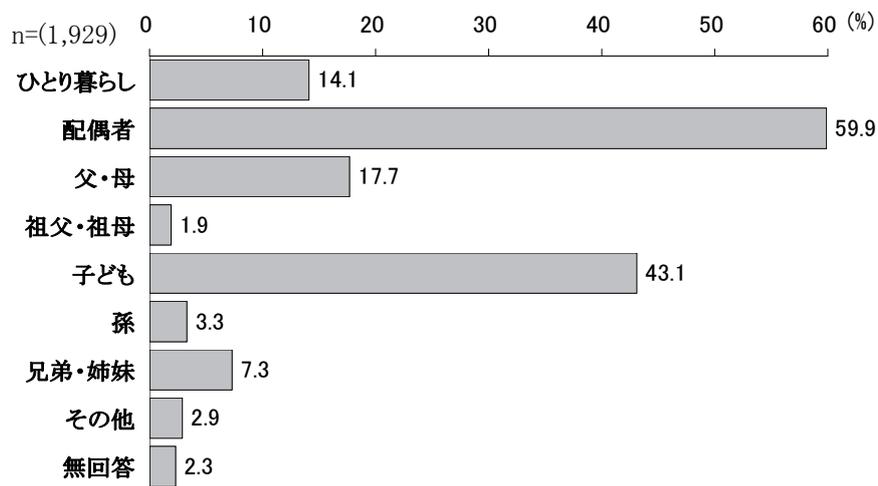


第1章 調査の概要

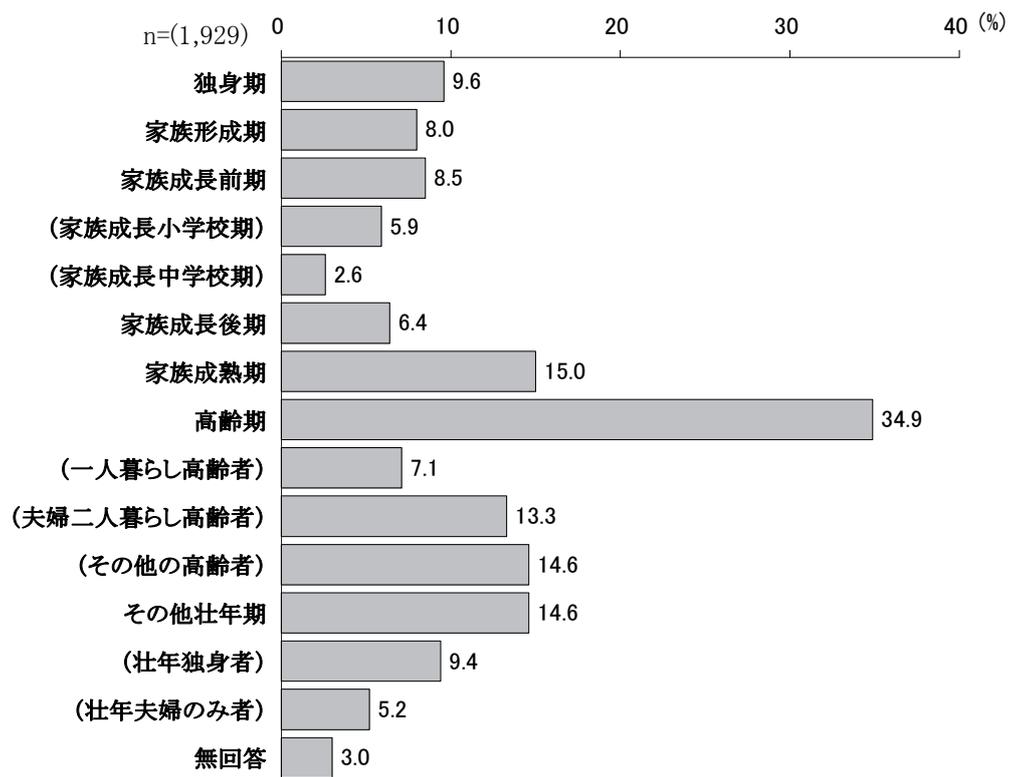
F 6 就労、就学場所



F 7 同居家族（複数回答）



F 8 ライフステージ



第2章 調査結果の要約

1. 定住性

居住地域の評価については、〈通勤や通学などの交通の便がよい〉〈地域の施設は、高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている〉〈自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている〉等、ほとんどの項目がほぼ横ばいという結果になっている。

しかしながら、〈自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている〉は、肯定的な評価が微増しているとはいえ、依然として、否定的な評価（「どちらかといえばそう思わない」＋「そう思わない」）が6割を超えており、引き続き、区民のマナー意識の向上が求められる。

また、〈ペットのふん〉についても、【減少している】（「明らかに減っている」＋「どちらかといえば減っている」）はほぼ横ばいであり、〈ごみやタバコのポイ捨て〉とともに、区民のマナー意識のさらなる向上が求められる。

〈まちなかの花や緑〉〈防犯パトロール〉など、環境面、防犯面についても【増加している】（「どちらかといえば増えている」＋「明らかに増えている」）が、いずれも今回、ほぼ横ばいという結果となっている。

このように、居住地域の利便性の良さ、環境面、防犯面などの取り組みへの評価は比較的高い水準にあるものの、地域の暮らしやすさへの評価をみると、【暮らしやすい】（「暮らしやすい」＋「どちらかといえば暮らしやすい」）との評価は今回79.3%となっており、平成26年度（76.9%）より増加している。

また、地域ブロック別でみると、第2、第7、第9ブロックのように、【暮らしにくい】（「どちらかといえば暮らしにくい」＋「暮らしにくい」）が2割台後半と、他のブロックより高くなっている地域もあり、依然として、暮らしやすさへの評価の地域差は解消されていない。

また、【定住意向】（「ずっと住みたい」＋「当分は住みたい」）についても、今回は78.9%と、平成26年（75.8%）より増加しており、区民の暮らしやすさへの評価とほぼ対応した経年変化を示している。

今後も、評価の低い分野への取り組みを一層強化し、今回の調査で明らかになった、区の暮らしやすさへの評価や区民の定住意向の増加傾向を、今後も維持していくことが課題である。

2. 大震災などの災害への備え

東日本大震災から約4年半が経過したが、区民の防災意識や日頃の備えはどのようになっているのだろうか。

備蓄や防災用具、買い置きなどの用意については、【備蓄・買い置きあり】（「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」＋「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」）は今回は68.0%と、平成25年度以降の横ばい状態が続いており、依然として、震災後の平成24年度調査結果（73.9%）に比べて低い水準に留まっている。

しかし、震災の風化が進む中、毎年下降していた区民の防災への意識は、昨年度比でわずかながら上昇に転じた。今後も防災意識を高い水準に維持しつつ、関心が低い層への訴求の取り組みをしていくことが必要である。

備蓄や防災用具、買い置きなどの内容についても、「水」「食料」「あかり」が8割を超えて高くなっているのに対して、「医薬品（常備薬を含む）」は4割弱、「救急セット」「簡易トイレ」は2割強に留まるという傾向に変化はみられない。

また、水と食料の備蓄量については、いずれも「1日分以上3日分未満」が4割を超えて高くなっており、「3日分以上1週間分未満」は2割台、「1週間分以上」は1割前後に留まっている。

この回答傾向は、平成25年度以降続いており、今後も医療やトイレをはじめとして、備蓄内容をより充実させるとともに、水や食料の備蓄量についても、国の「最低3日分、可能であれば1週間」という目標に少しでも近づくよう、粘り強く区民に働きかけていくことが重要である。

さらに、災害時に水や食料についてどうするかを「考えていない」という人が、平成25年度調査結果の37.3%から、前回41.3%、今回42.9%へと微増傾向を示しており、区民の防災意識が徐々に薄れてきていることがわかる。20代の男性をはじめとして、防災意識の希薄な層に対して、災害時の物流の停止などの事態に関する情報を提供し、日頃から災害への備えをしてもらうように、今後も継続して働きかけていくことが必要である。

次に、家具類の転倒・落下・移動防止対策については、【対策実施・多い】（「すべての家具類に対策を行っている」＋「対策をしている家具類が多い」）は今回27.9%と、平成26年度調査結果（27.1%）とほぼ同様の結果となっている。

また、【少ない・行っていない】（「対策をしている家具類は少ない」＋「対策を行っていない」）人は、その理由として、「面倒である」が3割を超えているほか、「室内に危険性のある家具類がないため不要である」「建物の壁にキズをつけたくない」等と回答する人も2割前後いる。今後も地震の際の家具転倒の危険性について、十分に認識を広めていくことが重要である。

さらに、家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知については、平成23年度以降微増傾向にある。

今後も、区民に対して、地震の際の家具転倒の危険性について粘り強く周知を図り、家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知度をさらに高めていくことが求められる。

最後に、大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこととしては、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」「ライフラインやエネルギーの確保」「水・食料の備蓄の充実」の3項目が、平成25年度以降、いずれも5割を超えて、上位3位を占めるという回答傾向は変わっていない。「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」や「水・食料の備蓄の充実」については、行政だけではなく、区民自身の取り組みも重要であることから、今後も区民自身の防災意識を高め、主体的な取り組みを促進するため、粘り強く働きかけていくことが重要である。

3. 洪水対策

『足立区洪水ハザードマップ』を「見たことがあって、自宅周辺の状況を理解した」が16.8%で、これに「見たが内容まで覚えていない」(35.9%)を合わせた【見たことがある】は52.8%と過半数を占めているが、その一方、「そのような地図は見たことかない」という回答も4割を超えている。とくに、20代の男女では【見たことがある】が他の年代に比べて極めて低くなっており、若い世代の認知度を向上させていくことが重要である。

次に、河川はん濫による浸水被害の際の対処としては、〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉が81.3%と際立って高く、これに次いで〈近所の人が避難しているのを見たとき〉や〈自宅付近が浸水したとき〉が高くなっている。こうした傾向は、多少の数値の違いはあるものの、ほぼすべての地域に共通している。

また、荒川区がはん濫した時の最初の避難先としては、「近くの学校や公共施設」が30.8%で最も高く、これに次いで「自宅の高層階（3階以上）」「近くの高い建物」が多くなっている。

こうした避難先の選択は住居形態によって異なっており、一戸建て持家、一戸建て借家等では「近くの公共施設」が高くなる傾向があるのに対して、公団・公社・都営住宅・区営住宅、分譲マンションでは、「自宅の高層階（3階以上）」に避難するという人が多くなっている。

今後も、区民の『足立区洪水ハザードマップ』への認知度を高めて、洪水時に区民が適切な対応をできるようにしていくとともに、避難場所の確保等の支援体制の充実を図ることが重要である。

4. 区の情報発信のあり方

区に関する情報の入手手段としては、今回も「あだち広報」が71.7%を占め、依然として際立って高くなってはいるものの、平成25年度以降、その比率は徐々に減少している。また、こうした減少傾向は、「ときめき」にも共通している。その一方、「インターネット」が微増しているほか、報道機関等への積極的な情報提供により、「テレビ、ラジオ」が今回26.4%と平成26年度(18.5%)から大きく増加している。

こうしたことから、「あだち広報」等の紙媒体だけではなく、多様な情報媒体を通して区民に情報を発信していることの成果が出ていると言える。

また、「わたしの便利帳」については、平成26年度からタウンページと合本の形となっている。今回、平成26年度の26.0%から10.4%へ減少した理由としては、タウンページの発行が平成26年は6月であったのに対し、平成27年度は10月と変更となったため、世論調査との時期のズレが主なものと思われる。

次に、区が発信する情報としては、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」「災害や気象に関する情報」「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」の3項目が、いずれも5割を超えて、今回も上位3位を占めている。とくに、「災害や気象に関する情報」は、今回、平成26年度の47.9%から59.5%へと大きく増加している。

また、こうした情報が必要な時に得られているかについては、【得られる】(「十分に得られている」+「ある程度得られている」)は今回64.7%と、ほぼ前回並みの数字となっている。

一方、【得られない】(「得られないことが多い」+「まったく得られない」)という人が、その理由として挙げている項目をみると、平成25年度には5割を超えていた「情報が探しにくい」が、今回3割以下まで減少しており、この点の改善が進んできている状況がうかがえる。

また、「お問い合わせコールあだち」については、【知っている】が今回32.1%と、平成26年度の28.9%から微増しており、徐々にではあるが、区民の認知度が高くなってきていることがわかる。

5. 健康

糖尿病という病気については、【知っている】（「知っている」＋「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」）が97.5%と、極めて認知度は高くなっている。ここ2、3年、認知度は高い数値を維持している上、性別、年代別にかかわらず、その認知度は極めて高いことから、この病気についての認識は広く区民に浸透したといえる。

また、糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいについては、「失明」「足の壊疽」「口の渇き」「人工透析」についても、依然として高い数値が示されている。

しかしながら、「神経障がい（手足のしびれ）」や「網膜症」のような《重大な合併症の兆候》を示すものについては、【知っている】が2割から3割程度に留まっている。糖尿病という病気についての認識は広まっているものの、その危険性について、一層の区民の理解を深めていくことの重要性は変わっていない。

糖尿病の予防には、「食事の際に野菜から食べ始めることが効果的である」と言われているが、このことを【知っている】（「知っている」＋「詳しくは知らないが、聞いたことがある」）は今回79.2%と、平成25年度調査結果（72.5%）から、徐々にではあるが確実に増加している。

しかしながら、性・年代別でみると、若い世代での認知度が依然として低く、今後も継続して若い世代に糖尿病の予防の大切さや、その具体的な方法を伝えていくことが重要である。

一方、野菜の摂取量については、「1日350g以上」が目標とされているが、実際に、【できている】（「できている」＋「だいたいできている」）は39.6%と平成25年度以降横ばいを示している。とくに【できている】は20代から60代の男性、20代、30代の女性で低くなっており、今後もこの年代を中心に、健康維持のための野菜摂取の重要性を啓発していくことが重要である。

次に、体調や習慣についてみると、〈現在の健康状態はよい〉〈安心して受診できる医療機関が身近にある〉については、6割台後半が「あてはまる」と回答しており、区民の多くは健康であり、医療環境にも恵まれていると考えていることがわかる。しかし、日頃の生活の中では、20代から50代の男性で喫煙習慣のある人が3割を超えている。

最後に、健康維持のために実行している、心がけているものとしては、平成25年度以降、「毎日朝ごはんを食べている」「毎年健康診断を受けている」が6割を超えて高くなる傾向は変わっていない。

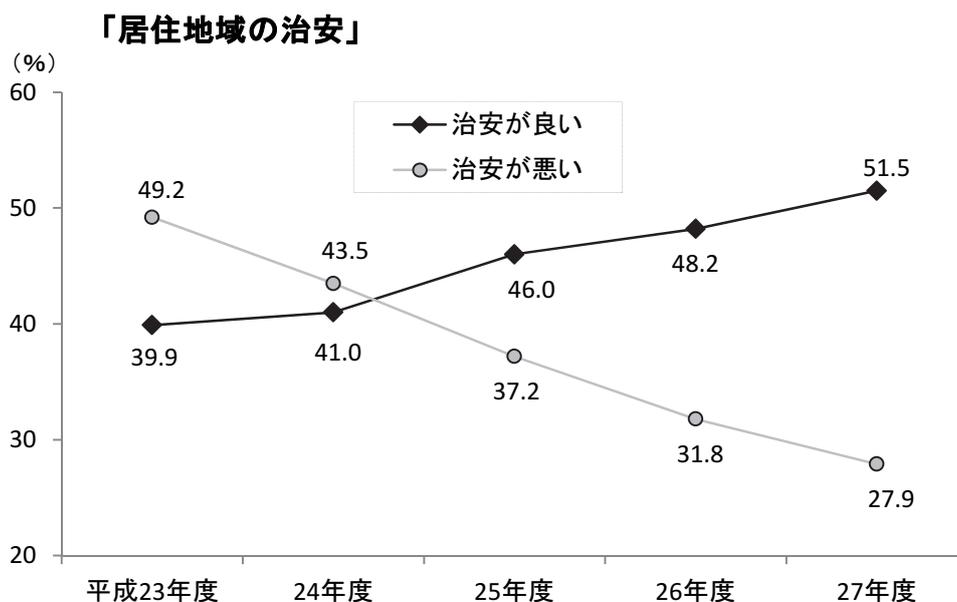
しかしながら、「主食、主菜、副菜をそろえて食べるように心がけている」は今回も43.1%と、平成26年度調査結果（43.3%）とほぼ同様の結果となっており、平成24年度調査結果の52.0%に比べて低いという状況が続いている。前述したように、「1日350g以上」の野菜を摂っている人が4割に満たない現状を考え合わせると、今後も、野菜の摂取も含めて、バランスのとれた食生活を送ることの重要性を、区民に周知させるための取り組みを継続していくことが重要である。

6. ビューティフル・ウィンドウズ運動

ビューティフル・ウィンドウズ運動については、【知っている】（「知っている、活動を実践している」＋「知っているが、とくに何も行っていない」）は今回44.0%と、平成22年以降の増加傾向が続いており、この運動の区民への周知は着実に進んできている。しかしながら、地域による認知度の違いは少なくなってきたものの、40代を除く男性、20代の女性で認知度は3割台を示しており、今後も若い世代及び男性をはじめとして、すべての区民に、この運動への理解を広め、参加を促進していくことが必要である。

次に、足立区内の刑法犯認知件数が減少していることを「知っている」という人が、今回41.6%と、平成26年度（36.5%）より増加しており、この点についての区民の認知度も高まってきたことがわかる。

また、居住地域の治安状況についても、ビューティフル・ウィンドウズ運動や刑法犯認知件数の減少傾向の認知度の高まりと平行して、平成22年以降、【良い】（「良い」＋「どちらかといえばよい」）の増加傾向は続いており、今回は51.5%と、調査実施以来はじめて5割を超え、【悪い】（「悪い」＋「どちらかといえば悪い」）を23.6ポイントも上回っている。



しかしながら、治安状況への評価の地域差はやや少なくなってきたものの、女性の20代、30代の評価は依然として厳しく、今後も治安状況の改善に向けた取り組みを継続していく必要がある。

【良い】という回答した人では、「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」が、今回やや比率を落としたものの、平成25年度、平成26年度調査と同様に、最も高くなっている。

治安対策として区に力を入れてほしいこととしては、「防犯カメラなど防犯設備の設置についての支援」が今回56.6%と、平成26年度（50.7%）より5.9ポイントも増加しており、防犯カメラに寄せる区民の期待はさらに高まってきた。

区の治安状況に対する区民の評価や区の防犯のための取り組みの認知度は、年々確実に上昇しているが、今後も、足立区をより安心安全なまちにしていくために、防犯カメラの設置等の対策に力を入れていくことが求められる。

なお、今回はじめて、自転車駐車時の鍵かけ状況を、〈外出先で駐車するとき〉と〈自宅・マンションなどの敷地内に駐車するとき〉の2つに分けて聞いたが、前者の場合では「いつも鍵をかけている」が72.8%と高くなっているのに対して、後者では58.3%と低くなっており、自転車駐車時の区民の防犯意識を高めていくことが求められる。

7. 環境・地域活動

環境のために心がけていることとしては、今回も「ごみと資源の分別を実行している」が、87.8%で最も高く、平成23年度以降、85%を超えている。「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」も55.2%と、平成23年度以降、徐々にではあるが増加しているが、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」は今回54.6%と、平成23年度調査結果（69.6%）以降減少傾向が続いている。東日本大震災で高まった意識が低下していることがうかがえるため、引き続き省エネルギーのわかりやすい啓発を行い、実践につなげていくことが重要である。

また、今回調査でも「ごみと資源の分別を実行している」「節電や節水など省エネルギーを心がけている」は、男女とも20代では他の年代に比べて低くなっているため、特に若い世代の環境意識を高めるような取組みを強化していくことが求められる。

次に、この1年間に参加した地域活動をみると、「特に参加していない・特にない」は今回34.3%と、平成26年度調査結果（32.7%）とほぼ同様の水準にある。

その内容としては、平成26年度調査結果（19.8%）と同様に、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が、今回も21.0%と最も高くなっている。一方、今後の参加意向をみても、この傾向はほぼ同様となっている。

最後に、区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業推進の評価については、【そう思う】（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が今回20.2%と、平成26年度調査結果の27.7%から大きく減少している。その一方、「わからない」という回答が今回59.5%と、前回（49.7%）から大幅に増加している。今後は区民・団体等との協力・連携（協働）した事業の内容やその進捗状況を広く区民に周知するとともに、区民に分かりやすい評価の仕組みづくりをしていくことが重要である。

8. 「孤立ゼロプロジェクト」など

「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況をみると、【知っている】（「知っている、内容も概ね理解している」＋「聞いたことがあるが、内容はわからない」）が今回30.2%と、平成25年度以降、ほぼ横ばい状況にある。

地域ブロック別でみると、第4、第5、第7、第8、第9、第10、第13ブロックでは【知っている】が3割を超えているものの、第6ブロックのように21.9%と低くなっているところもあり、依然として地域差は残っている。また、若い世代の認知度の低さも、前回、前々回調査と共通している。

このプロジェクトの認知手段をみると、「あだち広報」は依然として最も高くなっているものの、今回は55.2%と、平成26年度（62.9%）より、7.7ポイント減少している。その一方、「町会・自治会の方から聞いた」は今回38.5%と、平成25年度以降微増傾向にある。

こうした結果からは、このプロジェクトへの町会・自治会の取り組みが広まり、それが区民の認知度の向上につながっていることがうかがわれる。今後も、町会・自治会や民生委員が協力して、このプロジェクトへの取り組みの推進を図っていくことが重要である。

次に、高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向をみると、【協力したい】（「積極的に協力したい」＋「負担にならない範囲で協力したい」）は今回19.1%と、平成25年度以降、横ばい状況にある。地域ブロックによる参加意向の差も依然として残っており、第9ブロック（27.6%）と、第3ブロック（8.7%）の間には18.9ポイントの開きがある。また、若い世代の協力意向の低さについても、大きな変化はみられない。

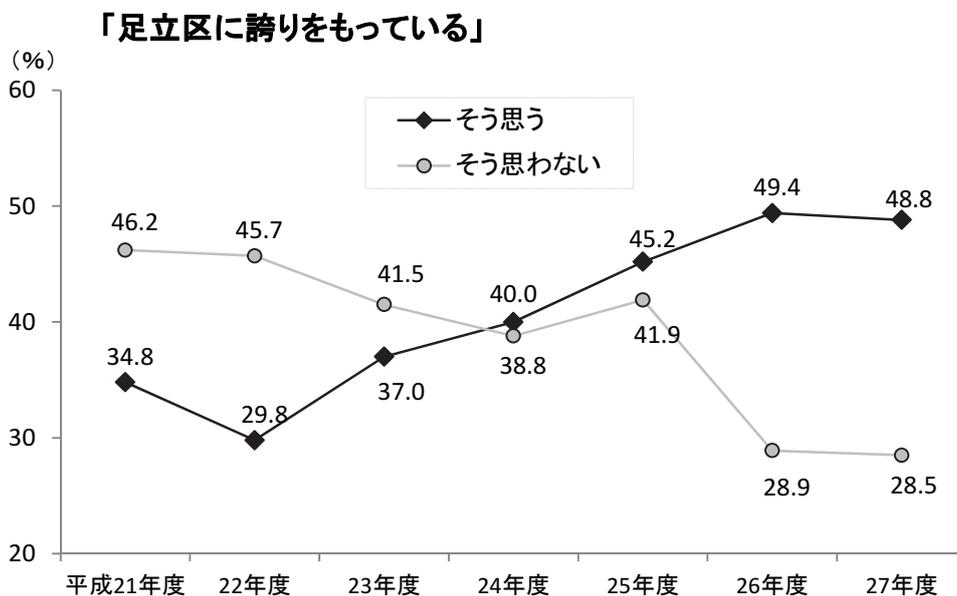
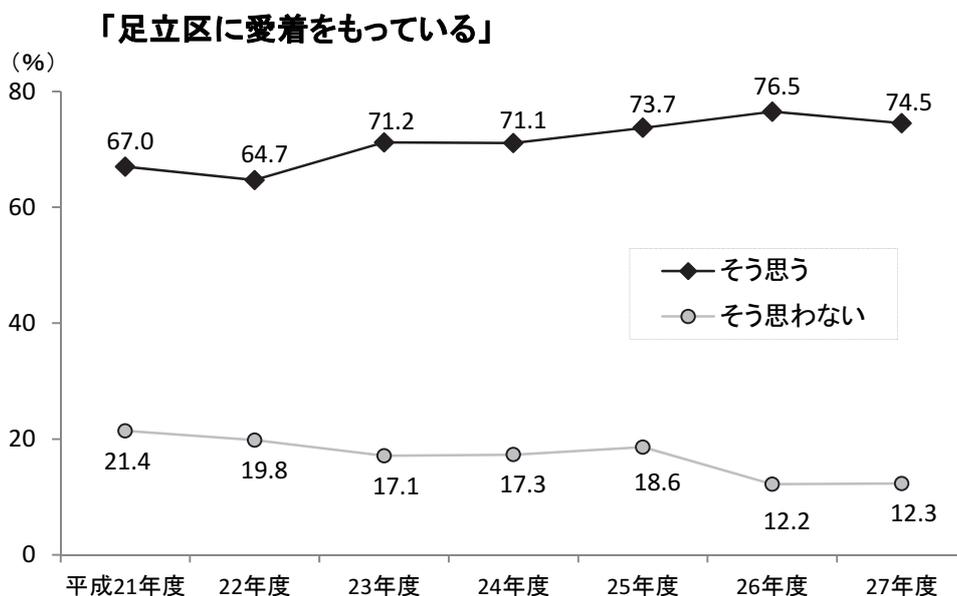
協力意向のある人では、その内容として「体調の変化、悩み相談などをうかがいながら寄り添う、ちょっとした気づかいの活動」が今回56.0%と、平成26年度（55.2%）とほぼ同様の結果となっている。

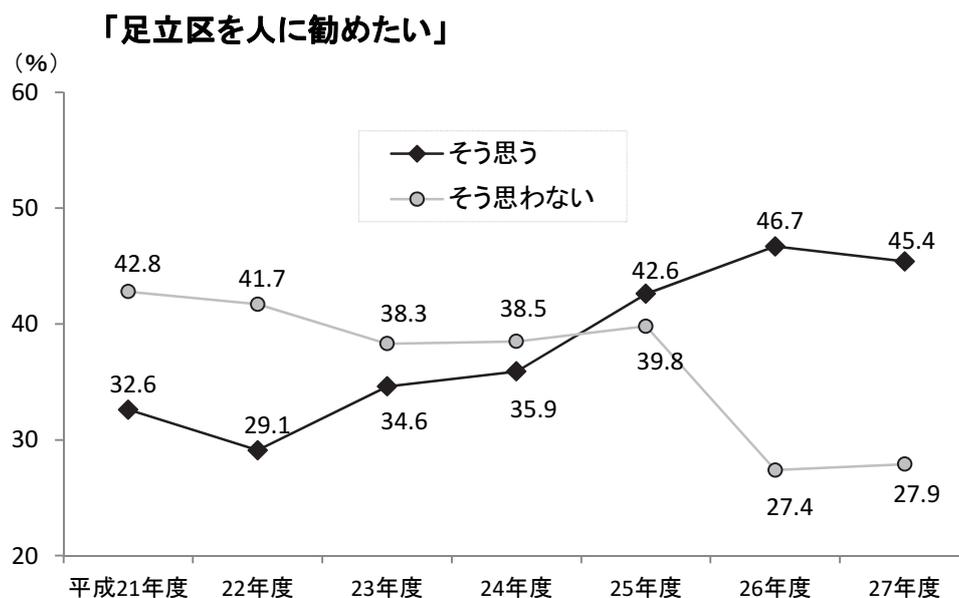
また、近年、注目されている成年後見制度については、【知っている】が今回57.4%と、平成25年度以降ほぼ横ばいの状況にある。

以上のように、孤立ゼロプロジェクト、地域包括支援センターの認知度、成年後見制度とも横ばい状況が続いているほか、高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向にも大きな変化はみられない。これらの取り組みは、地域福祉を推進する上で極めて重要な役割を果たしており、今後も継続して、事業や活動の認知度の向上と、区民の活動への参加の促進を図っていくことが求められる。

9. 区の取り組み

区に対する気持ちを〈足立区に愛着をもっている〉〈足立区に誇りをもっている〉〈足立区を人に勧めたい〉の3項目に分けてみると、いずれの項目も、今回は、平成26年度とほぼ同様の数字となっており、依然として、区民の足立区への愛着度は高い水準にある。





また、前述したように、今回は、区民の暮らしやすさの評価、定住意向も、平成26年度より増加しているほか、足立区の重要な政策課題である治安の問題についても、【良い】との評価は今回はじめて5割を超えており、大きく改善されてきている現状は明らかになっている。

しかしながら、区の各分野への取り組みへの現状評価は、各分野とも横ばい状況にあるものが多く、〈区全体として〉の評価も、今回53.3%と、平成26年度（53.2%）とほぼ同様の数値となっている。

今回調査においても、前回調査と同様に、区の各分野への取り組みへの現状評価（満足度）と重要度の関係を数値化（算出方法の詳細は208頁参照のこと）してみると、足立区の場合、「重要度が平均点より高いが、現状評価（満足度）が平均より低い」分野、つまり重点的に取り組む必要のある分野が、「高齢者支援」「障がい者支援」「治安対策」「交通対策」「防災対策」「行政改革」であるという状況は続いている。

今後も、「高齢者支援」「障がい者支援」「治安対策」「交通対策」「防災対策」「行政改革」等の重要課題の解決に向けて、一層積極的に取り組むことにより、区民の区政全体への満足度を向上させ、区民の暮らしやすさの評価や定住意向をさらに高めていくことが求められる。

第3章 調査結果の分析

1 定住性

-
- (1) 居住地域の評価
 - (2) 居住地域評価の経年比較
 - (3) 地域の暮らしやすさ
 - (4) 特に暮らしにくいと感じること
 - (5) 定住意向
-

1. 定住性

(1) 居住地域の評価

■ 〈普段の買い物が便利である〉と感じている人は7割を超える

問1 あなたはお住まいの地域について、どのように感じていますか（〇はそれぞれ1つずつ）。

図1-1-1-① 経年比較／居住地域の評価

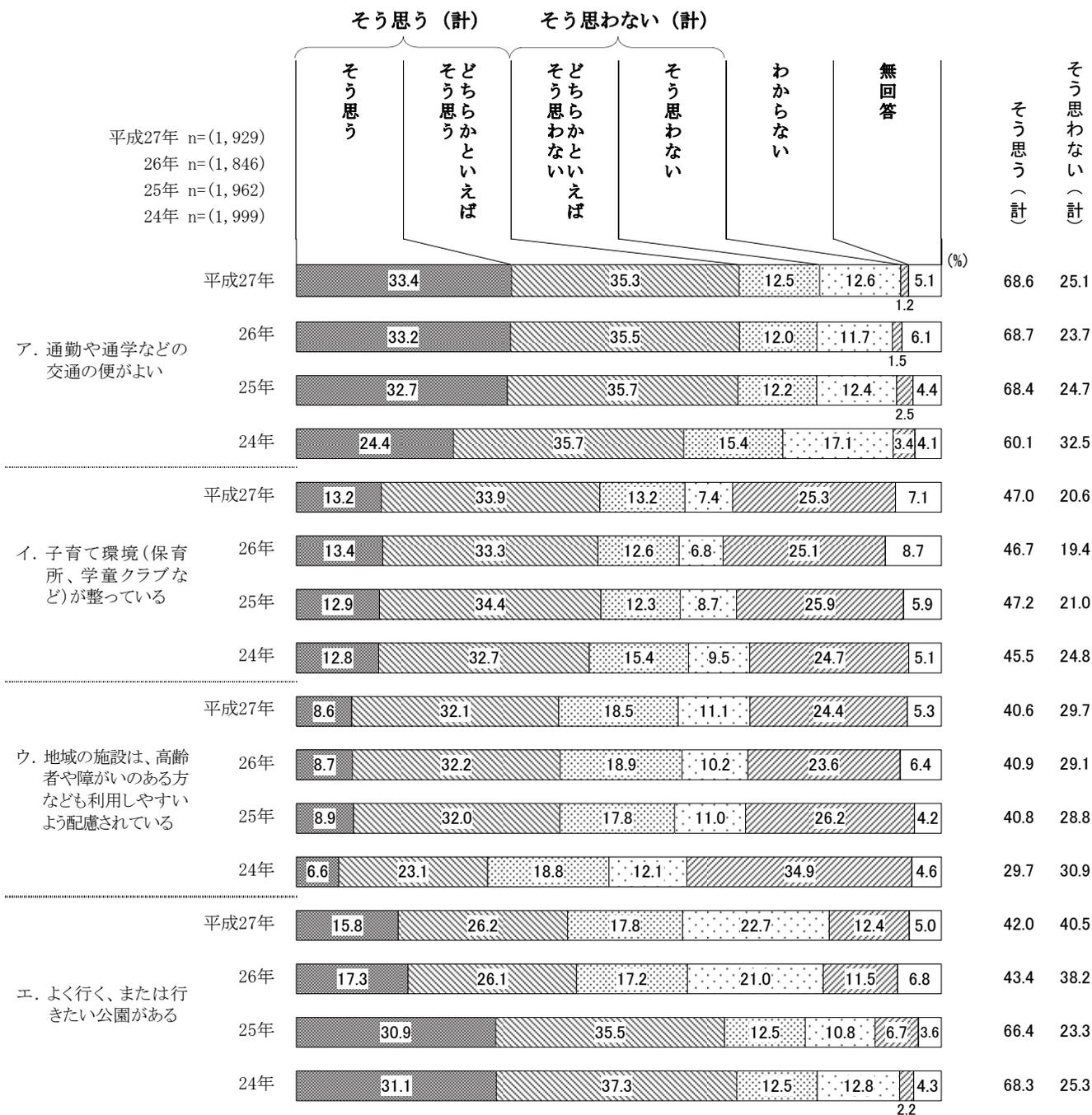
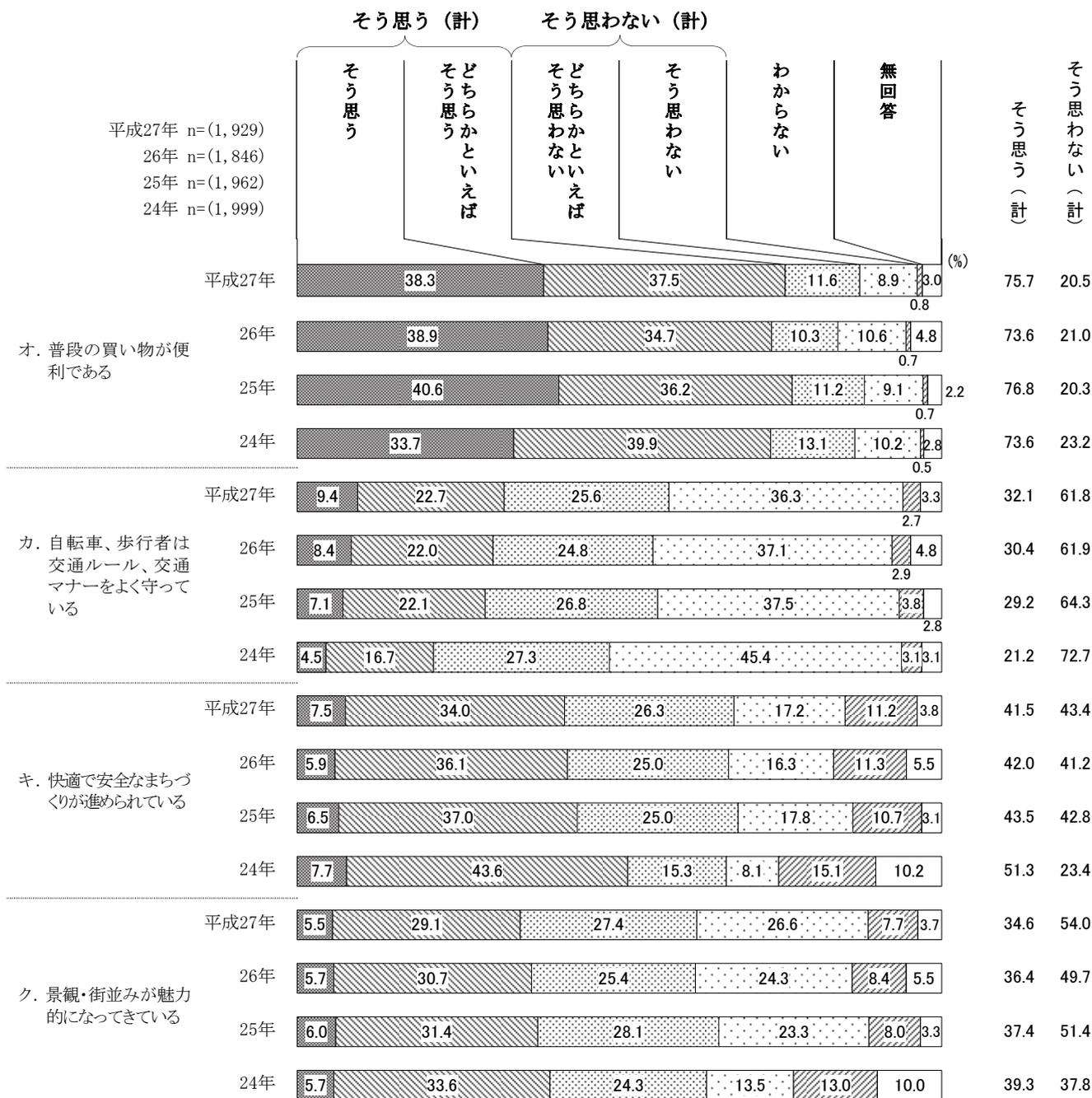


図1-1-1-② 経年比較／居住地域の評価



※ウは、24年度「高齢者や障がいのある方も施設が利用しやすい」から表現をかえた。
 ※エは、25年度「利用しやすい公園がある」から表現をかえた。

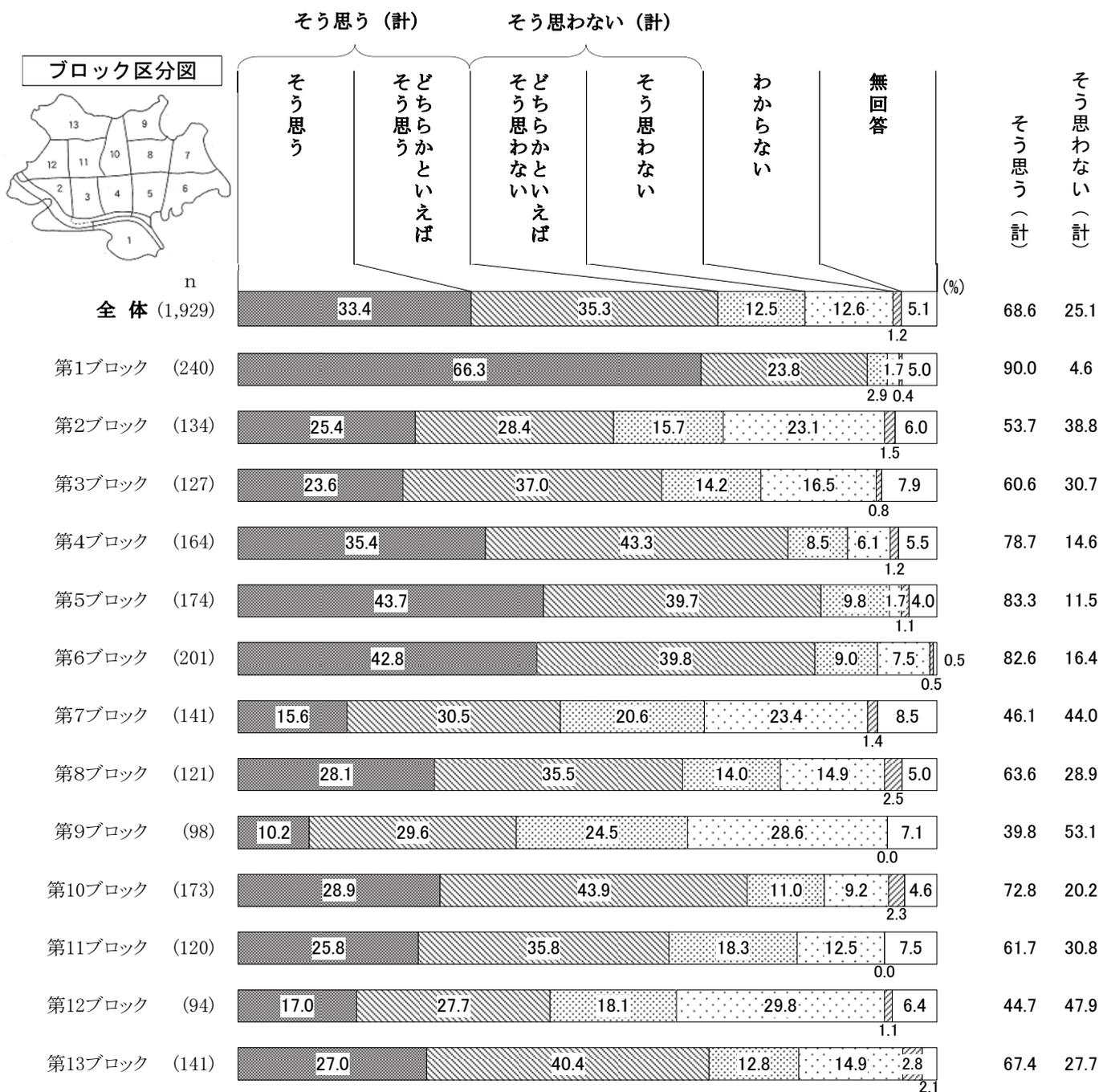
住んでいる地域について感じていることを、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】の高い順でみると、〈普段の買い物が便利である〉が75.7%で最も高く、以下〈通勤や通学などの便がよい〉68.6%、〈子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている〉47.0%の順となっている。

経年で比較すると、今回の調査では、8項目のうち3項目で【そう思う】が平成26年調査に比べて微増しているが、他の項目はやや減少する傾向にある。

次に、各項目について、地域ブロック別でみた。

〈通勤や通学などの交通の便がよい〉について、【**そう思う**】は第1ブロックが90.0%と最も高く、次いで第5ブロックが83.3%となっている。【**そう思わない**】は第9ブロック、第12ブロックで5割前後と高くなっている。

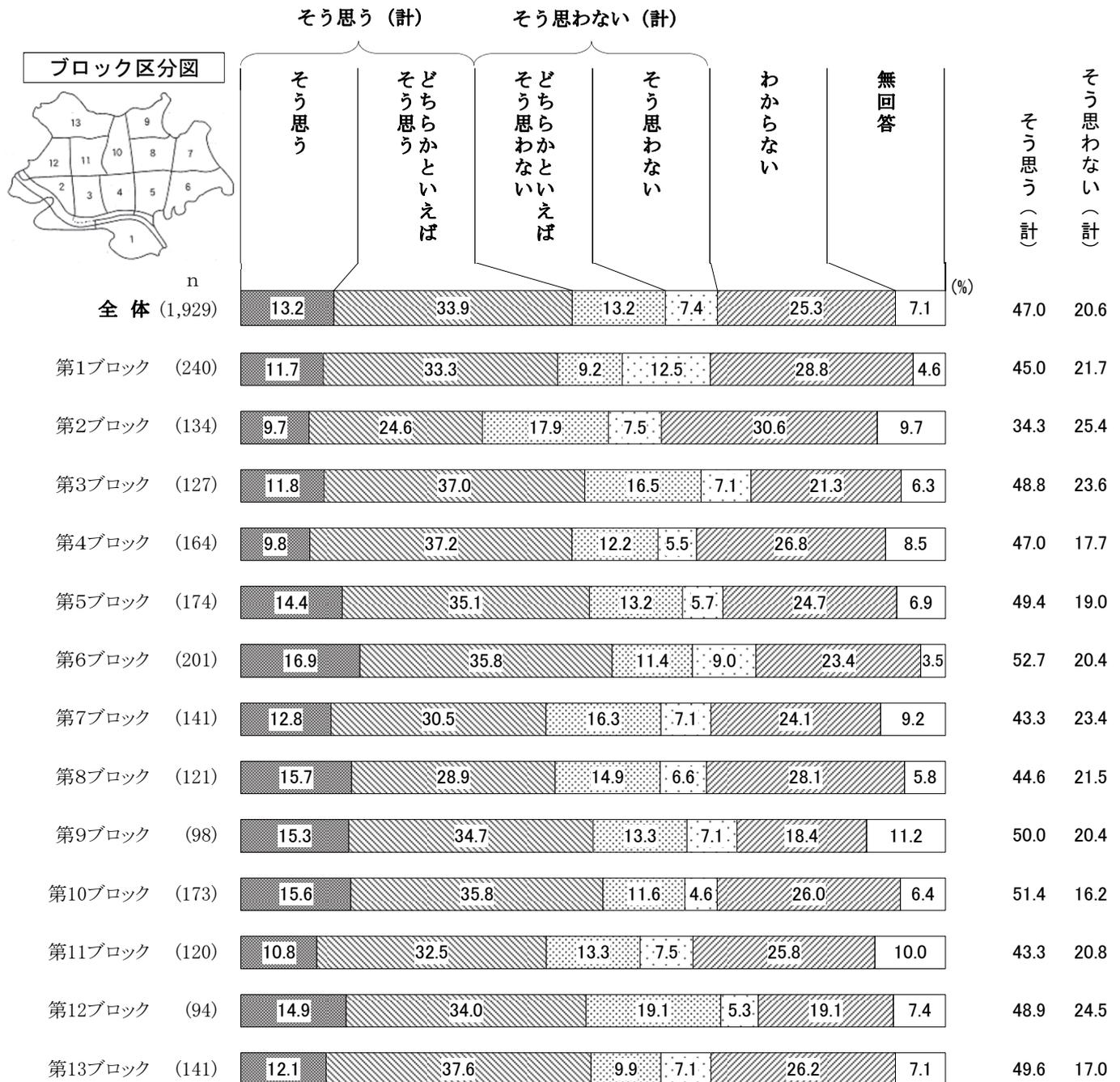
図1-1-2-① 地域ブロック別／居住地域の評価／通勤や通学などの交通の便がよい



第3章 調査結果の分析

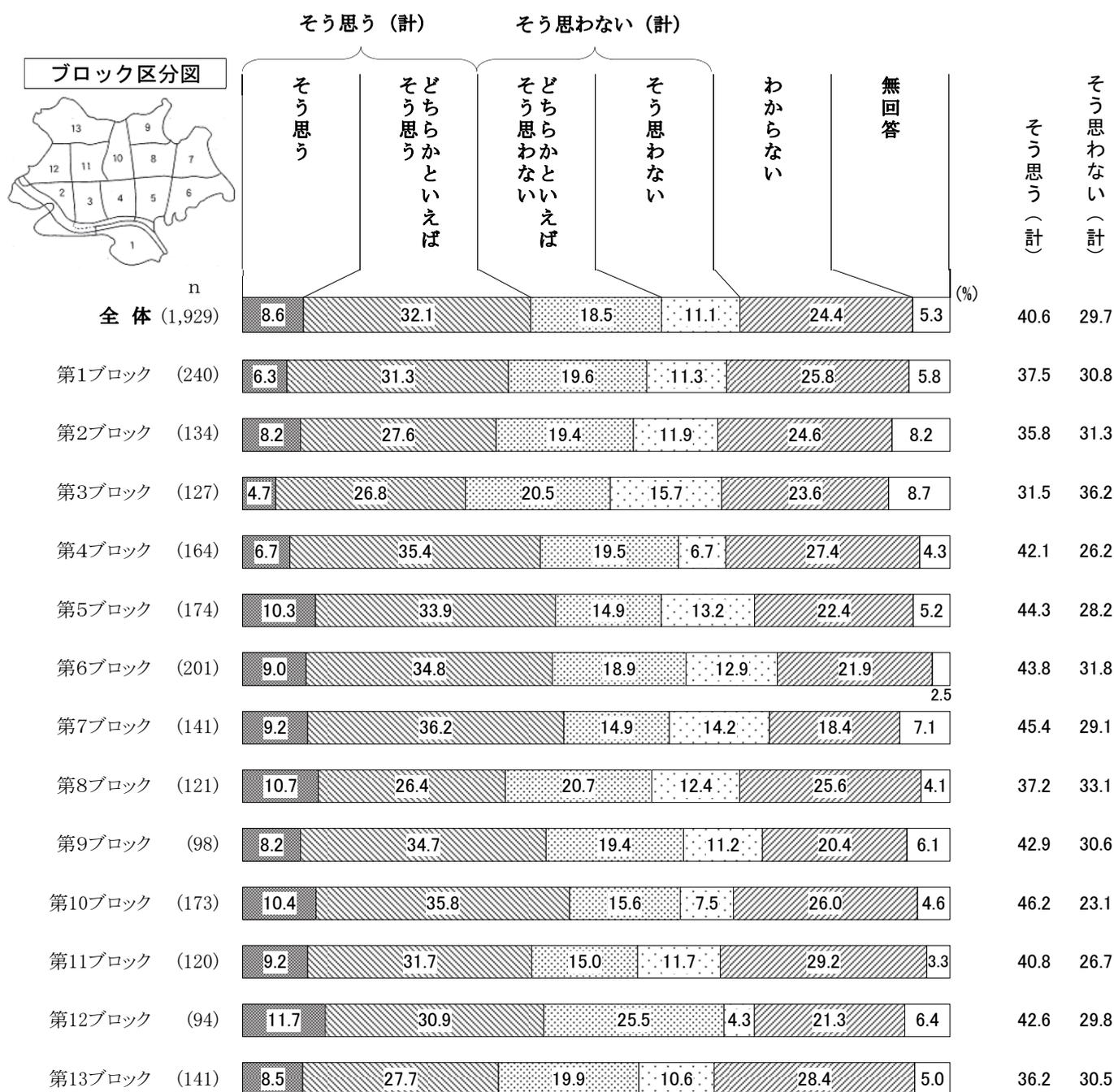
〈子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている〉について、【そう思う】は第6ブロック、第9ブロック、第10ブロックでは、いずれも5割を超えている。【そう思わない】は第2ブロック、第12ブロックで、2割台半ばと、やや高くなっている。

図1-1-2-② 地域ブロック別／居住地域の評価／子育て環境が整っている



〈地域の施設は、高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている〉について、【そう思う】は第10ブロックが46.2%で最も高く、次いで第7ブロックが45.4%となっている。【そう思わない】は第3ブロックで36.2%と最も高くなっている。

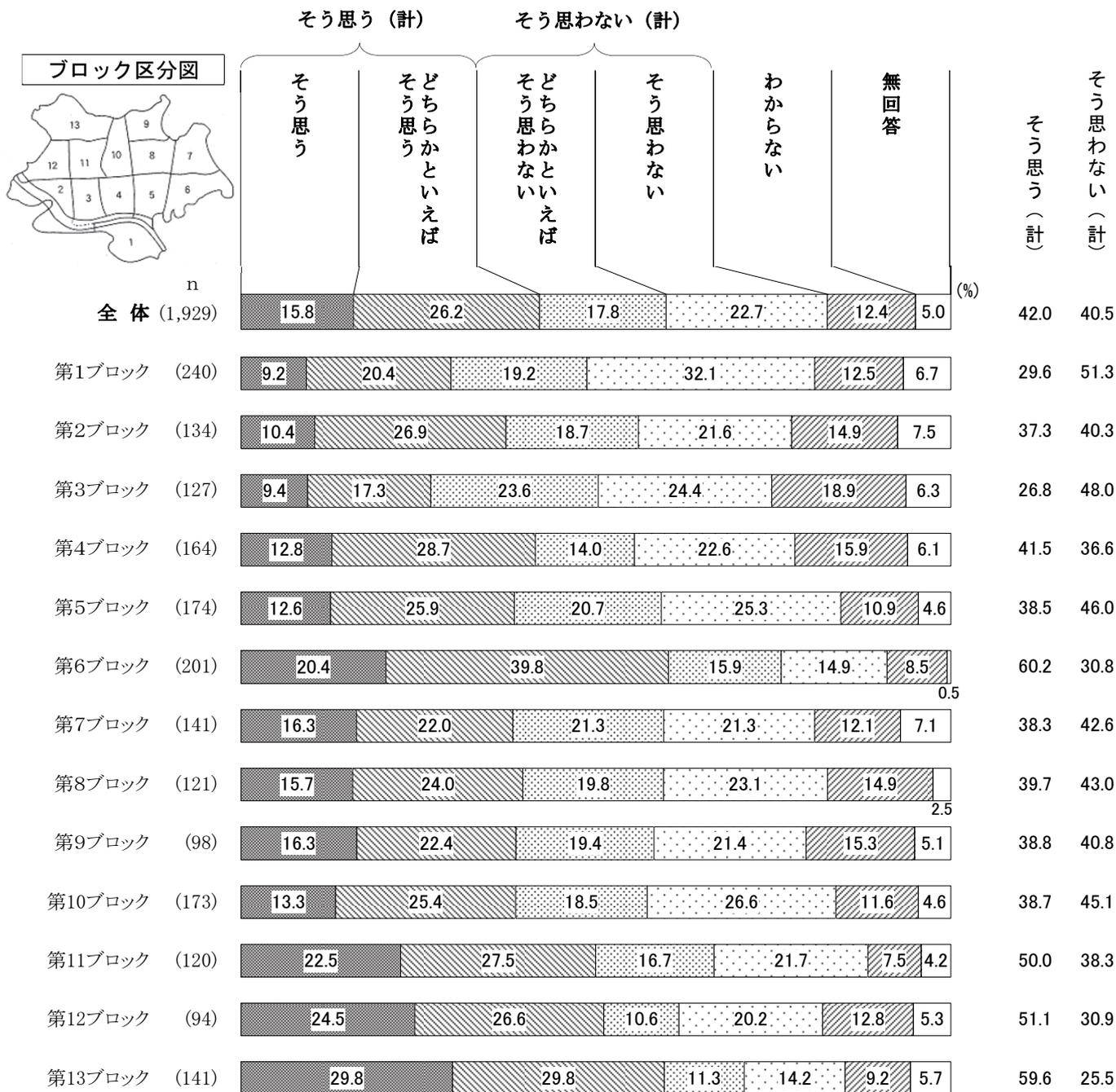
図1-1-2-③ 地域ブロック別／居住地域の評価
／地域の施設は、高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている



第3章 調査結果の分析

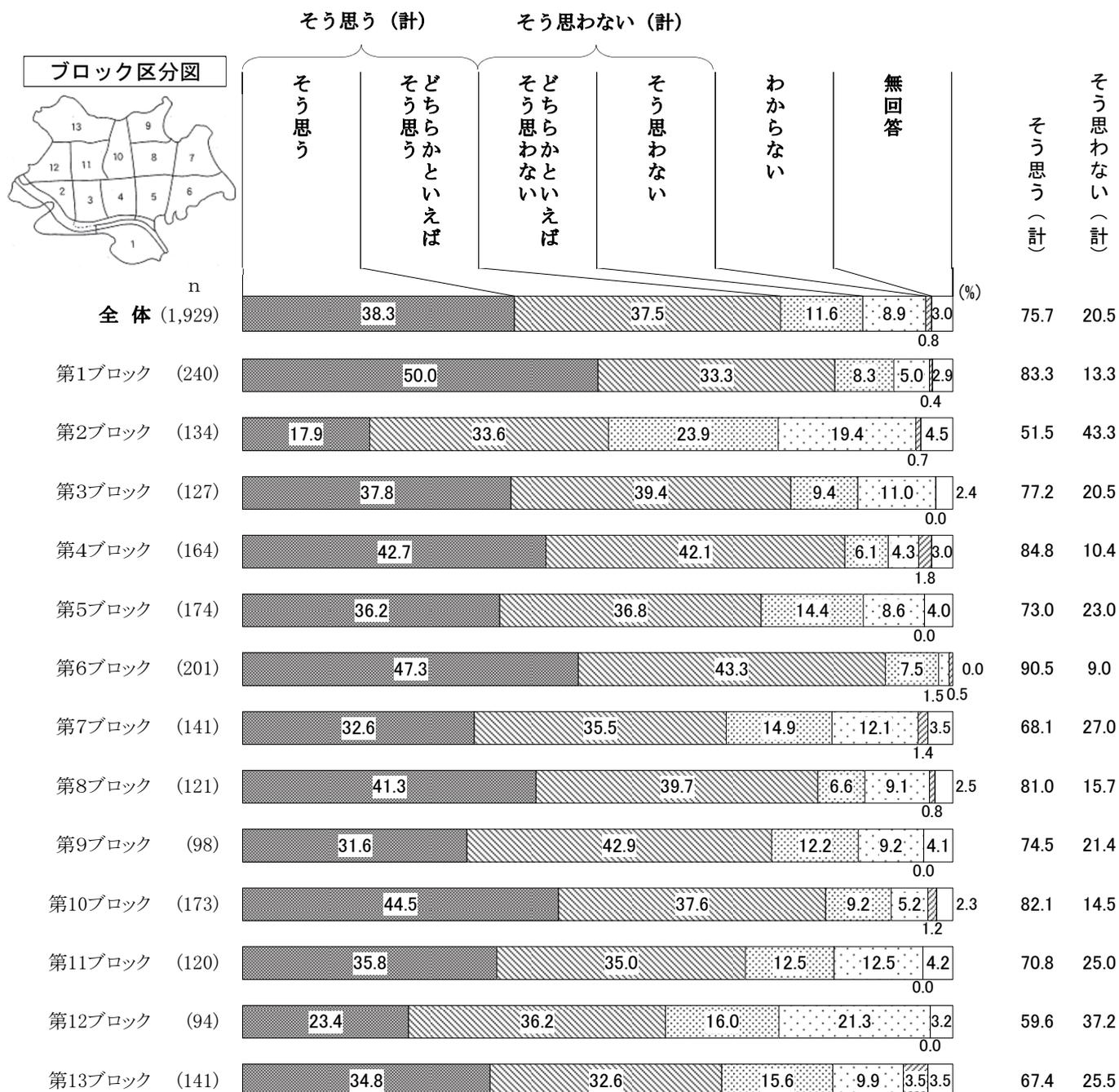
〈よく行く、または行きたい公園がある〉について【**そう思う**】は第6ブロック、第13ブロックで、いずれも6割前後を占めて、他の地区より高くなっている。【**そう思わない**】は第1ブロック、第3ブロックで、いずれも5割前後と高くなっている。

図1-1-2-④ 地域ブロック別／居住地域の評価／よく行く、または行きたい公園がある



〈普段の買い物が便利である〉について、【そう思う】は第6ブロックが90.5%で最も高く、以下、第1ブロックが83.3%、第4ブロックが84.8%が続いている。【そう思わない】は第2ブロックで43.3%と最も高く、次いで第12ブロックが37.2%となっている。

図1-1-2-⑤ 地域ブロック別／居住地域の評価／普段の買い物が便利である

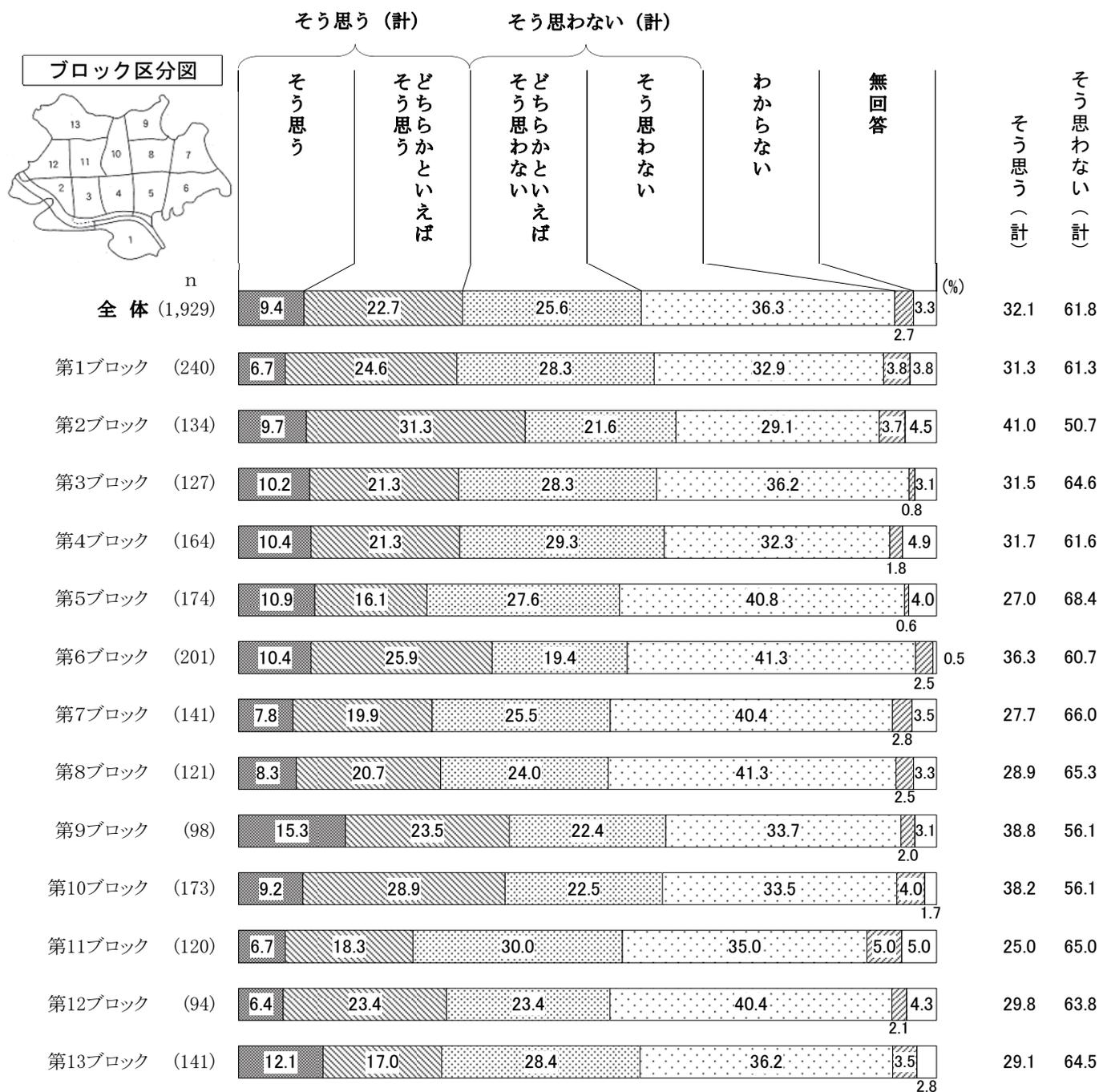


第3章 調査結果の分析

〈自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている〉について、【そう思う】は、第2ブロック、第9ブロック、第10ブロックが4割前後を占めている。

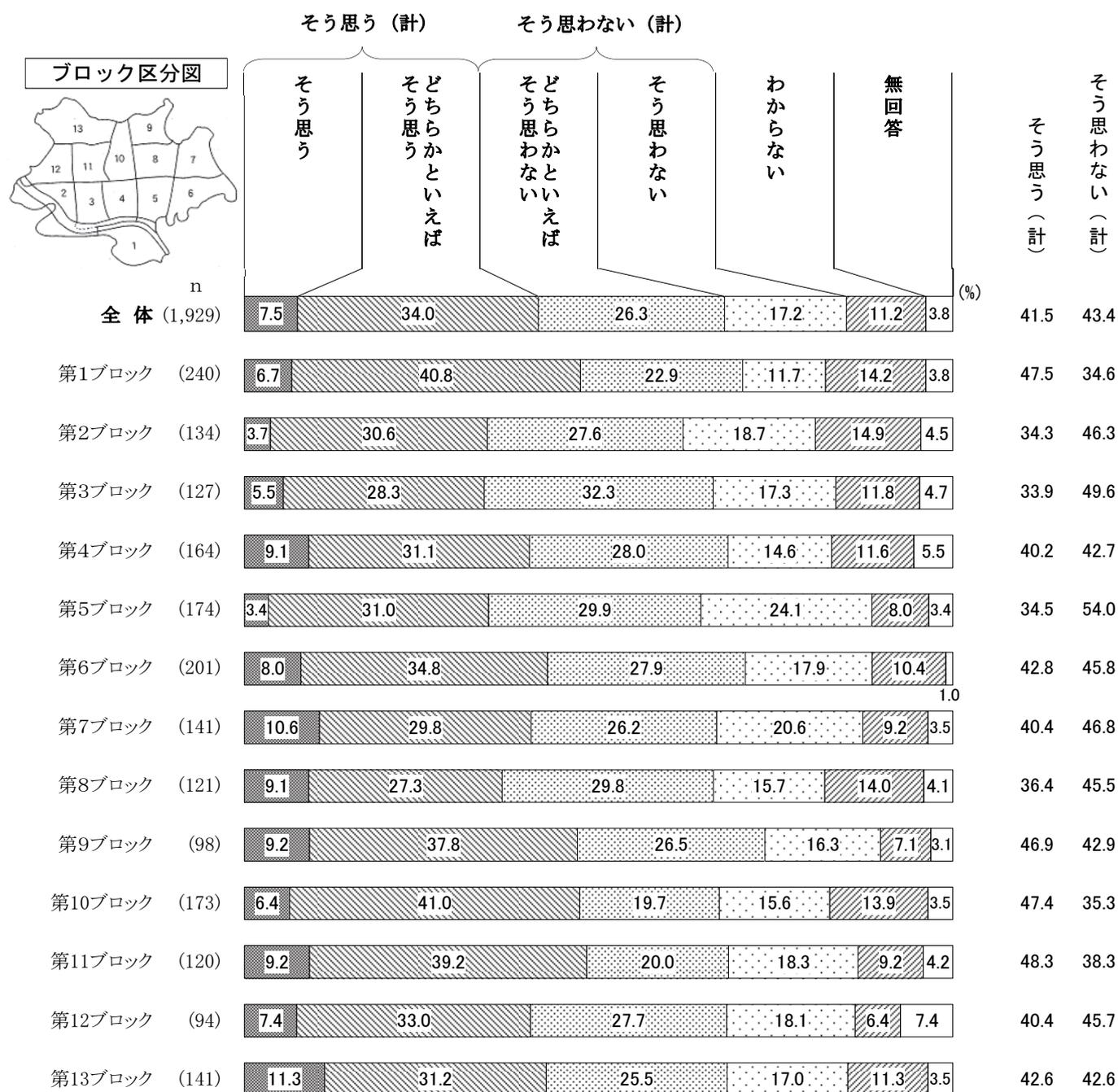
図1-1-2-⑥ 地域ブロック別／居住地域の評価

／自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている



〈快適で安全なまちづくりが進められている〉について、【**そう思う**】は第1ブロック、第9ブロック、第10ブロック、第11ブロックで、4割台半ばを超え、他ブロックよりやや高くなっている。【**そう思わない**】は第5ブロックで54.0%と最も高く、次いで第3ブロックが49.6%となっている。

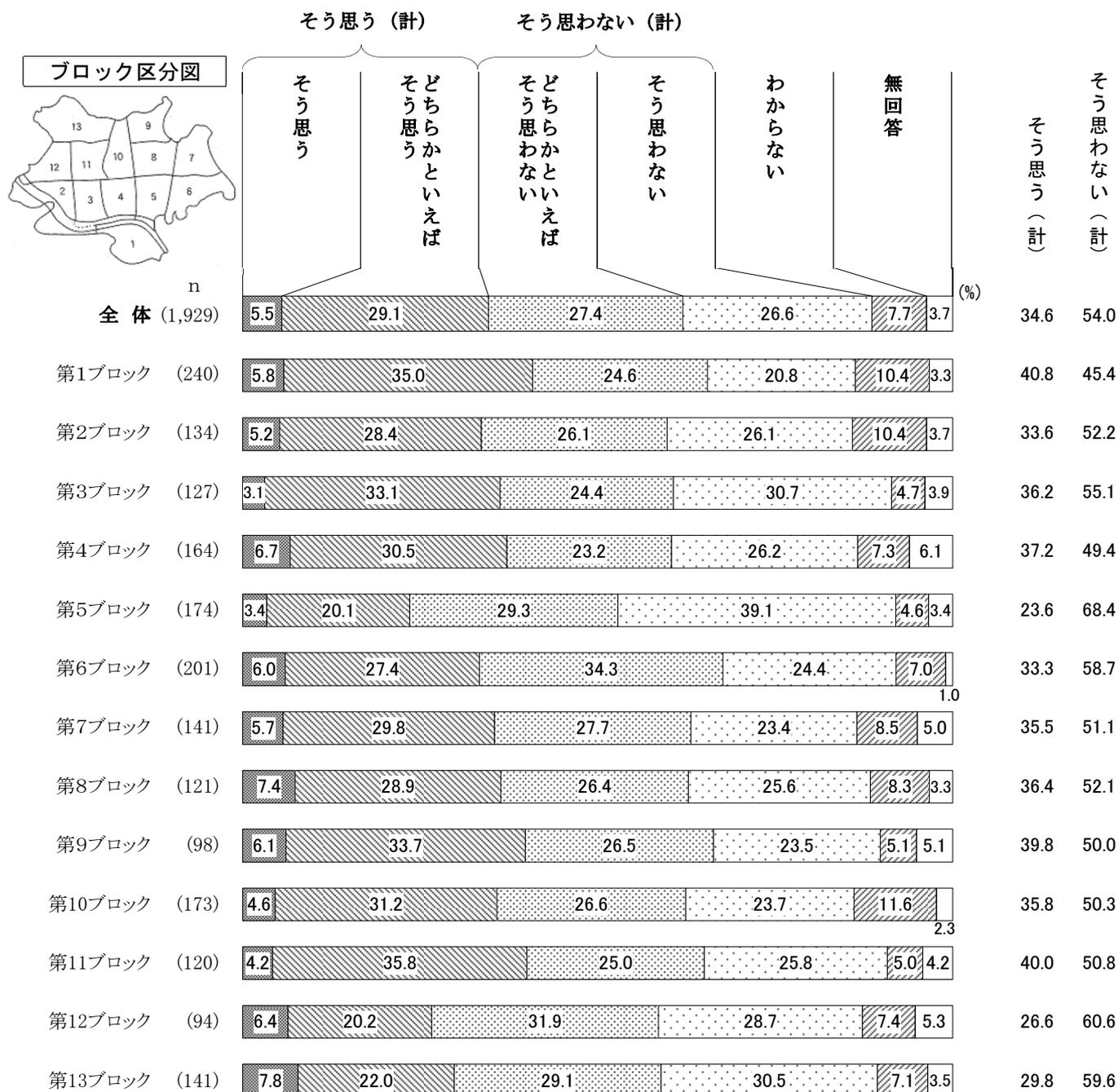
図1-1-2-⑦ 地域ブロック別／居住地域の評価／快適で安全なまちづくりが進められている



第3章 調査結果の分析

〈景観・街並みが魅力的になってきている〉について、【そう思わない】は第5ブロックで68.4%と最も高く、これに第12ブロック、第13ブロックが6割前後で次いでいる。【そう思う】は第1ブロック、第9ブロック、第11ブロックで4割前後を占めている。

図1-1-2-⑧ 地域ブロック別／居住地域の評価／景観・街並みが魅力的になってきている

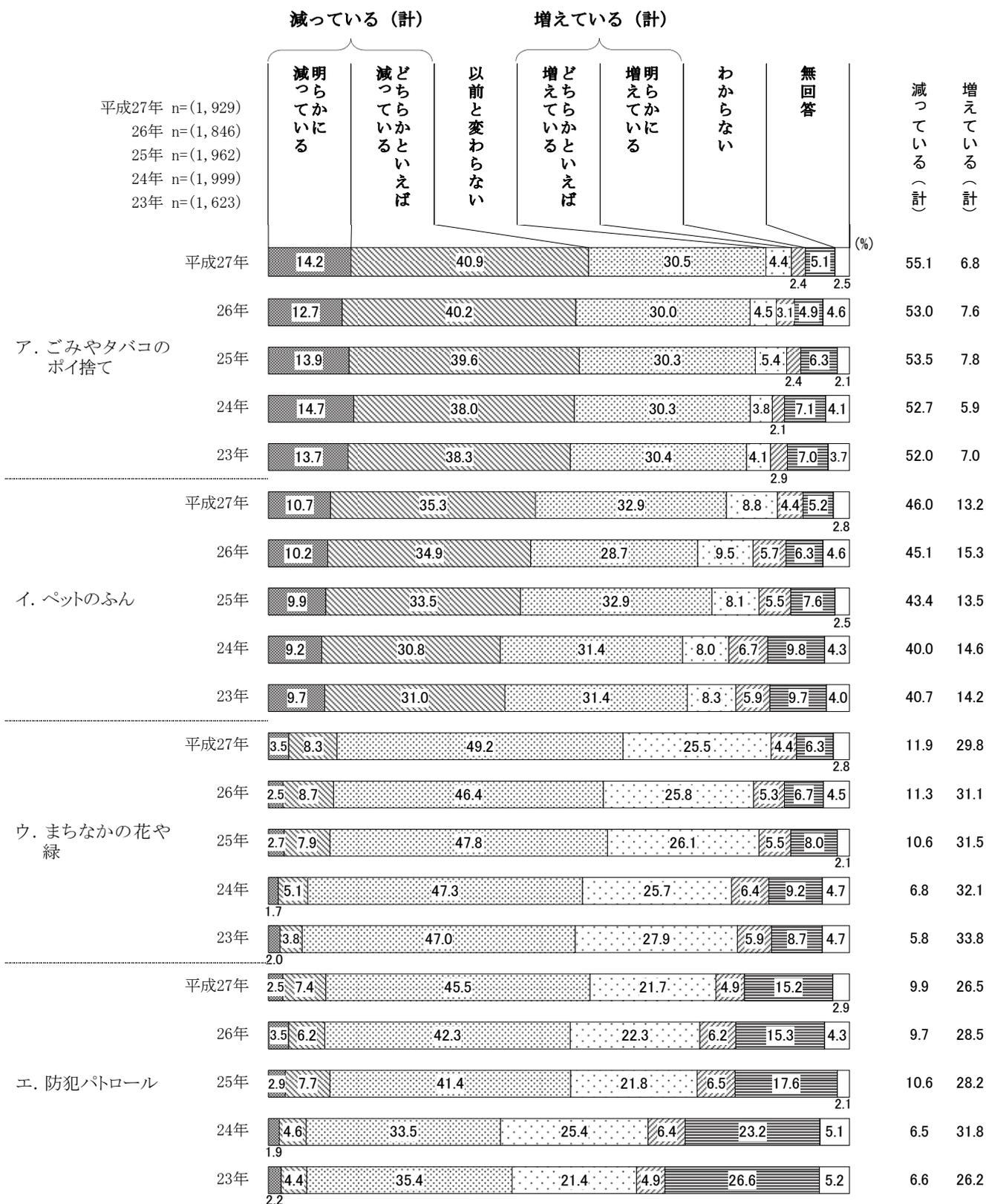


(2) 居住地域評価の経年比較

■ 〈ごみやタバコのポイ捨て〉は、半数の人が以前より【減っている】と感じている

問2 あなたのお住まいの地域についてうかがいます。以下のア～エの項目について、現在は以前と比べてどのように感じていますか（〇はそれぞれ1つずつ）。

図1-2-1 経年比較／居住地域評価



第3章 調査結果の分析

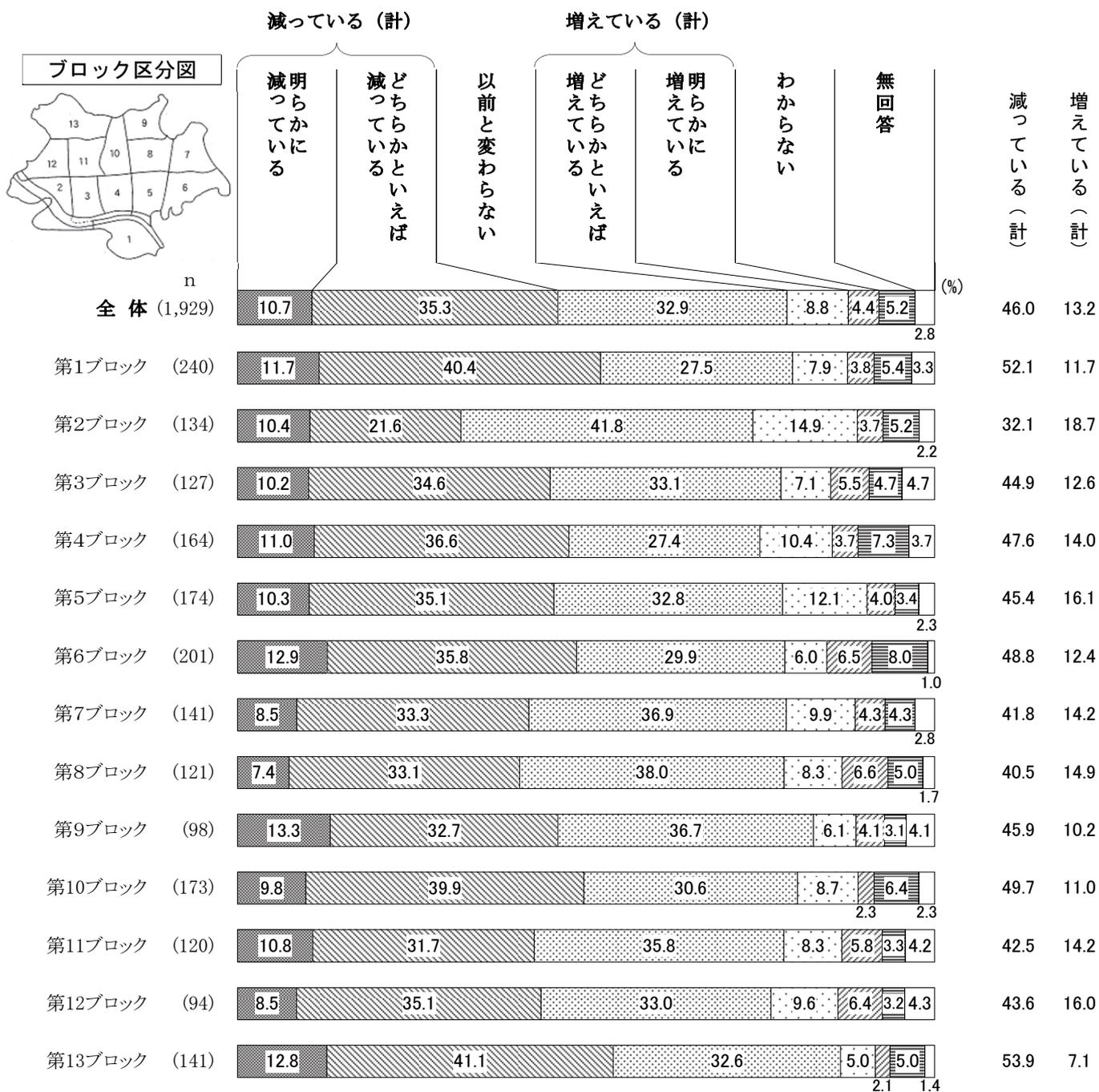
お住まいの地域の状況について、「明らかに減っている」と「どちらかといえば減っている」を合わせた【減っている】の高い順にみると、〈ごみやタバコのポイ捨て〉が55.1%で最も高く、次いで〈ペットのふん〉の46.0%となっている。一方、〈まちなかの花や緑〉〈防犯パトロール〉については、いずれも「明らかに増えている」と「どちらかといえば増えている」を合わせた【増えている】が、それぞれ29.8%、26.5%と高くなっている。

経年で比較すると、〈ごみやタバコのポイ捨て〉〈ペットのふん〉について、【減っている】が微増している。一方、〈まちなかの花や緑〉〈防犯パトロール〉については、【増えている】が微減している。

第3章 調査結果の分析

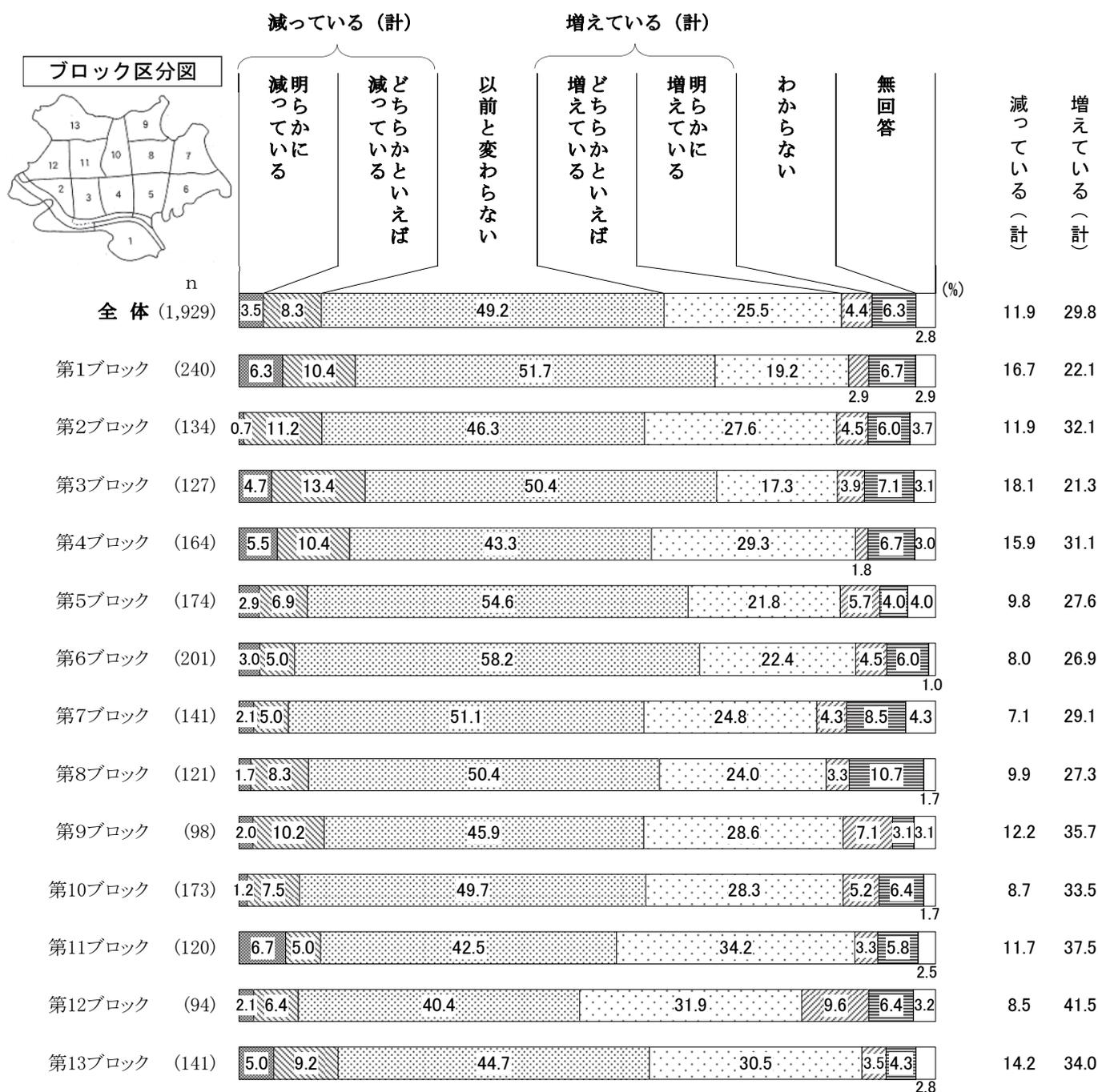
〈ペットのふん〉について、【減っている】は第1ブロック、第6ブロック、第10ブロック、第13ブロックで、いずれも5割前後を占めている。【増えている】はいずれのブロックでも2割以下となっている。

図1-2-2-② 地域ブロック別／ペットのふん



〈まちなかの花や緑〉について、【増えている】は第12ブロックで41.5%と最も高く、以下、第11ブロック（37.5%）、第9ブロック（35.7%）の順となっている。【減っている】については、いずれのブロックとも2割以下となっている。

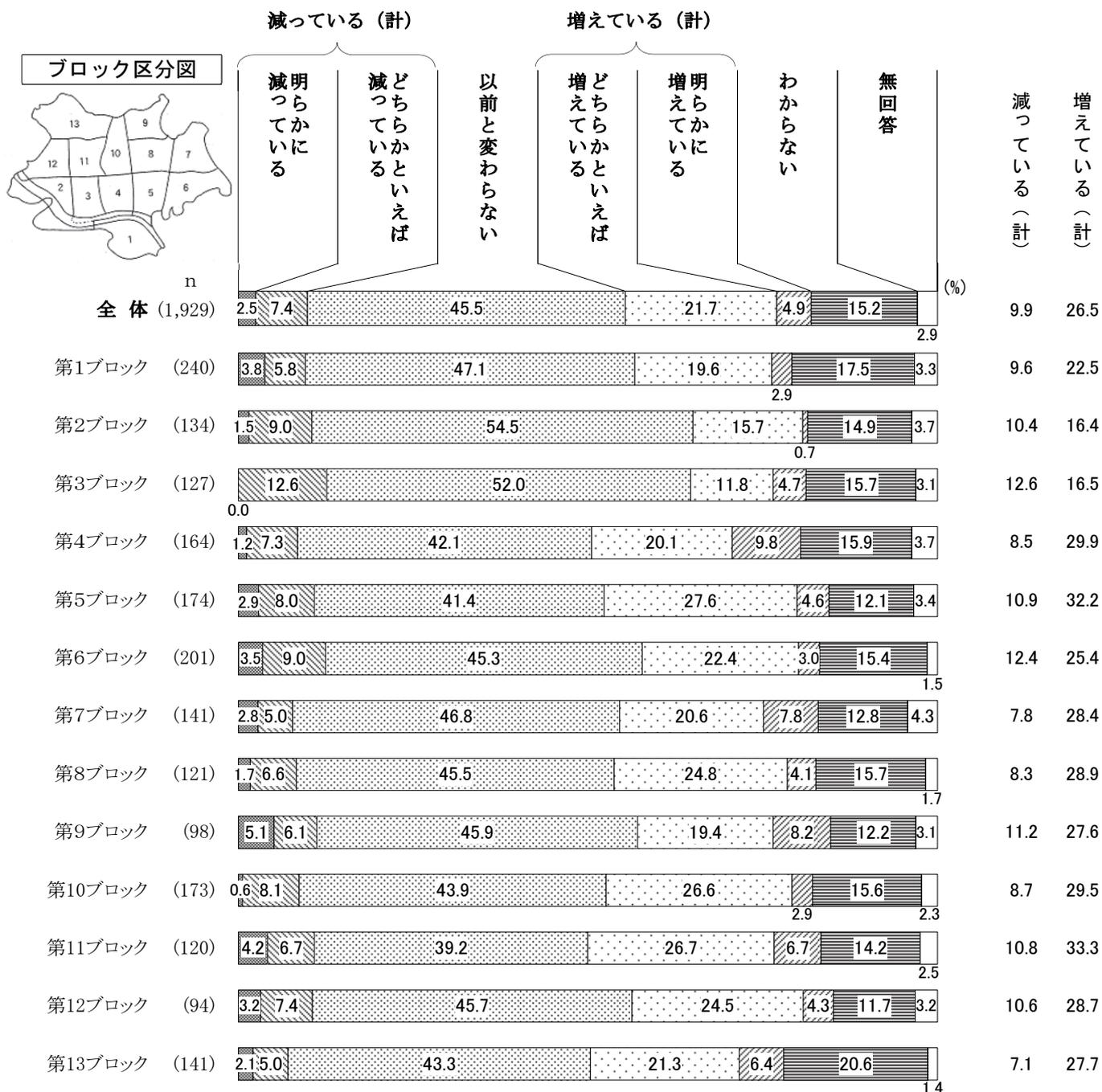
図1-2-2-③ 地域ブロック別／まちなかの花や緑



第3章 調査結果の分析

〈防犯パトロール〉について、【増えている】は第2ブロック、第3ブロックを除くと、いずれのブロックでも2割台から3割台となっている。【減っている】は、いずれのブロックでも1割前後となっている。

図1-2-2-④ 地域ブロック別／防犯パトロール

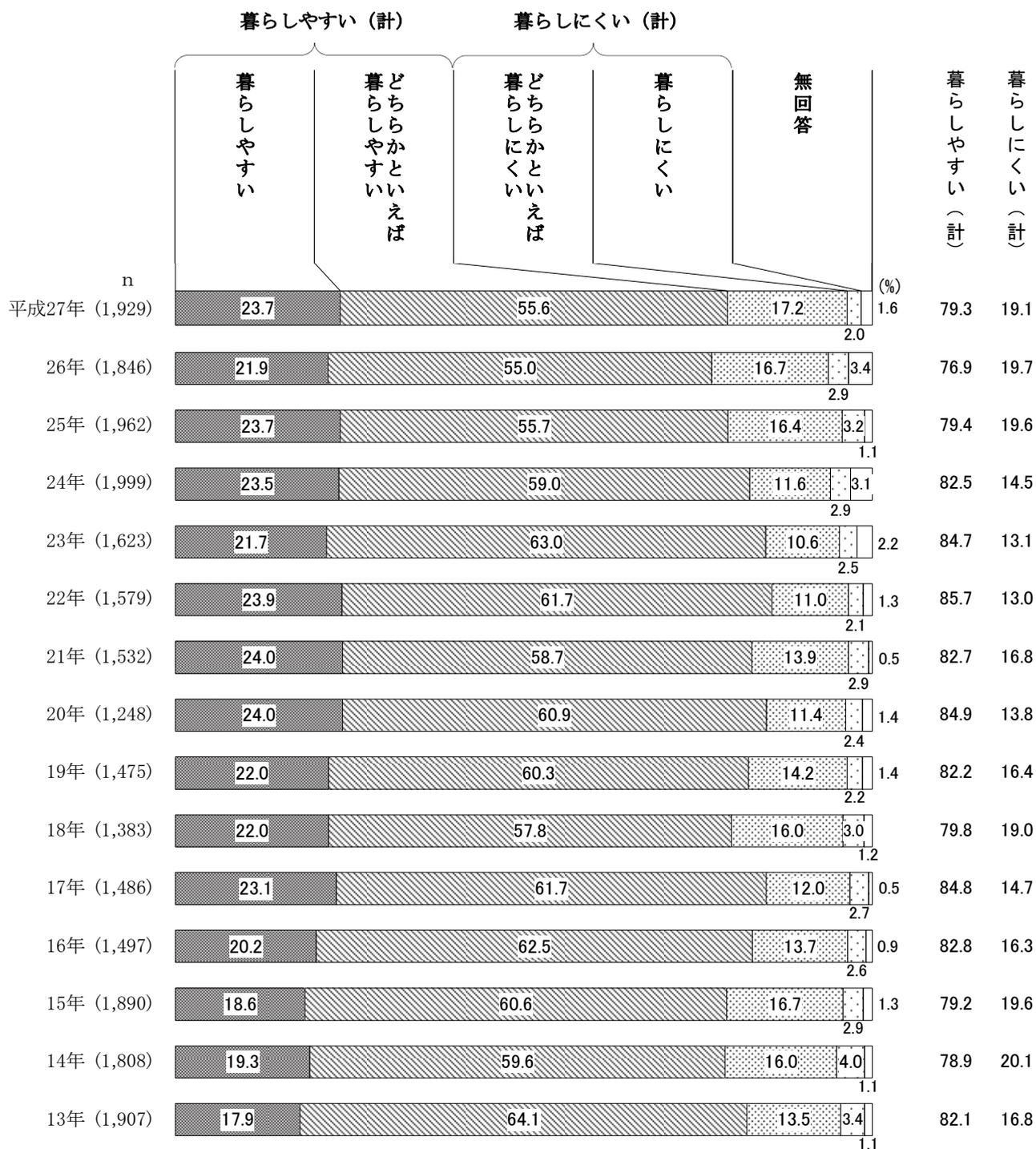


(3) 地域の暮らしやすさ

■ 【暮らしやすい】が微増

問3 問1、問2を踏まえてお聞きします。あなたは、あなたのお住まいの地域について、暮らしやすいと感じますか（○は1つだけ）。

図1-3-1 経年比較／地域の暮らしやすさ

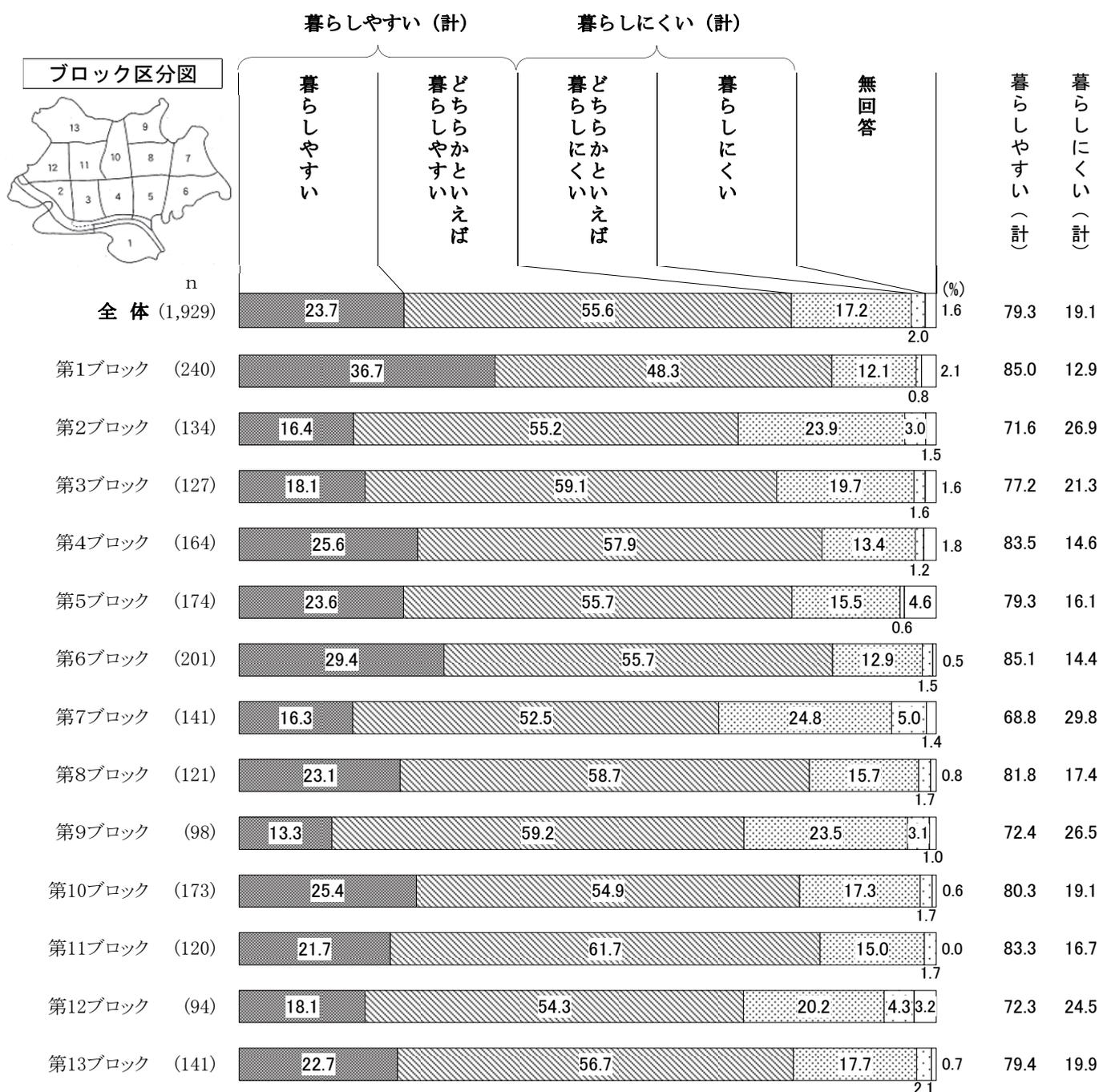


第3章 調査結果の分析

暮らしやすさを経年で比較すると、「暮らしやすい」と「どちらかといえば暮らしやすい」を合わせた【暮らしやすい】は、平成22年の85.7%を頂点として、微減傾向にあったが、今回の調査では79.3%と、平成26年の76.9%から2.4ポイント増加している。一方、「どちらかといえば暮らしにくい」と「暮らしにくい」を合わせた【暮らしにくい】は、平成22年以降、微増傾向にあったが、今回の調査では19.1%と、僅かに減少している。

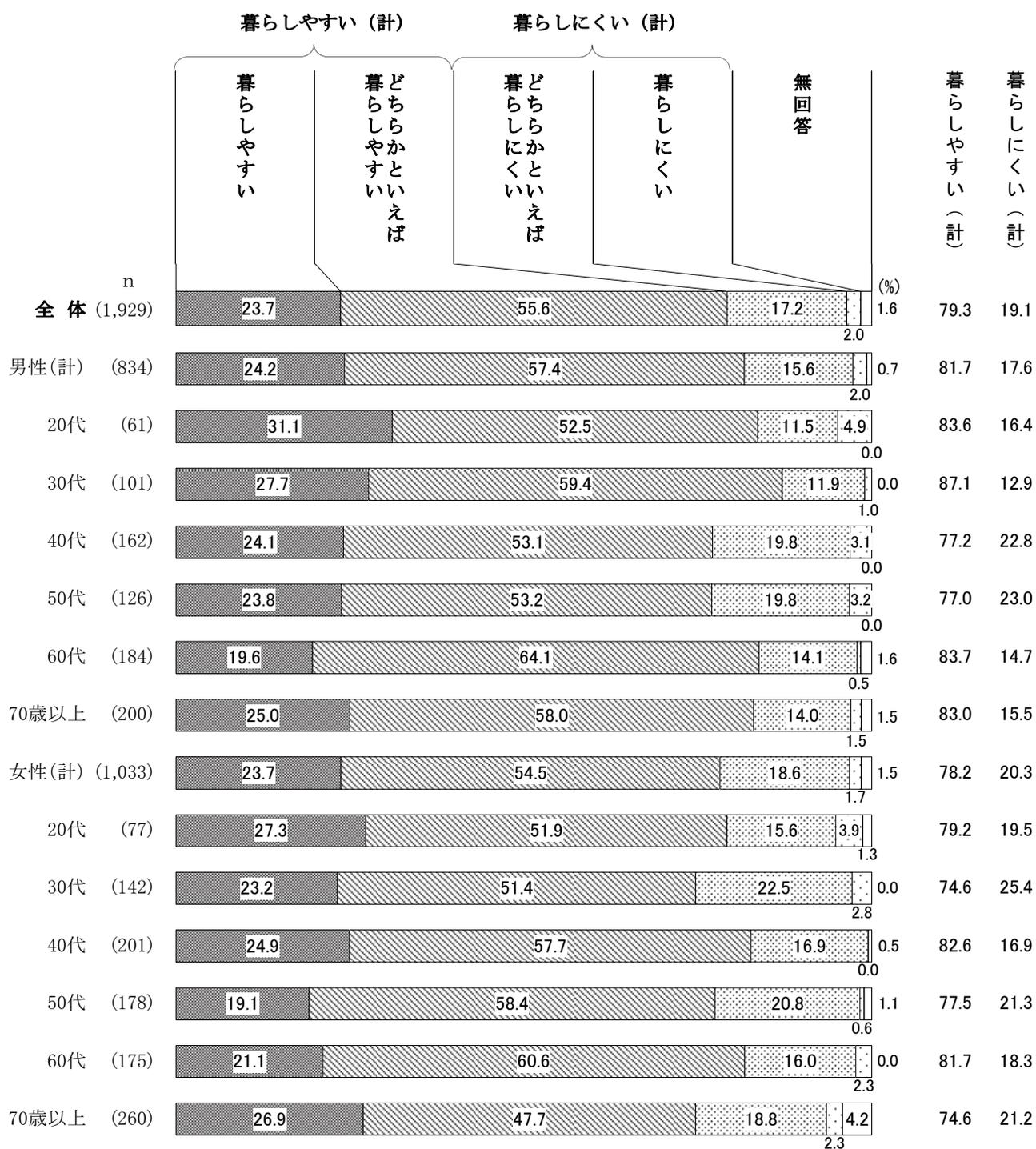
地域ブロック別でみると、【暮らしやすい】は、第6ブロックで85.1%と最も高く、以下第1ブロック（85.0%）、第4ブロック（83.5%）の順となっている。一方、第2ブロック、第7ブロック、第9ブロックでは、【暮らしにくい】が、それぞれ、26.9%、29.8%、26.5%と、他のブロックより高くなっている。

図1-3-2 地域ブロック別／地域の暮らしやすさ



性別でみると、【暮らしやすい】は、男性81.7%、女性78.2%と、大きな差はみられない。
 性・年代別でみると、男性では、20代、30代、60代、70歳以上で【暮らしやすい】が8割を超えている。
 女性では、40代、60代で【暮らしやすい】が8割を超えている。

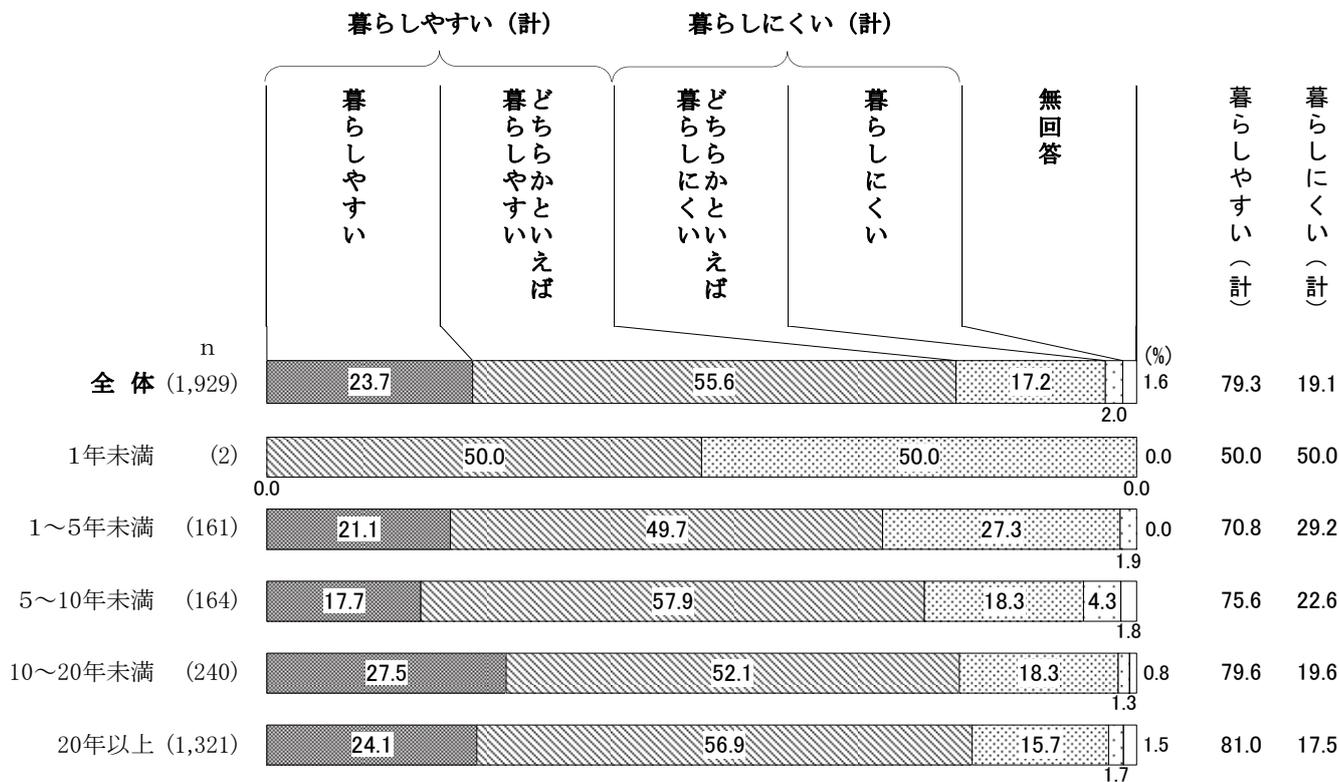
図1-3-3 性別、性・年代別／地域の暮らしやすさ



第3章 調査結果の分析

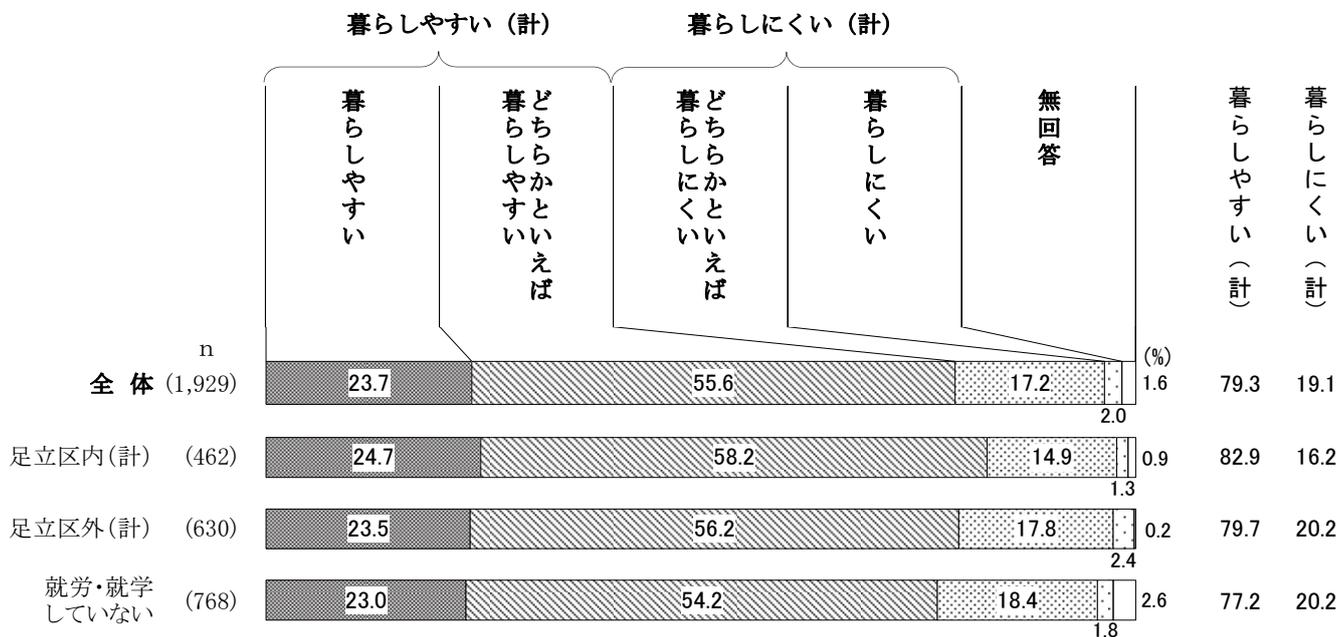
居住年数別でみると、居住年数が長くなるにつれて、【暮らしやすい】が増加し、〈20年以上〉では81.0%を占めている。

図1-3-4 居住年数別／地域の暮らしやすさ



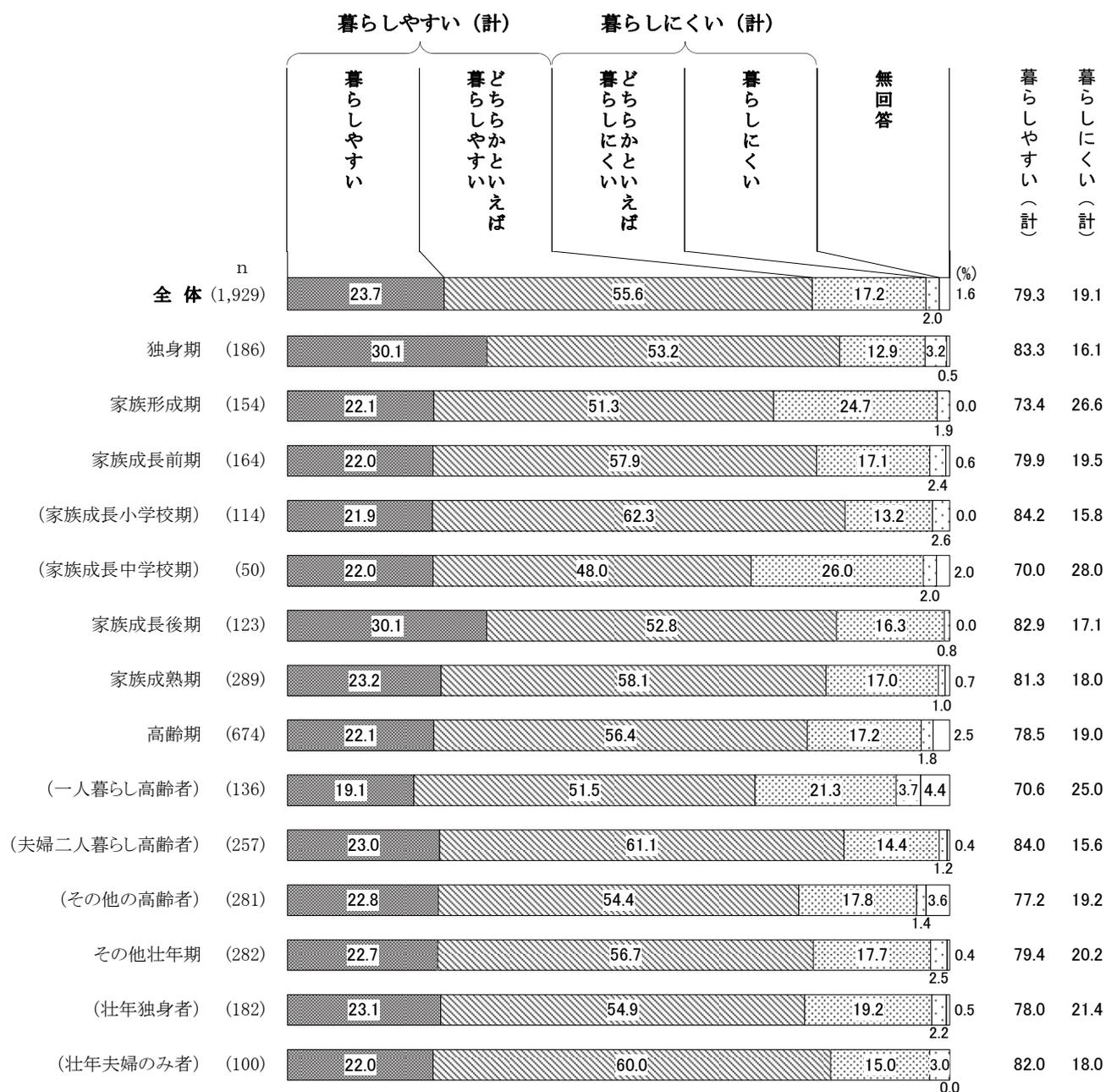
就労・就学場所別にみると、大きな差はみられない。

図1-3-5 就労・就学場所別／地域の暮らしやすさ



ライフステージ別で見ると、独身期、家族成長後期、家族成熟期で【暮らしやすい】が8割を超えている。一方、家族形成期では73.4%と、他の層が8割前後から8割台前半を示すなか、唯一7割台前半となっている。

図1-3-6 ライフステージ別／地域の暮らしやすさ

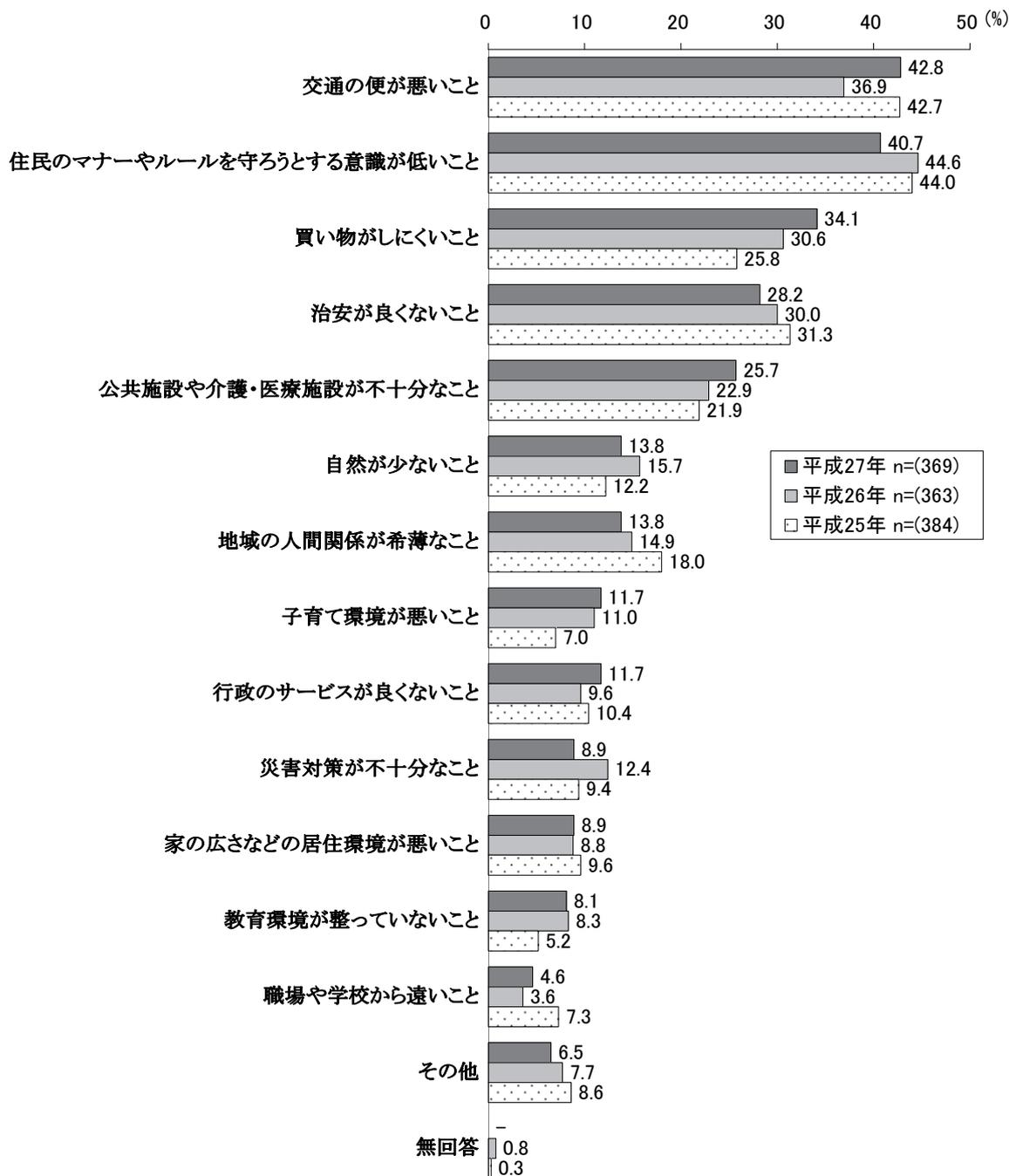


(4) 特に暮らしにくいと感じること

■ “交通の便の悪さ” “マナーやルールへの意識の低さ” が4割台

問3で「3. どちらかといえば暮らしにくい」、または「4. 暮らしにくい」とお答えの方に
 問3-1 特に暮らしにくいと感じることは何ですか（〇は3つまで）。

図1-4-1 経年比較/特に暮らしにくいと感じること



【暮らしにくい】という人に、その理由を聞いたところ、「交通の便が悪いこと」「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」の2項目が、いずれも4割を超えて、とくに高くなっている。また、「買い物がしにくいこと」と「治安が良くないこと」についても、それぞれ34.1%、28.2%と高くなっている。

経年でみると、平成26年に比べて、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」や「治安が良くないこと」は減少しているが、「交通の便が悪いこと」については、今回42.8%と、前回の36.9%から5.9ポイント増加している。

第3章 調査結果の分析

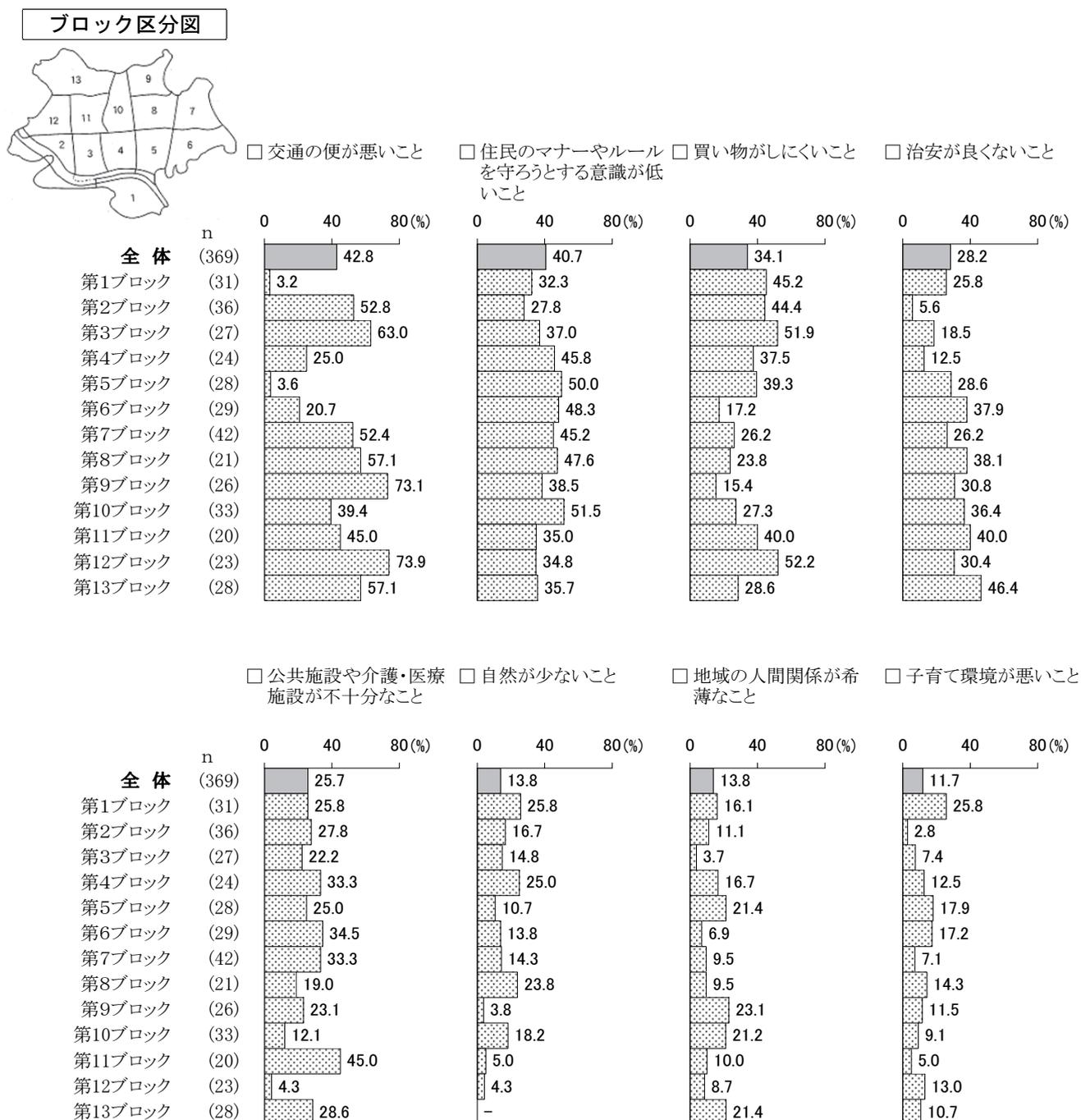
地域ブロック別でみると、「交通の便が悪いこと」については、第9ブロック、第12ブロックで、それぞれ73.1%、73.9%と、他のブロックより高くなっている。

「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」については、第5ブロック、第6ブロック、第10ブロックで、それぞれ50.0%、48.3%、51.5%と5割前後を占め、高くなっている。

また、「買い物がしにくいこと」については、第3ブロック、第12ブロックで、それぞれ51.9%、52.2%と、5割を超えている

さらに、「治安が良くないこと」については、第13ブロックで46.4%と、全ブロック中最も高くなっている。

図1-4-2 地域ブロック別／特に暮らしにくいと感じること／上位8項目

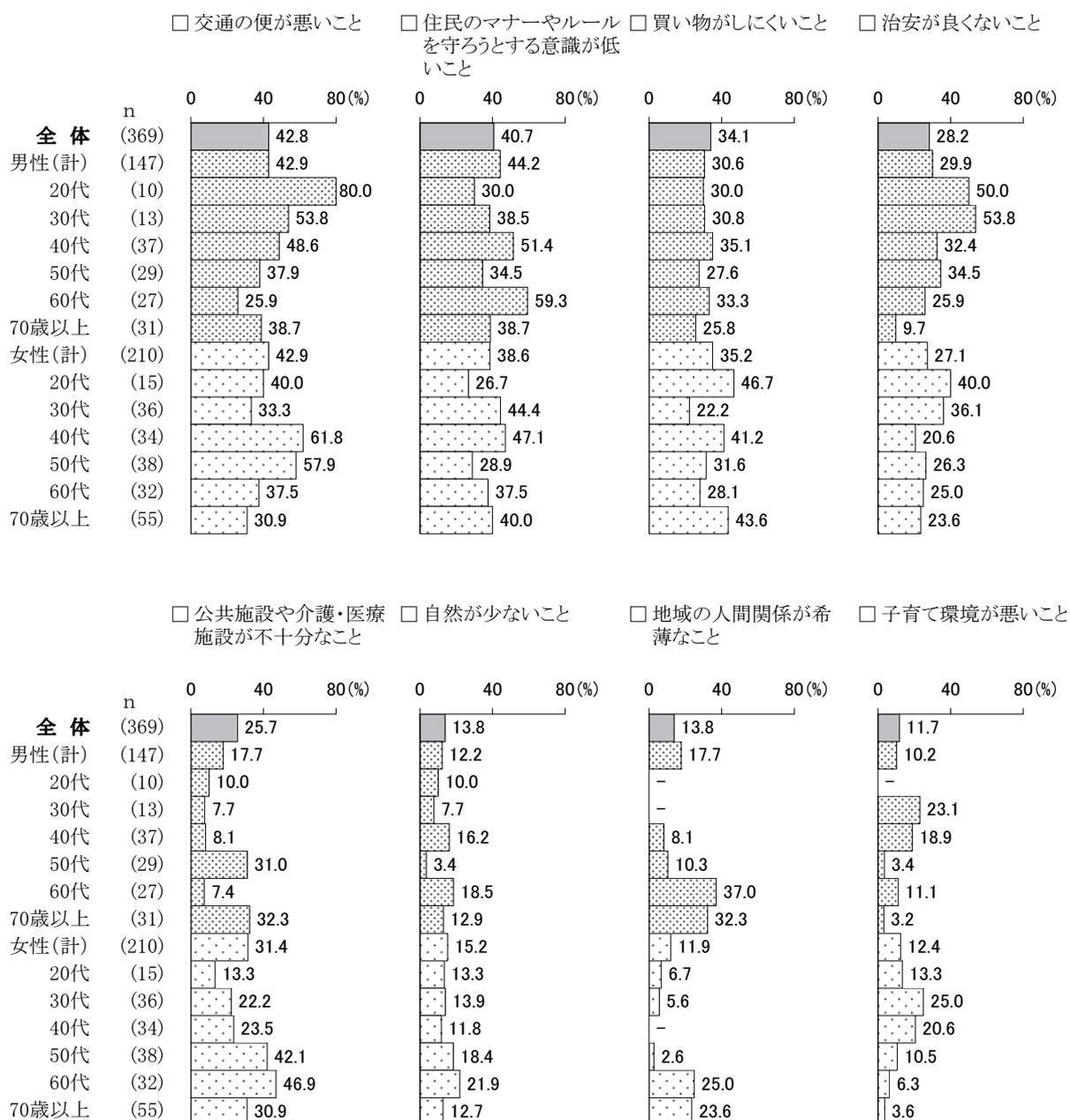


性別でみると、男性では「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」が44.2%と、女性（38.6%）より高くなっている。一方、女性では「買い物がしにくいこと」が35.2%と、男性（30.6%）を上回っている。

性・年代別でみると、男性では「交通の便が悪いこと」について、40代で48.6%と高くなっている。「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」については、60代で59.3%を占めているほか、40代でも51.4%と高くなっている。また、男性の40代、50代では「治安が良くないこと」が3割を超えている。

女性では「交通の便が悪いこと」について、40代、50代で6割前後を占めて高くなっている。「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」については、40代で47.1%と高くなっている。また、「買い物がしにくいこと」は、40代、70歳以上で4割を、「治安が良くないこと」については、30代で3割を超え、それぞれ他の年代より高くなっている。

図1-4-3 性別、性・年代別／特に暮らしにくいと感じること／上位8項目

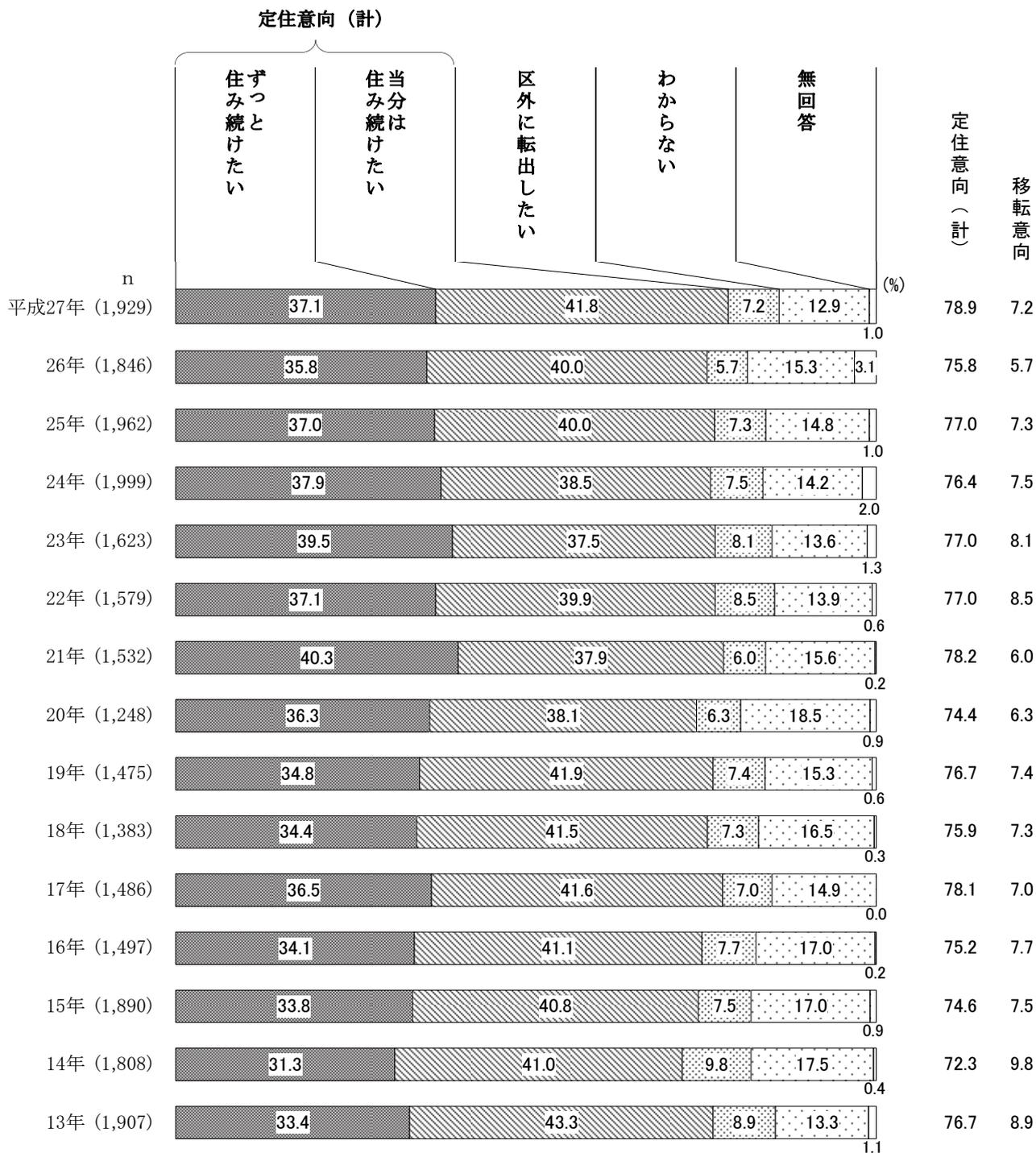


(5) 定住意向

■ 【定住意向】をもっている人は8割弱で、平成13年以降最高

問4 あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか（○は1つだけ）。

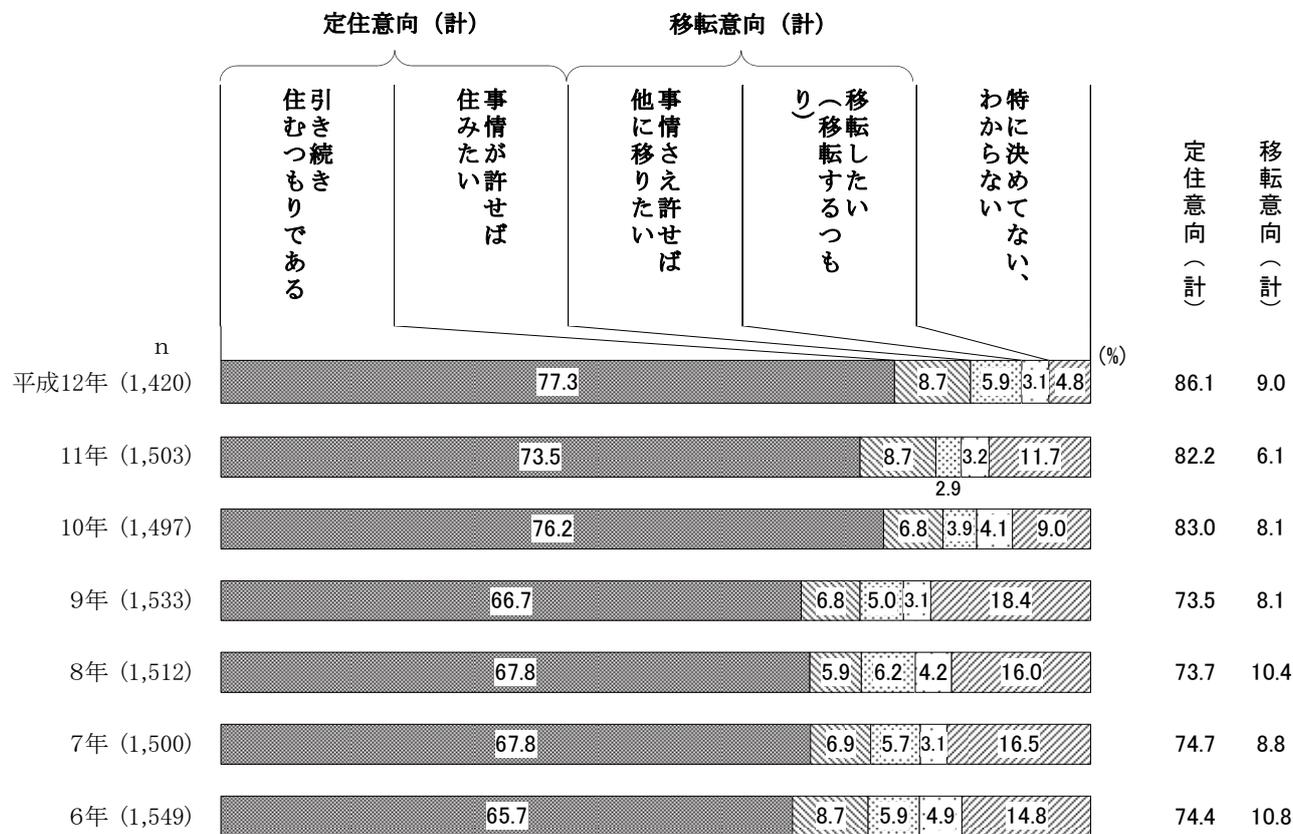
図1-5-1 経年比較／定住意向



足立区への定住意向を経年でみると、今回調査では「ずっと住み続けたい」と「当分は住み続けたい」を合わせた【定住意向】は今回78.9%と、平成26年の75.8%から3.1ポイント増加し、平成13年以降で最も高い数値となっている。

参考／定住・移転意向の推移

問 あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか。この中から1つにお答えください
(○は1つ)

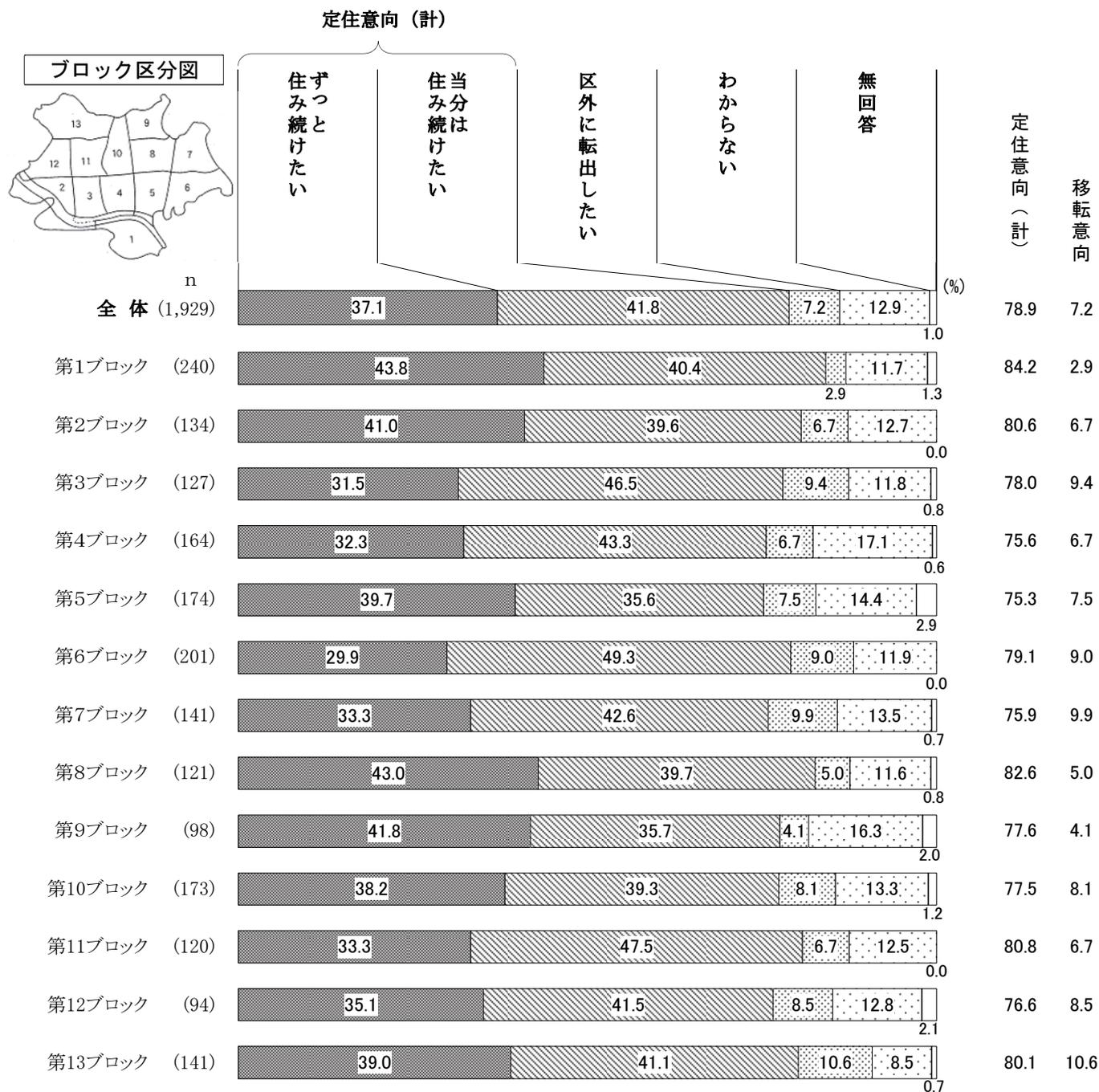


※ 平成12年までと平成13年以降では、調査方法（平成12年までは訪問面接法、平成13年以降は郵送配布郵送回収法）、質問文、選択肢が異なるため、結果を単純に比較することはできない。

第3章 調査結果の分析

地域ブロック別で見ると、【定住意向】は、第1ブロックで84.2%と最も高く、以下、第8ブロック（82.6%）、第11ブロック（80.8%）の順となっている。

図1-5-2 地域ブロック別／定住意向

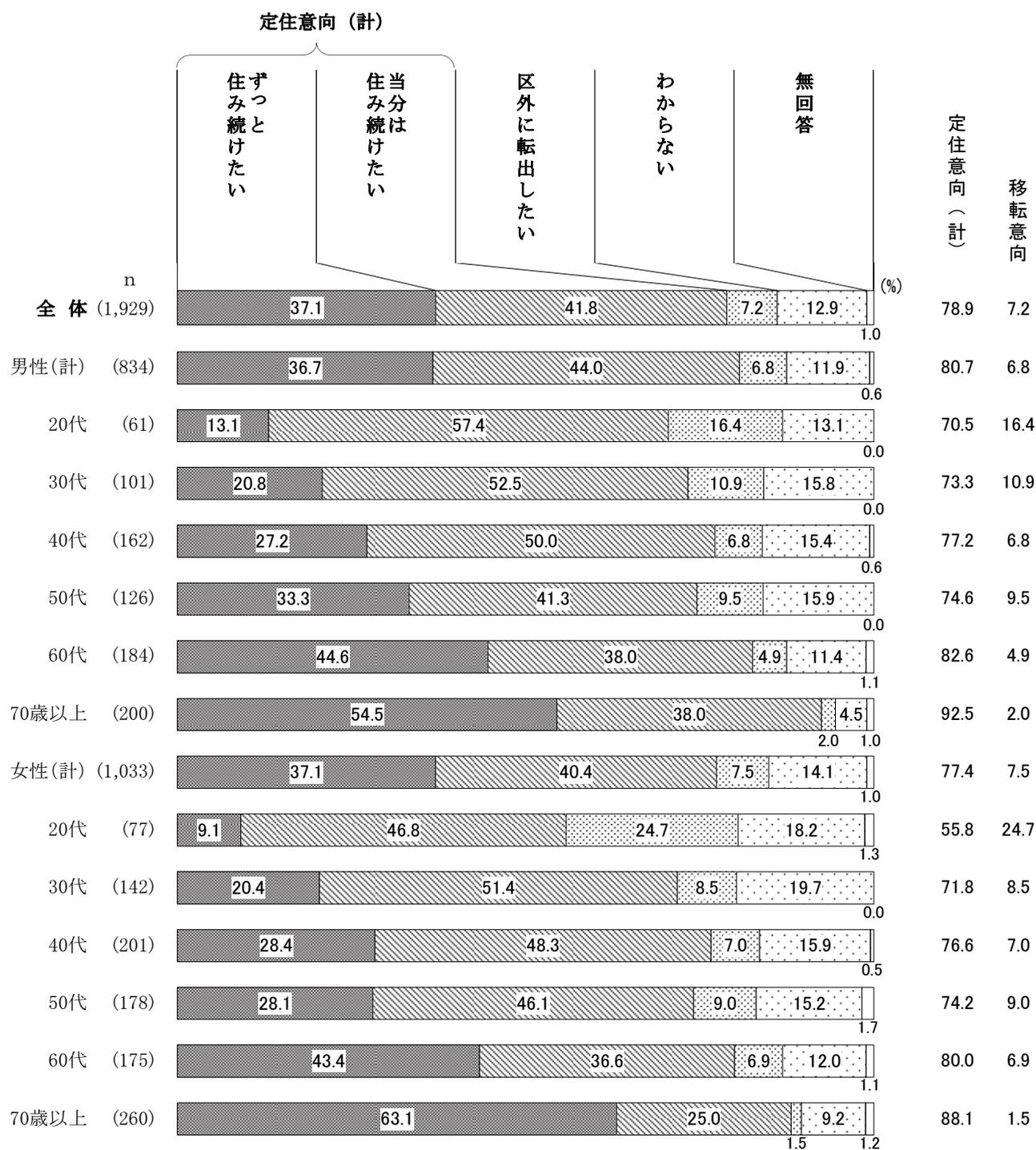


性別でみると、【定住意向】は、男性80.7%、女性77.4%となっている。

性・年代別でみると、男性では、【定住意向】は60代、70歳以上で、それぞれ82.6%、92.5%と高くなっている。

女性では、加齢とともに【定住意向】は増加する傾向にあり、70歳以上では88.1%となっている。

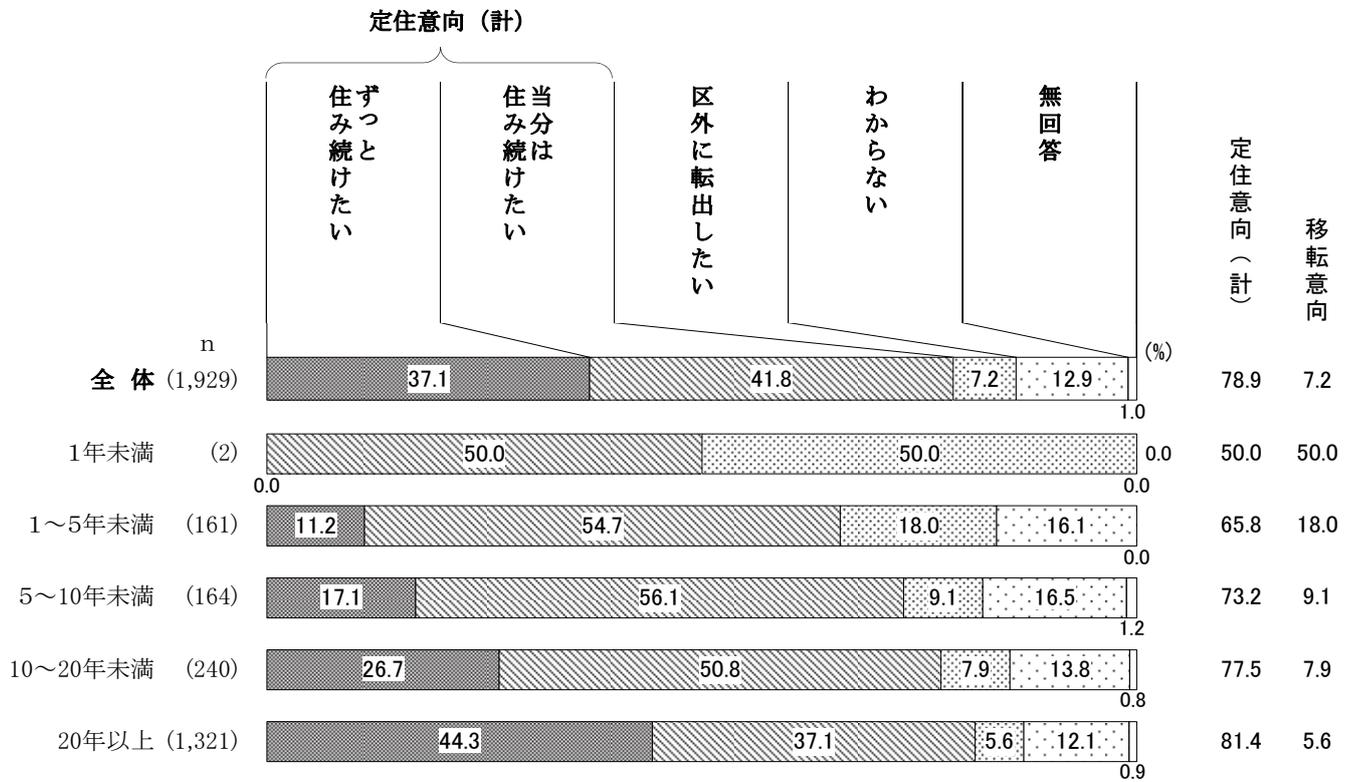
図1-5-3 性別、性・年代別／定住意向



第3章 調査結果の分析

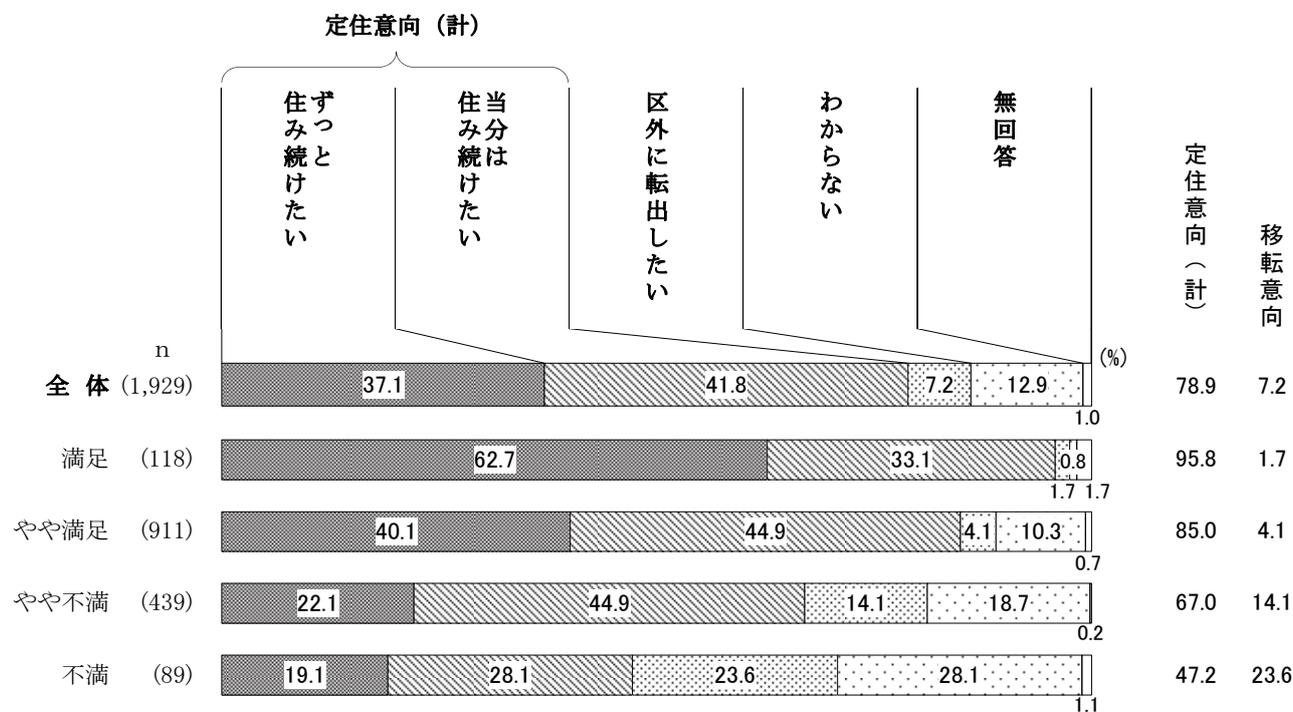
居住年数別でみると、居住年数が長くなるにつれて、増加する傾向を示している。

図1-5-4 居住年数別／定住意向



区政満足度別で見ると、満足度が高くなるにつれて【定住意向】は高くなり、満足という層では95.8%となっている。

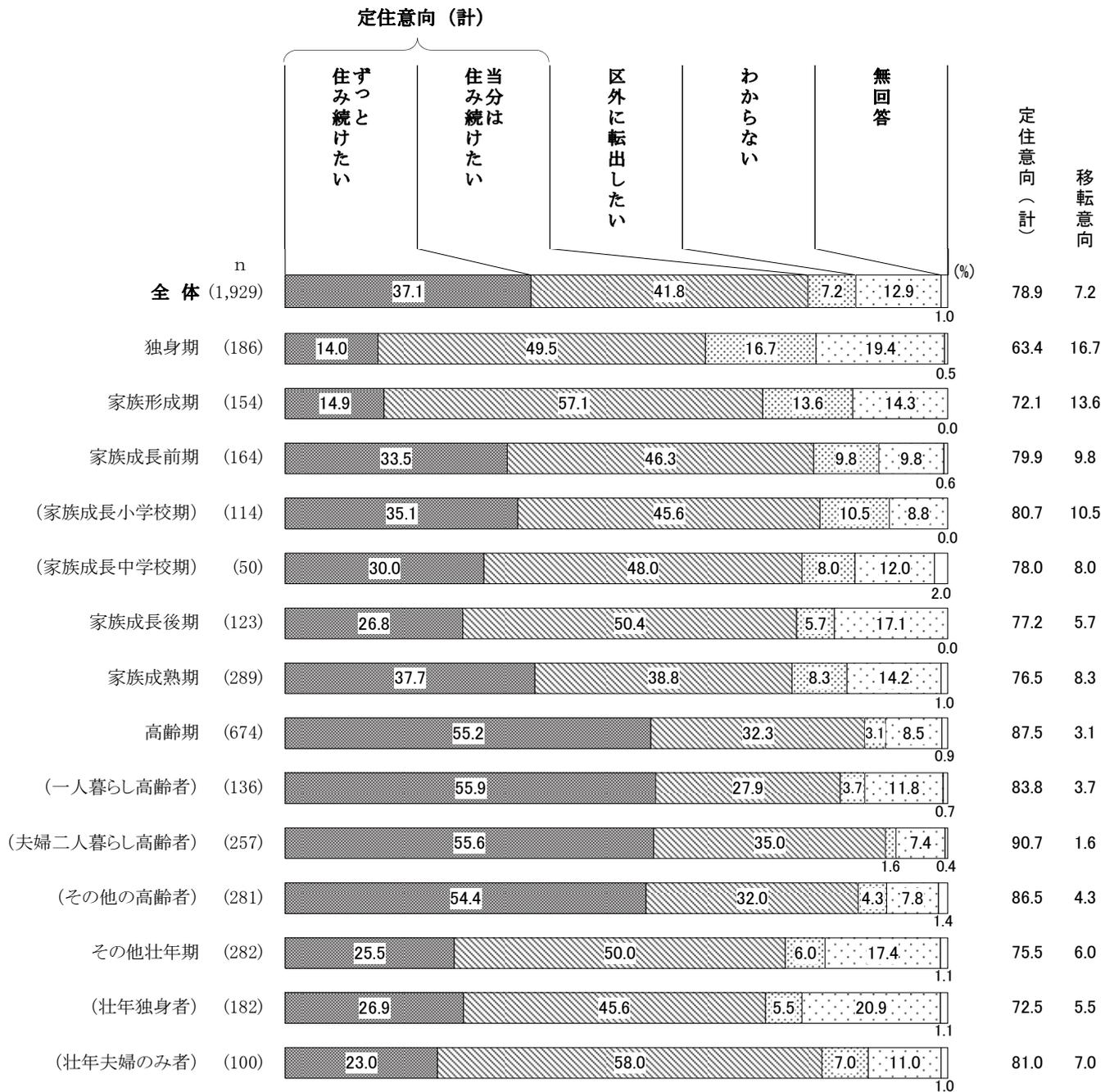
図1-5-5 区政満足度別／定住意向



第3章 調査結果の分析

ライフステージ別でみると、高齢期で【定住意向】が87.5%と高くなっている。

図1-5-6 ライフステージ別/定住意向



2 大震災などの災害への備え

-
- (1) 備蓄や防災用具などの用意
 - (2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容
 - (3) 備蓄量
 - (4) 災害発生時の水や食料の確保
 - (5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策
 - (6) 対策をしていない理由
 - (7) 家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知
 - (8) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと
-

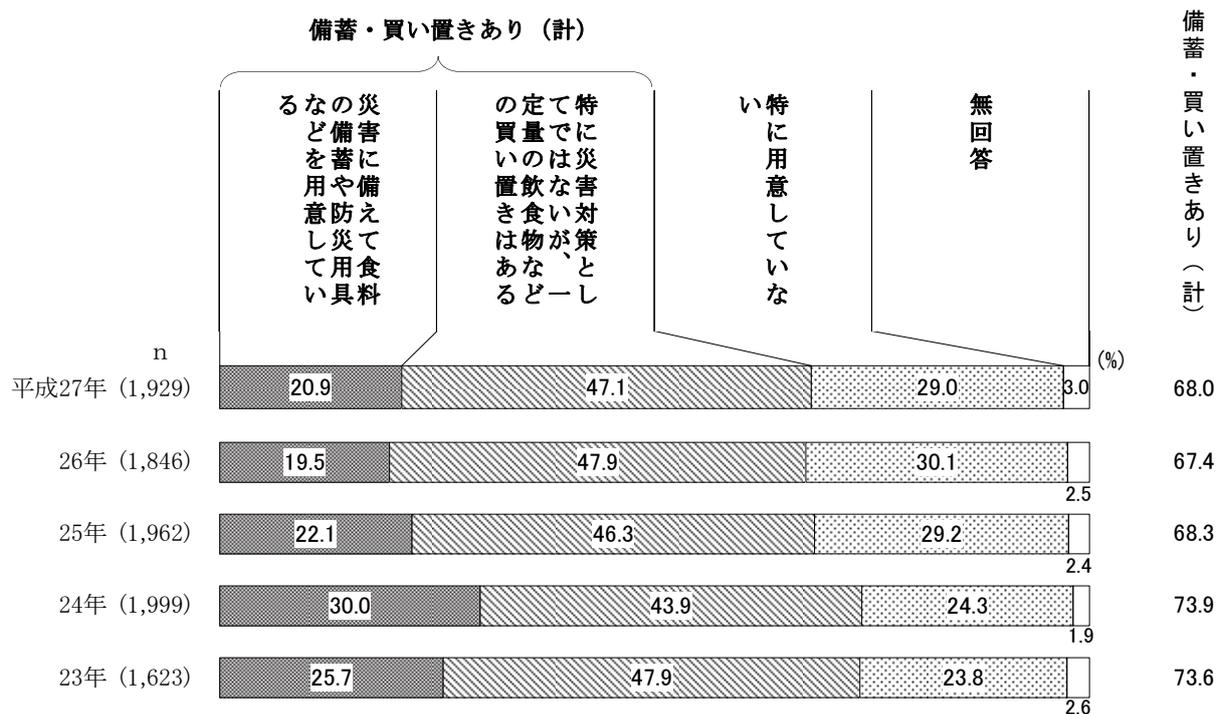
2. 大震災などの災害への備え

(1) 備蓄や防災用具などの用意

■ 用意をしていない方は約3割

問5 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか（○は1つだけ）。

図2-1-1 経年比較／備蓄や防災用具などの用意



災害に備えての準備状況については、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が20.9%、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が47.1%で、両者を合わせて【備蓄・買い置きあり】は68.0%となっている。一方、「特に用意していない」は29.0%となっている。

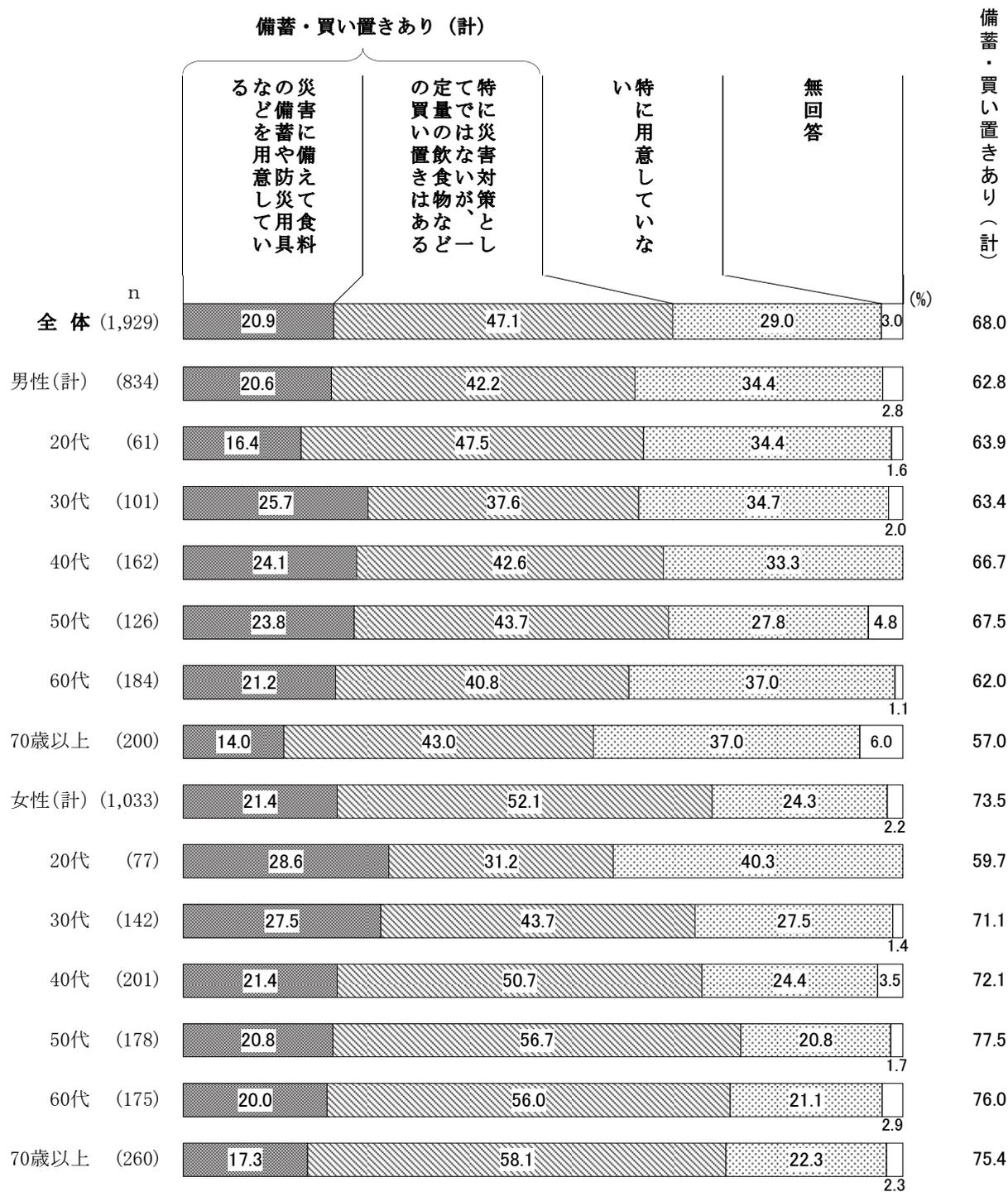
経年でみると、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」は前回の19.5%から、今回20.9%と微増している。一方、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」は、前回47.9%、今回47.1%とほぼ横ばいとなっている。

第3章 調査結果の分析

性別で見ると、女性では【備蓄・買い置きあり】が73.5%と、男性（62.8%）より高くなっている。

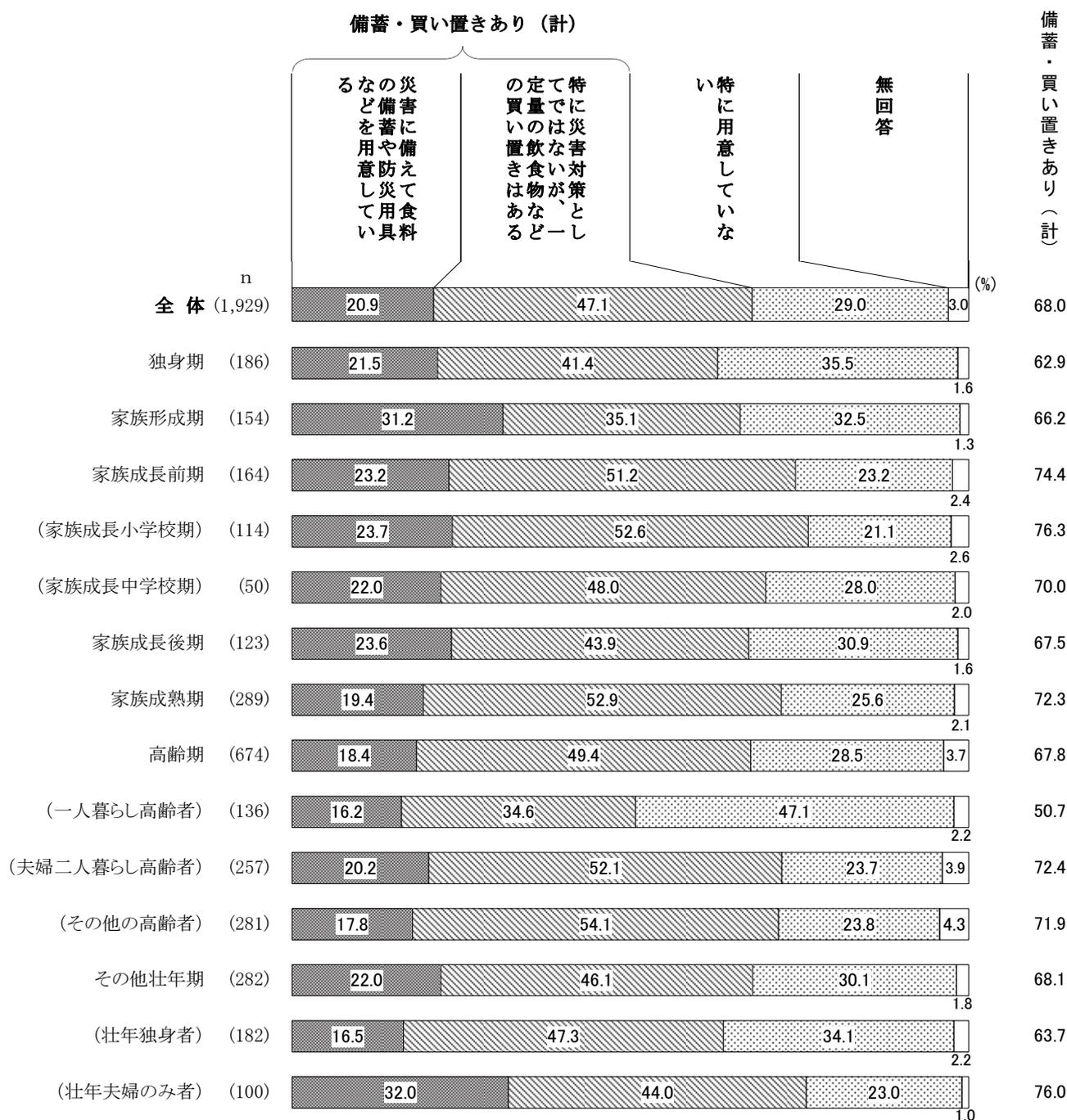
性・年代別で見ると、男性では、70歳以上を除く各年代で【備蓄・買い置きあり】が6割を超えている。女性では、20代を除く各年代で【備蓄・買い置きあり】が7割を超えている。

図2-1-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具などの用意



ライフステージ別で見ると、家族成長前期、家族成熟期で【備蓄・買い置きあり】は、それぞれ74.4%、72.3%と高くなっている。

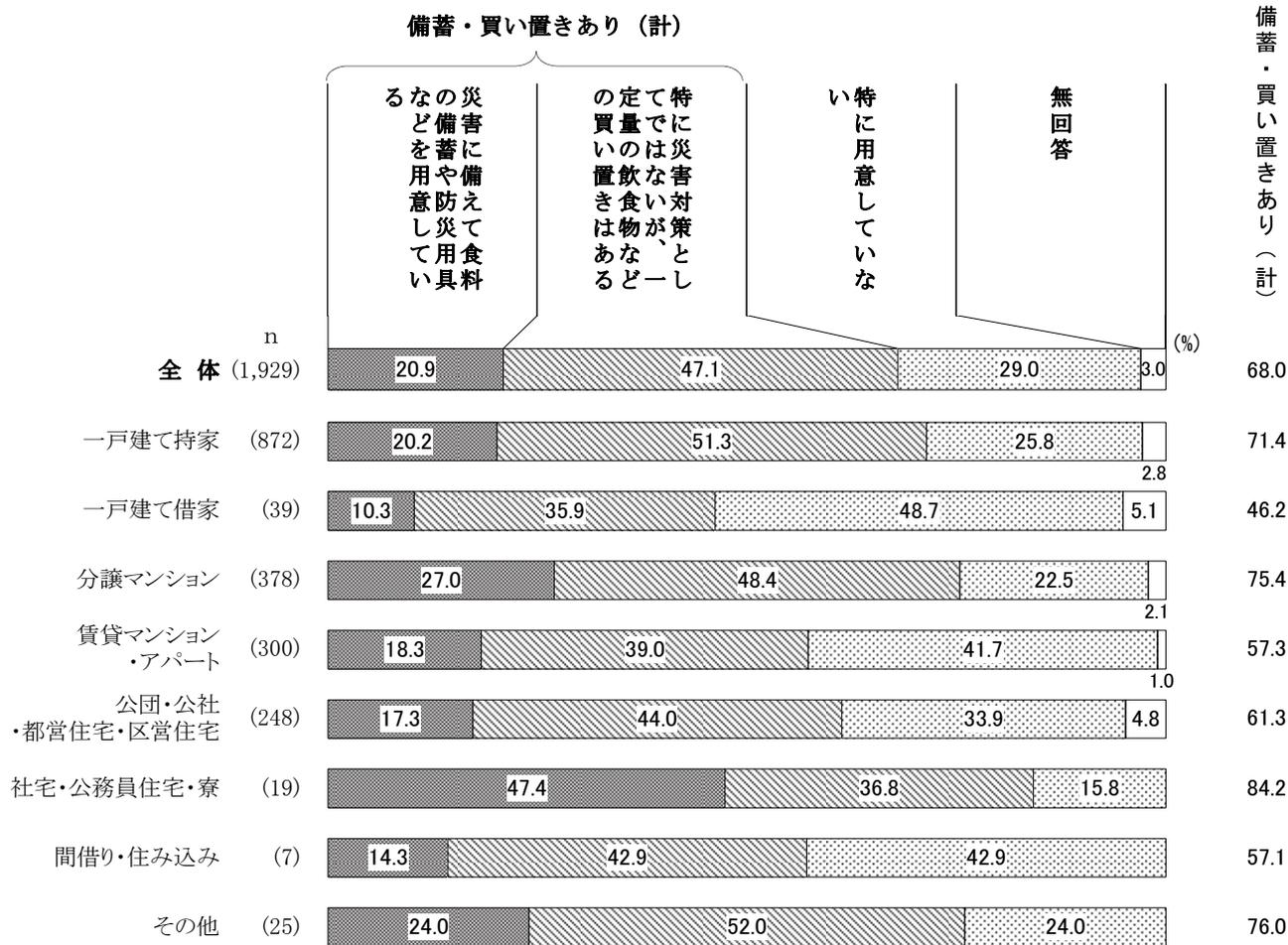
図2-1-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具などの用意



第3章 調査結果の分析

住居形態別でみると、一戸建て持家、分譲マンション、社宅・公務員住宅・寮では【備蓄・買い置きあり】が、それぞれ71.4%、75.4%、84.2%と高くなっている。一方、一戸建て借家では【備蓄・買い置きあり】が46.2%と、他の住居形態に比べて低くなっている。

図2-1-4 住居形態別／備蓄や防災用具などの用意

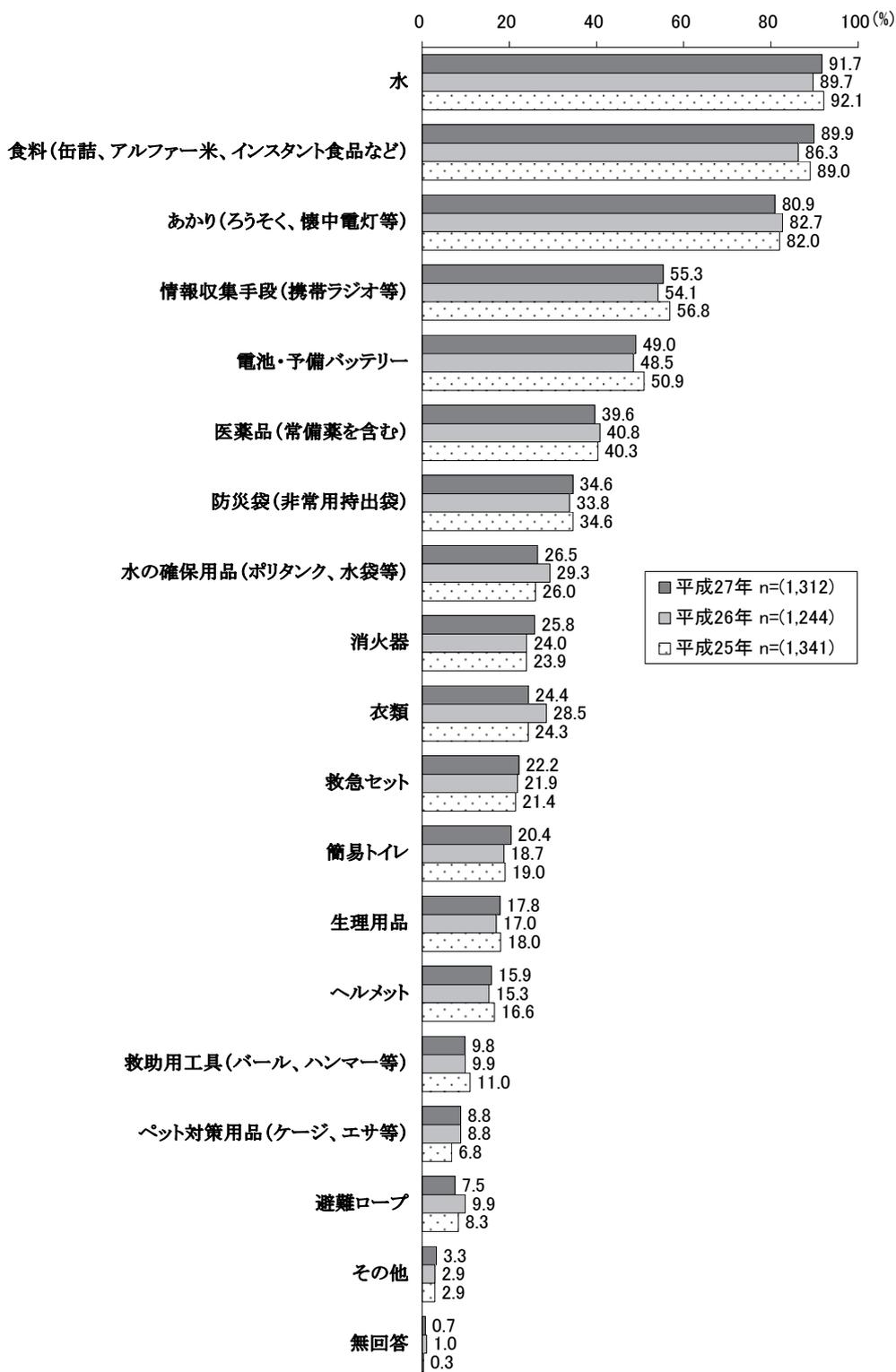


(2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

■ 「水」「食料」は9割前後、「あかり」が約8割

問5で「1. 災害に備えて～」または「2. 特に災害対策としてでは～」とお答えの方に
 問5-1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください（〇はあてはまるものすべて）。

図2-2-1 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容



第3章 調査結果の分析

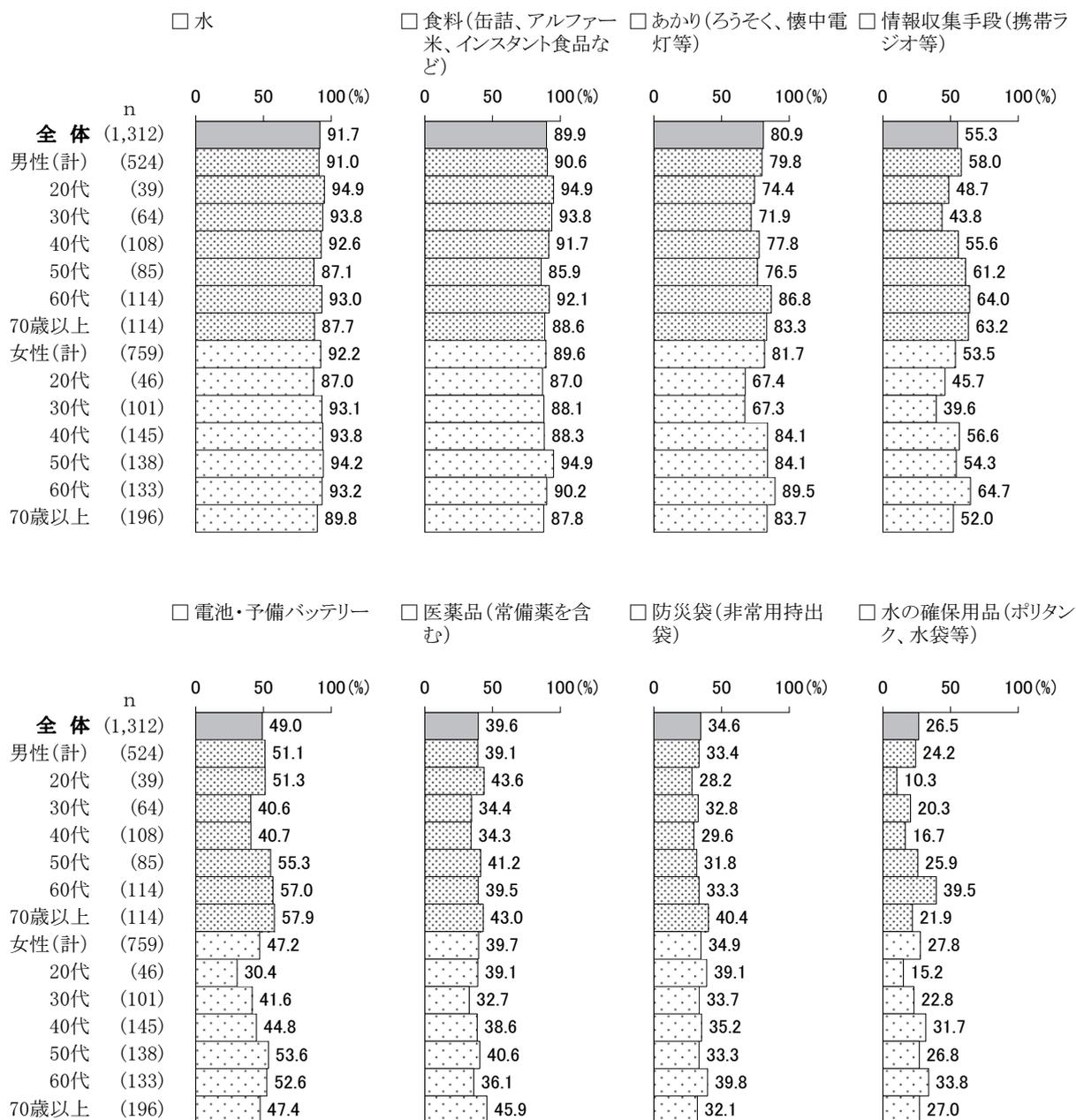
【備蓄・買い置きあり】という人に、その内容を聞いたところ、「水」が91.7%で最も高く、以下「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」（89.9%）、「あかり」（80.9%）の順となっている。

経年でみると、上位3位の順位や数値に大きな変化はみられない。

性別でみると、上位3位について、男女差はみられない。

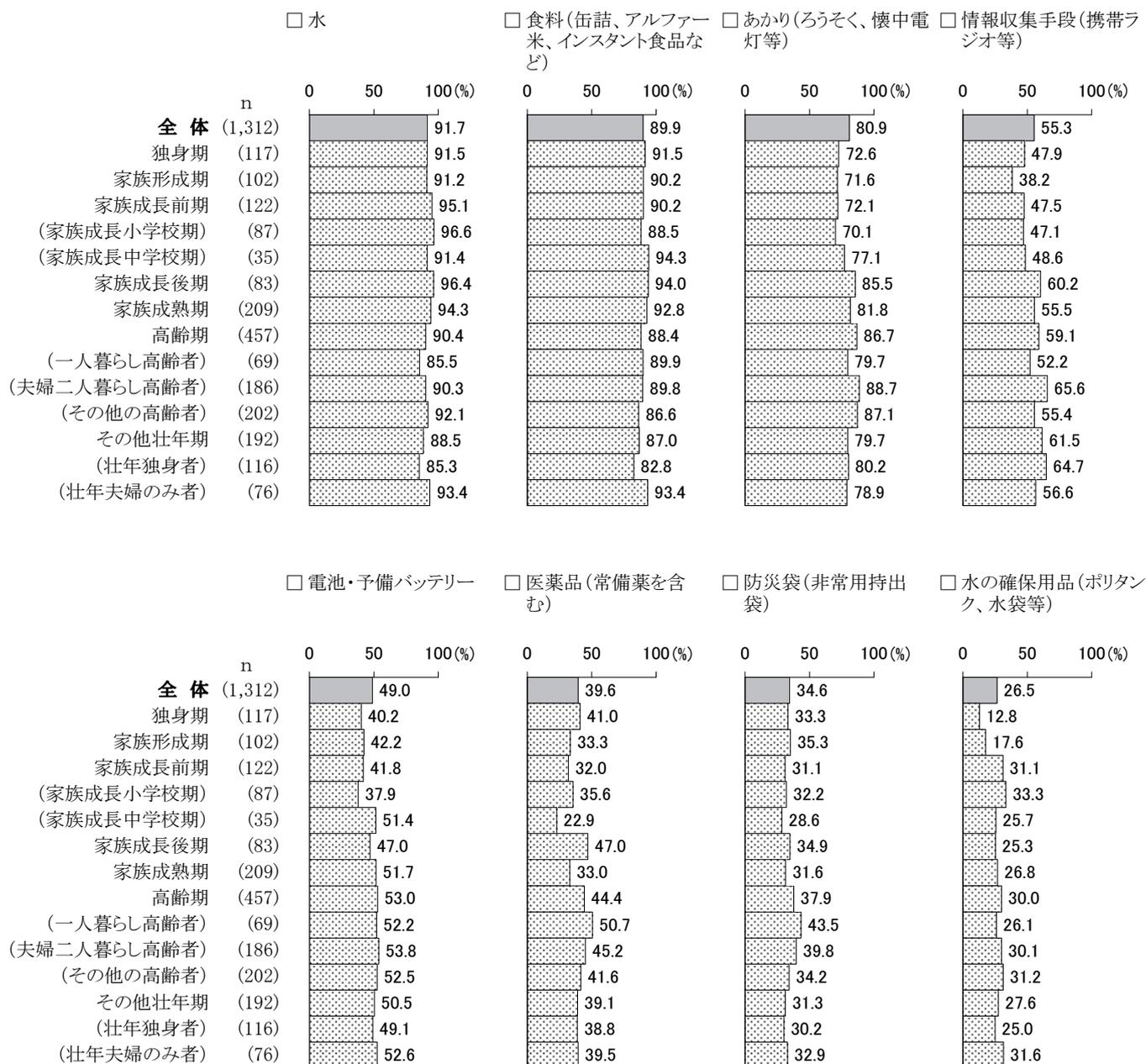
性・年代別でみると、「水」と「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」については、男女とも各年代にわたって高くなっている。また、「情報収集手段（携帯ラジオ等）」については、50代から70歳以上までの男性、60代の女性で、いずれも6割を超えている。

図2-2-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



ライフステージ別でみると、「水」と「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」は、各ステージを通じて高くなっている。また、「情報収集手段（携帯ラジオ等）」は、家族成長後期、家族成熟期、高齢期、その他壮年期で5割を超えて高くなっている。

図2-2-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



(3) 備蓄量

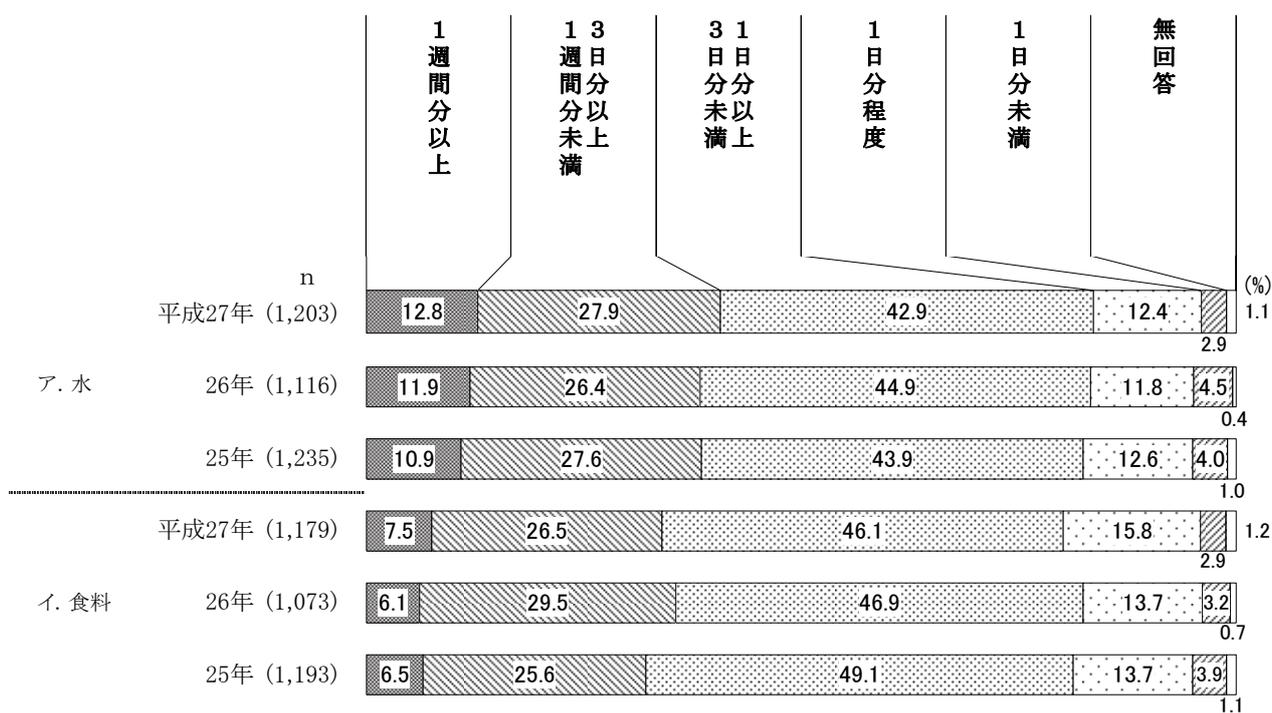
■ 〈水〉〈食料〉とも「1日分以上3日分未満」の備蓄が多く、4割台

問5-1で「1. 水」、または「2. 食料」とお答えの方に

問5-1-1 あなたのご家庭では備蓄の量はどれくらいありますか（〇はそれぞれ1つずつ）。

※ 水は大人1人1日3リットルで計算。水、食料は日常の買い置きなどを含みます。

図2-3-1 経年比較／備蓄量



〈水〉〈食料〉を備蓄している人に、その量を聞いたところ、〈水〉については、「1日分以上3日分未満」が42.9%で最も高く、次いで「3日以上1週間未満」(27.9%)となっている。

〈食料〉については、「1日分以上3日分未満」が46.1%で最も高く、次いで「3日以上1週間未満」(26.5%)となっている。

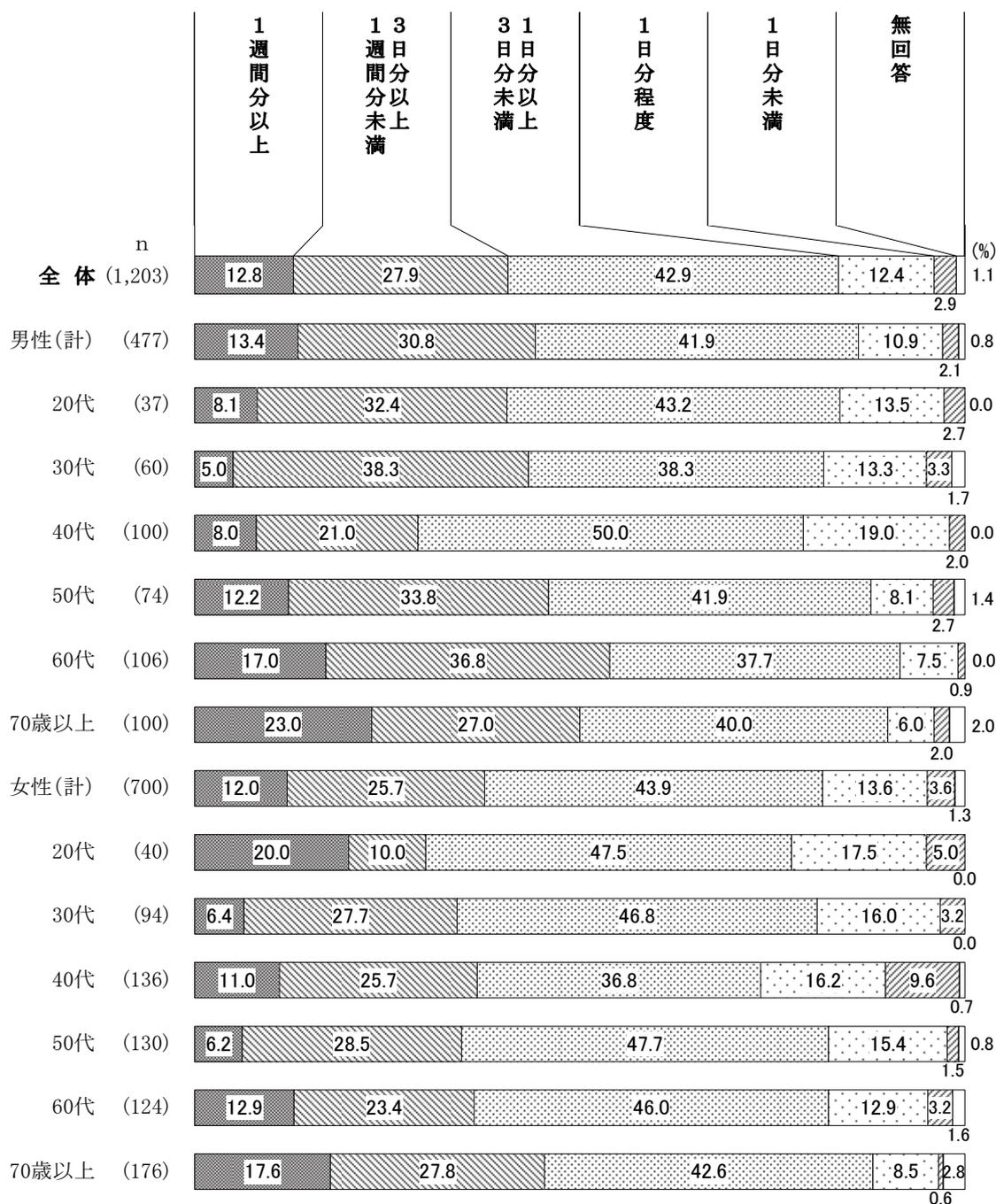
経年でみると、〈水〉〈食料〉とも大きな変化はみられない。

水の備蓄量を性別で見ると、男性では、「3日以上1週間未満」が30.8%と、女性（25.7%）を上回っている。

性・年代別で見ると、男性では、20代、40代、50代、70歳以上で「1日分以上3日分未満」が「3日以上1週間未満」をかなり上回っている。

女性では、全年代で「1日分以上3日分未満」が「3日以上1週間未満」を上回っている。

図2-3-2-① 性別、性・年代別／備蓄量／水

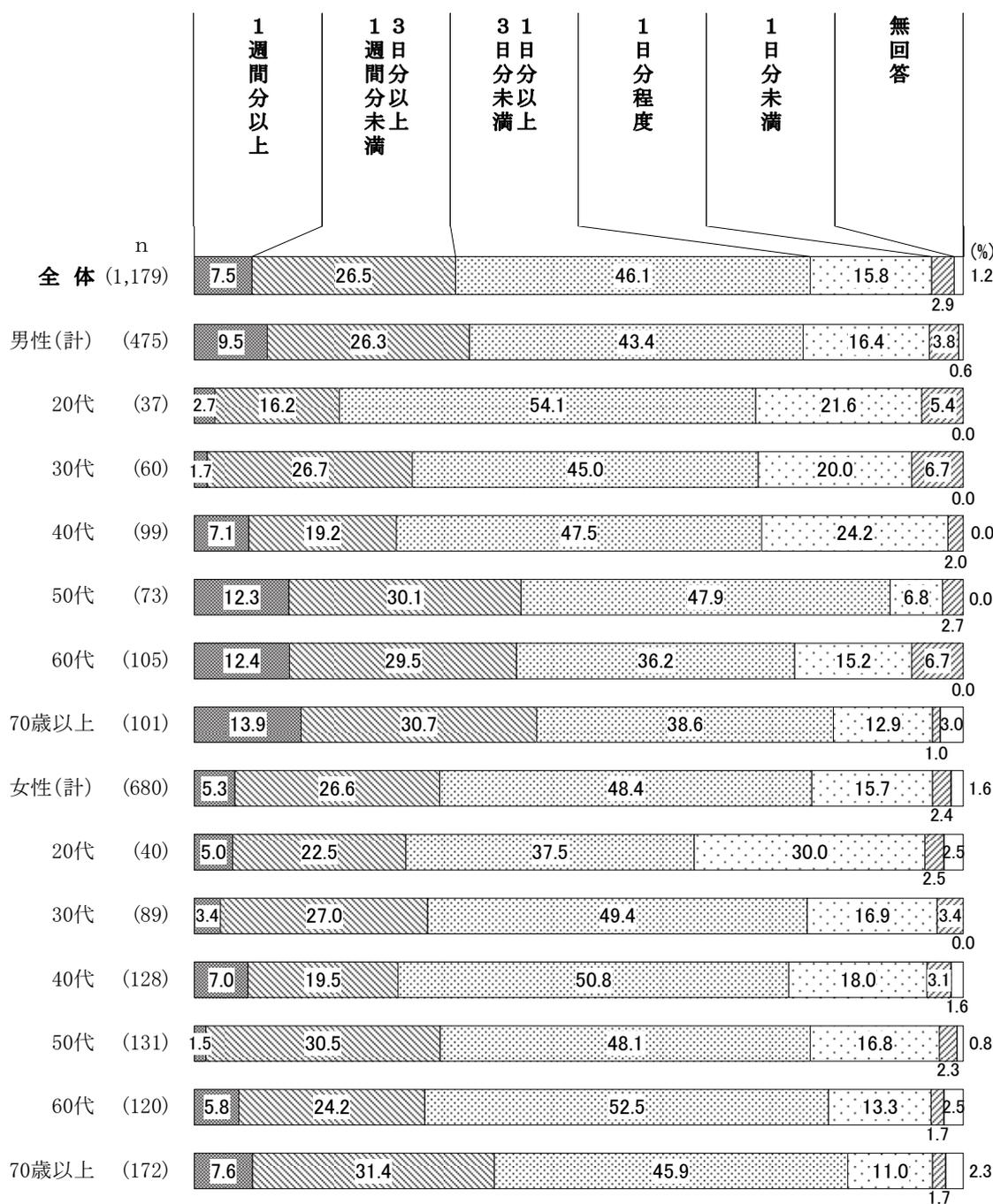


第3章 調査結果の分析

食料の備蓄量を性別で見ると、女性では「1日分以上3日分未満」が48.4%と、男性（43.4%）より高くなっている。

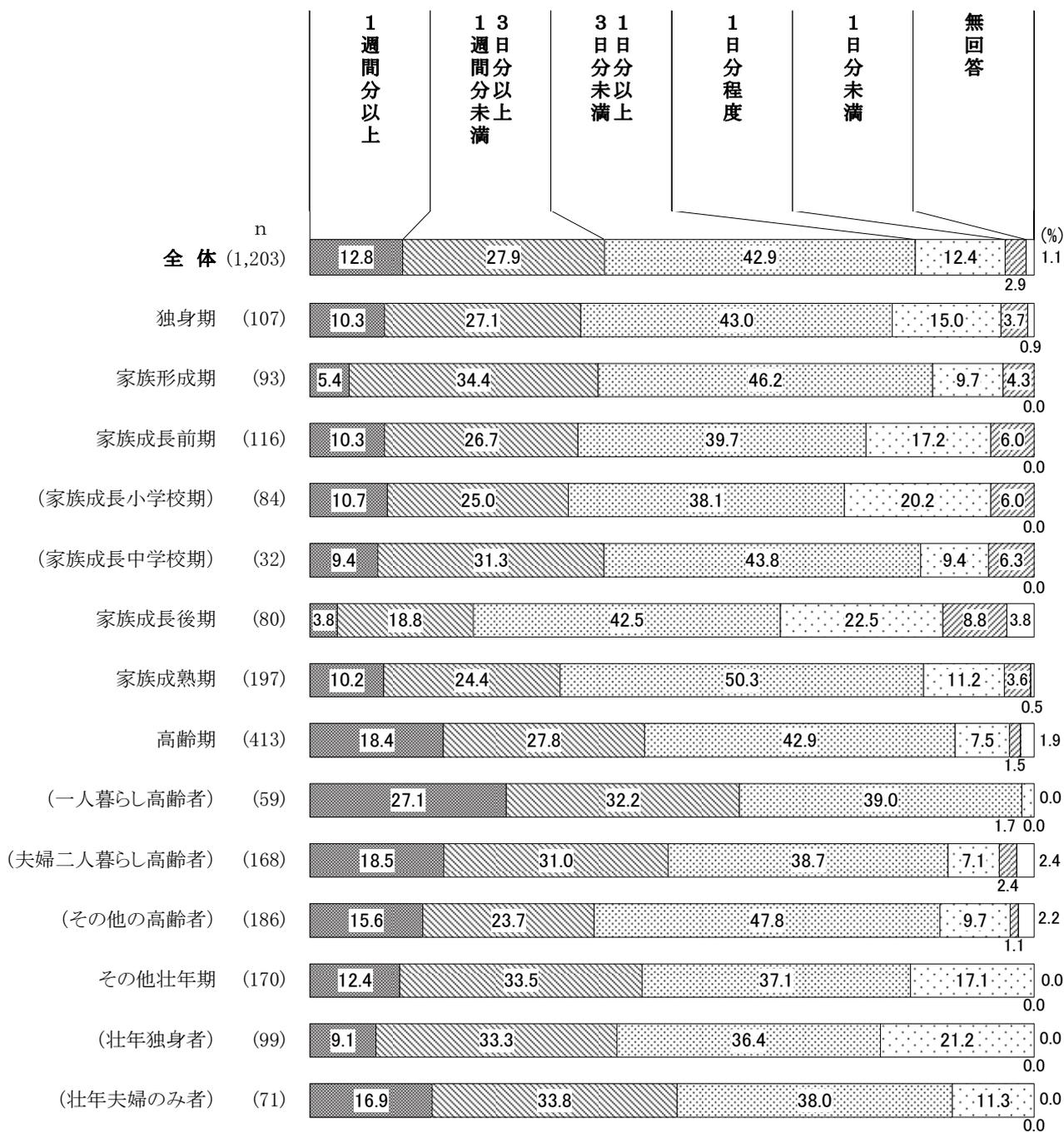
性・年代別で見ると、男女とも、全年代で「1日分以上3日分未満」が「3日以上1週間未満」を上回っている。

図2-3-2-② 性別、性・年代別／備蓄量／食料



水の備蓄量をライフステージ別で見ると、全ステージで「1日分以上3日分未満」が「3日以上1週間未満」を上回っている。

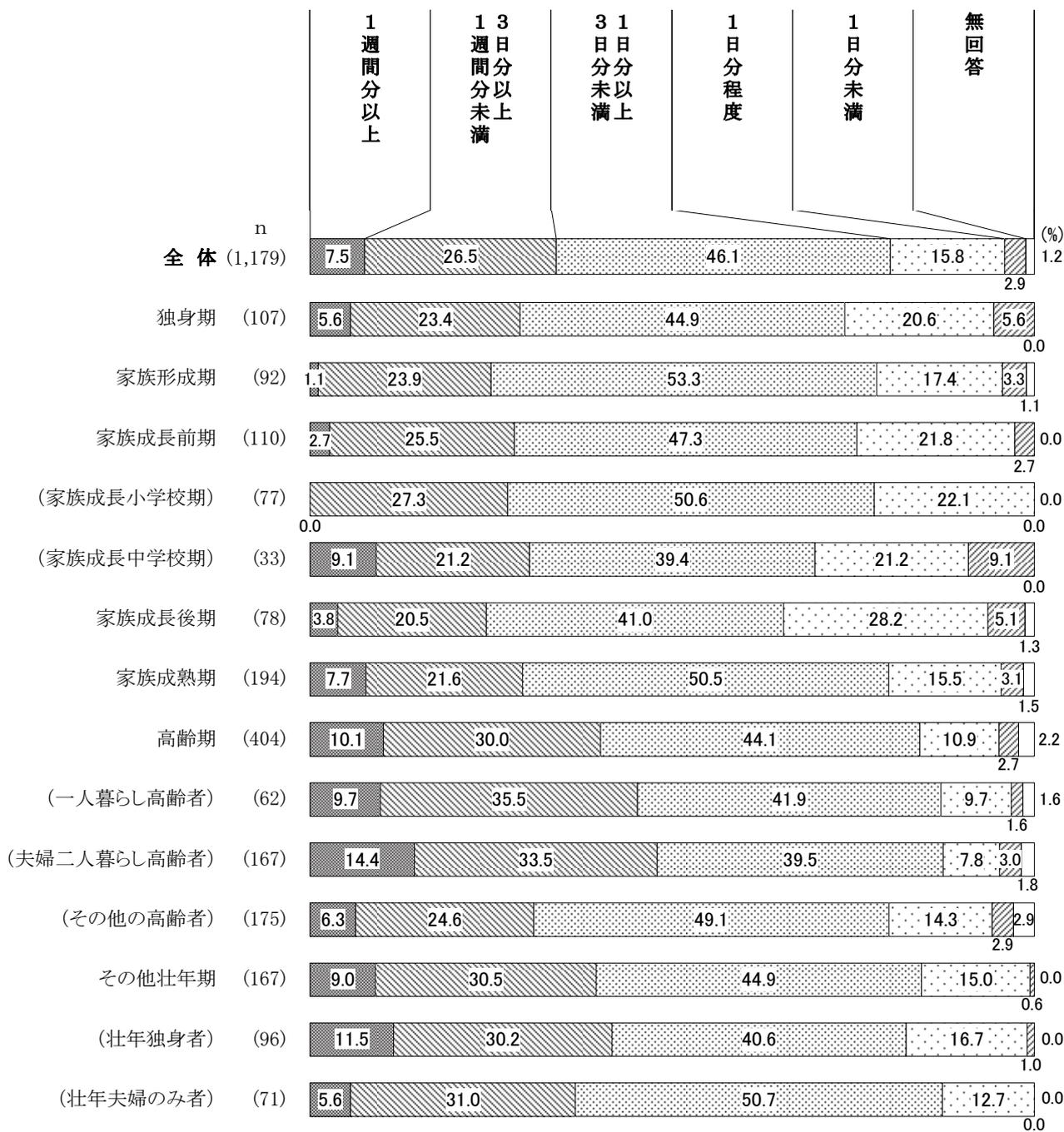
図2-3-3-① ライフステージ別/備蓄量/水



第3章 調査結果の分析

食料の備蓄量をライフステージ別で見ると、全ステージで「1日分以上3日分未満」が「3日以上1週間未満」を上回っている。

図2-3-3-② ライフステージ別／備蓄量／食料



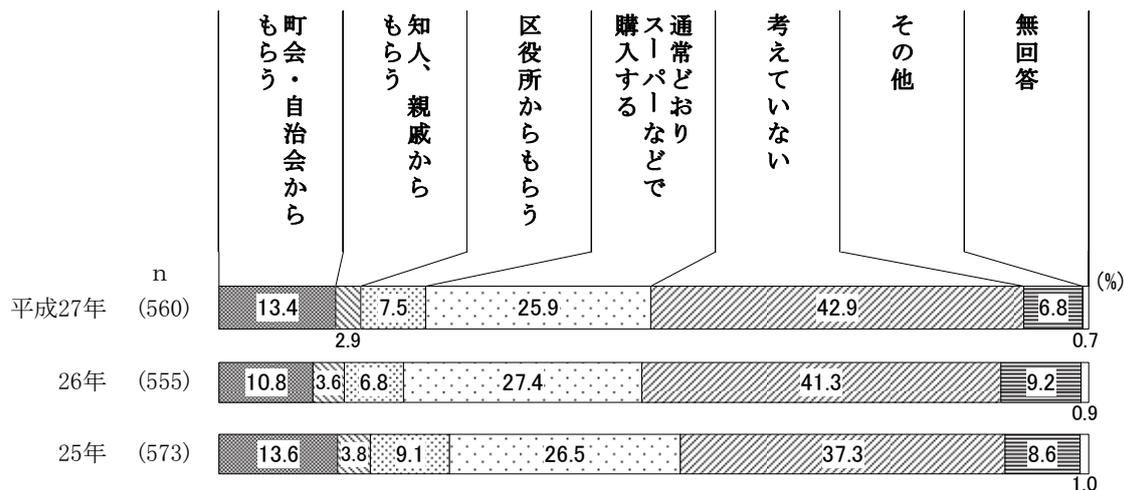
(4) 災害発生時の水や食料の確保

■ 「考えていない」が微増傾向

問6は、問5で「3. 特に用意していない」とお答えの方におうかがいたします

問6 災害が発生した場合、水や食料をどのようにして確保するつもりですか（○は1つだけ）。

図2-4-1 経年比較／災害発生時の水や食料の確保



備蓄や買い置きをしていないという人に、災害発生時の水や食糧の確保について聞いたところ、「通常どおりスーパーなどで購入する」が25.9%で最も高く、次いで「町会・自治会からもらう」(13.4%)となっている。一方、「考えていない」が42.9%を占めている。

経年でみると、「考えていない」は微増傾向にある。

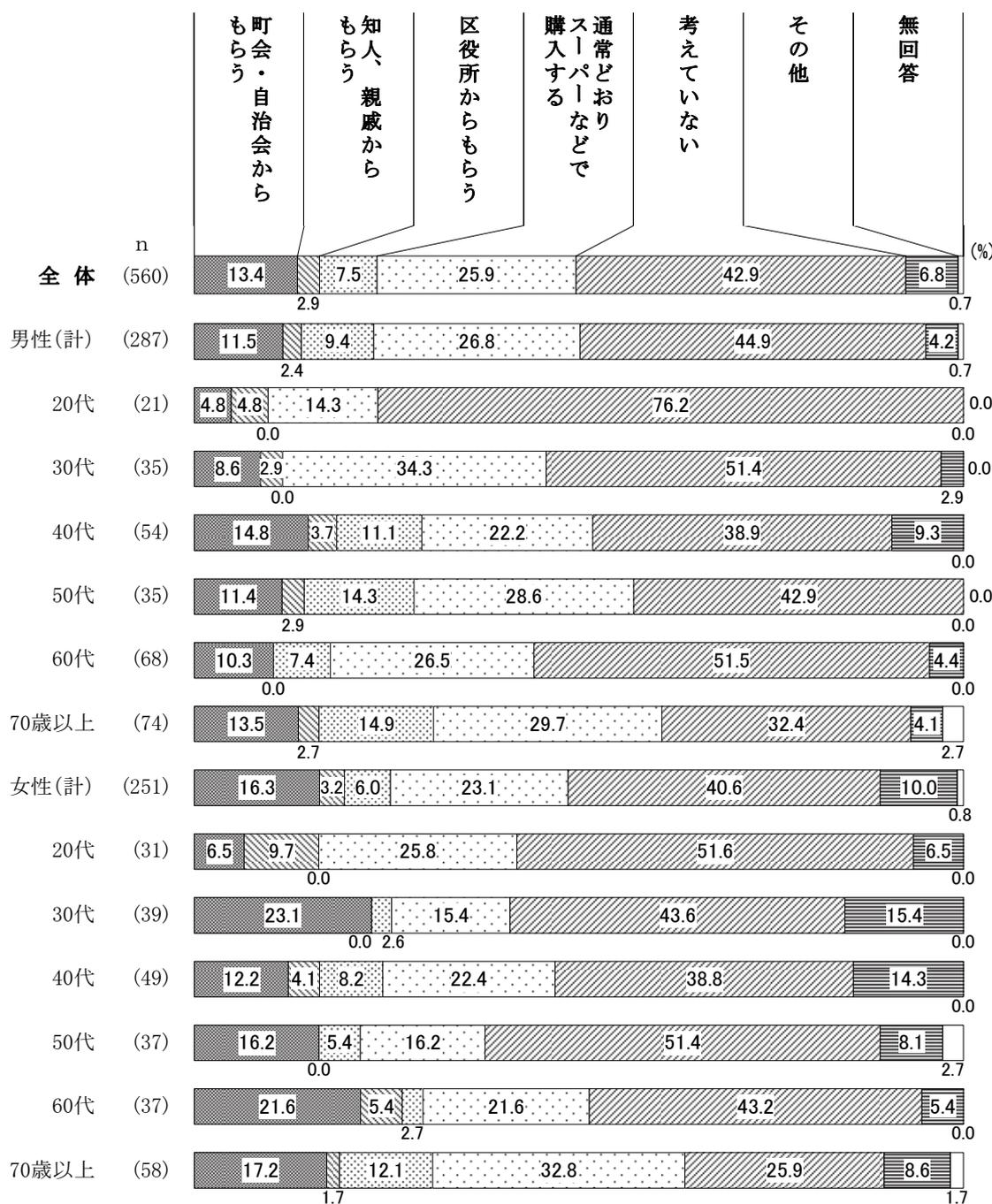
第3章 調査結果の分析

性別でみると、男性では「考えていない」が44.9%と、女性（40.6%）より高くなっている。

性・年代別でみると、男性の場合、20代では「考えていない」が76.2%を占めているほか、30代、60代で5割を超えている。また、30代では「通常どおりスーパーなどで購入する」が34.3%と、他の年代より高くなっている。

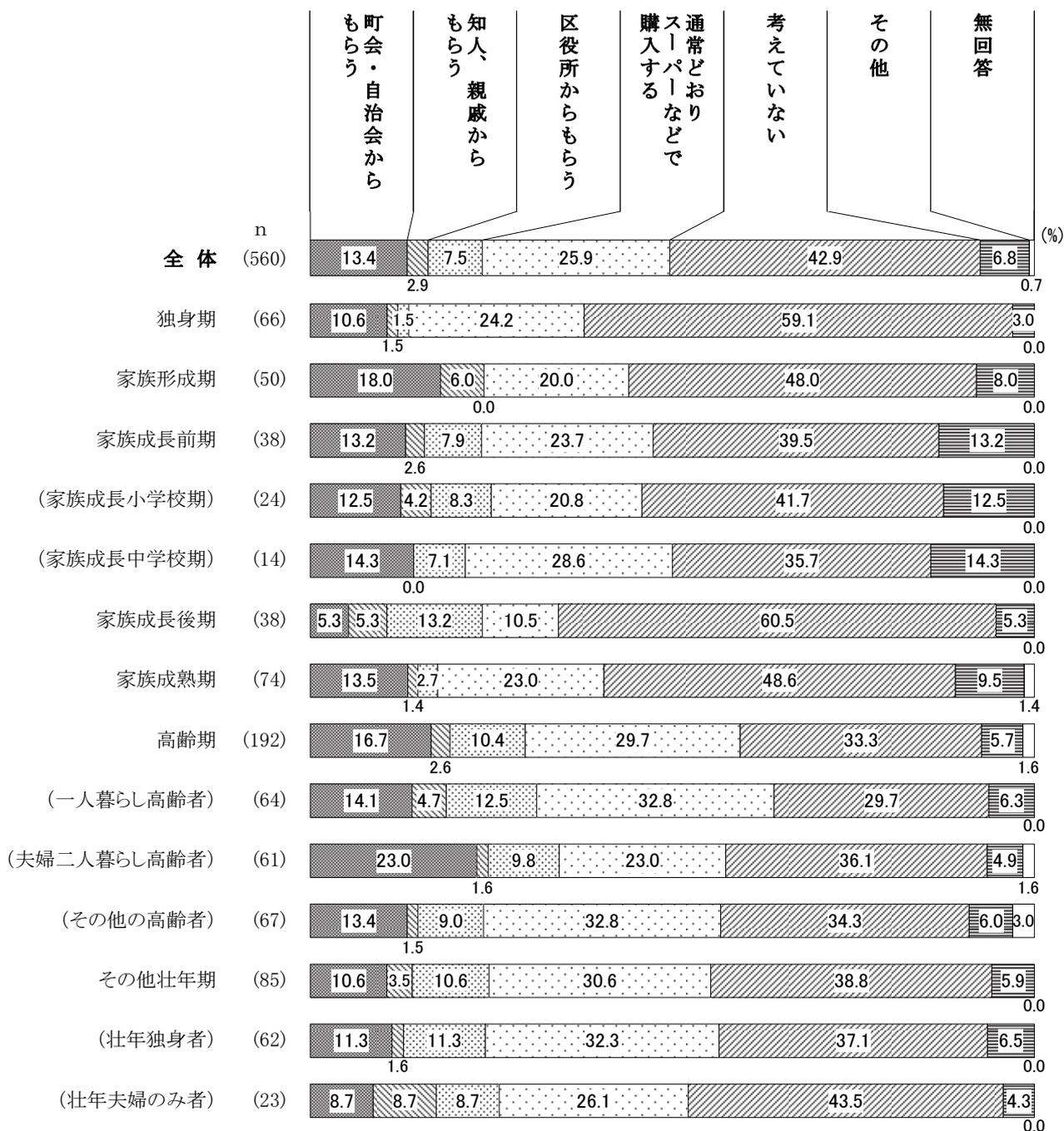
女性の場合、20代、50代で「考えていない」が、いずれも5割を超えている。また、70歳以上では「通常どおりスーパーなどで購入する」が32.8%と、他の年代より高くなっている。

図2-4-2 性別、性・年代別／災害発生時の水や食料の確保



ライフステージ別で見ると、独身期、家族成長後期では「考えていない」が、いずれも6割前後を占めている。また、高齢期、その他壮年期では「通常どおりスーパーなどで購入する」が3割前後を占めている。

図2-4-3 ライフステージ別／災害発生時の水や食料の確保

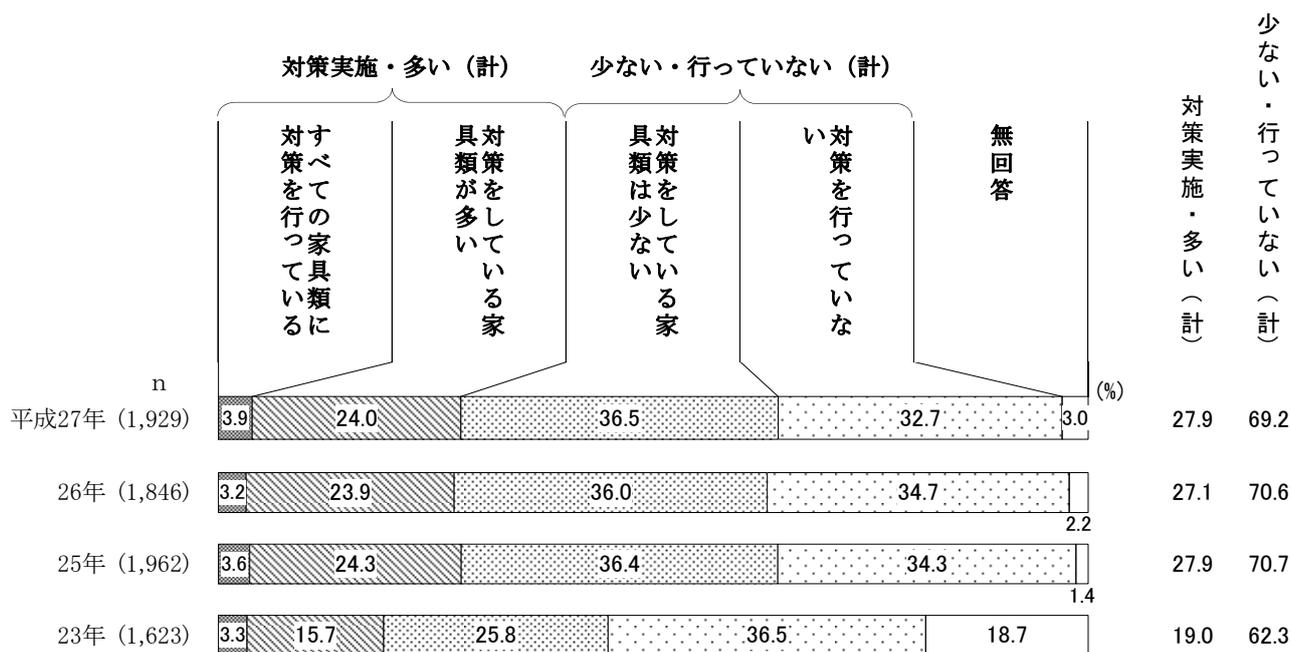


(5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策

■ 対策をしていない方が約7割

問7 あなたのご家庭では、つっぱり棒や壁止め金具などにより家具類(※)の転倒・落下・移動防止対策を行っていますか(○は1つだけ)。
 ※ 家具類とは、タンス、食器棚、冷蔵庫、電子レンジ、ピアノ、本棚、テレビ、パソコン機器などを指します。

図2-5-1 経年比較/家具類の転倒・落下・移動防止対策



家具類の転倒・落下・移動防止対策については、「すべての家具類に対策を行っている」は3.9%で、これに「対策をしている家具類が多い」の24.0%を合わせた【対策実施・多い】が27.9%となっている。一方、「対策をしている家具類は少ない」は36.5%、「対策を行っていない」は32.7%となっている。

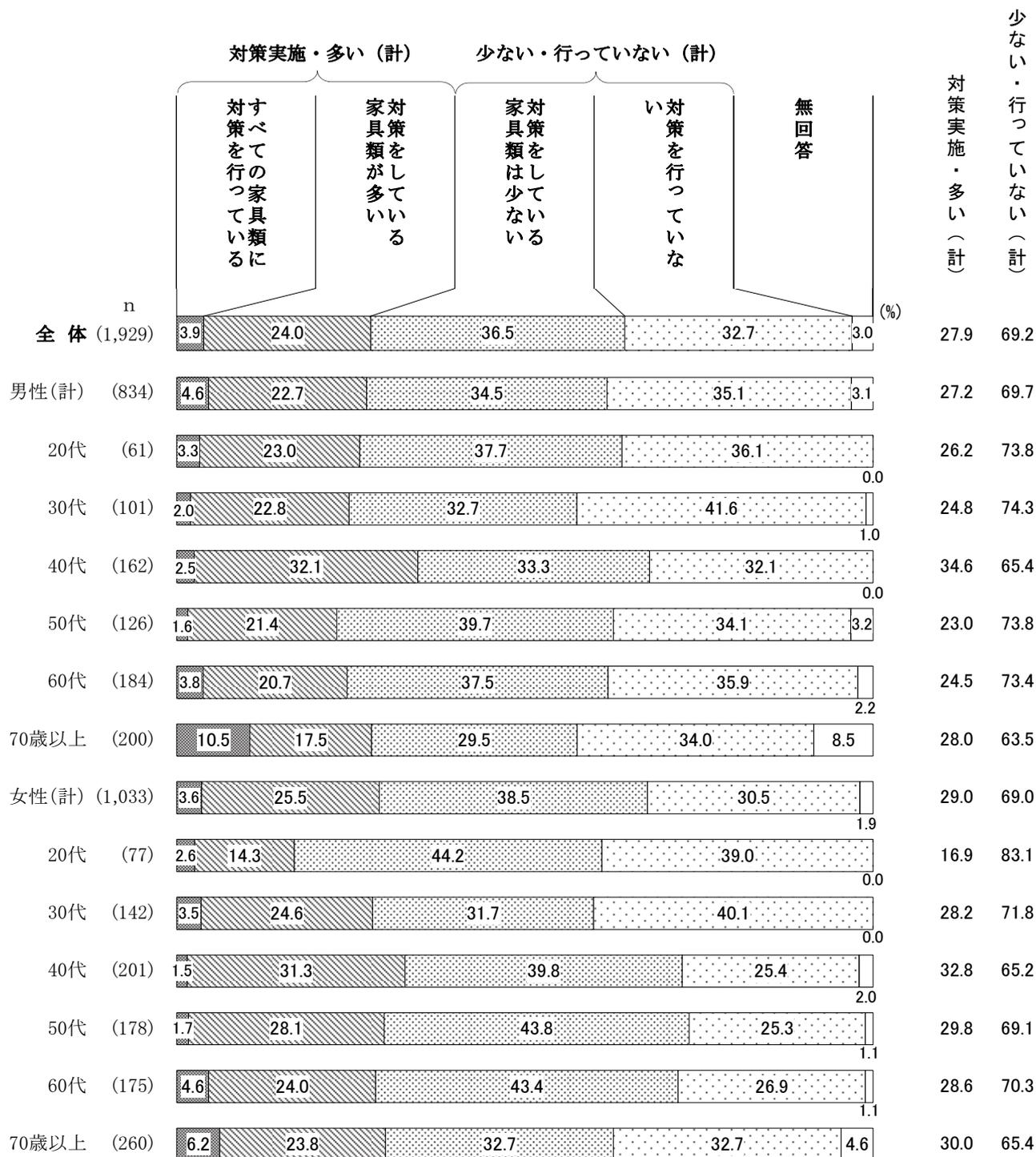
経年でみると、【対策実施・多い】は、平成26年27.1%、今回27.9%でほぼ横ばいとなっている。また、【少ない・行っていない】も、平成26年70.6%、今回69.2%と、ほぼ横ばいとなっている。

性別でみると、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性では、40代で【対策実施・多い】が34.6%と、他の年代より高くなっている。

女性では、30代から70歳以上で【対策実施・多い】が、いずれも3割前後を占めている。

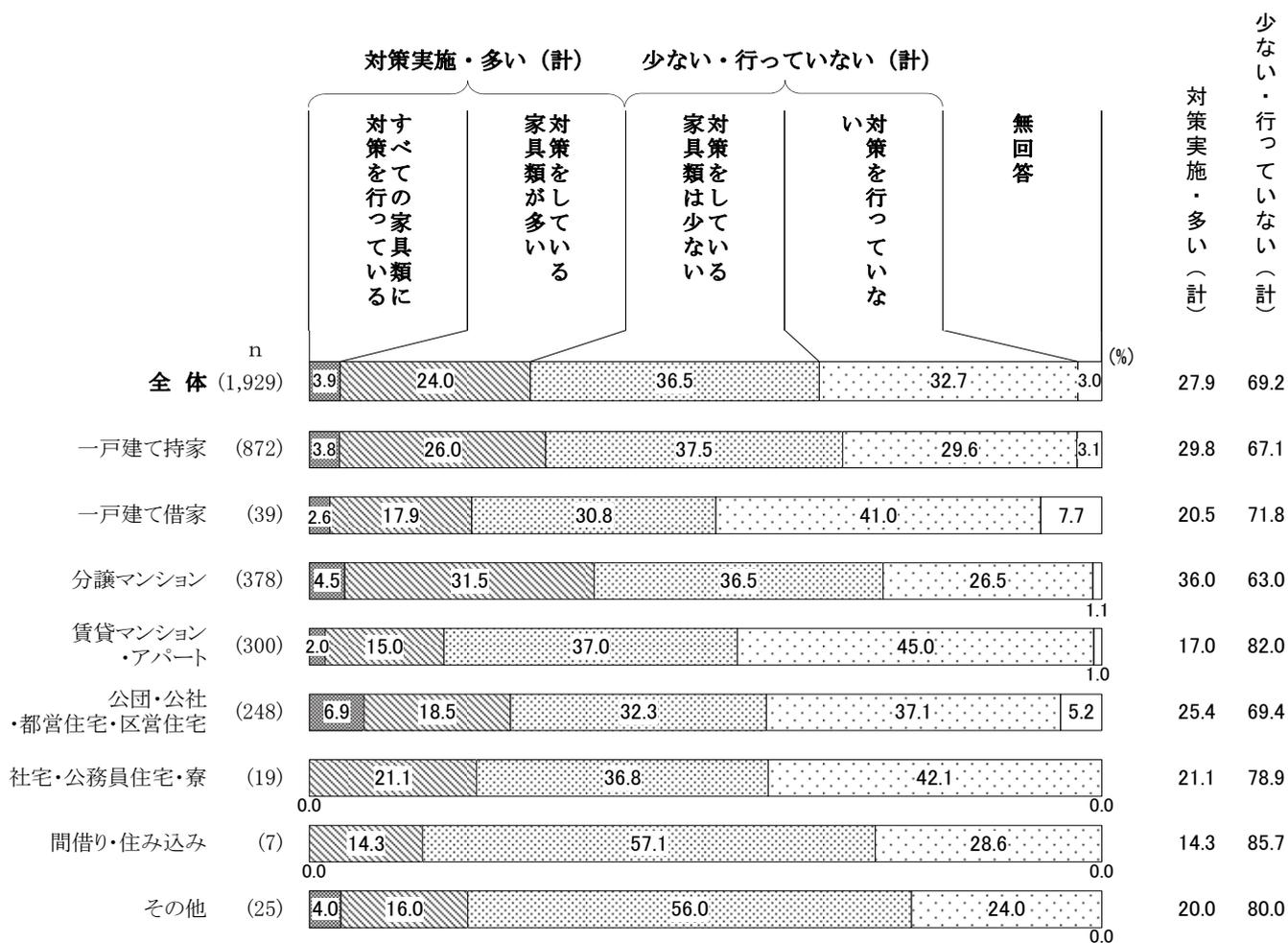
図2-5-2 性別、性・年代別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



第3章 調査結果の分析

住居形態別でみると、分譲マンションでは【対策実施・多い】が36.0%と高くなっているほか、一戸建て持家でも29.8%と3割近くを占めている。一方、一戸建て借家、賃貸マンション・アパート、社宅・公務員住宅・寮では【対策実施・多い】が2割前後となっている。また、賃貸マンション・アパート、社宅・公務員住宅・寮、間借り・住み込みでは【少ない・行っていない】が8割前後と高くなっている。

図2-5-3 住居形態別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



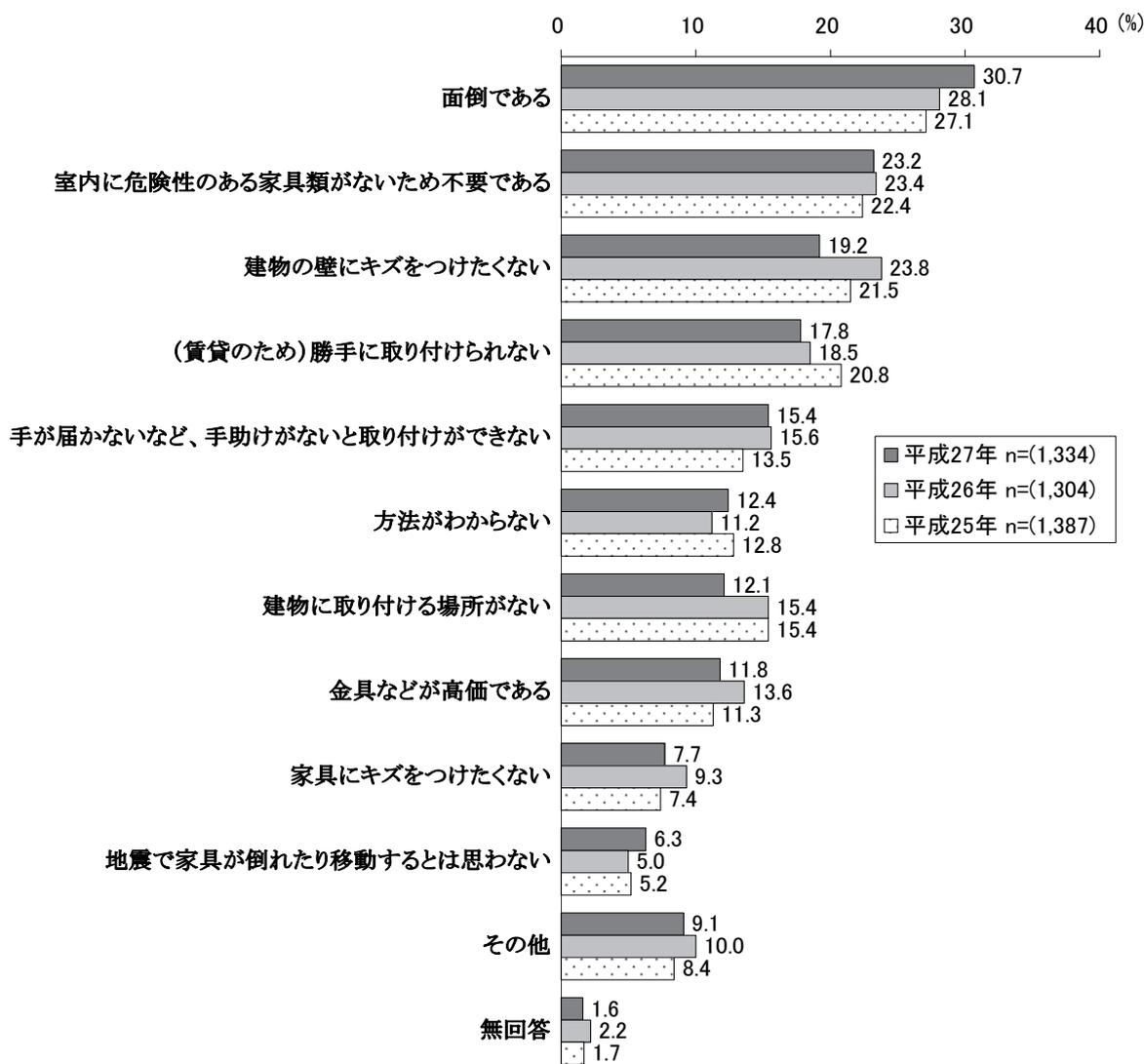
(6) 対策をしていない理由

■ “面倒”が3割強

問7で「3. 対策をしている家具類は少ない」、または「4. 対策を行っていない」とお答えの方に

問7-1 どのような理由からですか（〇はあてはまるものすべて）。

図2-6-1 経年比較／対策をしていない理由



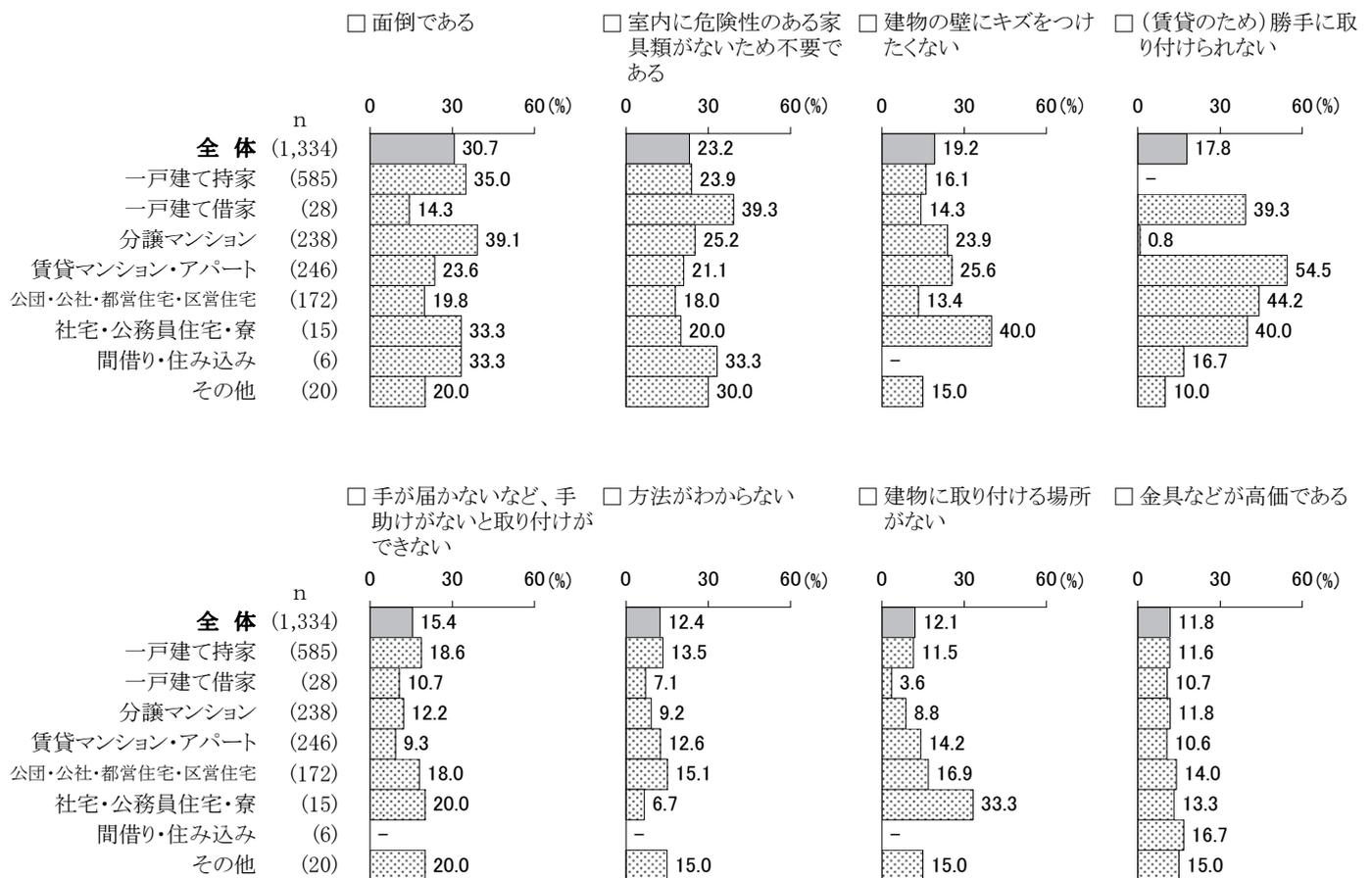
【少ない・行っていない】という人に、その理由を聞いたところ、「面倒である」が30.7%で最も高く、以下「室内に危険性のある家具類が少ないため不要である」（23.2%）、「建物の壁にキズをつけたくない」（19.2%）、「（賃貸のため）勝手に取り付けられない」（17.8%）の順となっている。

経年でみると、上位項目の順位、数値に大きな変化はみられない。

第3章 調査結果の分析

住居形態別でみると、一戸建て持家、分譲マンション、社宅・公務員住宅・寮、間借り・住み込みでは「面倒である」が、いずれも3割を超えている。一方、賃貸マンション・アパートでは「(賃貸のため)勝手に取り付けられない」が54.5%を占めているほか、公団・公社・都営住宅・区営住宅でも44.2%となっている。

図2-6-2 住居形態別／対策をしていない理由／上位8項目



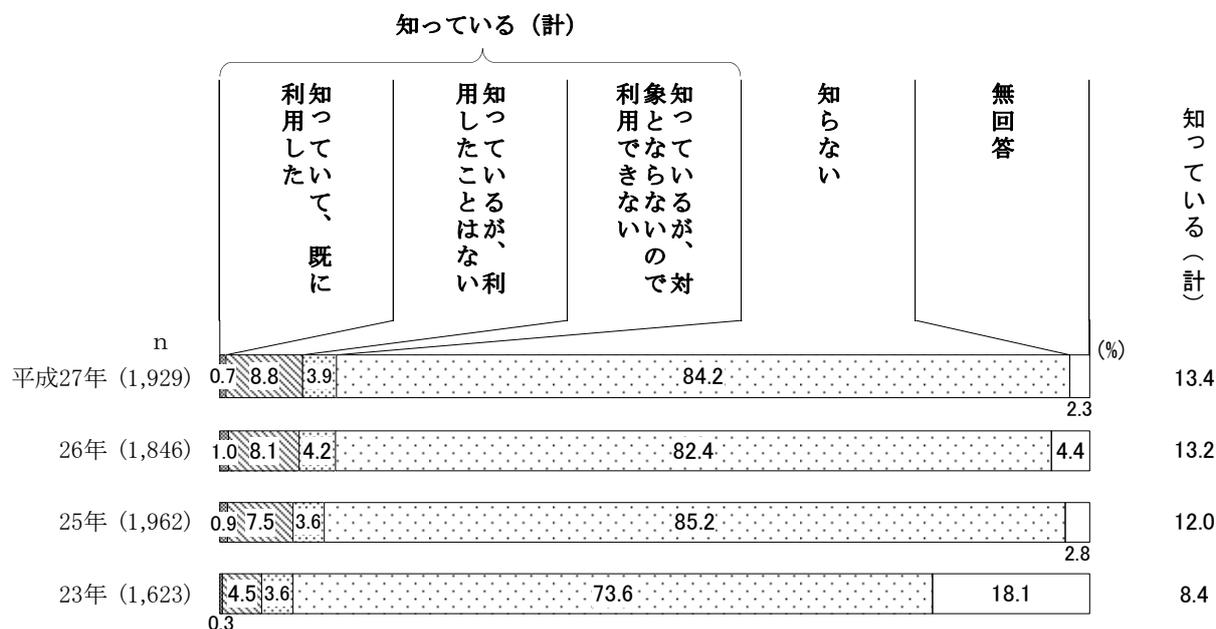
(7) 家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知

■ 「知らない」は8割以上

問8 足立区では、家具転倒防止器具取付工事、ブロック塀倒壊防止工事、窓ガラス飛散防止工事について、3万円を限度に助成する制度を設けています。この制度を知っていますか（〇は1つだけ）。

※ 助成の対象者 ①60歳以上の方を含む世帯、②一定の障がいをお持ちの方を含む世帯、③世帯全員が非課税の世帯、のいずれかに該当する世帯

図2-7-1 経年比較／家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知



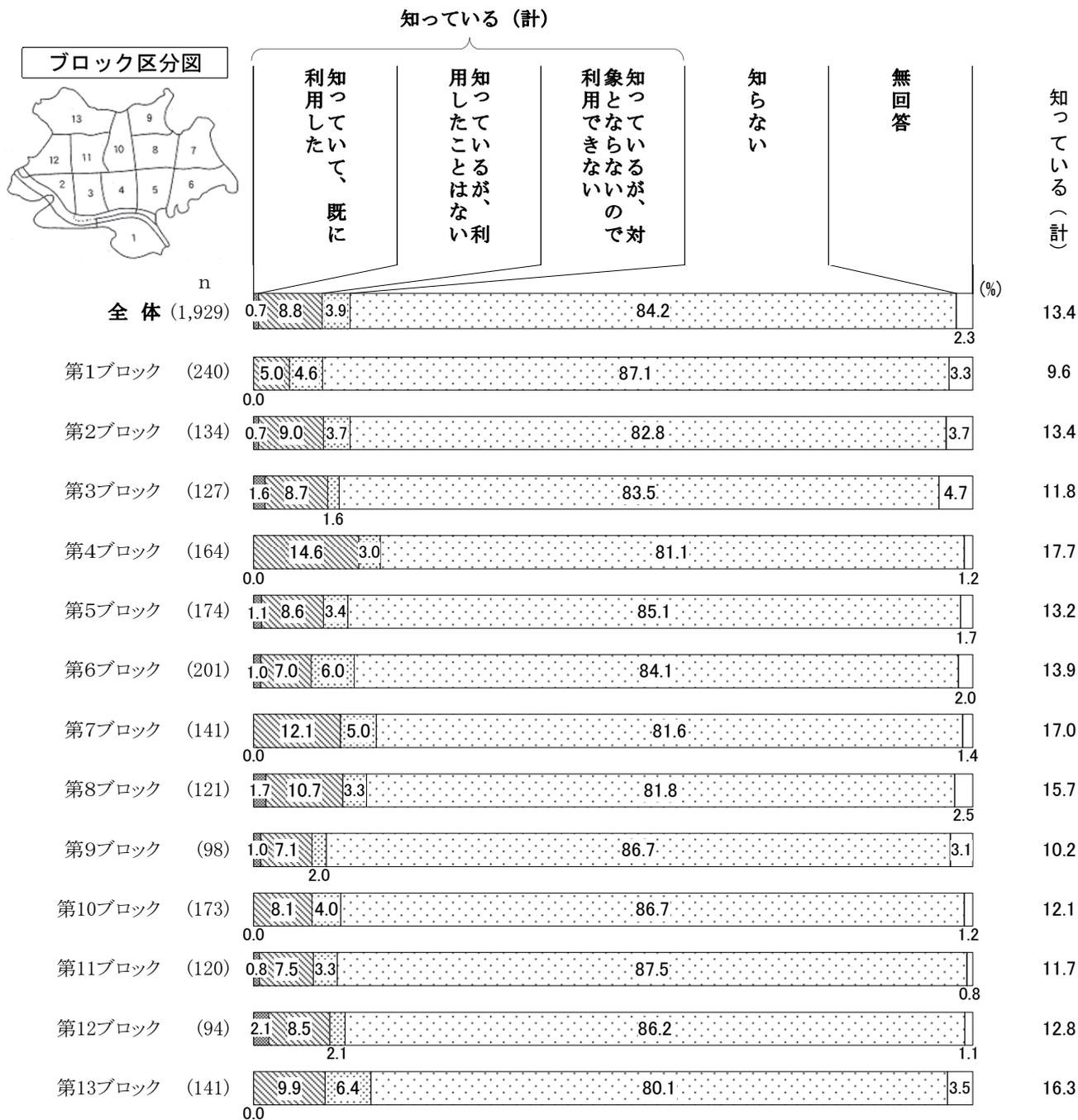
家具転倒防止器具取付、ブロック塀倒壊防止、窓ガラス飛散防止等の工事についての助成金支給制度について、「知っていて、既に利用した」は0.7%で、これに「知っているが、利用したことはない」(8.8%)、「知っているが、対象とならないので、利用できない」(3.9%)を合わせた【知っている】は13.4%となっている。

経年でみると、【知っている】は、平成26年13.2%、今回13.4%とほぼ横ばいとなっている。

第3章 調査結果の分析

地域ブロック別で見ると、第4ブロック、第7ブロック、第8ブロック、第13ブロックでは、【知っている】が、いずれも1割台半ばを超え、他のブロックよりやや高くなっている。

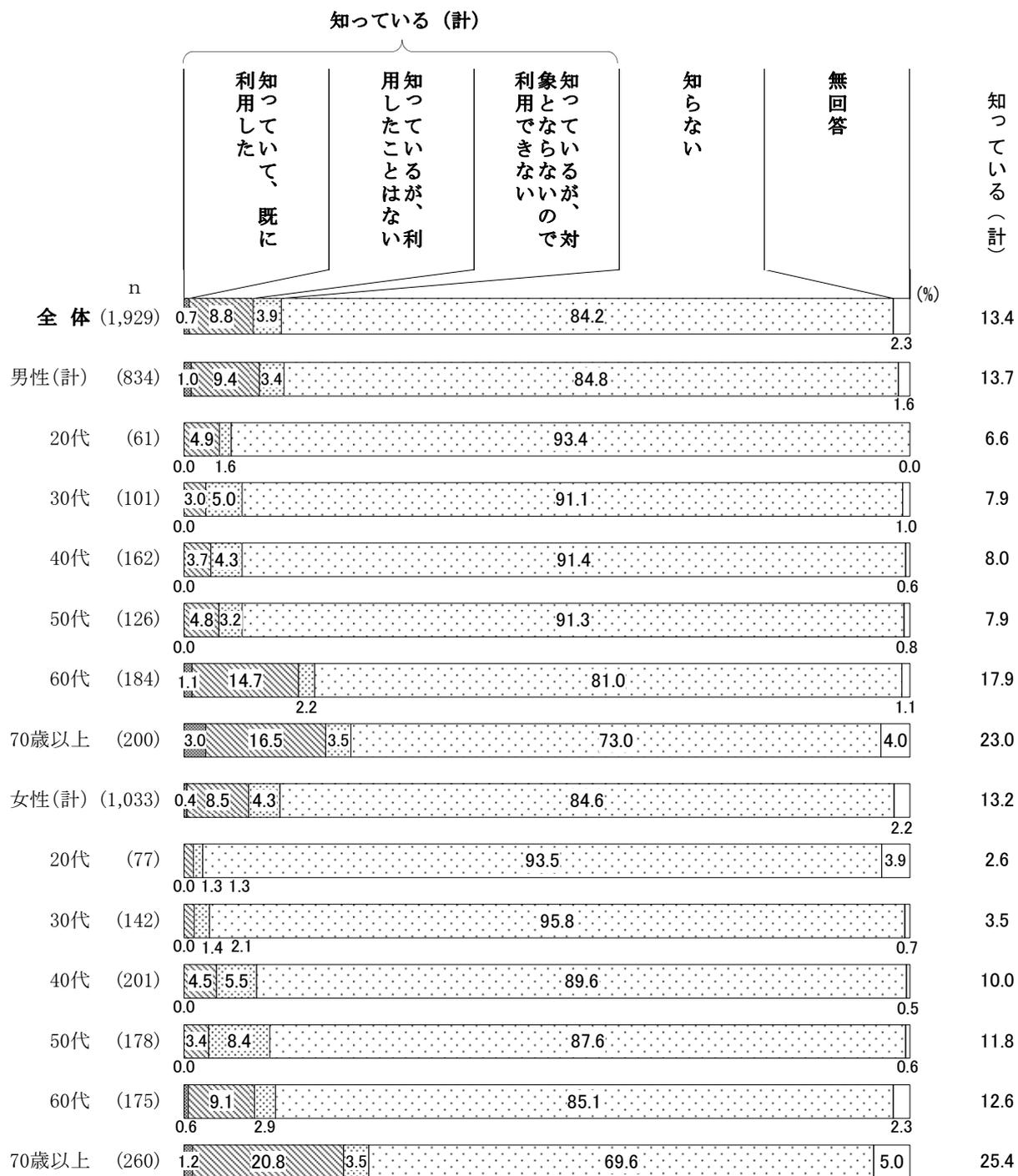
図2-7-2 地域ブロック別／家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知



性別でみると、【知っている】は、ほとんど男女差はない。

性・年代別でみると、【知っている】は、男女とも若年層では低く、加齢とともに増加し、70歳以上では2割を超えている。

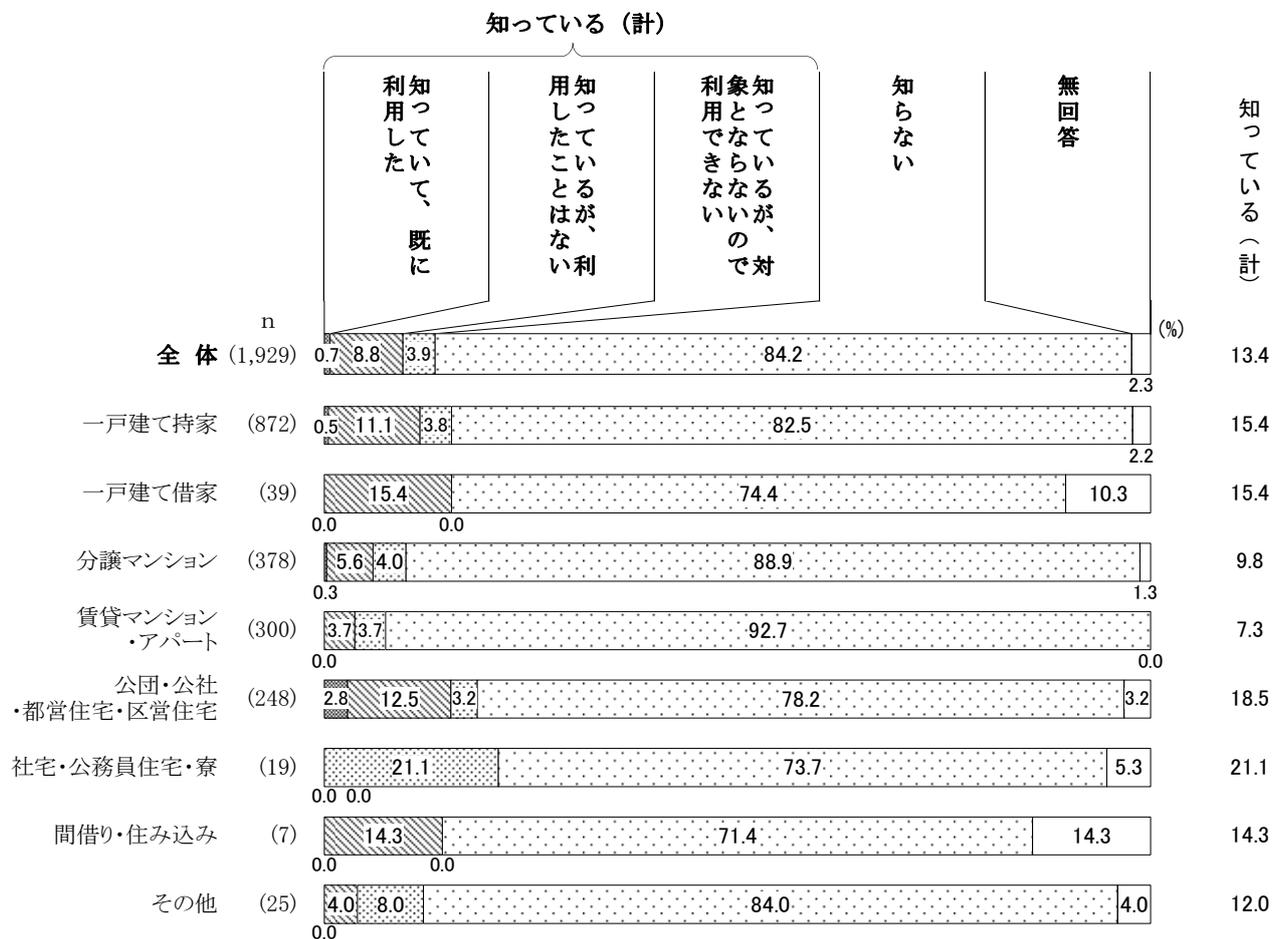
図2-7-3 性別、性・年代別／家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知



第3章 調査結果の分析

住居形態別でみると、公団・公社・都営住宅・区営住宅、社宅・公務員住宅・寮では【知っている】が2割前後を占めて、他の住居形態より高くなっている。

図2-7-4 住居形態別／家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知

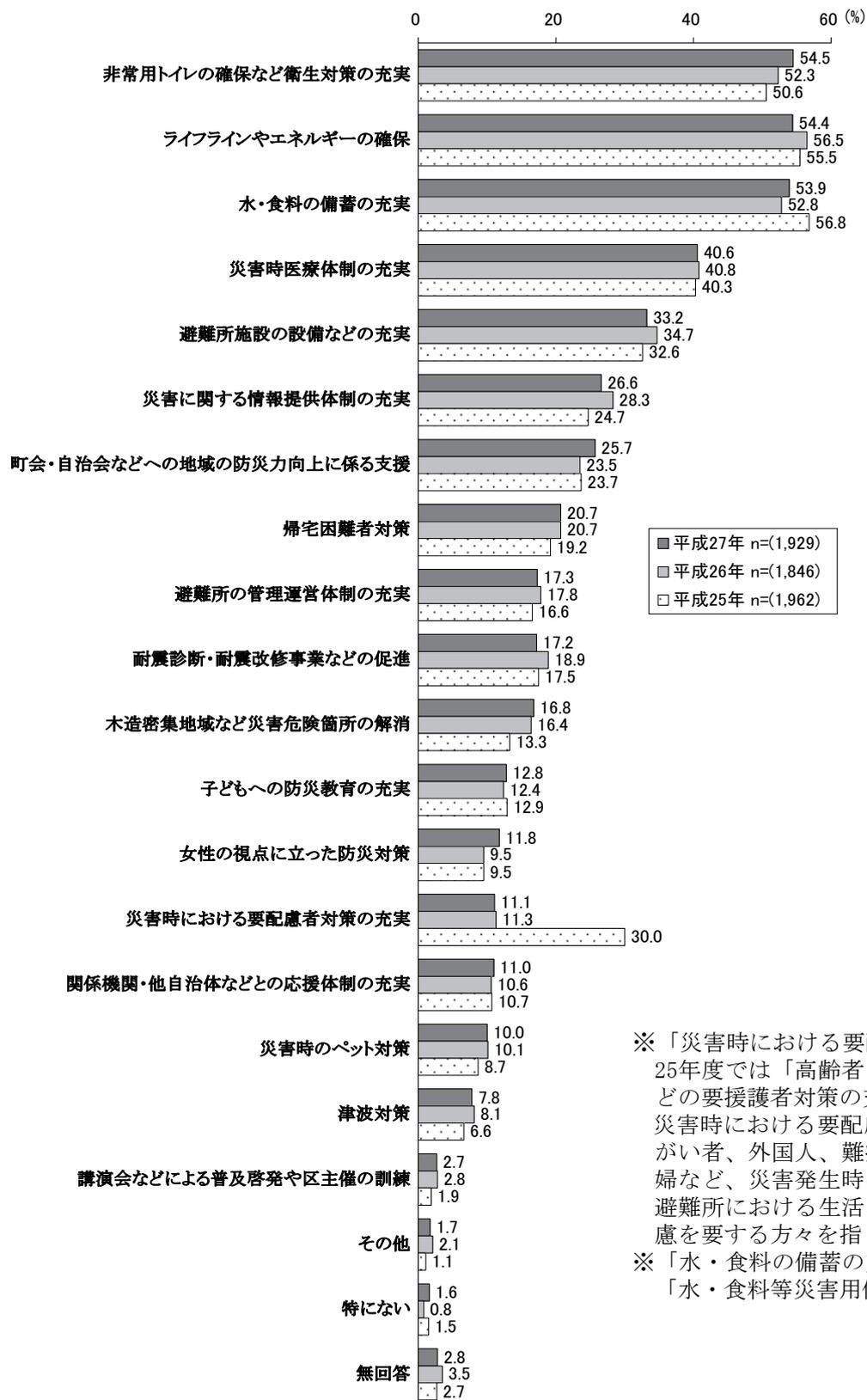


(8) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

■ “衛生対策の充実” “ライフラインやエネルギーの確保” “備蓄の充実” が5割台半ばで上位

問9 あなたが大地震の際の防災対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか（〇は5つまで）。

図2-8-1 経年比較／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと



※「災害時における要配慮者対策の充実」は、25年度では「高齢者・障がい者・乳幼児などの要援護者対策の充実」。
 災害時における要配慮者とは、高齢者、障がい者、外国人、難病患者、乳幼児、妊産婦など、災害発生時に避難行動を取る際や、避難所における生活などにおいて、特に配慮を要する方々を指します。
 ※「水・食料の備蓄の充実」は、25年度では「水・食料等災害用備蓄の充実」。

第3章 調査結果の分析

大地震の防災対策として力を入れてほしいことは、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」(54.5%)、「ライフラインやエネルギーの確保」(54.4%)、「水・食料の備蓄の充実」(53.9%)の3項目が、いずれも5割を超えてとくに高くなっている。

経年でみると、上位3項目に回答が集中する傾向に大きな変化はみられない。

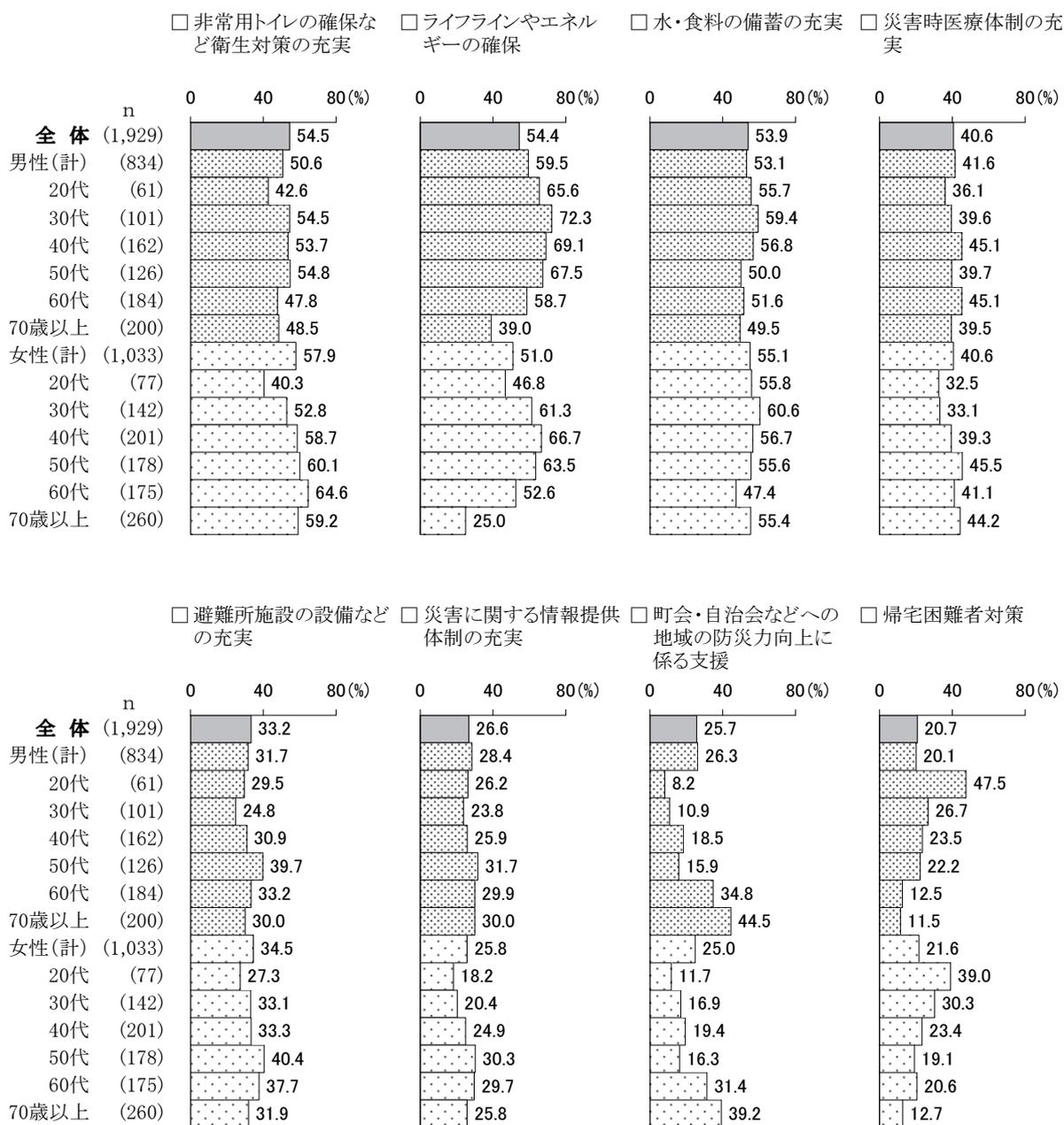
性別でみると、男性では「ライフラインやエネルギーの確保」が59.5%と、女性（51.0%）より高くなっている。一方、女性では「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」が57.9%と、男性（50.6%）を上回っている。

性・年代別でみると、男性では、「非常用トイレの確保などの衛生対策の充実」について、30代から50代で、いずれも5割を超えている。「ライフラインやエネルギーの確保」については、30代から50代で7割前後と高くなっている。

女性では、「非常用トイレの確保などの衛生対策の充実」について、40代から70歳以上で、6割前後と、他の年代より高くなっている。「ライフラインやエネルギーの確保」については、30代から50代で6割を超えている。

図2-8-2 性別、性・年代別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

／上位8項目

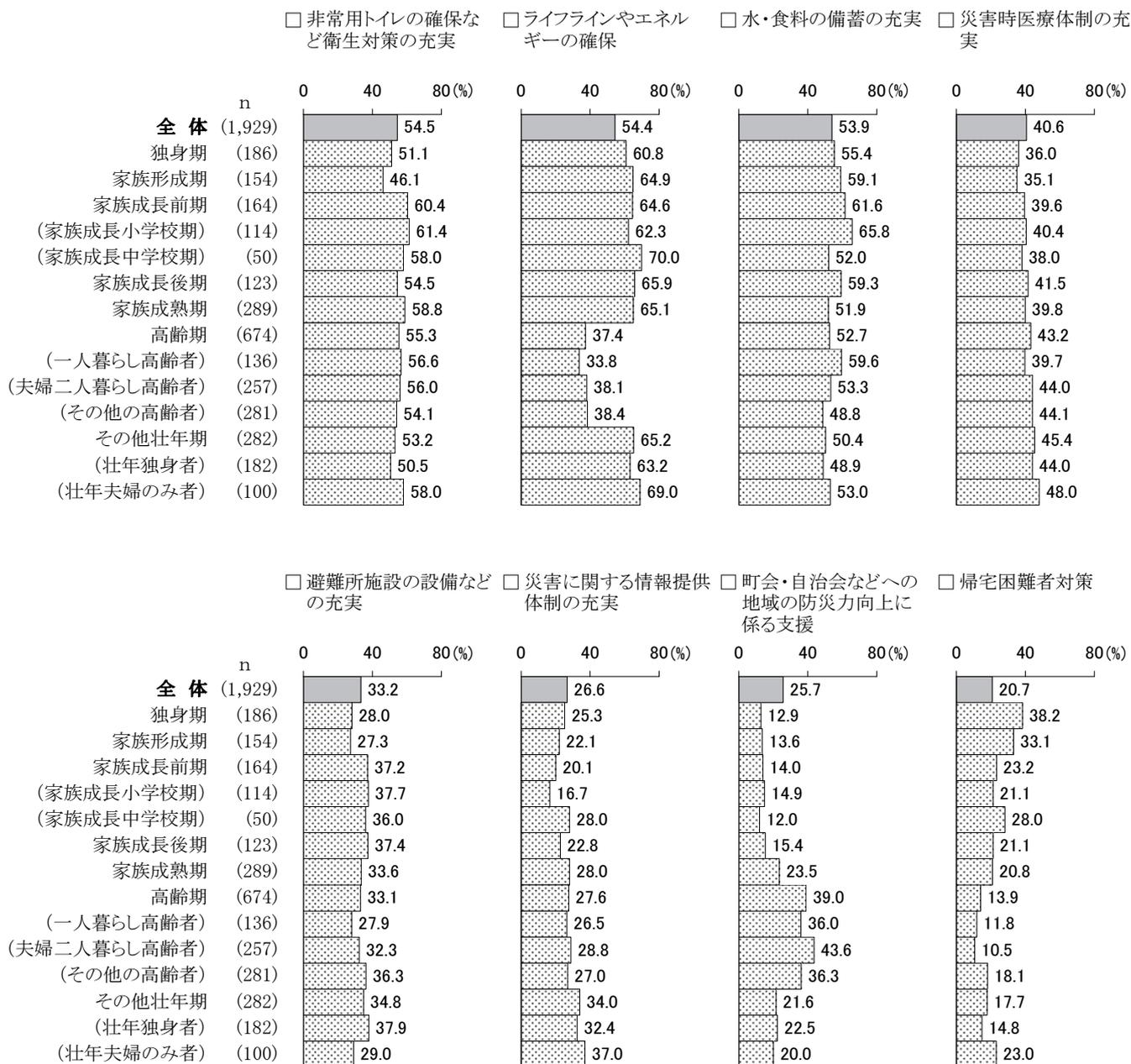


第3章 調査結果の分析

ライフステージ別で見ると、「ライフラインやエネルギーの確保」については、高齢期を除く、各ステージで6割を超えている。また、「水・食料の備蓄の充実」が、家族形成期、家族成長前期、家族成長後期では、いずれも6割前後と高くなっている。

図2-8-3 ライフステージ別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

／上位8項目



3 洪水対策

-
- (1) 「足立区洪水ハザードマップ」の認知
 - (2) 河川はん濫による浸水被害の際の対処
 - (3) 荒川がはん濫した際の最初の避難先
-

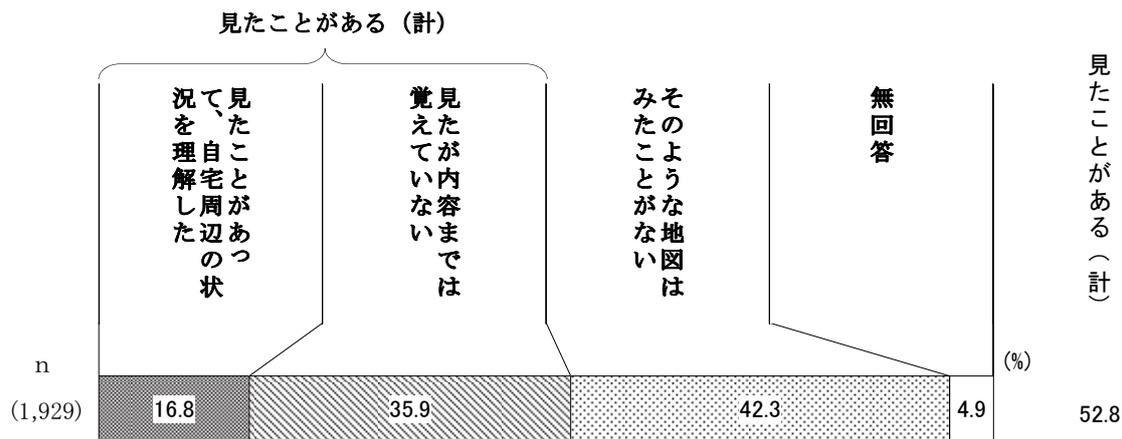
3. 洪水対策

(1) 「足立区洪水ハザードマップ」の認知

■ 【見たことがある】は5割強

問10 あなたは、足立区が発行（区のホームページにも掲載）している「足立区洪水ハザードマップ」をご覧になったことがありますか（○は1つだけ）。

図3-1-1 「足立区洪水ハザードマップ」の認知

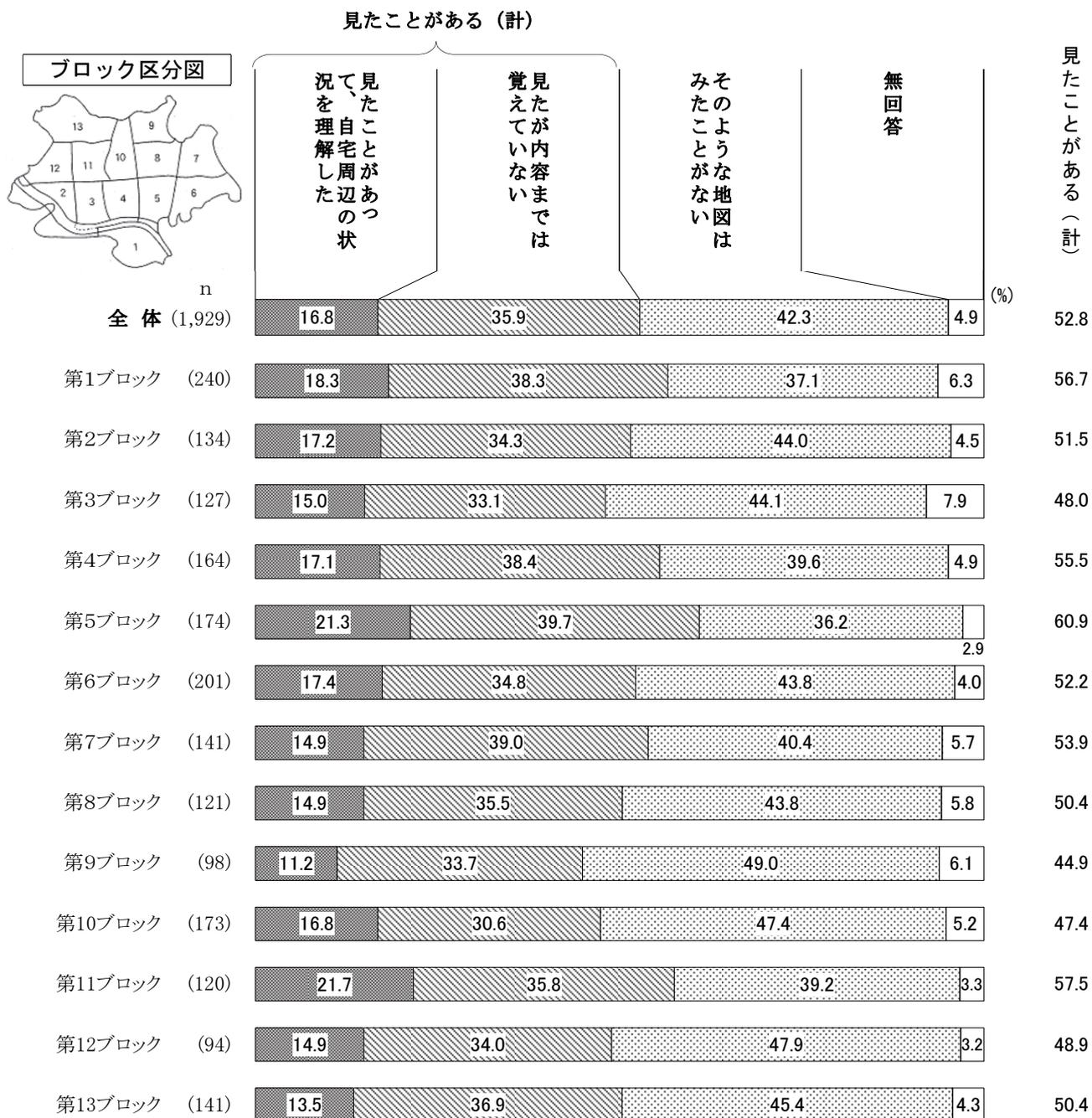


『足立区洪水ハザードマップ』を「見たことがあって、自宅周辺の状況を理解した」が16.8%で、これに「見たが内容までは覚えていない」（35.9%）を合わせた【見たことがある】は52.8%を占めている。一方、「そのような地図は見たことがない」は42.3%となっている。

第3章 調査結果の分析

地域ブロック別でみると、第5ブロックで【見たことがある】が60.9%と最も高く、これに第11ブロックが57.5%で次いでいる。

図3-1-2 地域ブロック別／「足立区洪水ハザードマップ」の認知

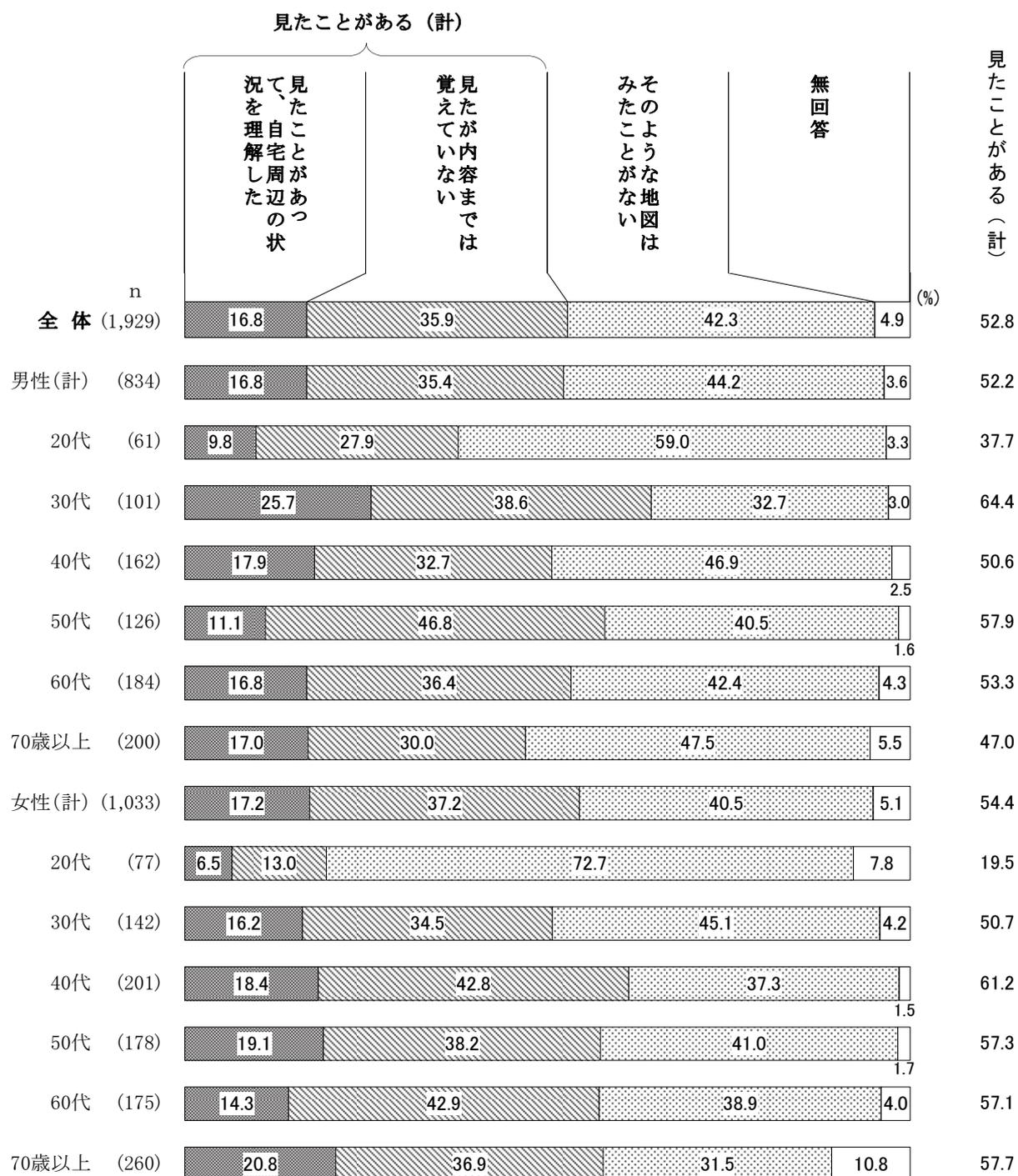


性別でみると、【見たことがある】についてほとんど男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性では、30代で【見たことがある】が64.4%と、他の年代より高くなっている。

女性では、40代から70歳以上で【見たことがある】が6割前後を占めている。

図3-1-3 性別、性・年代別／「足立区洪水ハザードマップ」の認知

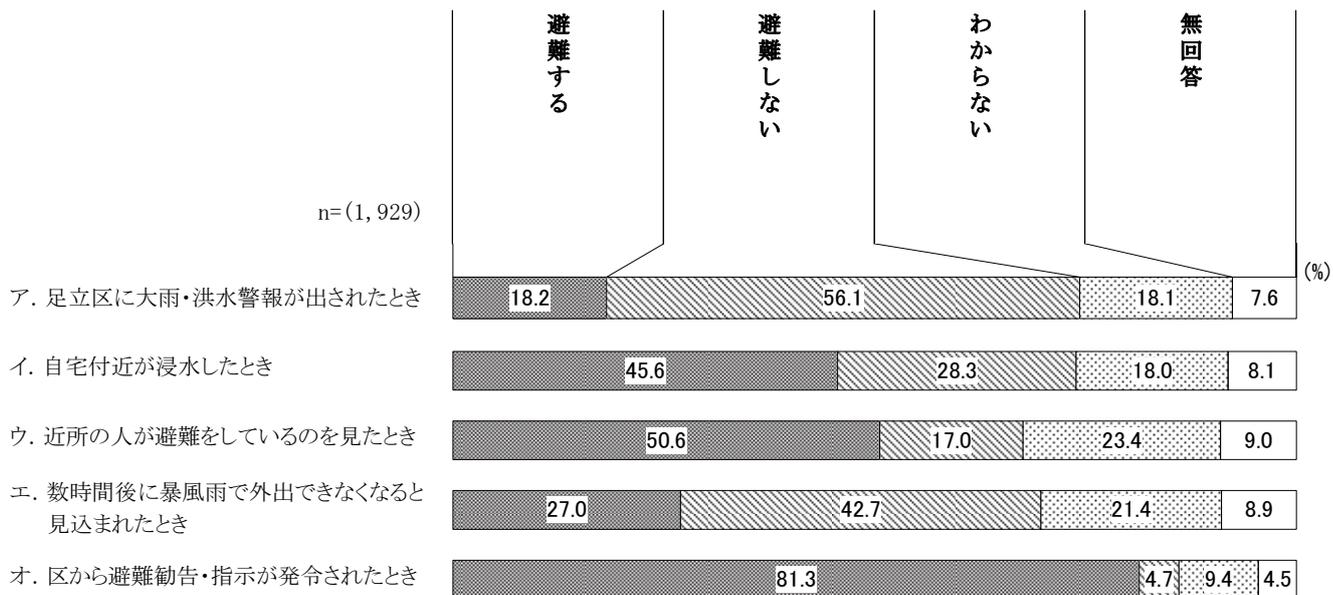


(2) 河川はん濫による浸水被害の際の対処

■ 〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉は「避難する」が8割を超える

問11 河川がはん濫して、数メートルの浸水被害になるような大洪水が迫っていると仮定した場合、以下のア～オまでの情報を知ったとき、あなたは自宅から避難しますか（○はそれぞれ1つつ）。

図3-2-1 河川はん濫による浸水被害の際の対処



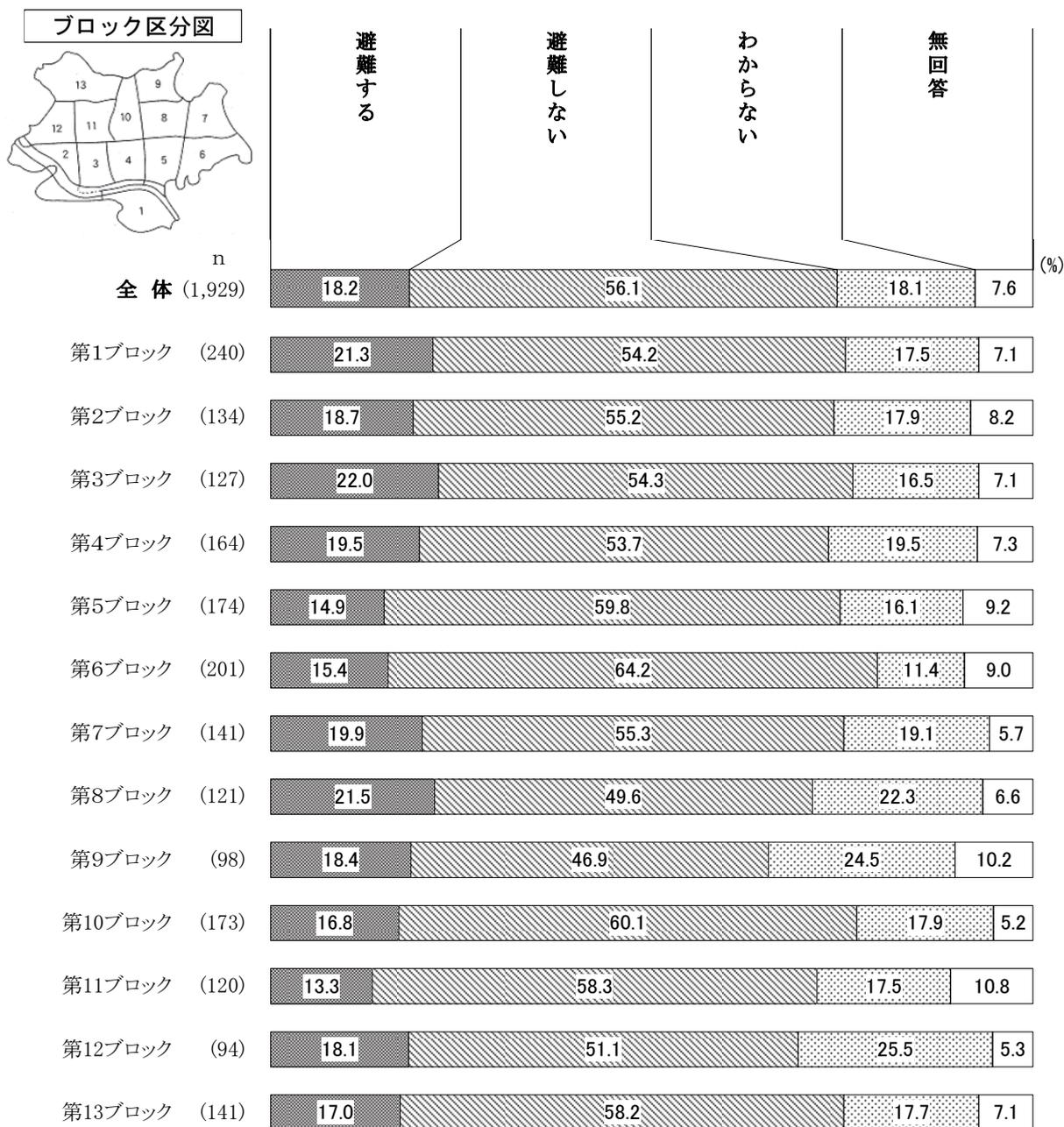
河川がはん濫して、数メートルの浸水被害になるような大洪水が迫っていると仮定した場合、どのような情報を知って避難するかを聞いた。

「避難する」が高い順にみると、〈区から避難勧告・指示が出されたとき〉が81.3%で最も高く、以下〈近所の人が避難しているのを見たとき〉（50.6%）、〈自宅付近が浸水したとき〉（45.6%）の順で続いている。

〈足立区に大雨洪水警報が出たとき〉について、ブロック別で見ると、第6ブロックでは、「避難しない」が64.2%と高くなっているほか、第5ブロック、第10ブロック、第11ブロック、第13ブロックでも6割前後となっている。

図3-2-2-① 地域ブロック別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

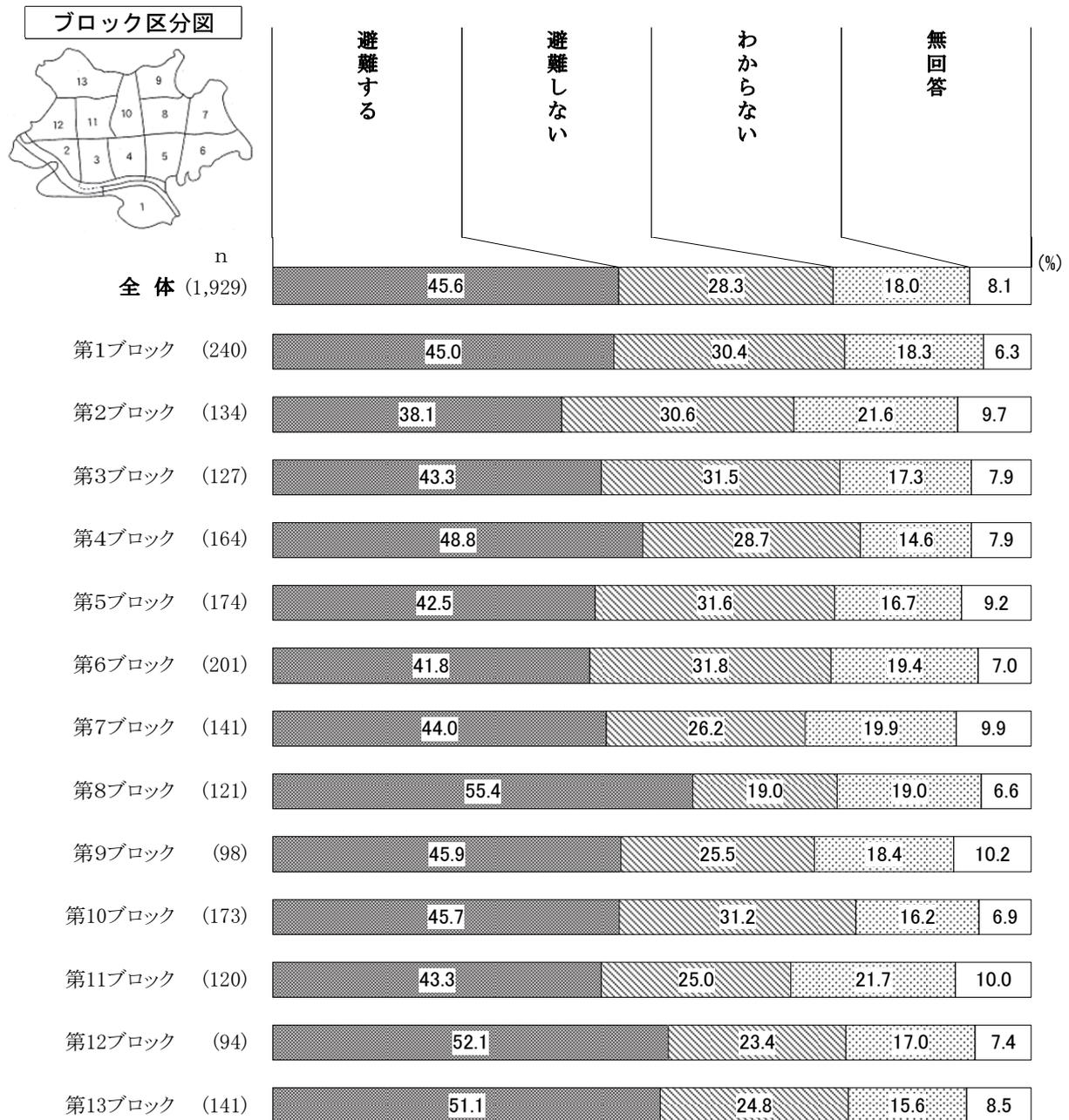
／足立区に大雨洪水警報が出たとき



第3章 調査結果の分析

〈自宅付近が浸水したとき〉について、ブロック別でみると、第8ブロック、第12ブロック、第13ブロックでは「避難する」が5割を超え、他のブロックより高くなっている。

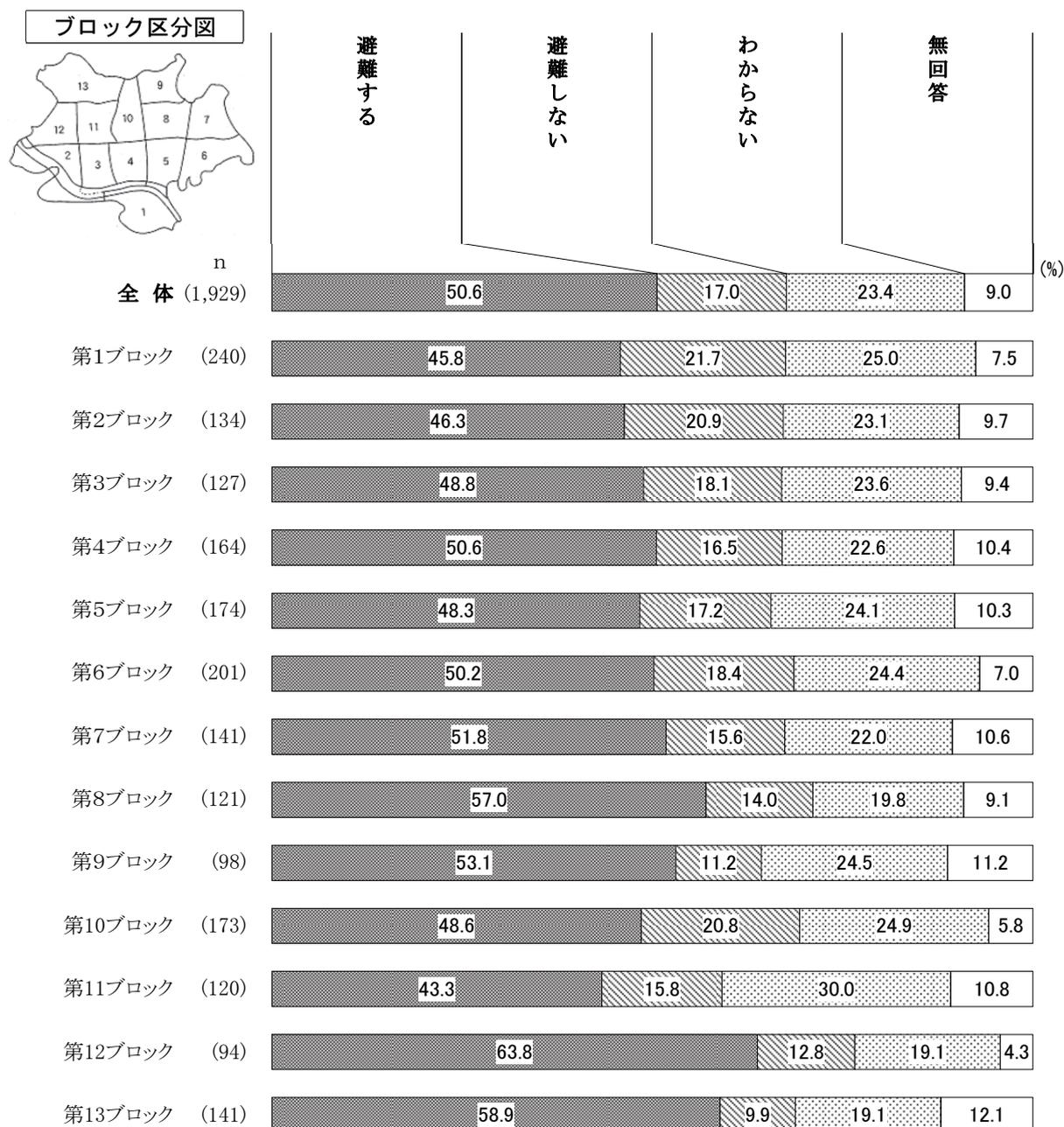
図3-2-2-② 地域ブロック別／河川はん濫による浸水被害の際の対処／自宅付近が浸水したとき



〈近所の人が避難しているのを見たとき〉について、ブロック別でみると、第12ブロックで「避難する」が63.8%と最も高くなっているほか、第8ブロック、第13ブロックでも6割近くを占めている。

図3-2-2-③ 地域ブロック別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

／近所の人が避難しているのを見たとき

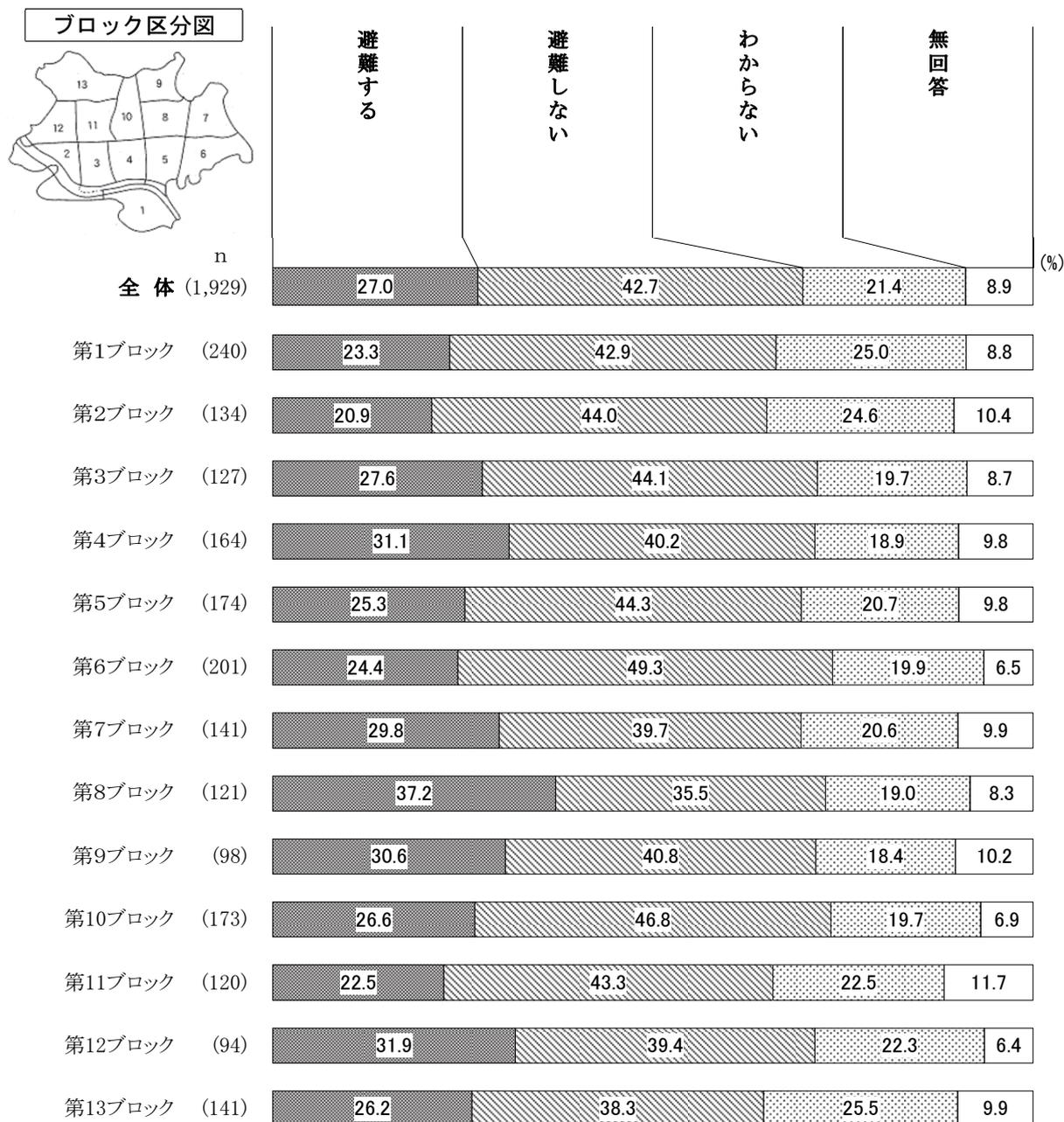


第3章 調査結果の分析

〈数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき〉については、第8ブロックで「避難する」が37.2%と最も高くなっているほか、第4ブロック、第9ブロック、第12ブロックでも3割を超えている。

図3-2-2-④ 地域ブロック別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

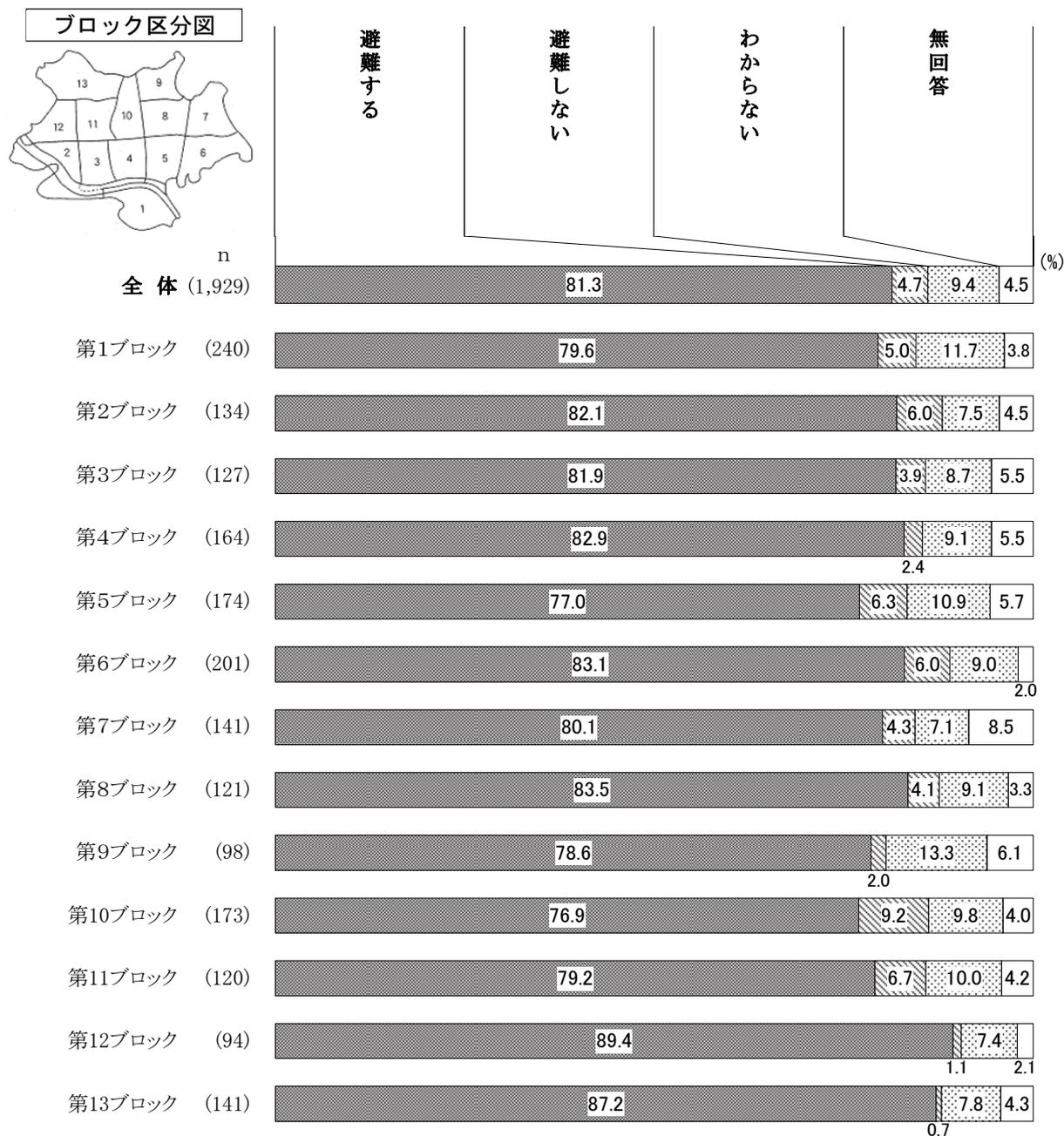
／数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき



〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉について、ブロック別で見ると、第12ブロック、第13ブロックでは、「避難する」が、それぞれ89.4%、87.2%と9割近くを占めている。

図3-2-2-⑤ 地域ブロック別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

／区から避難勧告・指示が発令されたとき

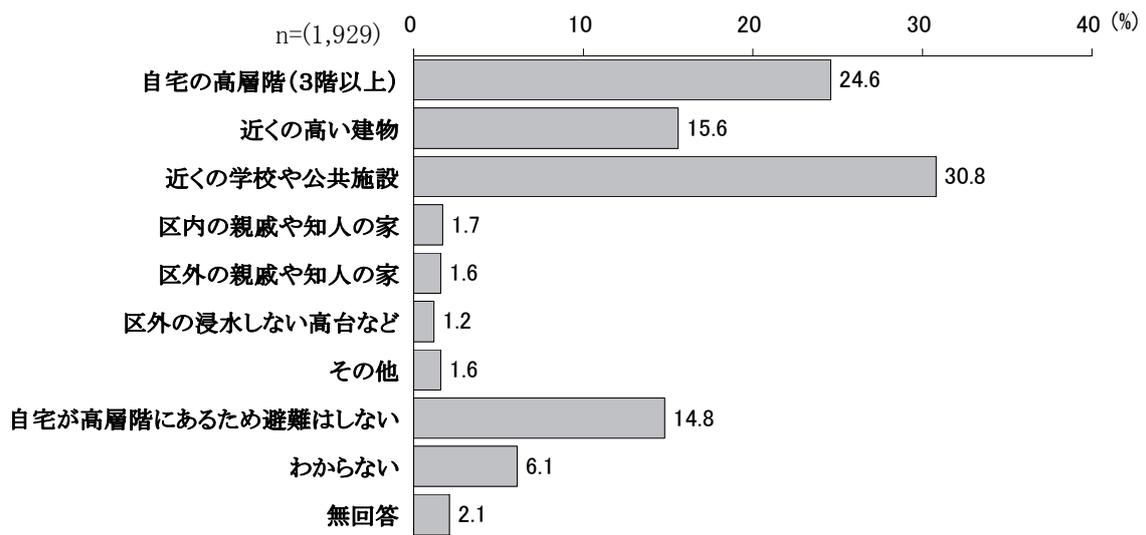


(3) 荒川がはん濫した際の最初の避難先

■ 「近くの学校や公共施設」が3割を超えて最多

問12 荒川がはん濫すると、最悪2階建ての建物の屋根まで浸水（5.0m以上）すると想定されます。そのとき、あなたは最初にどこに避難しようと思いますか（○は1つだけ）。

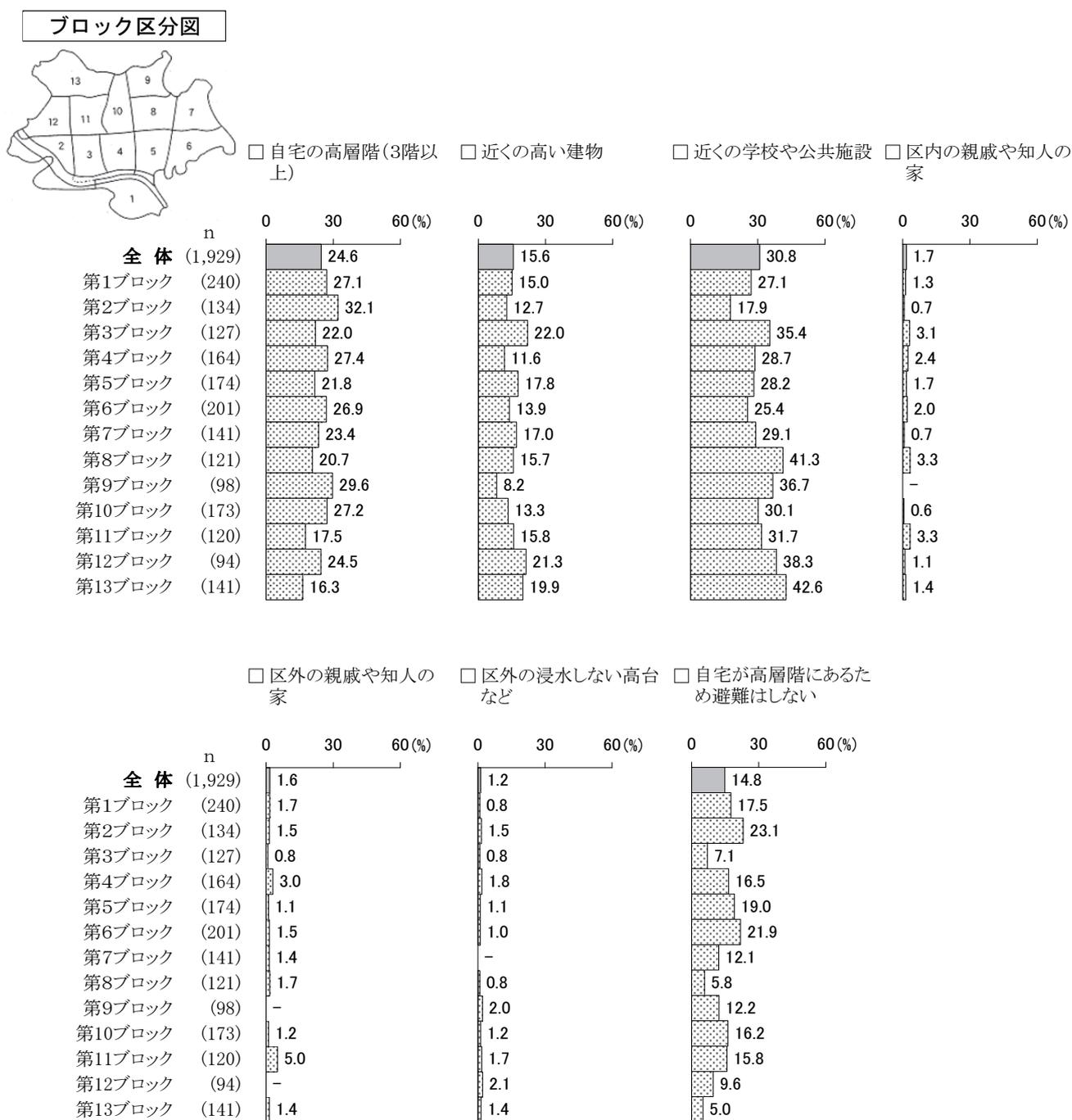
図3-3-1 荒川がはん濫した際の最初の避難先



荒川がはん濫したときの最初の避難先としては、「近くの学校や公共施設」が30.8%で最も高く、以下「自宅の高層階（3階以上）」（24.6%）、「近くの高い建物」（15.6%）の順で続いている。

ブロック別でみると、「近くの学校や公共施設」については、第8ブロック、第12ブロック、第13ブロックで、いずれも4割前後を占めている。「自宅の高層階（3階以上）」は、第2ブロック、第9ブロックで3割前後となっている。また、「近くの高い建物」については、第3ブロック、第12ブロック、第13ブロックで2割前後を占め、他のブロックよりやや高くなっている。

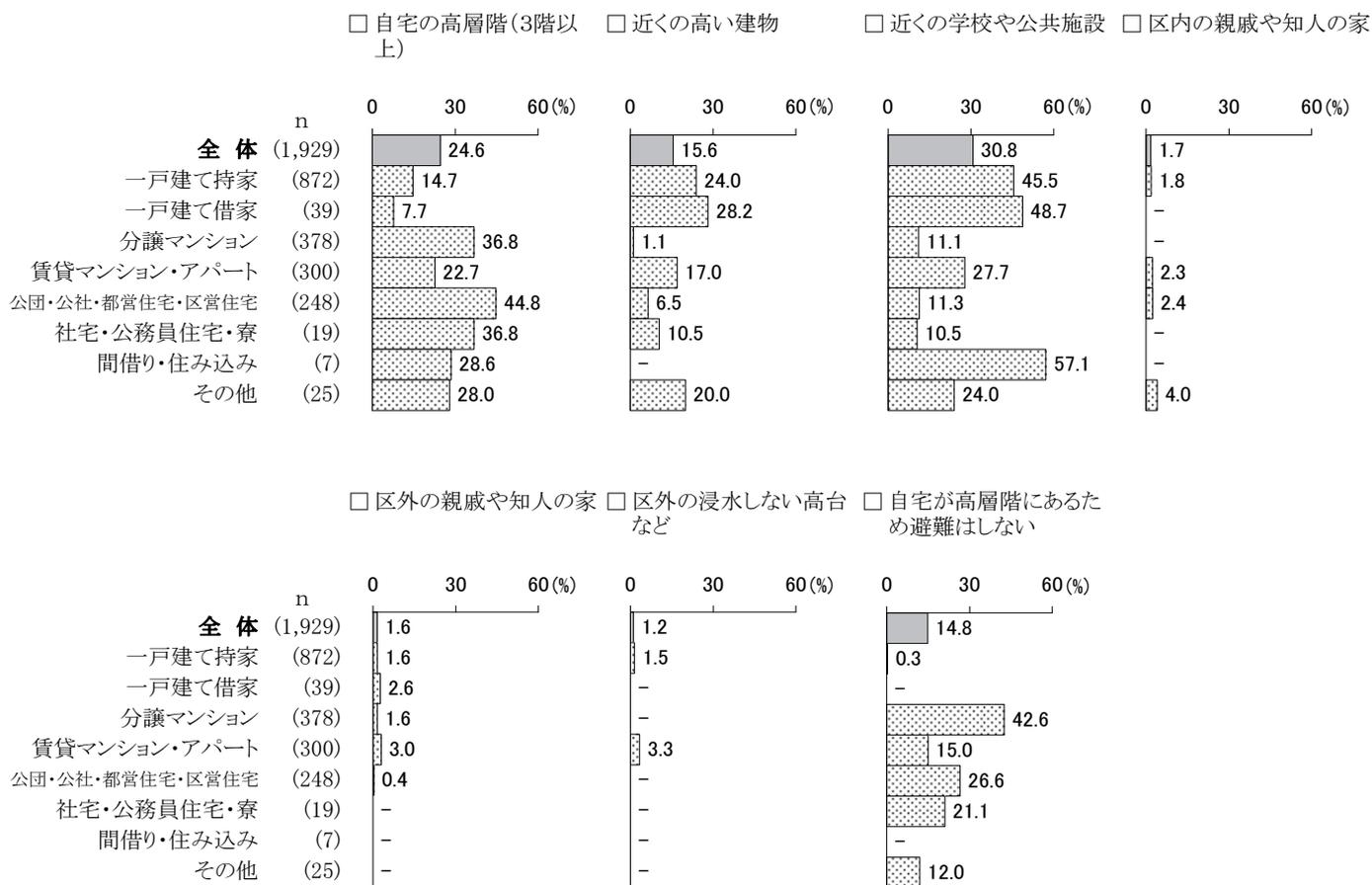
図3-3-2 地域ブロック別／荒川がはん濫した際の最初の避難先



第3章 調査結果の分析

住居形態別でみると、一戸建て持家、一戸建て借家、間借り・住み込みでは「近くの学校や公共施設」が、それぞれ45.5%、48.7%、57.1%と高くなっている。一方、公団・公社・都営住宅・区営住宅では「自宅の高層階（3階以上）」が44.8%を占めているほか、分譲マンション、社宅・公務員住宅・寮でも3割を超えている。

図3-3-3 住居形態別／荒川がはん濫した際の最初の避難先



4 区の情報発信のあり方

-
- (1) 区に関する情報の入手手段
 - (2) 区が発信する必要がある情報
 - (3) 必要な時に必要とする区の情報入手状況
 - (4) 区の情報得られない理由
 - (5) 区の情報得られない理由の詳細
 - (6) 「お問い合わせコールあだち」の利用状況
-

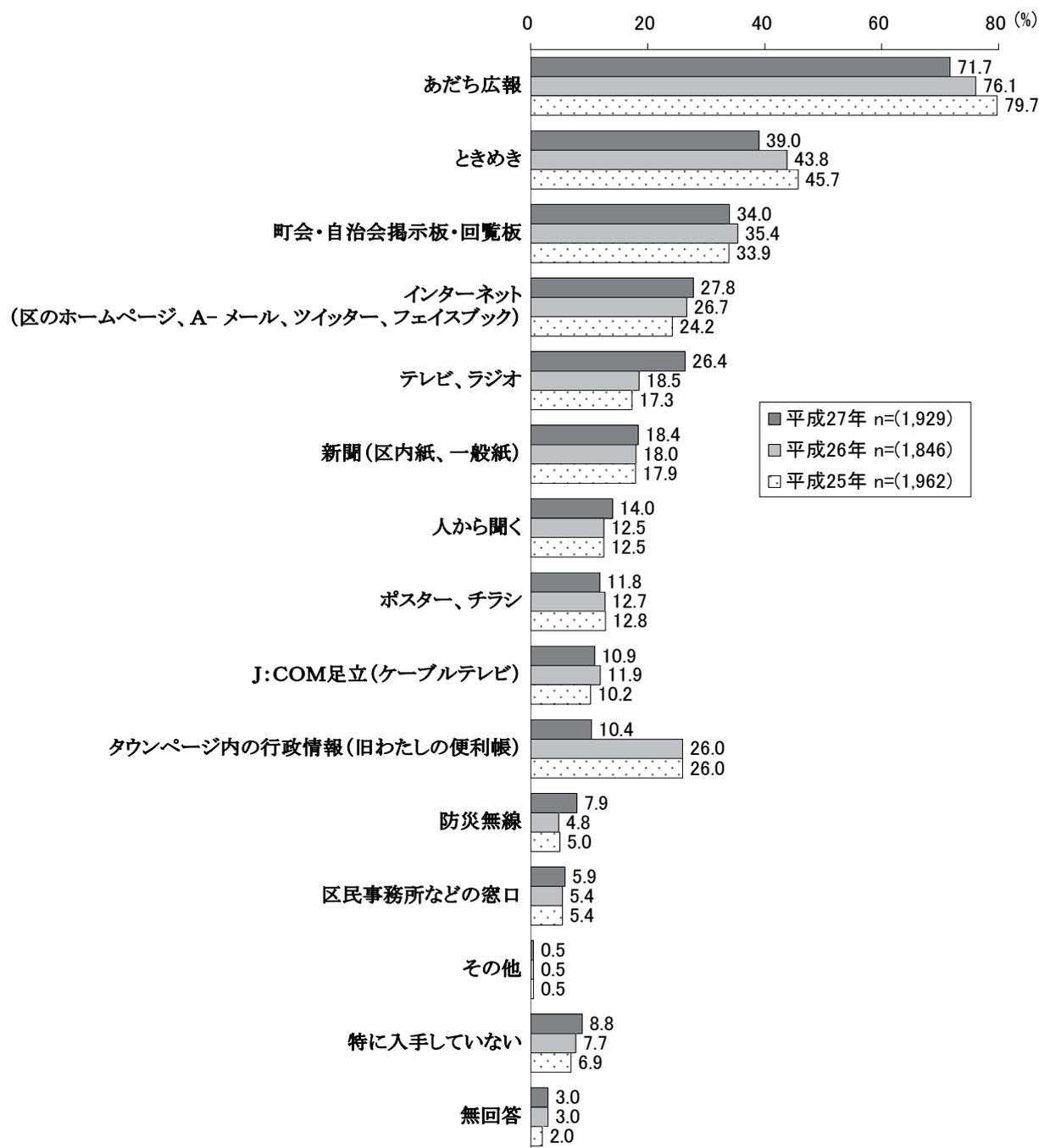
4. 区の情報発信のあり方

(1) 区に関する情報の入手手段

■ 「あだち広報」が7割強、「ときめき」が4割弱も、ともに減少傾向

問13 あなたは、足立区に関する情報をどのような手段で入手していますか（〇はあてはまるものすべて）。

図4-1-1 経年比較／区に関する情報の入手手段



※「タウンページ内の行政情報(旧わたしの便利帳)」は、26年度まで「あだちわたしの便利帳」。

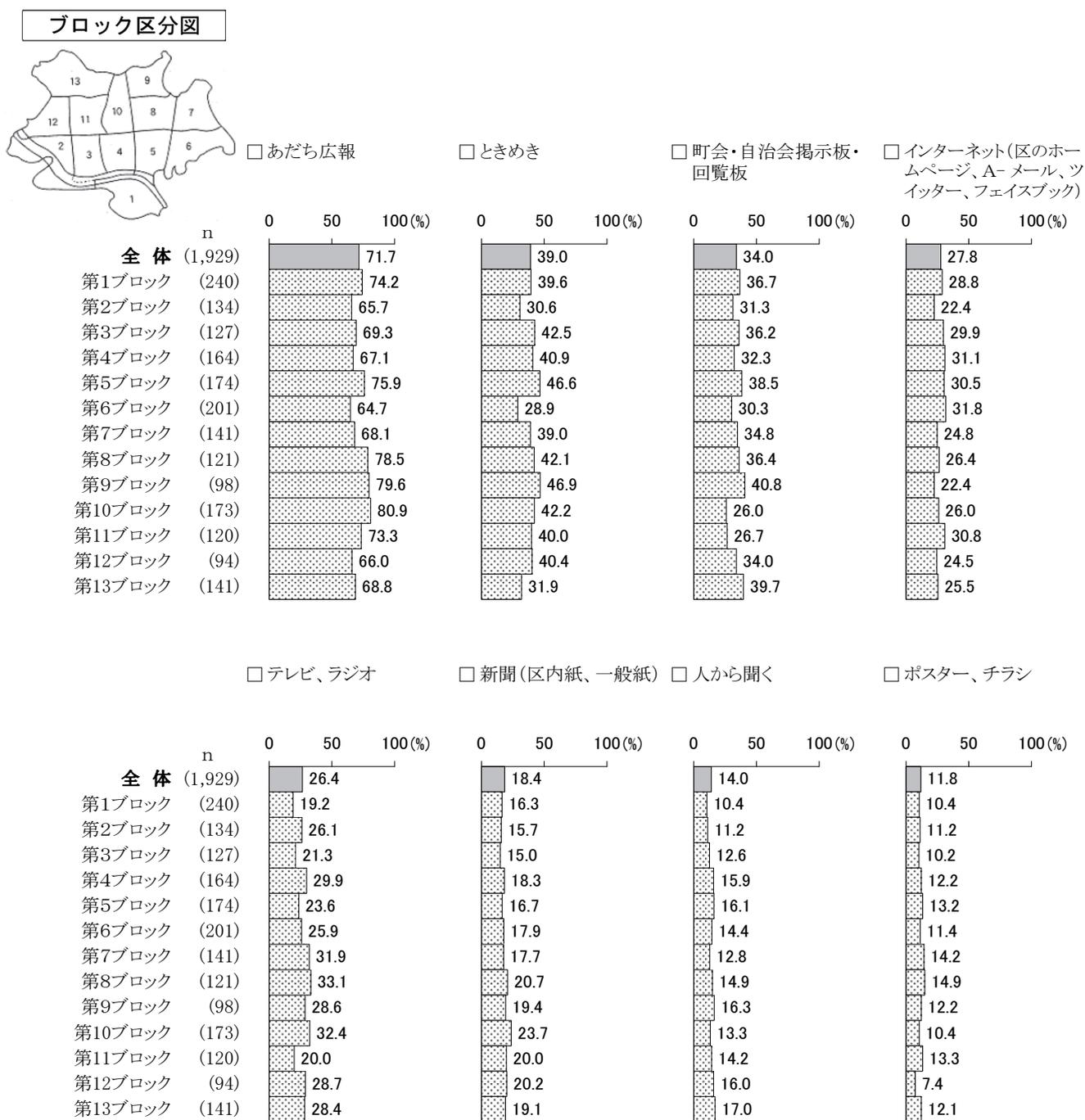
第3章 調査結果の分析

足立区に関する情報の入手媒体としては、「あだち広報」が71.7%で最も高く、以下「ときめき」（39.0%）、「町会・自治会掲示板・回覧板」（34.0%）の順となっている。

経年でみると、「あだち広報」は、今回71.7%と、平成26年の76.1%から4.4ポイント減少している。

地域ブロック別でみると、すべてのブロックで「あだち広報」は高くなっている。また、「ときめき」については、第5ブロック、第9ブロックで、それぞれ46.6%、46.9%と、4割台半ばを超えている。「町会・自治会掲示板・回覧板」は、第5ブロック、第9ブロック、第13ブロックで、4割前後を占め、他のブロックよりやや高くなっている。

図4-1-2 地域ブロック別／区に関する情報の入手手段／上位8項目



第3章 調査結果の分析

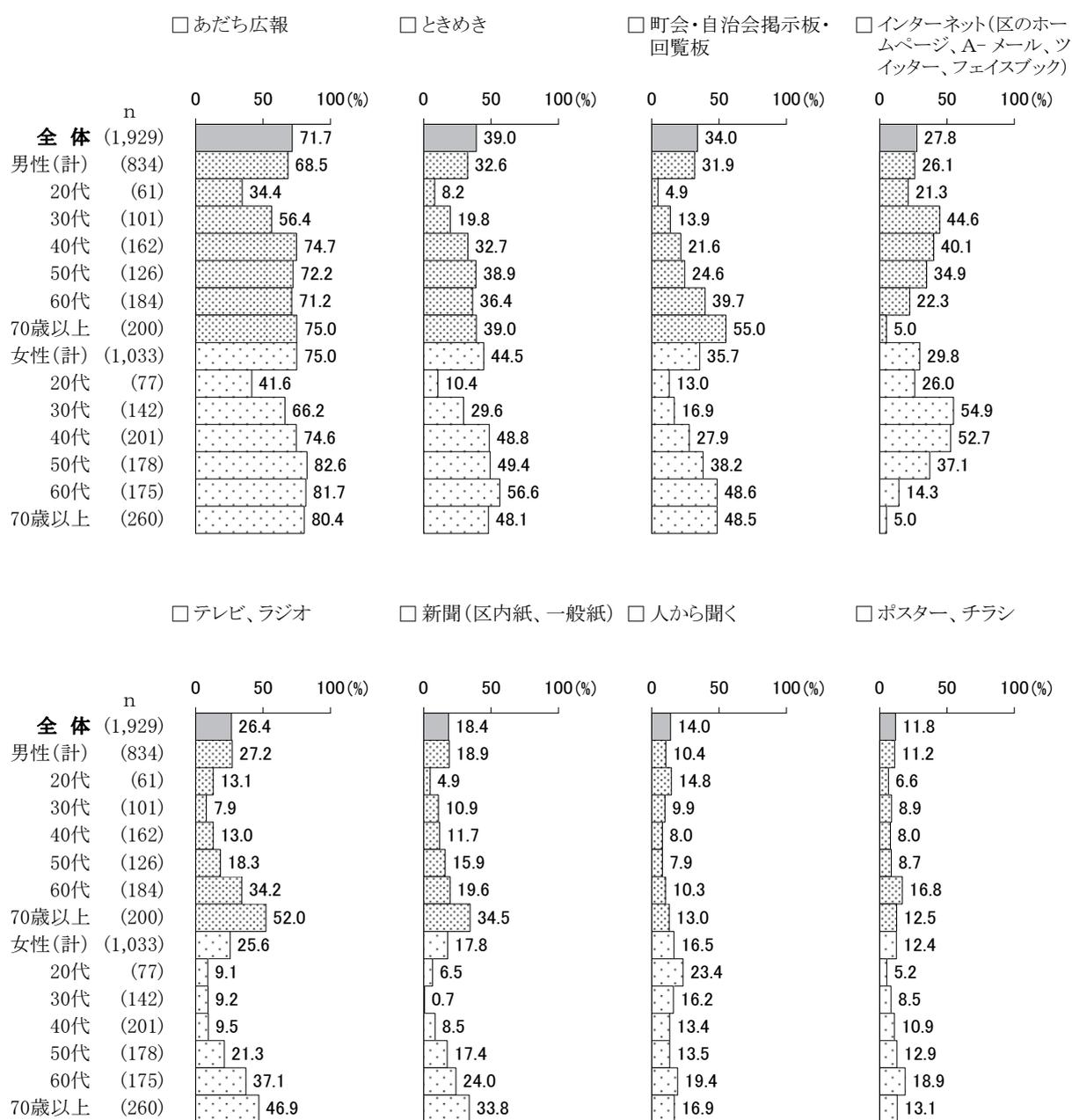
性別でみると、「あだち広報」は、男性68.5%、女性75.0%、「ときめき」は男性32.6%、女性44.5%と、いずれも男性より女性が高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、40代から70歳以上で「あだち広報」が、いずれも7割を超えている。また、「ときめき」についても、この年代では3割を超えている。

女性の場合、「あだち広報」は加齢とともに増加し、「ときめき」についても60代までは増加傾向を示している。

また、「インターネット」については、男性の30代から40代で4割以上、女性の30代から40代で5割以上と、他の年代より高くなっている。

図4-1-3 性別、性・年代別／区に関する情報の入手手段／上位8項目

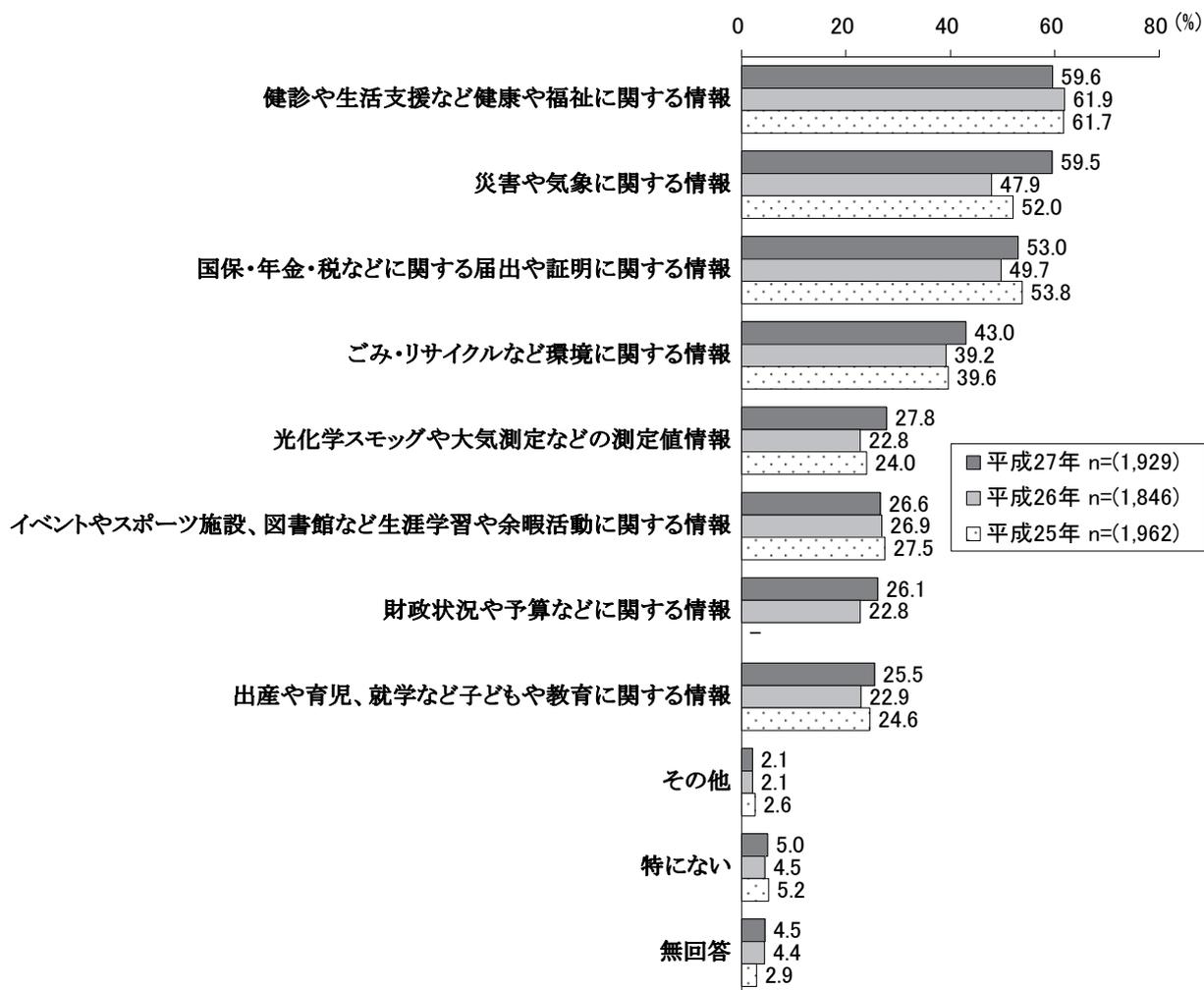


(2) 区が発信する必要がある情報

■ “健康や福祉” “災害や気象” が約6割

問14 あなたは、区が発信するどのような情報が必要だと思いますか（〇はあてはまるものすべて）。

図4-2-1 経年比較／区が発信する必要がある情報



※「財政状況や予算などに関する情報」は、26年度新設。

必要とする区の情報としては、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」が59.6%で最も高く、以下「災害や気象に関する情報」（59.5%）「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」（53.0%）の順が続いている。

経年でみると、「災害や気象に関する情報」は、今回59.5%と、平成26年の47.9%から11.6ポイント上昇している。

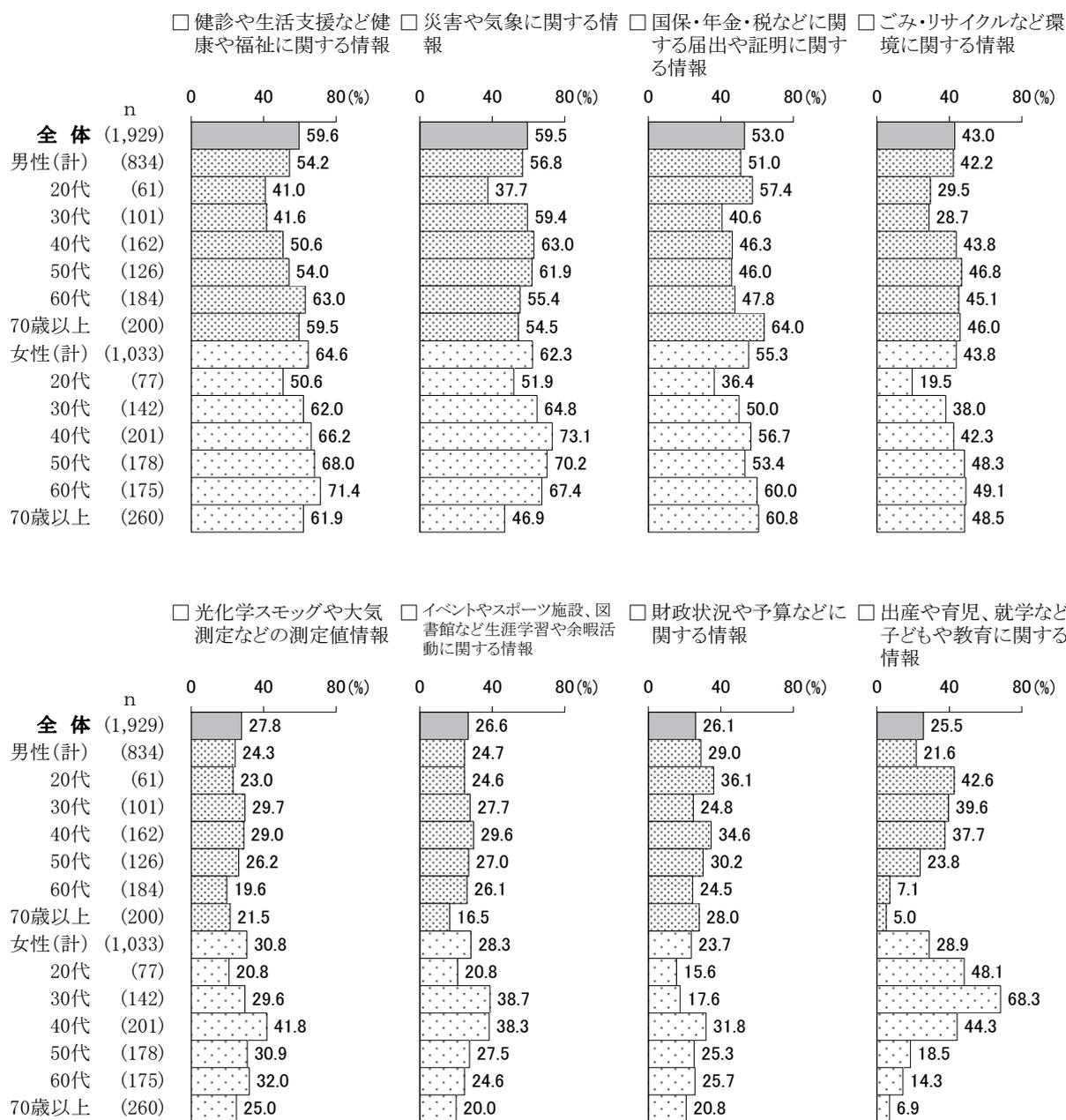
第3章 調査結果の分析

性別でみると、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」は男性54.2%、女性64.6%と男性より女性が高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」が、60代まで増加傾向を示し、60代では63.0%となっている。また、30代から50代では「災害や気象に関する情報」が6割前後と、他の年代より高くなっている。

女性では、40代、50代で「災害や気象に関する情報」が、それぞれ73.1%、70.2%と7割を超えている。また、「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」については、60代、70歳以上で、それぞれ60.0%、60.8%と6割を超えている。

図4-2-2 性別、性・年代別／区が発信する必要がある情報

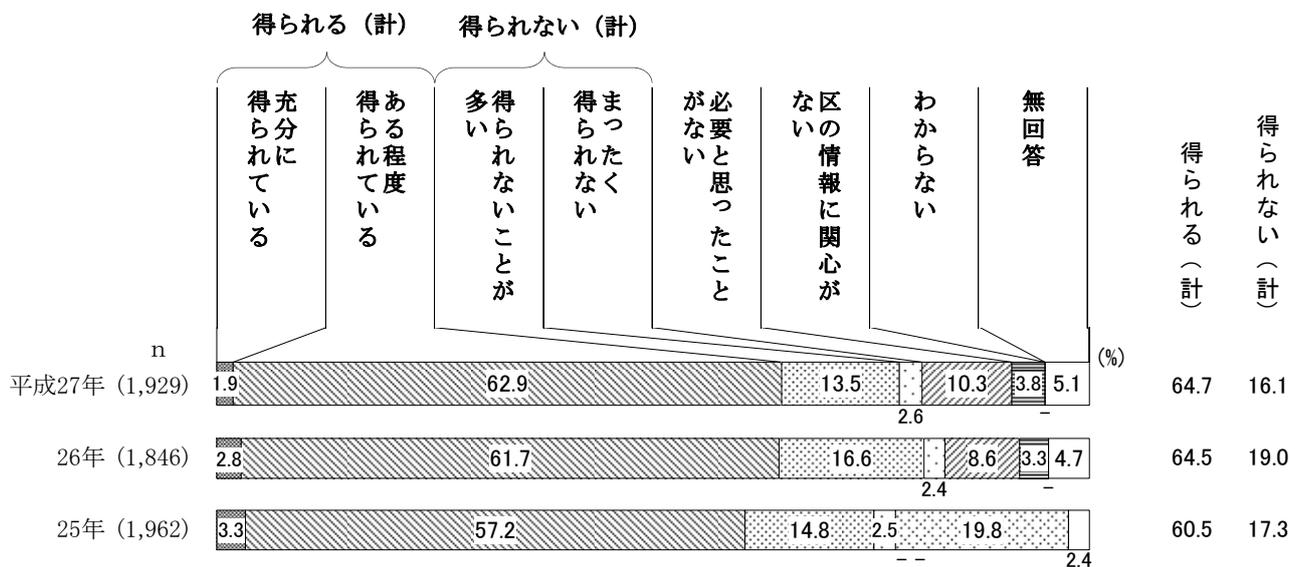


(3) 必要な時に必要とする区の情報の入手状況

■ 必要な時に【得られる】が6割台半ば

問15 あなたは、必要な時に必要とする区の情報を得られていますか（○は1つだけ）。

図4-3-1 経年比較／必要な時に必要とする区の情報の入手状況



※「必要と思ったことがない」「区の情報に関心がない」は、26年度新設。

※「わからない」は、26年度削除。

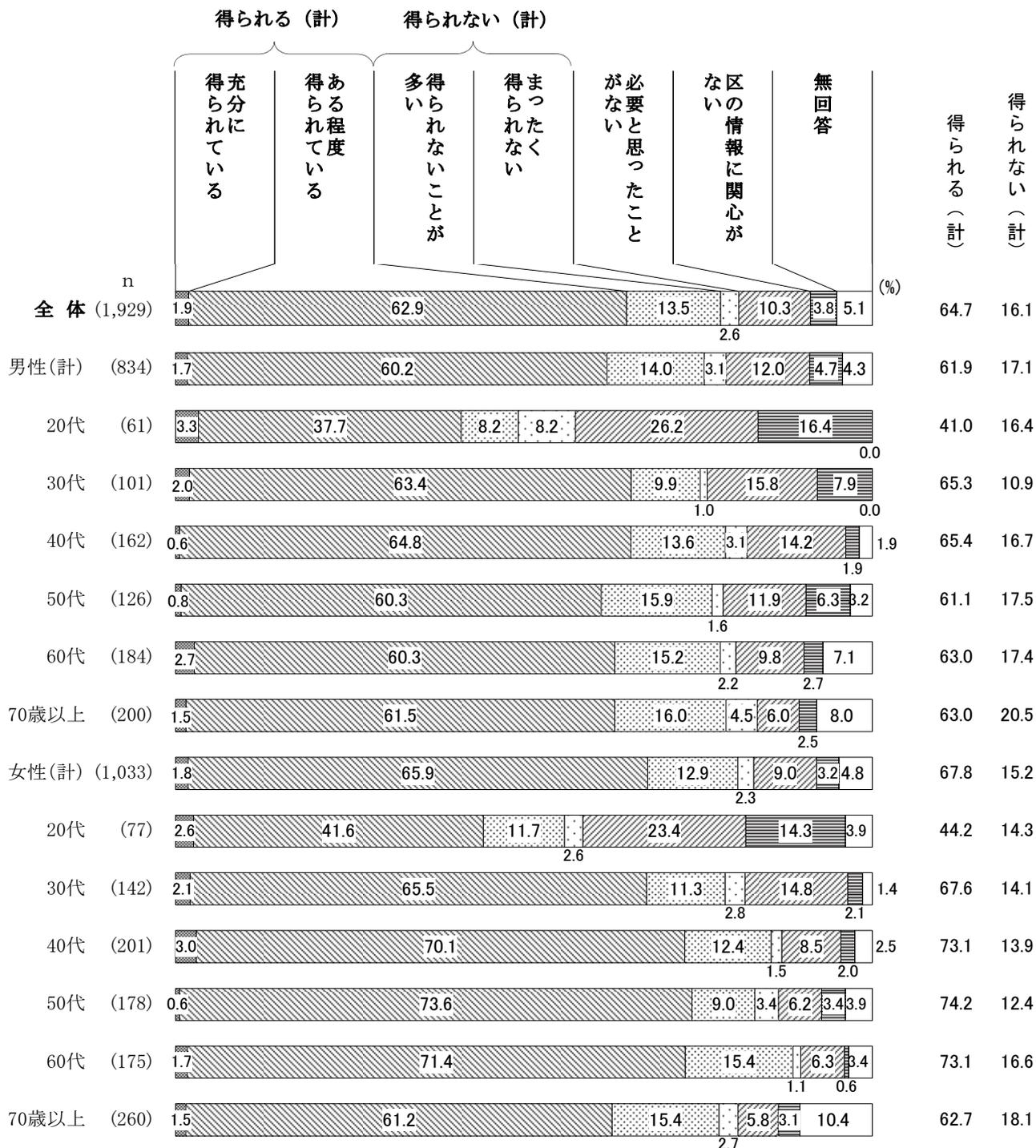
必要な時に必要とする情報を得られているかについては、「十分に得られている」が1.9%で、これに「ある程度得られている」の62.9%を合わせた【得られる】は64.7%となっている。一方、「得られないことが多い」は13.5%、「まったく得られない」は2.6%となっている。

経年でみると、【得られる】は平成26年64.5%、今回64.7%とほぼ横ばいとなっている。

第3章 調査結果の分析

性別でみると、【得られる】は男性61.9%、女性67.8%と、男性より女性が高くなっている。
 性・年代別でみると、男性では、20代を除く各年代で【得られる】が6割を超えている。
 女性では、40代から60代にかけて、【得られる】が7割を超えている。

図4-3-2 性別、性・年代別／必要な時に必要とする区の情報入手状況

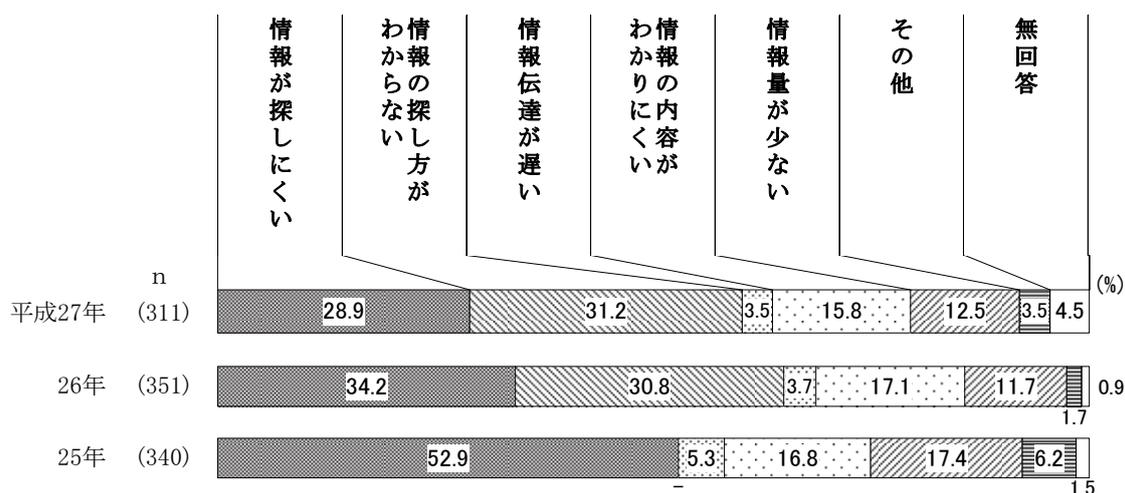


(4) 区の情報得られない理由

■ “探し方がわからない” “探しにくい” が3割前後

問15で「3. 得られないことが多い」、または「4. まったく得られない」とお答えの方に
 問15-1 どのような理由からですか（〇は1つだけ）。

図4-4-1 経年比較／区の情報得られない理由

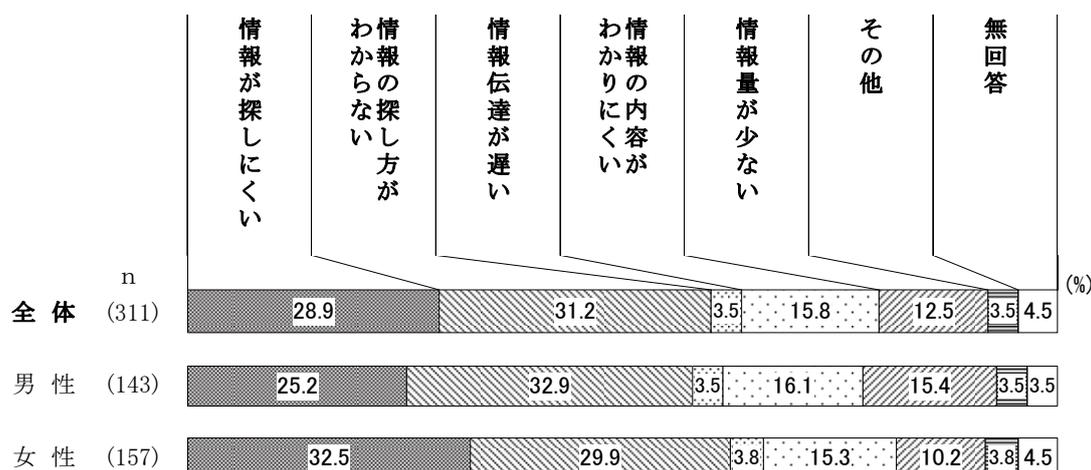


※「情報の探し方がわからない」は、26年度新設。

【得られない】という人に、その理由を聞いたところ、「情報の探し方がわからない」(31.2%)と「情報が探しにくい」(28.9%)の2項目が、いずれも3割前後占めて高くなっている。

性別でみると、「情報が探しにくい」は、男性25.2%、女性32.5%と、男性より女性が高くなっている。

図4-4-2 性別／区の情報得られない理由



(5) 区の情報得られない理由の詳細

問15で「3. 得られないことが多い」、または「4. まったく得られない」とお答えの方に
問15-2 問15-1の回答のように思われるのは、どうしてですか。理由をお書きください。

あだち広報 (94名、延べ101件の回答)	件数
読みづらい、わかりづらいから	29
よく読まない、読まないから	22
内容が少ない、薄いから	9
欲しい情報のタイミングが合わないから	6
いつ配布されたのか、わからないから	6
関心がないから	5
掲載場所とは関係がないから	4
回数が少ないから	4
時間がないから	3
その他	13

区ホームページ (87名、延べ90件の回答)	件数
探しにくい、わかりづらいから	25
パソコンを使わない、使えないから	22
見ない、あまり見ないから	12
インターネットネットを使用できる環境がないから	10
インターネットネットでは調べないから	5
その他	16

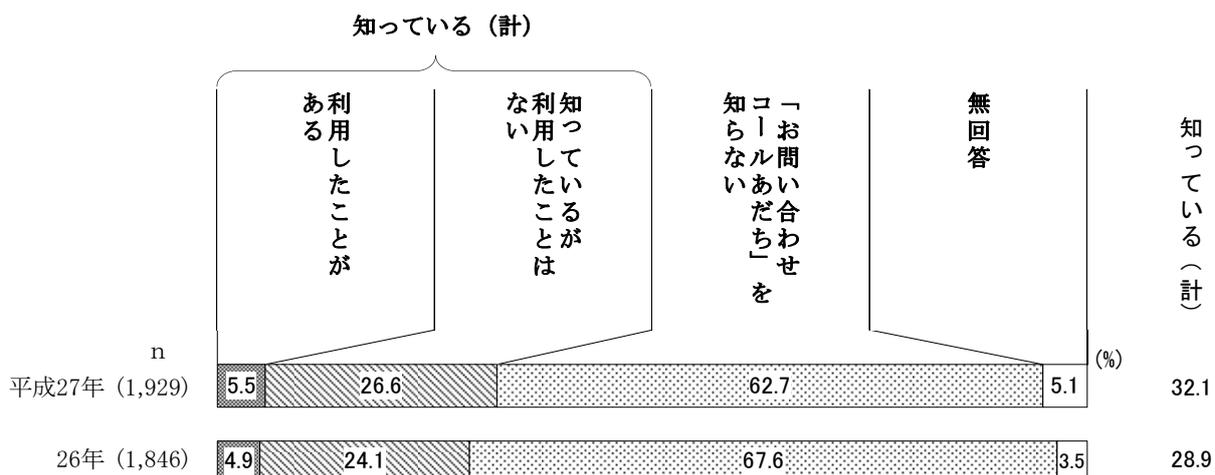
その他 (41名、延べ42件の回答)	件数
防災無線が聞き取りにくいから	6
よくわからないから	6
情報をみつけれられない、入手方法がわからないから	5
SNSやメールなどで発信してほしい	5
区の対応が充実してほしい	4
インターネットを使用できる環境がない、ないときがあるから	4
その他	12

(6)「お問い合わせコールあだち」の利用状況

■【知っている】が微増し、3割を超える

問16 あなたは、「お問い合わせコールあだち」を利用したことがありますか（○は1つだけ）。

図4-6-1 前回調査比較「お問い合わせコールあだち」の利用状況



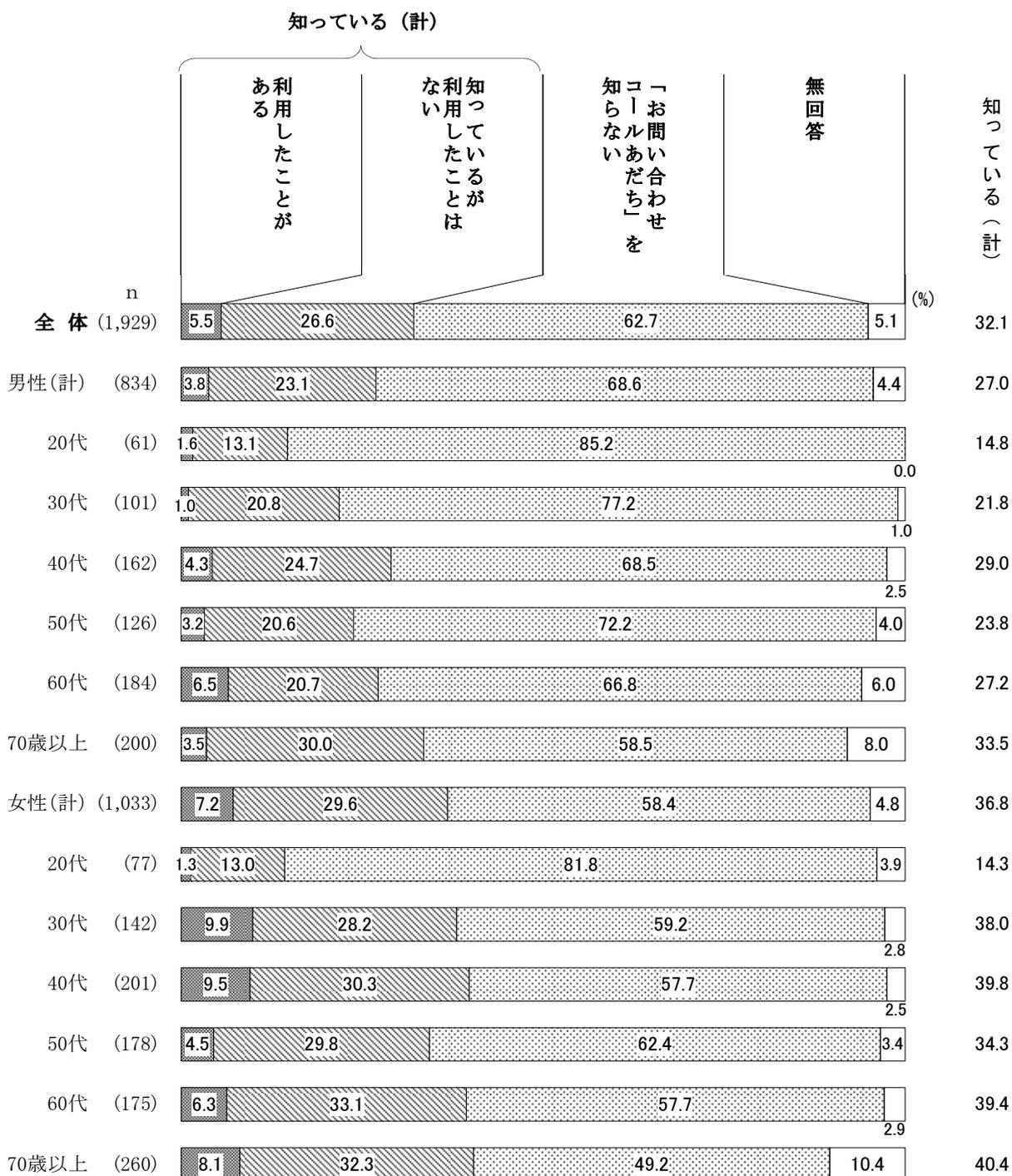
『お問い合わせコールあだち』について、「利用したことがある」は5.5%で、これに「知っているが利用したことはない」(26.6%)を合わせた【知っている】は32.1%となっている。一方、「『お問い合わせコールあだち』を知らない」は62.7%を占めている。

前回結果と比較すると、【知っている】は今回32.1%と、前回の28.9%から3.2ポイント増加している。

第3章 調査結果の分析

性別で見ると、女性では【知っている】が36.8%と、男性（27.0%）より高くなっている。
 性・年代別で見ると、男性では、40代、70歳以上で【知っている】が、それぞれ29.0%、
 33.5%と、他の年代よりやや高くなっている。
 女性では、30代から40代、60代から70歳以上で【知っている】が4割前後を占めている。

図4-6-2 性別、性・年代別／「お問い合わせコールあだち」の利用状況



5 健康

-
- (1) 糖尿病の認知状況
 - (2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識
 - (3) 食事の際に野菜から食べ始めることが、糖尿病予防に効果があることの認知
 - (4) 1日野菜350g以上の摂取
 - (5) 体調や習慣
 - (6) 健康維持のために実行している、心がけているもの
-

5. 健康

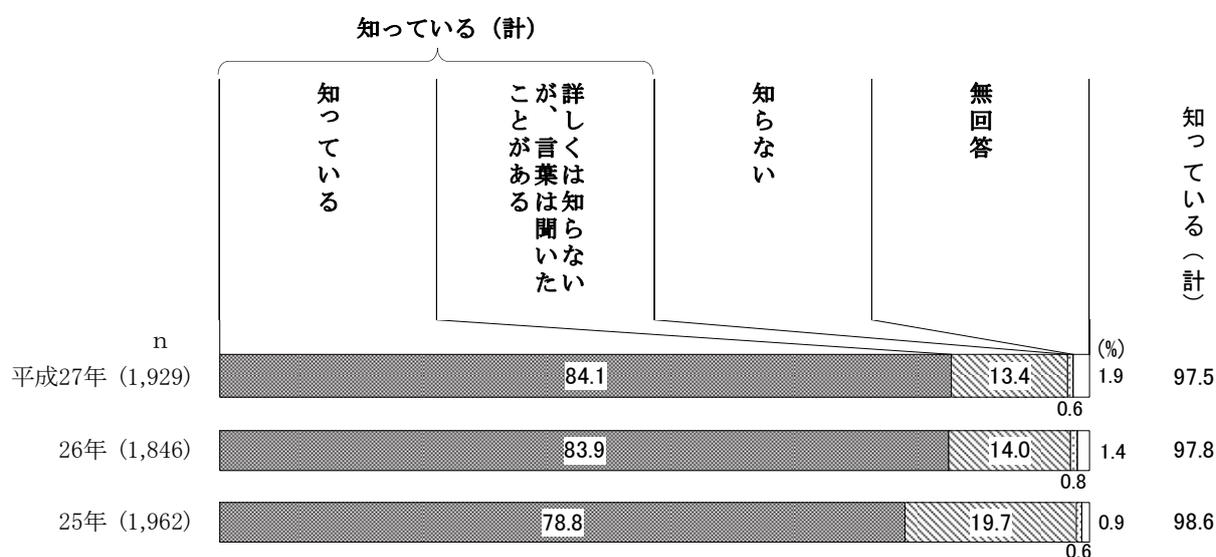
(1) 糖尿病の認知状況

■ ほぼ全員の方が糖尿病を認知している

問17 あなたは、糖尿病という病気を知っていますか（○は1つだけ）。

※ 糖尿病とは血液中のブドウ糖の濃度（血糖値）が高くなり、その状態が続いてしまう病気です。インスリンという血糖値を調節するホルモンの量が不足したり、働きが悪くなったりすることが原因です。日本人の糖尿病の大部分は、過食・肥満・運動不足・ストレスといった生活習慣や遺伝が要因となっているため、予防が大切です。

図5-1-1 経年比較／糖尿病の認知状況



糖尿病を「知っている」が84.1%で、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」の13.4%を合わせた【知っている】は97.5%となっている。

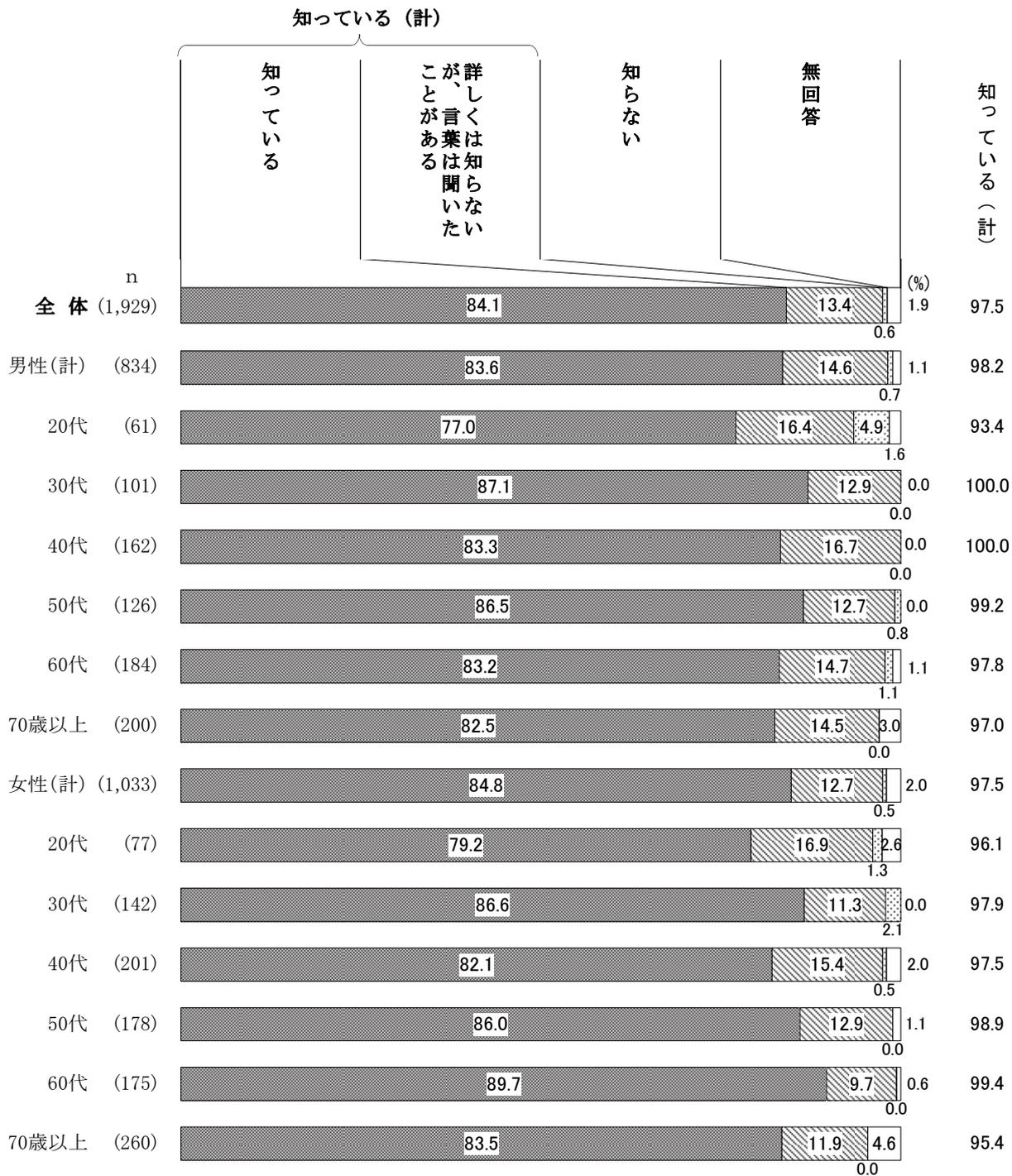
経年でみると、前回調査からは、ほぼ横ばいとなっている。

第3章 調査結果の分析

性別でみると、【知っている】は男性98.2%、女性97.5%と、ほとんど男女差はみられない。
 性・年代別でみると、男性では、20代で「知っている」が77.0%と、他の年代より低くなっている。

女性では、20代では「知っている」が79.2%であるが、30代以降は、いずれの年代でも8割を超えている。

図5-1-2 性別、性・年代別／糖尿病の認知状況

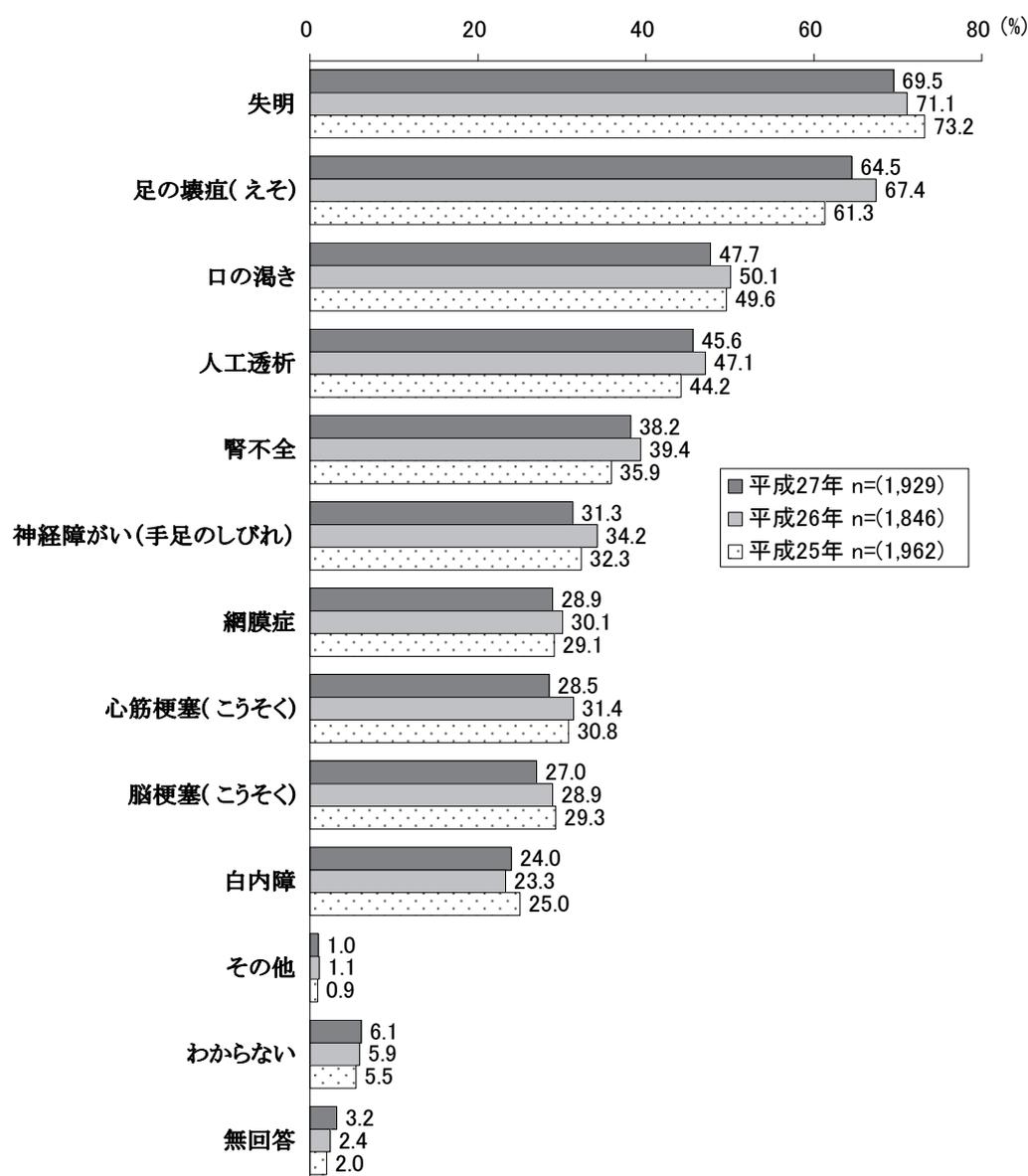


(2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識

■ 「失明」が約7割、「足の壊疽(えそ)」が6割台半ば

問18 以下の項目の中で、糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいであると、あなたが思うものはどれですか(○はあてはまるものすべて)。

図5-2-1 経年比較/糖尿病の進行による病気や障がいの認識



糖尿病が進行すると現れると思う病気や障がいとしては、「失明」が69.5%で最も高く、以下「足の壊疽(えそ)」(64.5%)、「口の渇き」(47.7%)、「人工透析」(45.6%)の順となっている。

経年でみると、数値は微減しているものの、上位項目に大きな変動はみられない。

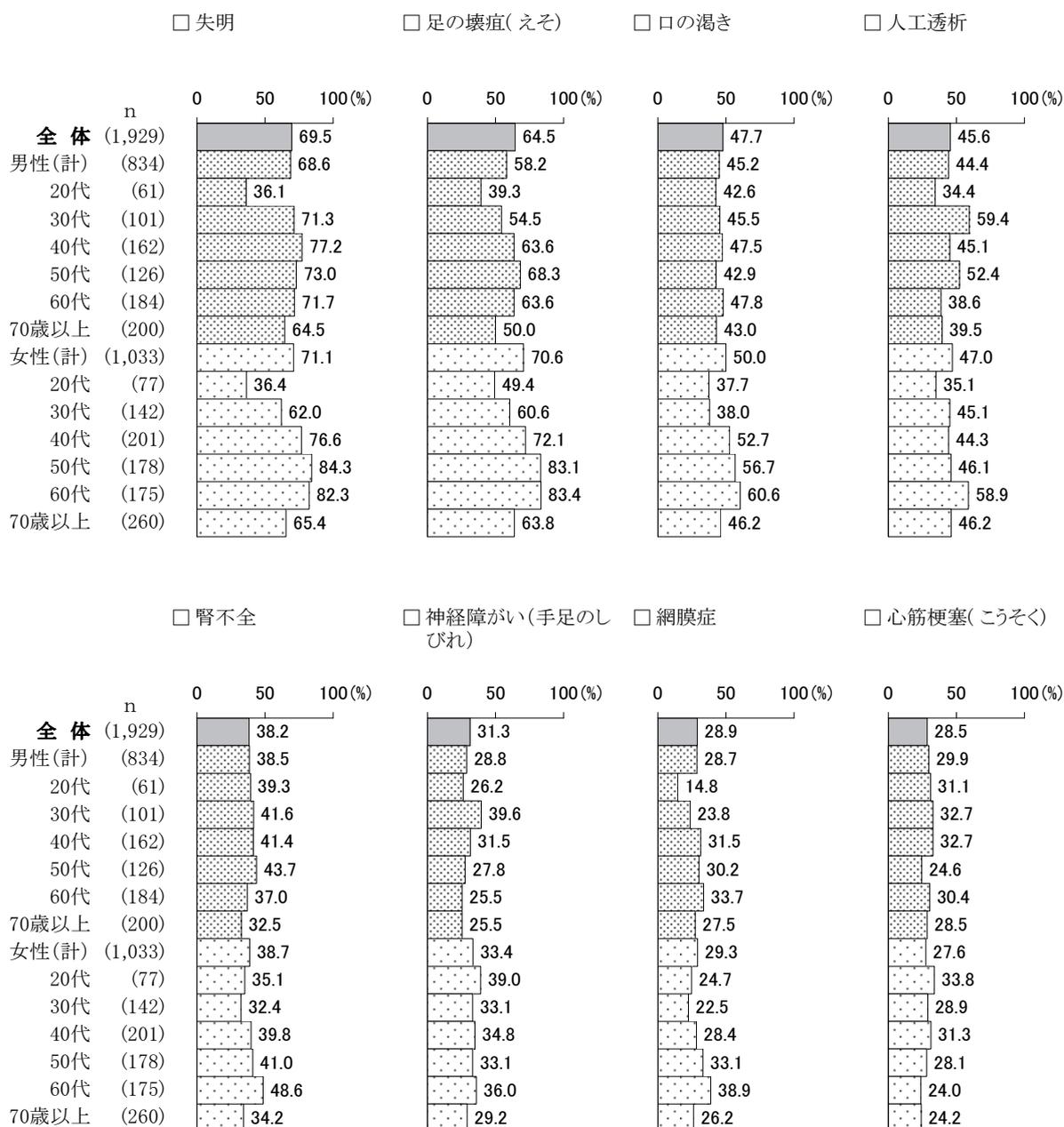
第3章 調査結果の分析

性別でみると、女性では「足の壊疽（えそ）」が70.6%と、男性（58.2%）より高くなっているほか、「口の渇き」も50.0%と、男性（45.2%）を上回っている。

性・年代別でみると、男性では、「失明」が、30代から60代で7割を超えている。また、「足の壊疽（えそ）」については、40代から60代で6割を超えている。

女性では、50代、60代で「失明」がそれぞれ84.3%、82.3%と、他の年代より高くなっている。また、「足の壊疽（えそ）」についても、50代、60代で、それぞれ83.1%、83.4%と、8割を超えている。

図5-2-2 性別、性・年代別／糖尿病の進行による病気や障がいの認識／上位8項目



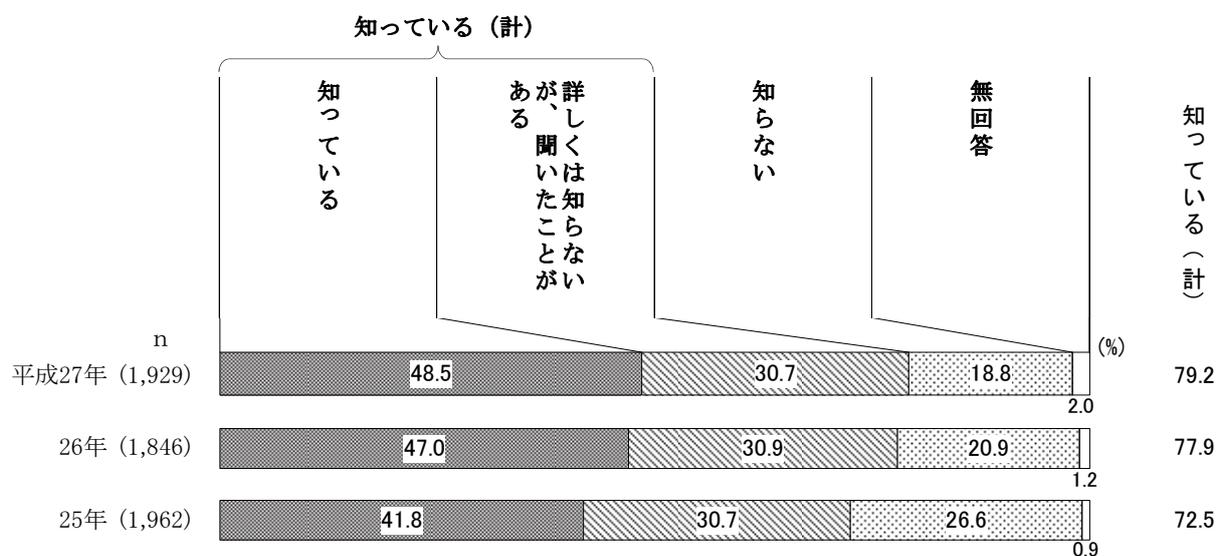
(3) 食事の際に野菜から食べ始めることが、糖尿病予防に効果があることの認知

■ 【知っている】は8割に迫る

問19 あなたは、食事の際に野菜から食べ始めることが、糖尿病の予防に効果があることを知っていますか（○は1つだけ）。

※ 糖尿病が進行して起こる様々な合併症は、食後に血糖値が急上昇し、血管を傷つけることが原因で起こります。このような血糖値の急上昇を抑えるためには、食事の最初に野菜を良くかんで食べることが効果的です。

図5-3-1 経年比較／食事の際に野菜から食べ始めることが、糖尿病予防に効果があることの認知



食事の際に野菜から食べ始めることが、糖尿病の予防に効果があることを「知っている」は48.5%で、これに「詳しくは知らないが、聞いたことがある」の30.7%を合わせた【知っている】は79.2%となっている。一方、「知らない」は18.8%である。

経年でみると、【知っている】は、平成26年77.9%から今回79.2%とほぼ横ばいとなっている。

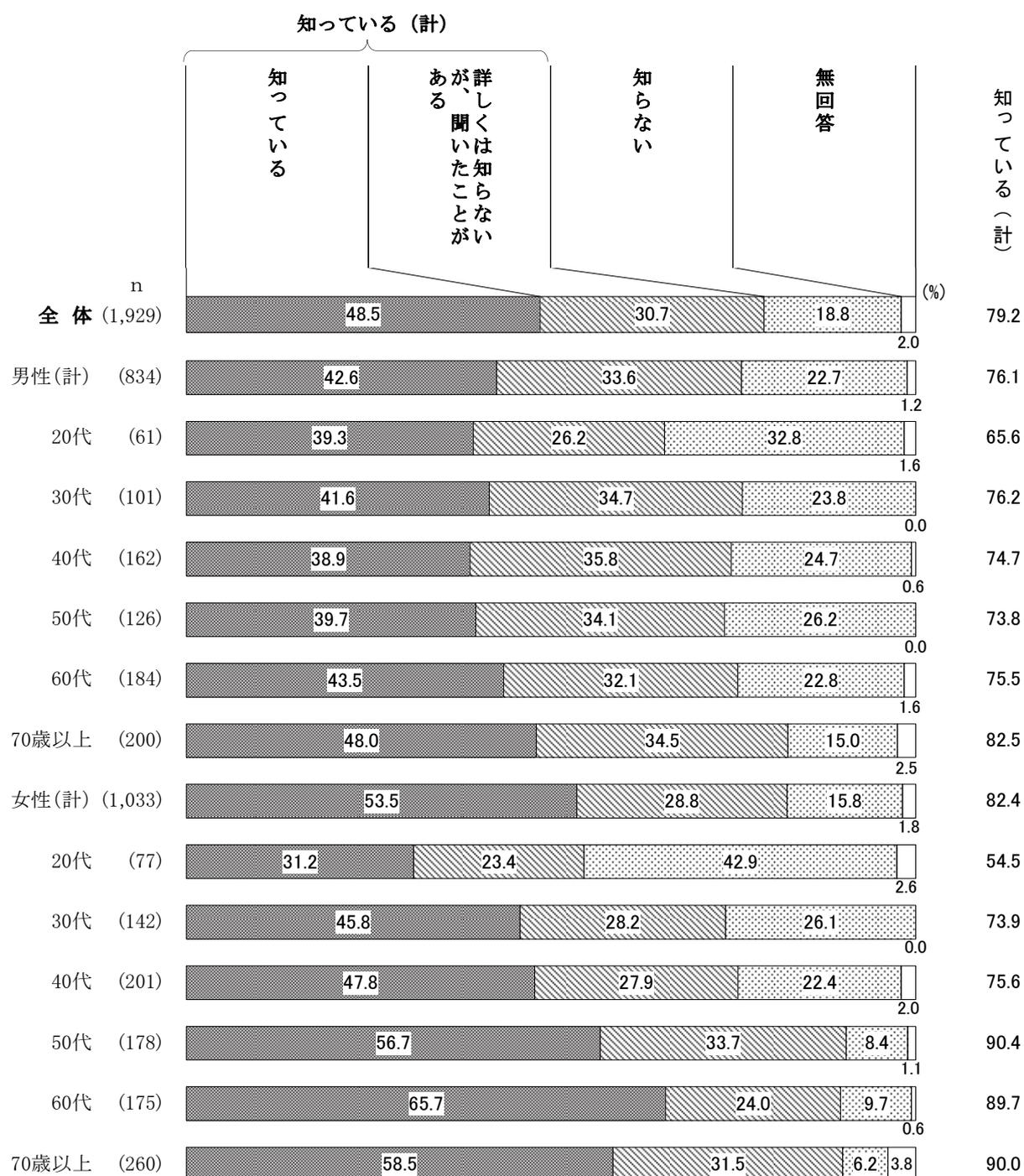
第3章 調査結果の分析

性別でみると、【知っている】は男性76.1%、女性82.4%と、男性より女性が高くなっている。性・年代別でみると、男性では、20代で【知っている】は65.6%であるが、30代から60代では7割以上、70歳以上では82.5%となっている。

女性では、20代で【知っている】は54.5%であるが、50代から70歳以上では9割前後を占めている。

図5-3-2 性別、性・年代別

／食事の際に野菜から食べ始めることが、糖尿病予防に効果があることの認知



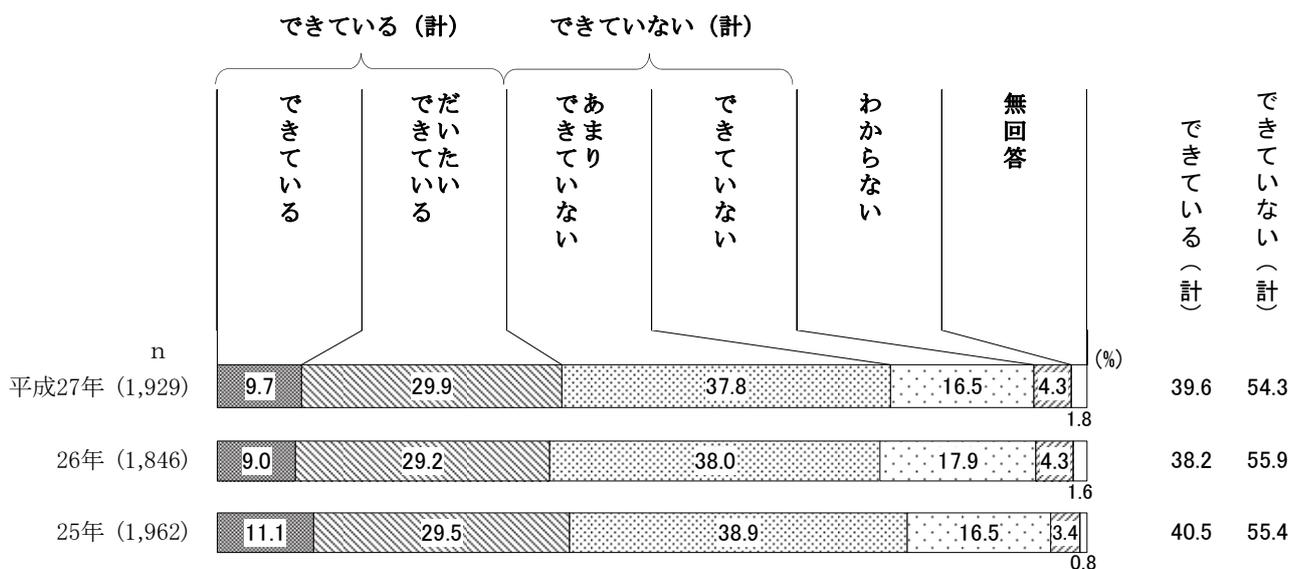
(4) 1日野菜350g以上の摂取

■ 【できていない】人が半数を超えるも、【できている】という人も4割弱

問20 1日の野菜摂取量の目標は350g以上（調理前の生の状態で）です。あなたは、毎日350g以上の野菜が摂取できていますか（○は1つだけ）。

※ 野菜350gとは、1例をあげると、レタス1枚、きゅうり1本、プチトマト2個、にんじん1/2本、たまねぎ1/2個の合計に相当する量です。

図5-4-1 経年比較／1日野菜350g以上の摂取



毎日350g以上の野菜を摂取しているかについては、「できている」が9.7%で、これに「だいたいできている」の29.9%を合わせた【できている】は39.6%となっている。一方、「あまりできていない」(37.8%)と、「できていない」(16.5%)を合わせた【できていない】は54.3%となっている。

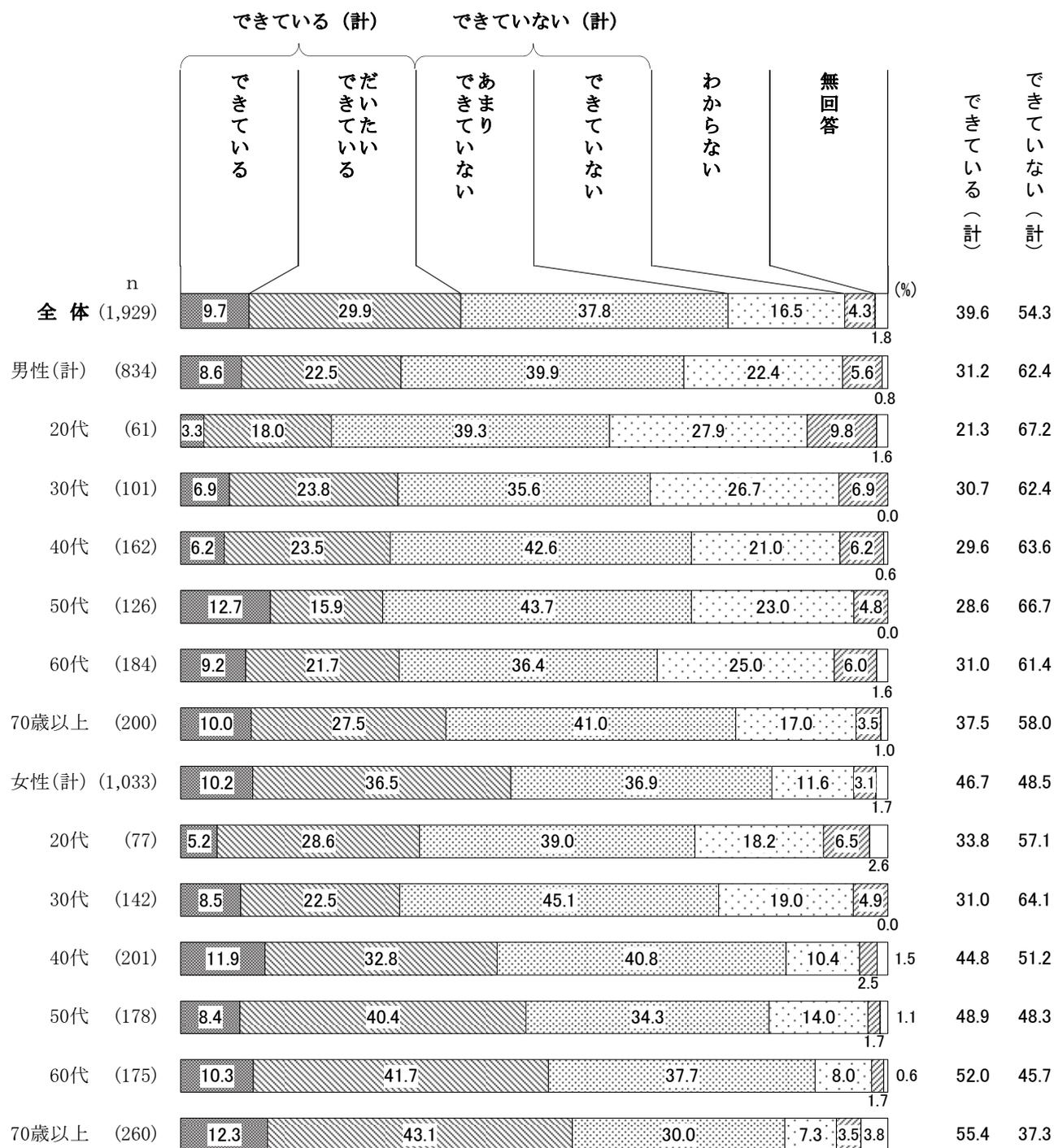
経年でみると、【できている】【できていない】とも、ほぼ横ばいとなっている。

第3章 調査結果の分析

性別で見ると、【できている】は男性31.2%、女性46.7%と、男性より女性が高くなっている。性・年代別で見ると、男性では、30代から60代では【できている】が3割前後、70歳以上では37.5%となっている。

女性では、20代、30代を除く年代では【できている】が4割を超え、とくに60代、70歳以上では、それぞれ52.0%、55.4%となっている。

図5-4-2 性別、性・年代別／1日野菜350g以上の摂取

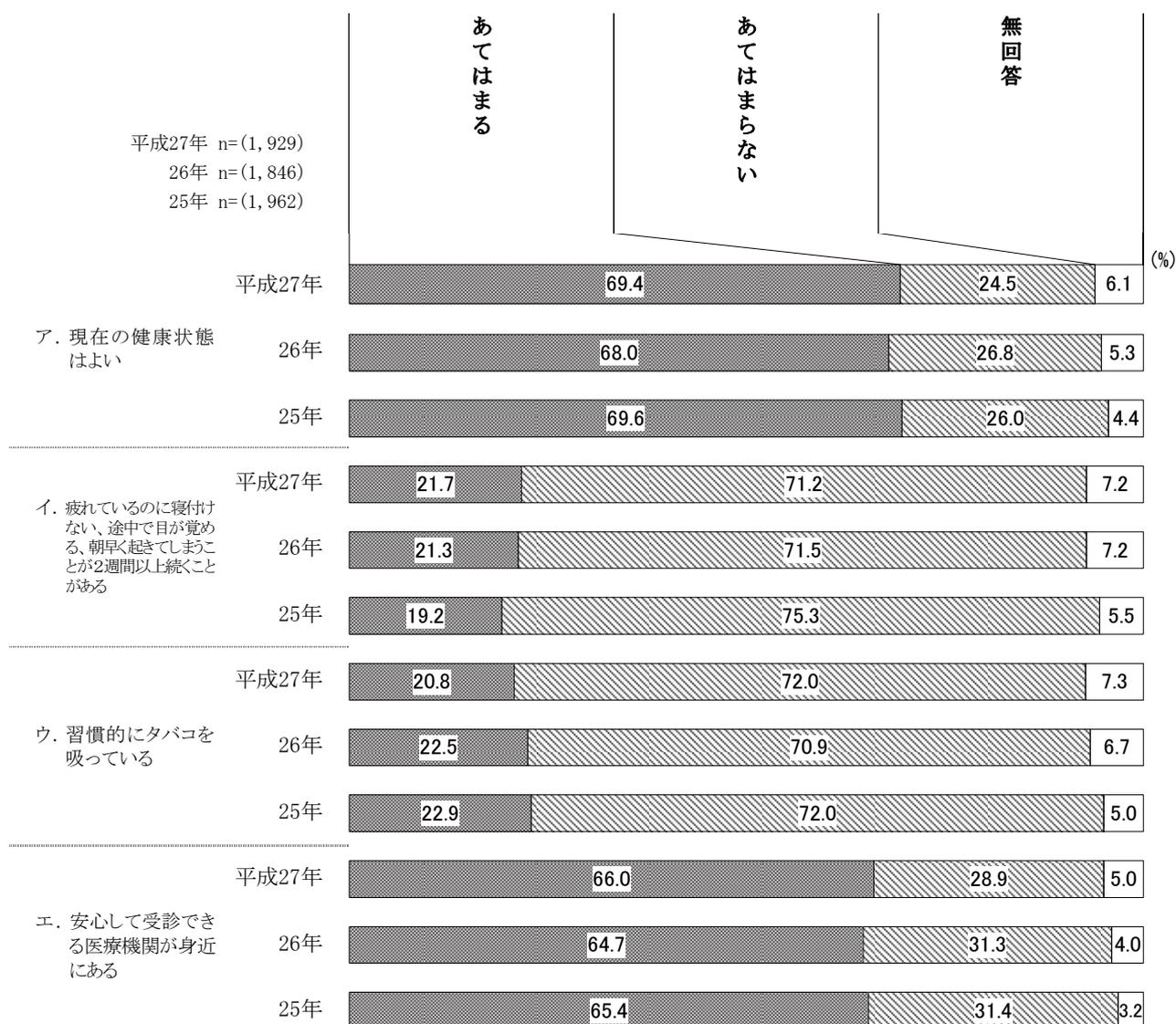


(5) 体調や習慣

■ 〈現在の健康状態はよい〉という人は約7割

問21 あなたの体調や習慣、身近な医療機関についてお答えください（○はそれぞれ1つずつ）。

図5-5-1 経年比較／体調や習慣



体調や習慣について、「あてはまる」の高い順にみると、〈現在の健康状態はよい〉（69.4%）と〈安心して受診できる医療機関が身近にある〉（66.0%）が、いずれ6割台後半となっている。一方、〈疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある〉〈習慣的にタバコを吸っている〉は、「あてはまる」が、それぞれ21.7%、20.8%と2割台となっている。

経年でみると、各項目とも、大きな変化はみられない。

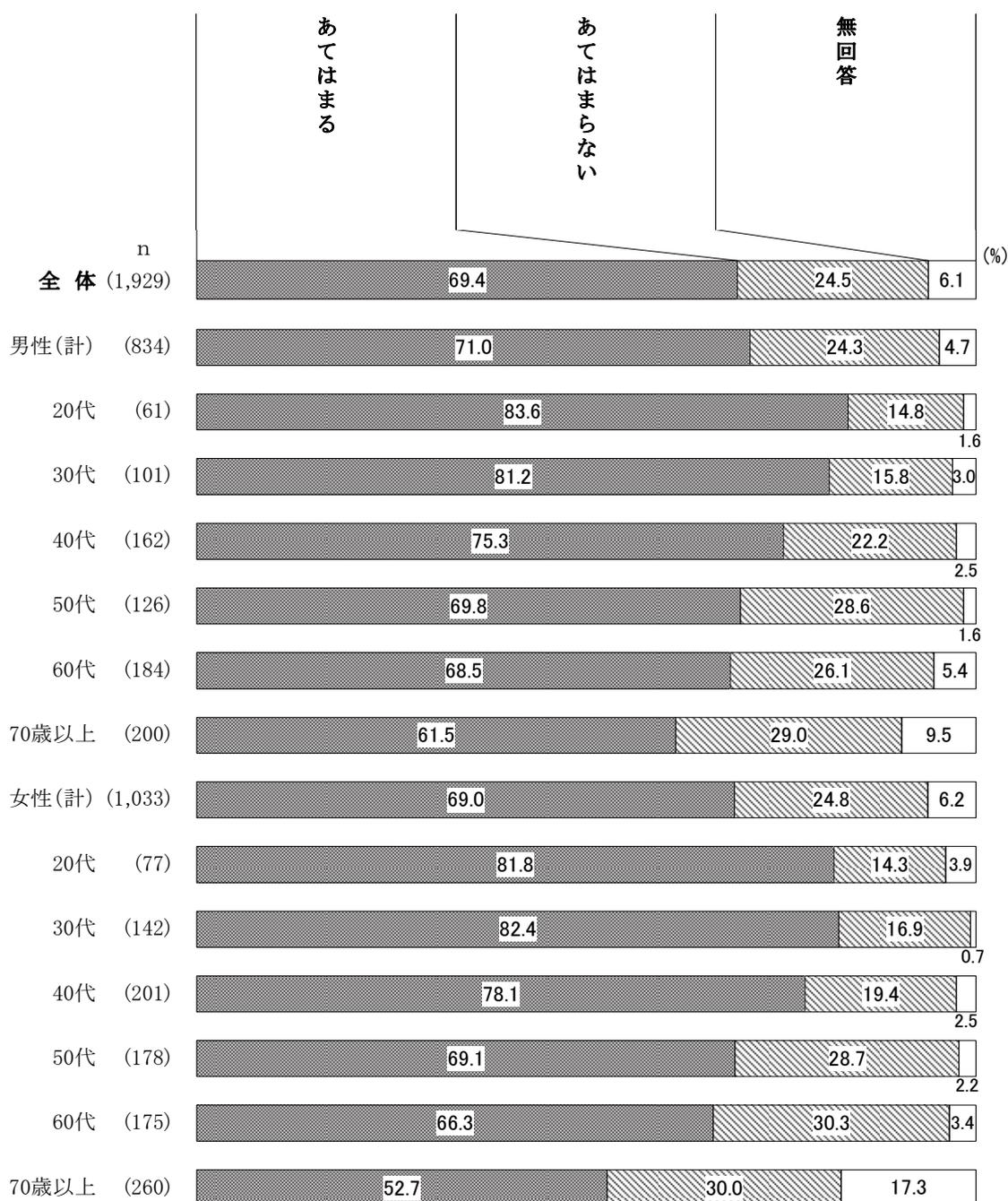
第3章 調査結果の分析

〈現在の健康状態はよい〉については、性別で見ると、「あてはまる」は男性71.0%、女性69.0%となっている。

性・年代別で見ると、男性では、20代では「あてはまる」が83.6%であるが、加齢とともに減少し、60代では68.5%、70歳以上では61.5%となっている。

女性では、20代、30代では「あてはまる」が8割を超えているが、加齢とともに減少し、70歳以上では52.7%となっている。

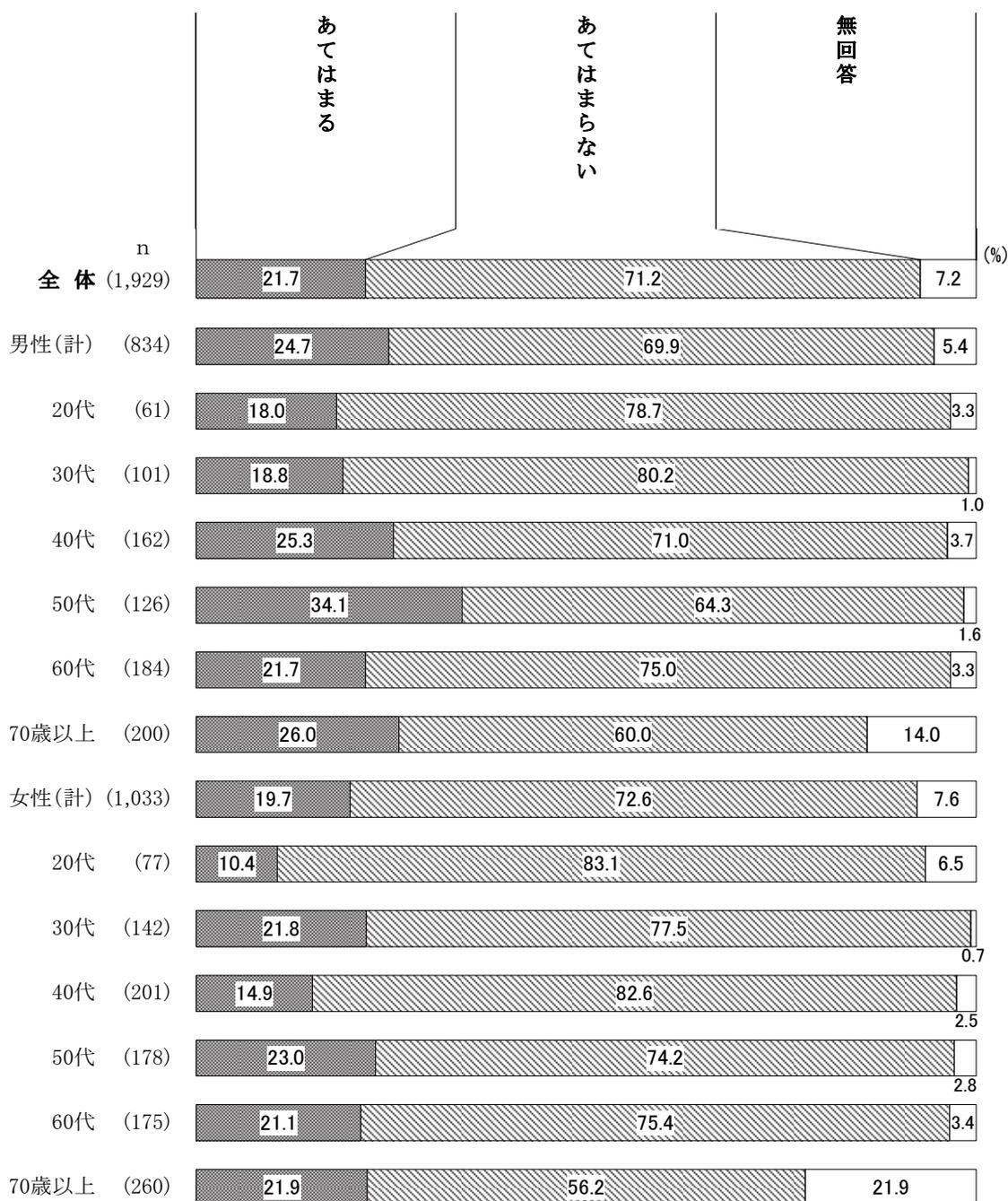
図5-5-2-① 性別、性・年代別／体調や習慣／現在の健康状態はよい



〈疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある〉について、性別で見ると、「あてはまる」は男性24.7%、女性19.7%となっている。性・年代別で見ると、男性では、50代で「あてはまる」が34.1%と、他の年代より高くなっている。

女性では、20代、40代を除くと、各年代とも「あてはまる」が2割を超えている。

図5-5-2-② 性別、性・年代別／体調や習慣
 ／疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある



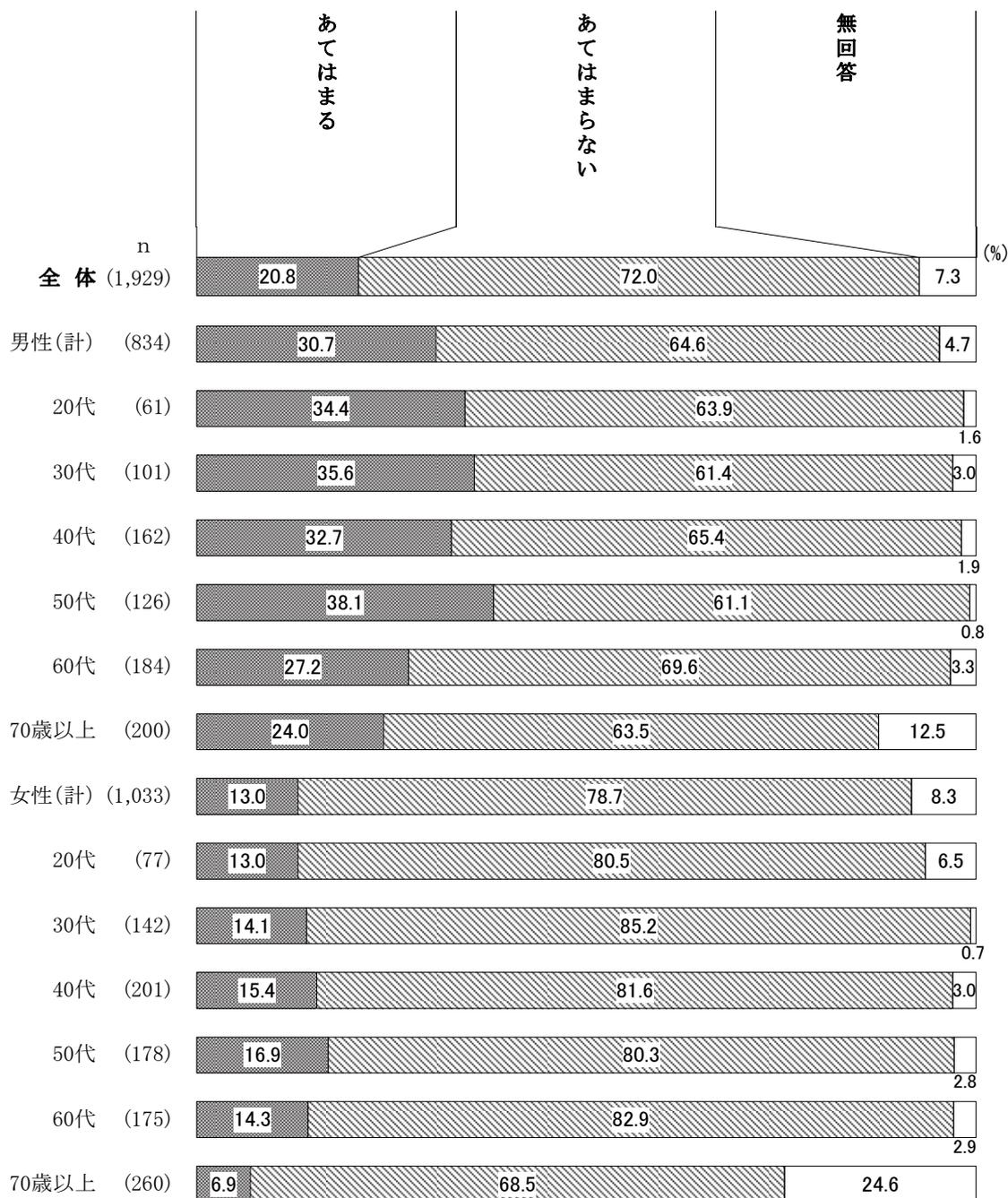
第3章 調査結果の分析

〈習慣的にタバコを吸っている〉について、性別でみると、「あてはまる」は男性30.7%、女性13.0%と、男性が高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、20代から50代にかけて「あてはまる」が3割を超え、とくに50代では38.1%となっているが、60代以降は2割台となっている。

女性では、20代から60代で「あてはまる」が1割を超えている。

図5-5-2-③ 性別、性・年代別／体調や習慣／習慣的にタバコを吸っている

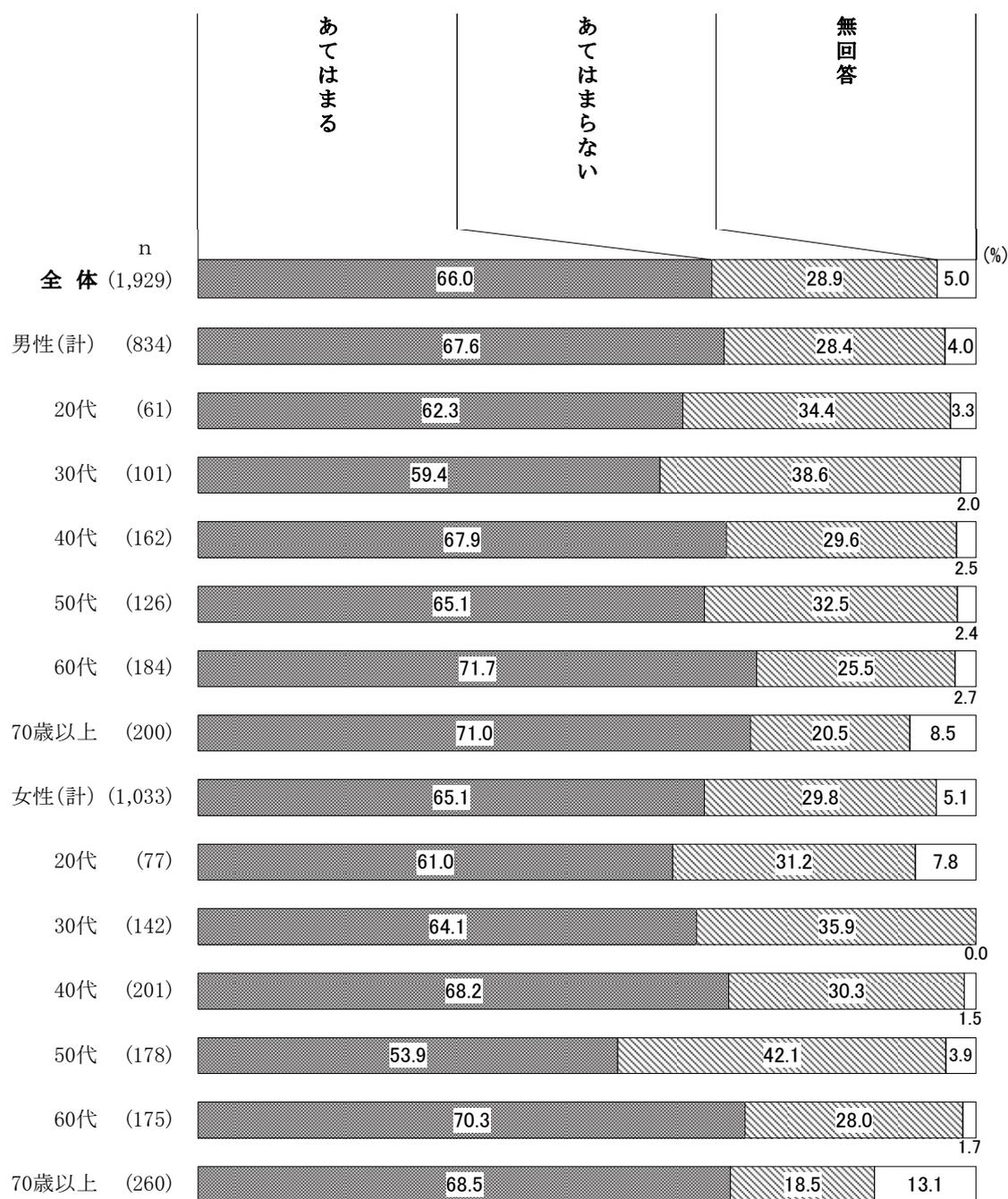


〈安心して受診できる医療機関が身近にある〉について、性別で見ると、「あてはまる」は男性67.6%、女性65.1%となっている。

性・年代別で見ると、男性では「あてはまる」は、60代、70歳以上では、それぞれ71.7%、71.0%と7割を超えている

女性では、40代、60代、70歳以上で「あてはまる」が7割前後と、他の年代より高くなっている。

図5-5-2-④ 性別、性・年代別／体調や習慣／安心して受診できる医療機関が身近にある

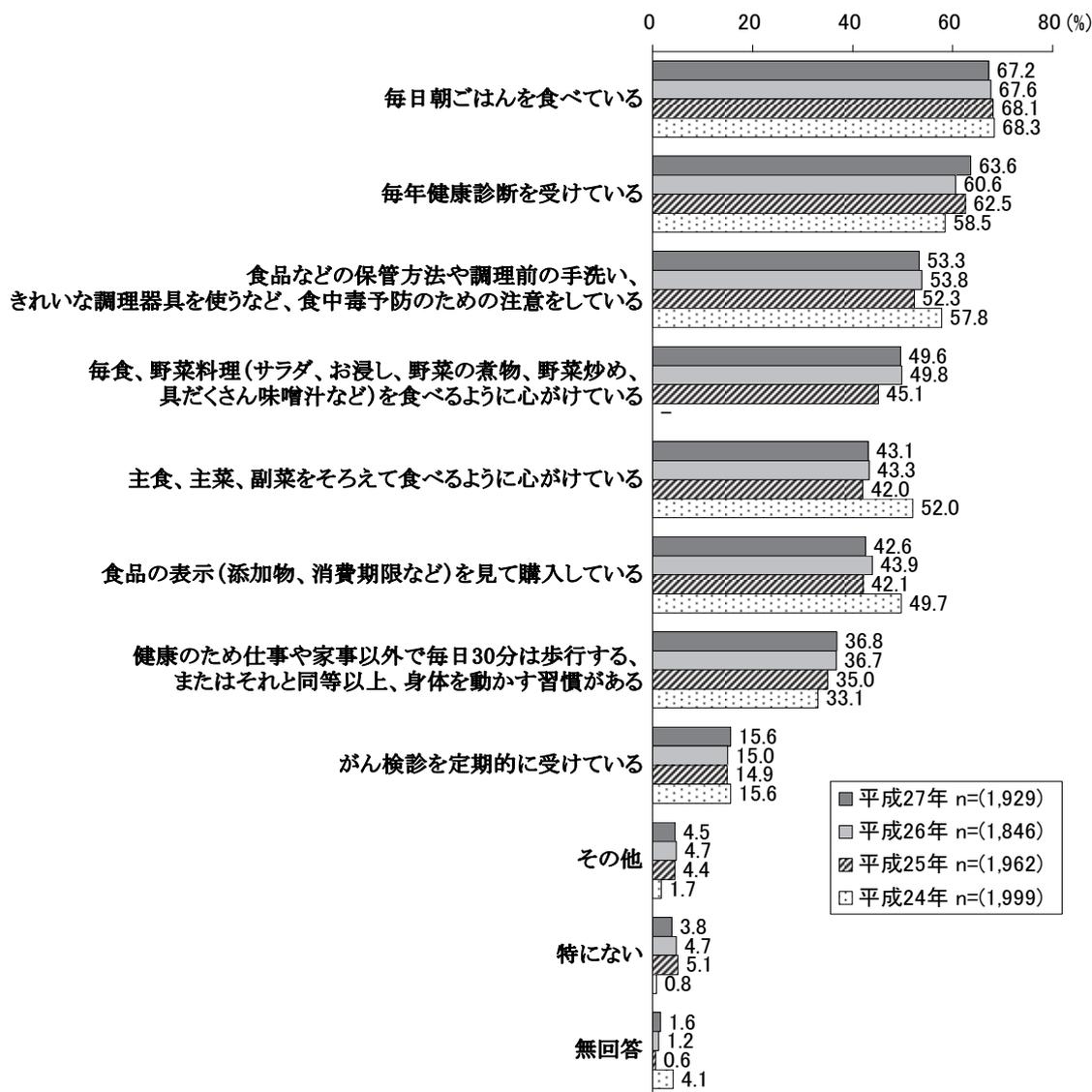


(6) 健康維持のために実行している、心がけているもの

■ 「毎日朝ごはんを食べている」「毎年健康診断を受けている」が6割台

問22 あなた自身が健康維持のために実行している、または心がけているものをお答えください（〇はあてはまるものすべて）。

図5-6-1 経年比較／健康維持のために実行している、心がけているもの



※ 「毎食、野菜料理を食べるように心がけている」は、25年度新設。

※ 「健康のため仕事や家事以外で毎日30分は歩行する、またはそれと同等以上、身体を動かす習慣がある」は、25年度では「健康のため仕事や家事以外で身体を動かす習慣がある」。

健康維持のために心がけていることとしては、「毎日朝ごはんを食べている」が67.2%で最も高く、以下「毎年健康診断を受けている」（63.6%）、「食品などの保管方法や調理前の手洗い、きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている」（53.3%）の順となっている。

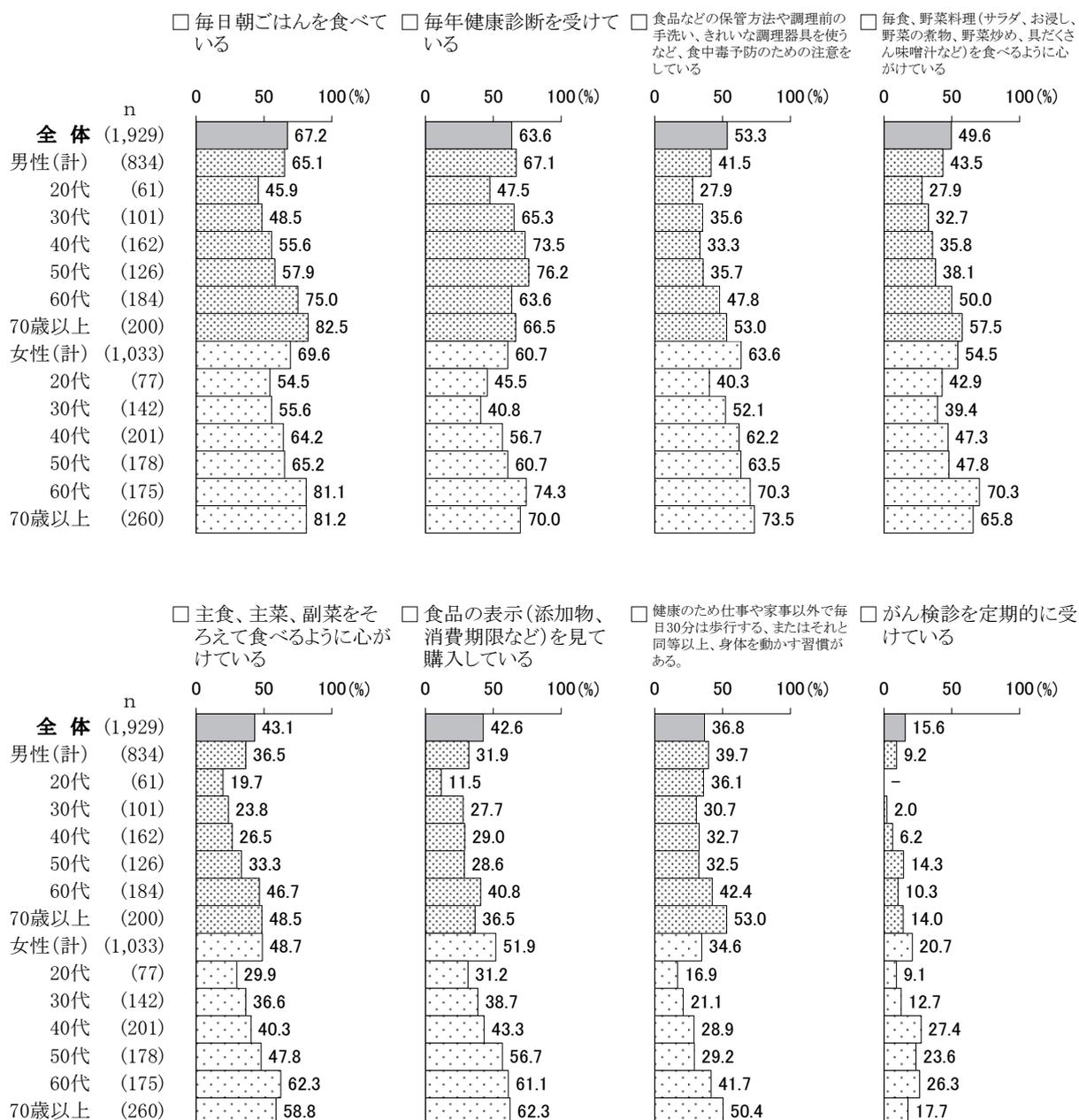
経年でみると、上位項目について、順位、数値に大きな変動はみられない。

性別でみると、「毎日朝ごはんを食べている」は男性65.1%、女性69.6%、「食品などの保管方法や調理前の手洗い、きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている」は男性41.5%、女性63.6%、「毎食、野菜料理を食べるよう心がけている」は男性43.5%、女性54.5%と、いずれも男性より女性が高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、「毎日朝ごはんを食べている」「食品などの保管方法や調理前の手洗い、きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている」は加齢とともに増加する傾向がある。「毎年健康診断を受けている」については、40代、50代で7割を超え、他の年代より高くなっている。また、70歳以上では「毎日朝ごはんを食べている」が82.5%と高くなっている。

女性では、「毎日朝ごはんを食べている」「食品などの保管方法や調理前の手洗い、きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている」は加齢とともに増加する傾向がある。「毎年健康診断を受けている」は、60代、70歳以上で、それぞれ74.3%、70.0%と高くなっている。

図5-6-2 性別、性・年代別／健康維持のために実行している、心がけているもの



6 ビューティフル・ウィンドウズ運動

-
- (1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況
 - (2) 治安が改善していることの認知
 - (3) 居住地域の治安状況
 - (4) 区内の治安が良いと感じる点
 - (5) 区内の治安が悪いと感じる点
 - (6) 治安対策として区に力を入れてほしいこと
 - (7) 駐輪時の鍵かけ状況
-

6. ビューティフル・ウィンドウズ運動

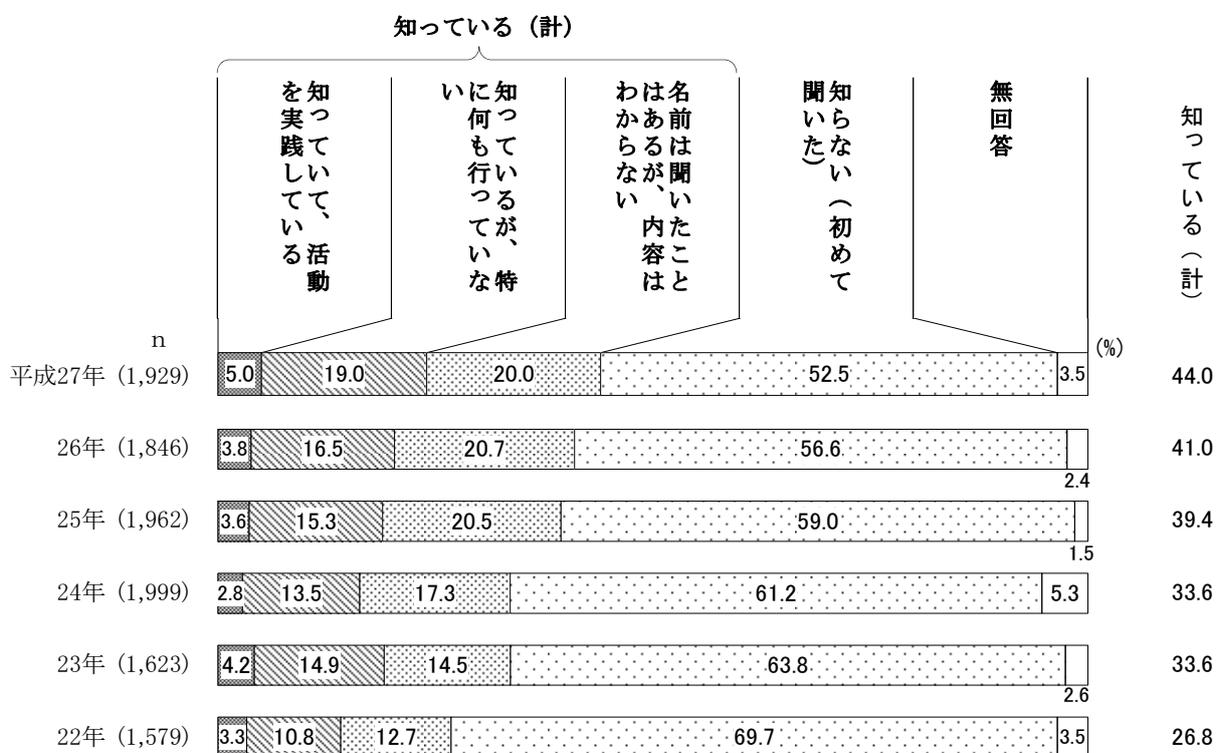
(1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況

■ 【知っている】は4割台半ばになり、認知度は年々上昇している

問23 あなたは、足立区が取り組んでいる「ビューティフル・ウィンドウズ運動（※）」という取り組みを知っていますか（○は1つだけ）。

※ 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」とは「美しいまち」を印象付けることで犯罪を抑止しようという足立区独自の運動です。区は、警視庁や区民のみなさんと協働して、まちの美化活動や防犯パトロールなどの取り組みを推進し、犯罪のない住みよいまちの実現をめざしています。

図6-1-1 経年比較／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況



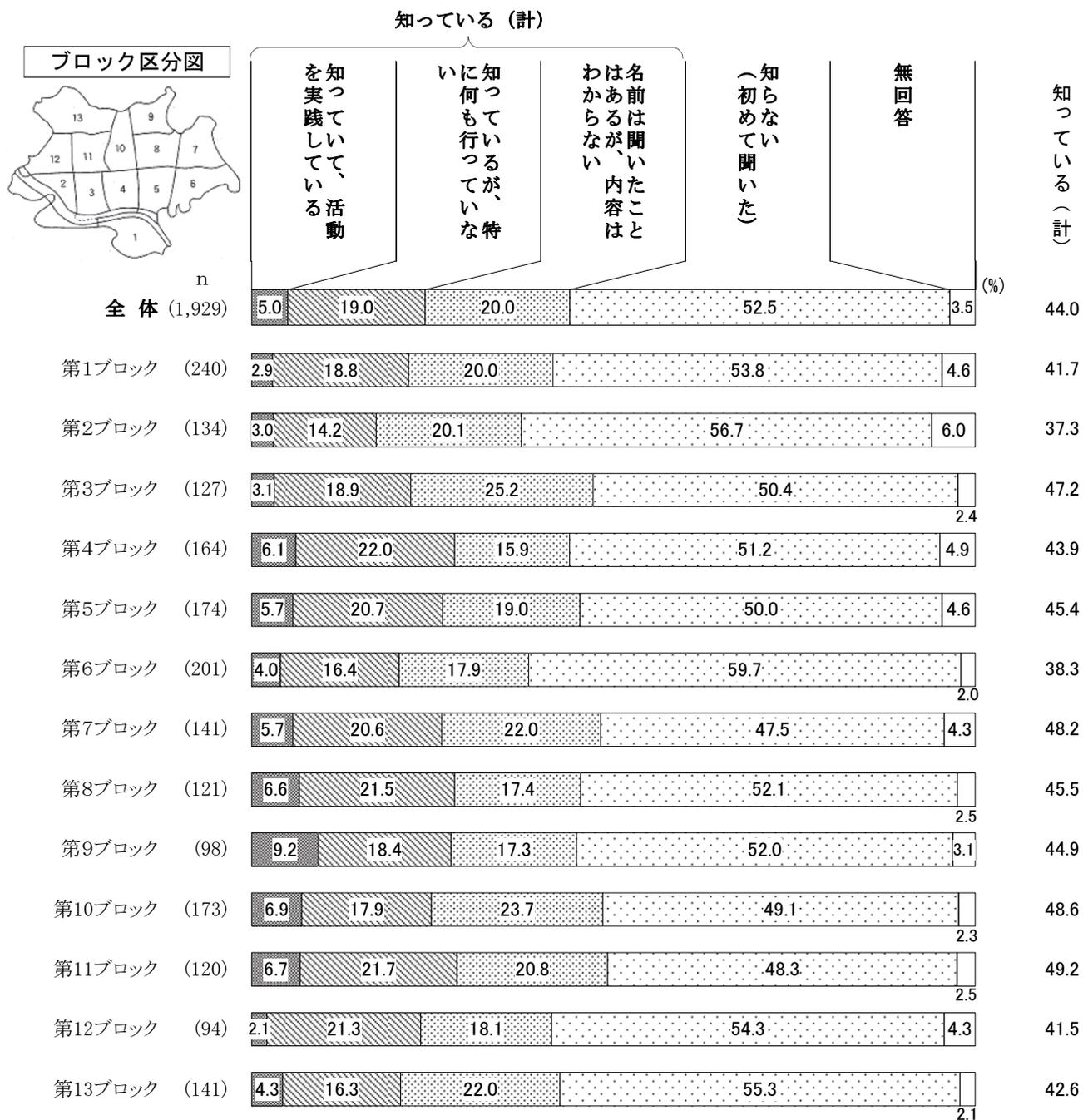
「ビューティフル・ウィンドウズ運動」について、「知っていて、活動を実践している」は5.0%で、これに「知っているが、特に何も行ってない」（19.0%）、「名前は聞いたことはあるが、内容はわからない」（20.0%）を合わせた【知っている】は44.0%となっている。

経年でみると、平成22年以降、【知っている】は増加傾向にある。

第3章 調査結果の分析

地域ブロック別で見ると、第7ブロック、第10ブロック、第11ブロックでは【知っている】が、いずれも5割近くを占めて、他のブロックに比べて高くなっている。また、第9ブロックでは「知っていて、活動を実践している」が9.2%と、全ブロック中最も高くなっている。

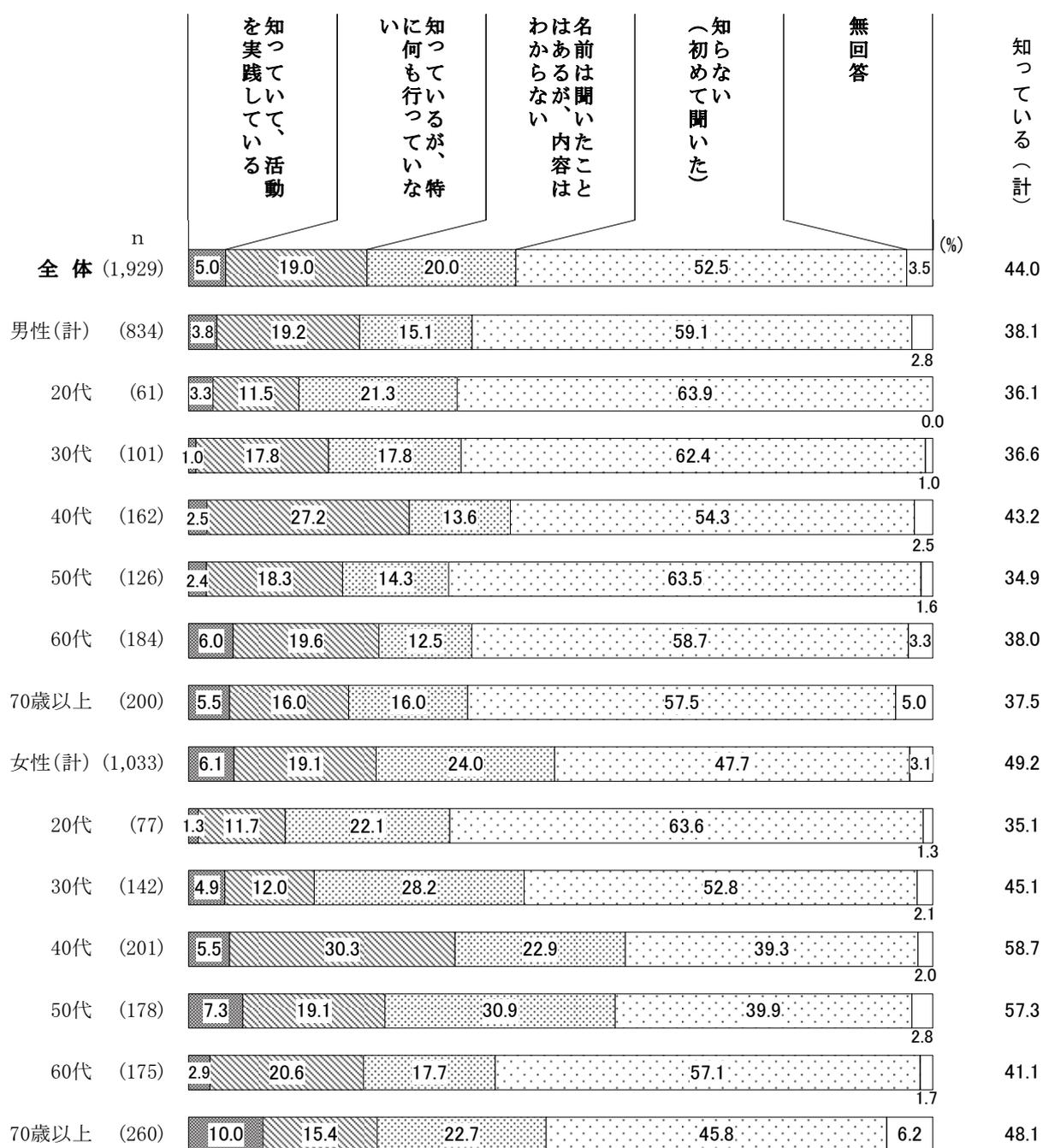
図6-1-2 地域ブロック別／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況



性別でみると、【知っている】は男性38.1%、女性49.2%と、男性より女性が高くなっている。
 性・年代別でみると、男性では、40代で【知っている】が43.2%と、他の年代に比べて高くなっている。60代、70歳以上では「知っていて、活動を実践している」が、それぞれ6.0%、5.5%と高くなっている。

女性では、40代、50代で【知っている】が、それぞれ58.7%、57.3%と、他の年代より高くなっている。50代、70歳以上では「知っていて、活動を実践している」が、それぞれ7.3%、10.0%と、他の年代よりやや高くなっている。

図6-1-3 性別、性・年代別／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況



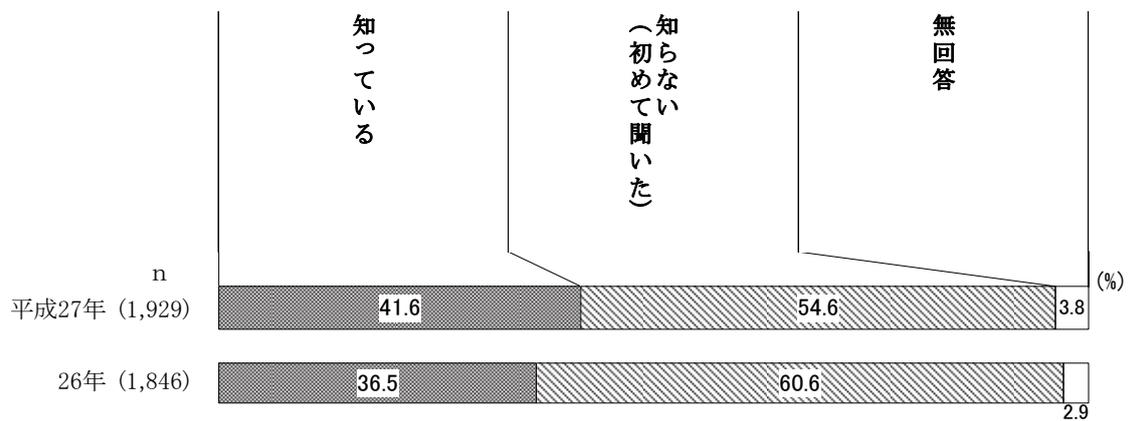
(2) 治安が改善していることの認知

■ 「知っている」は4割強

問24 あなたは、平成26年の足立区内の刑法犯認知件数（※）が減少し、治安が改善していることを知っていますか（○は1つだけ）。

※ 警察が犯罪について、被害の届出などによりその発生を確認した件数。ただし、交通違反などを除きます。

図6-2-1 前回調査比較／治安が改善していることの認知

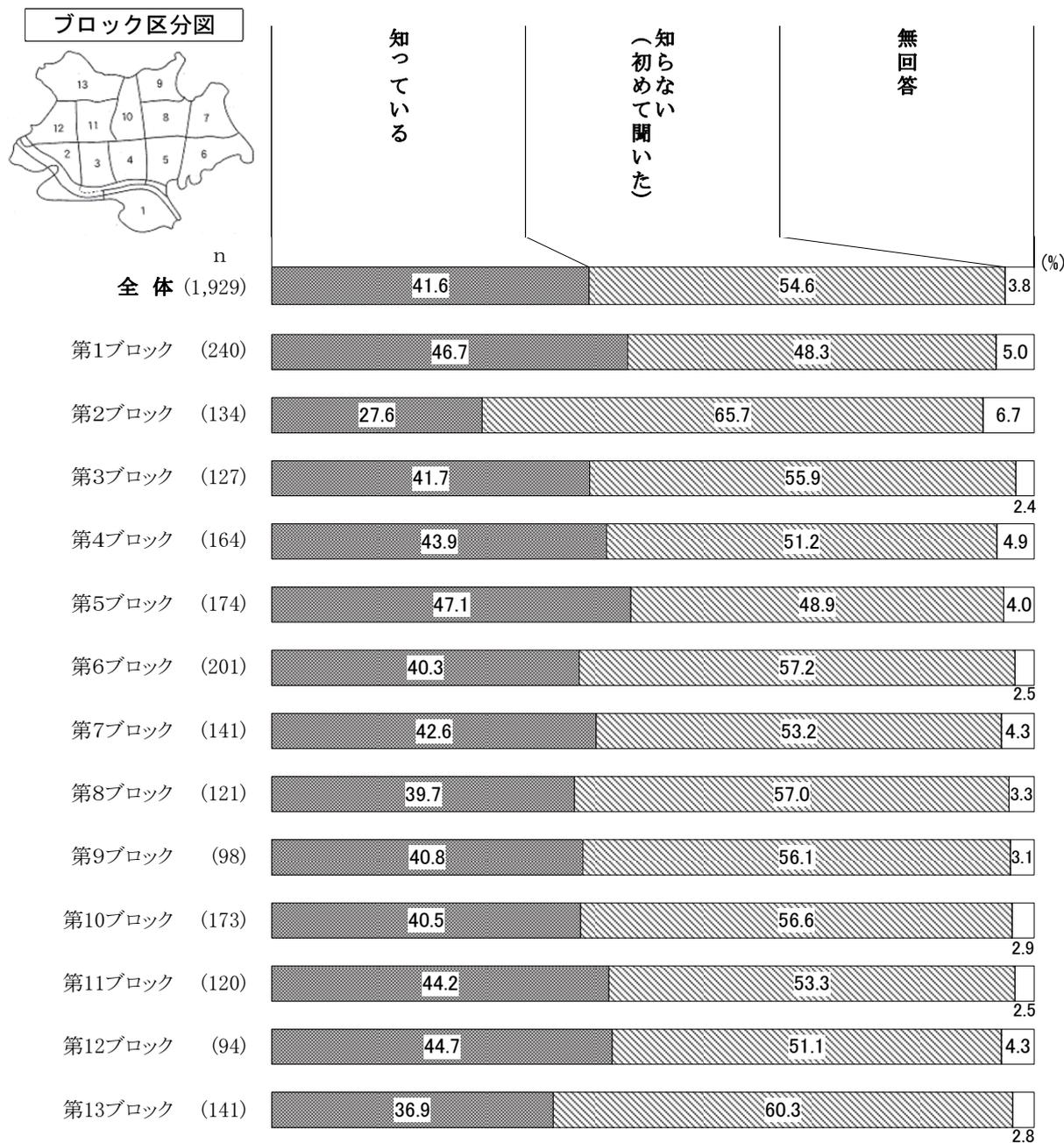


足立区内の刑法犯認知件数が減少していることを「知っている」は41.6%である。一方、「知らない」は54.6%となっている。

前回調査と比較してみると、「知っている」は、今回41.6%と、前回の36.5%から5.1ポイント増加している。

地域ブロック別で見ると、第2ブロック、第8ブロック、第13ブロックを除くと、いずれのブロックでも「知っている」が4割を超えている。一方、第2ブロックでは、「知っている」が27.6%と、他のブロックに比べて低くなっている。

図6-2-2 地域ブロック別／治安が改善していることの認知



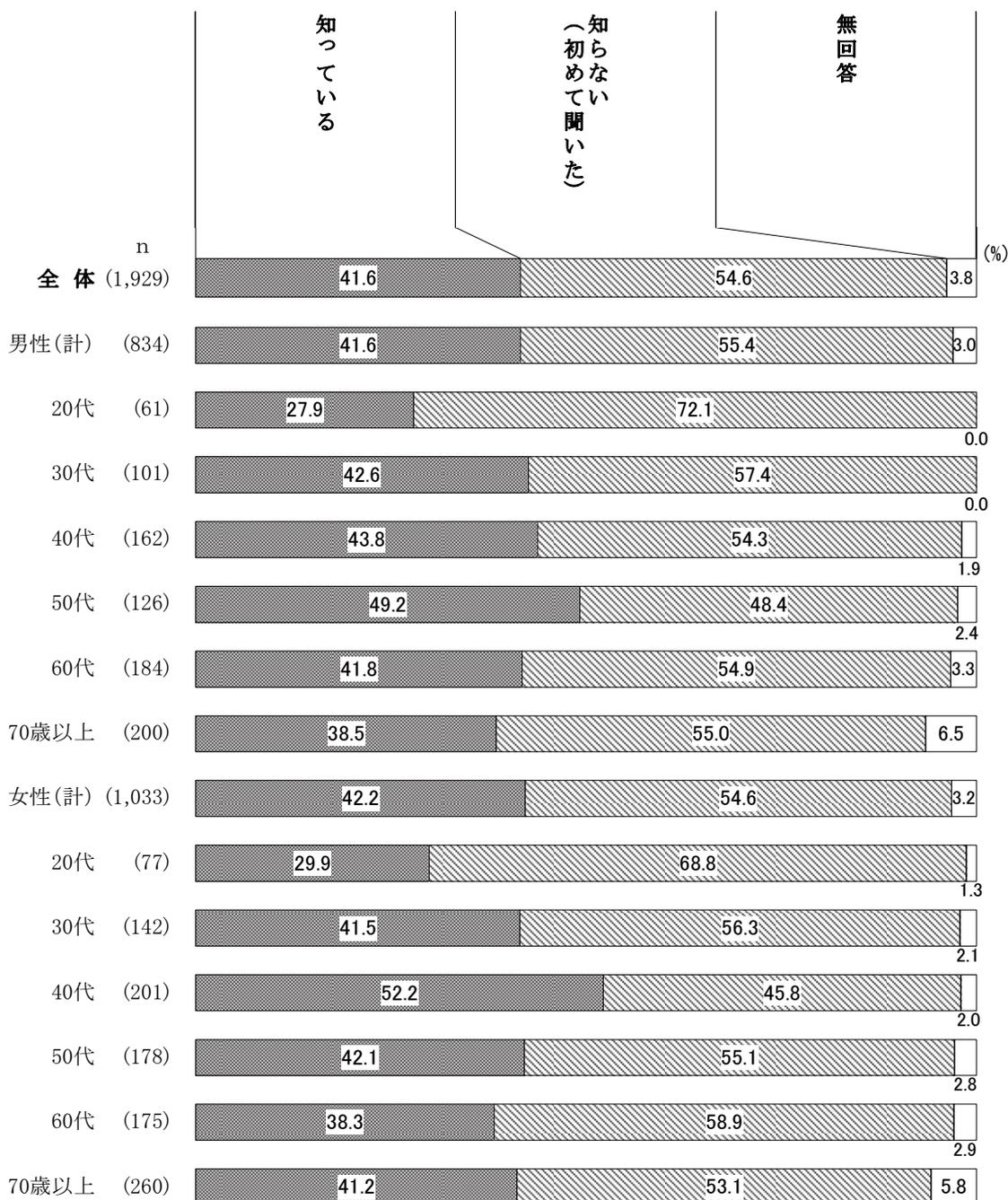
第3章 調査結果の分析

性別で見ると、「知っている」は男性41.6%、女性42.2%となっている。

性・年代別で見ると、男性では、50代で「知っている」が49.2%と高くなっているほか、30代から40代、60代から70歳以上でも4割前後となっている。

女性では、40代で「知っている」が52.2%を占めているほか、30代、50代から70歳以上でも4割前後となっている。

図6-2-3 性別、性・年代別／治安が改善していることの認知



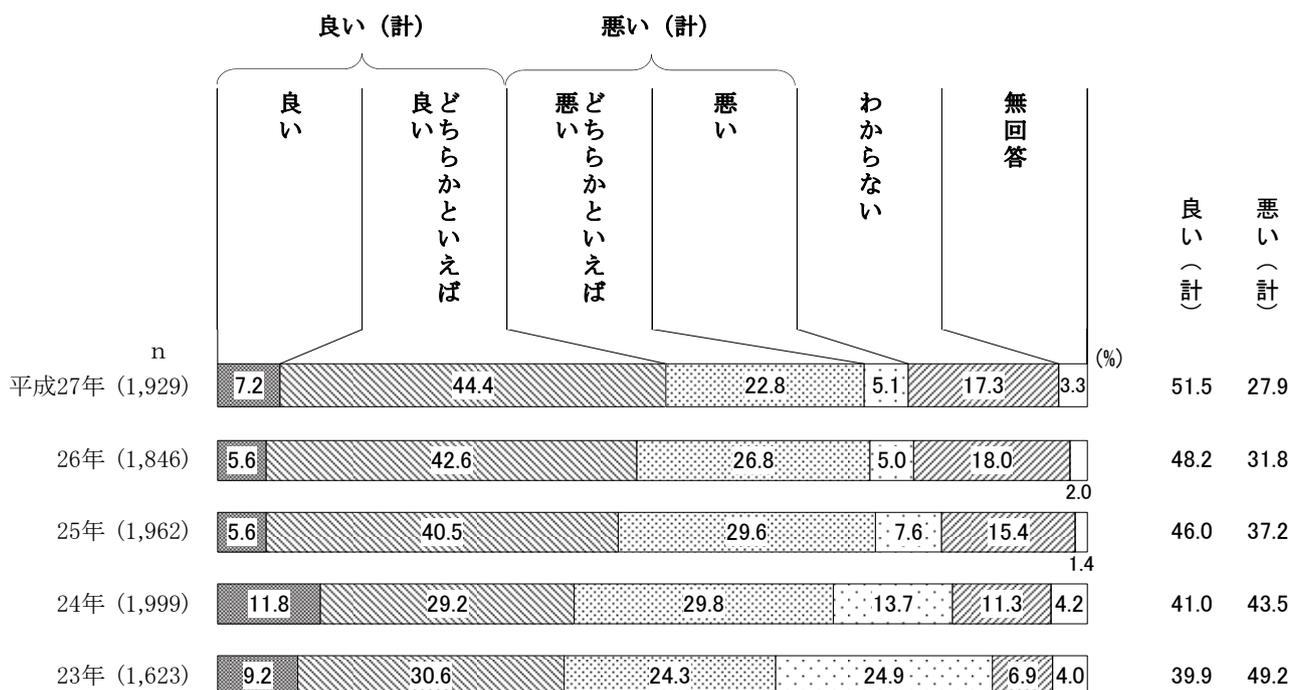
(3) 居住地域の治安状況

■ 【良い】は5割を超え、年々上昇している

問25 あなたは、お住まいの地域の治安（※）について、どのように感じていますか（○は1つだけ）。

※ 犯罪が少なく、世の中の秩序が保たれている状態のことです。

図6-3-1 経年比較／居住地域の治安状況



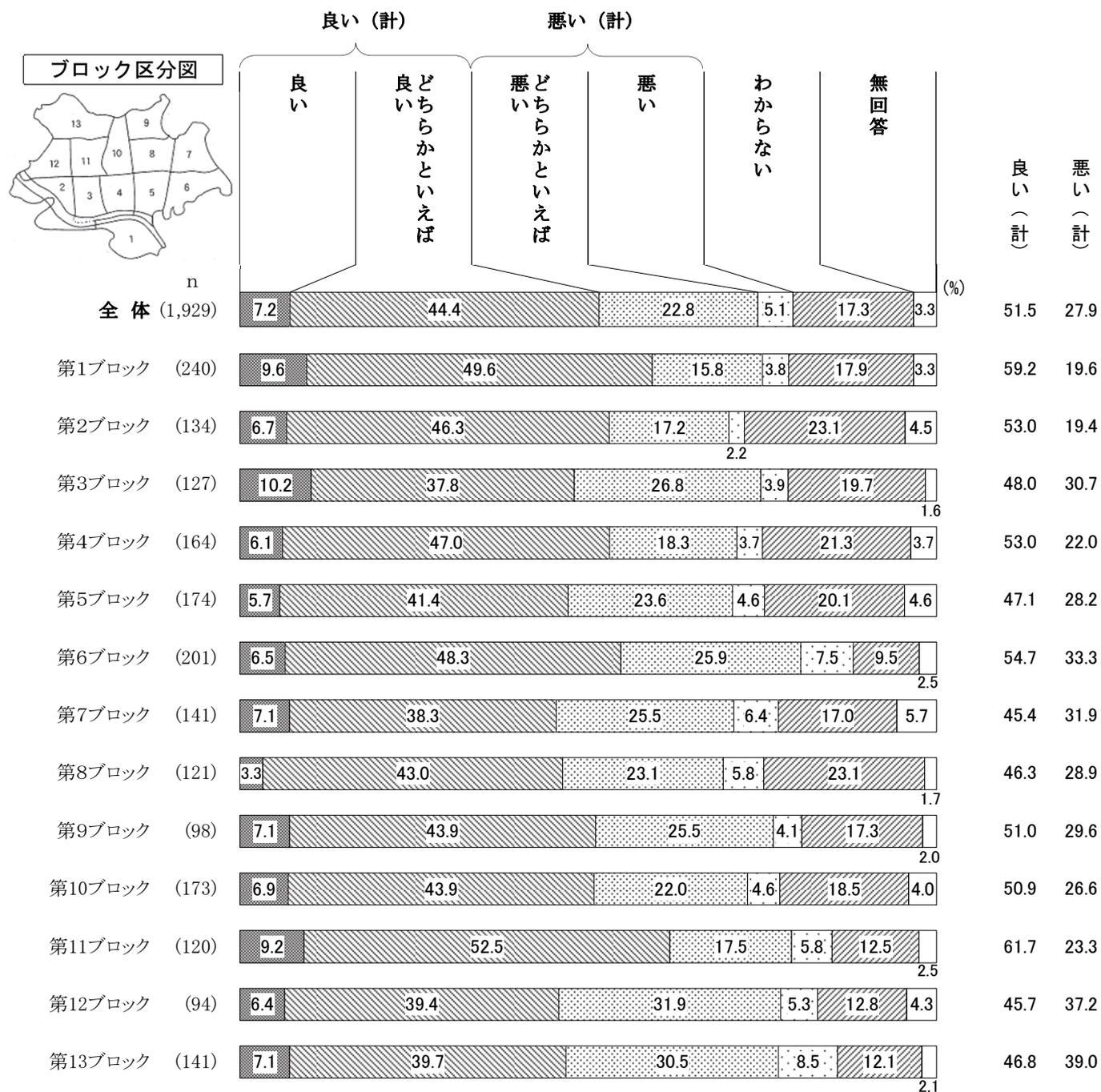
住んでいる地域の治安について、「良い（そう思う）」が7.2%で、これに「どちらかといえば良い（ややそう思う）」の44.4%を合わせた【良い】は51.5%である。一方、「どちらかといえば悪い（あまりそう思わない）」（22.8%）と「悪い（そう思わない）」（5.1%）を合わせた【悪い】は27.9%となっている。

経年でみると、今回は【良い】が51.5%と、平成26年の48.2%を3.3ポイント上回り、平成23年以降、増加傾向が続いている。

第3章 調査結果の分析

地域ブロック別で見ると、【良い】は第11ブロックで61.7%と最も高く、以下、第1ブロック（59.2%）、第6ブロック（54.7%）の順となっている。一方、第12ブロック、第13ブロックでは【悪い】が、それぞれ37.2%、39.0%と、他のブロックに比べて高くなっている。

図6-3-2 地域ブロック別／居住地域の治安状況

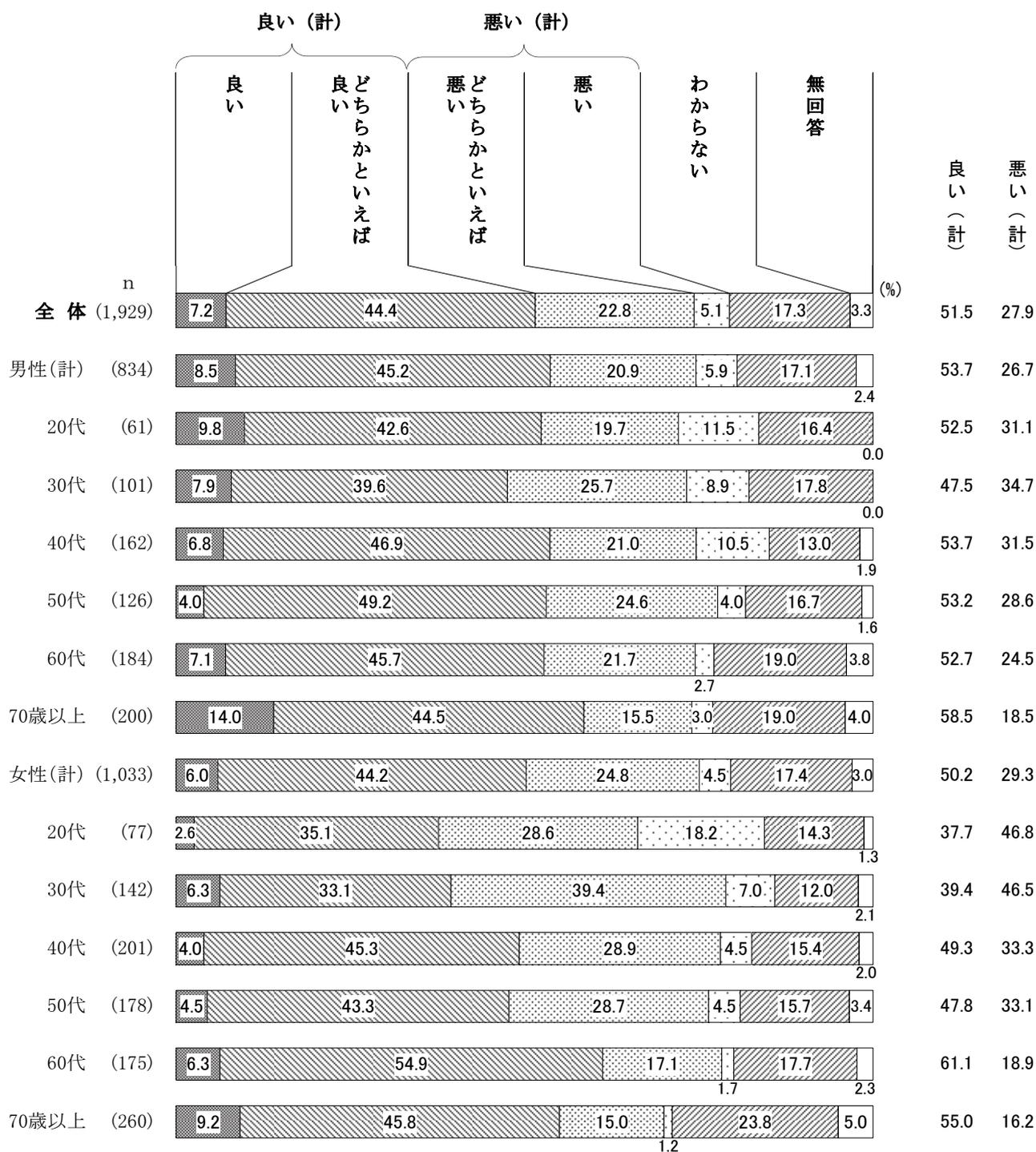


性別でみると、【良い】は男性53.7%、女性50.2%となっている。

性・年代別でみると、男性では、30代を除くと、いずれの年代でも【良い】が5割を超えている。

女性でも、20代、30代では【悪い】が、それぞれ46.8%、46.5%と高くなっているが、40代以上では【良い】との評価が【悪い】との評価を上回り、60代では【良い】が61.1%を占めている。

図6-3-3 性別、性・年代別／居住地域の治安状況

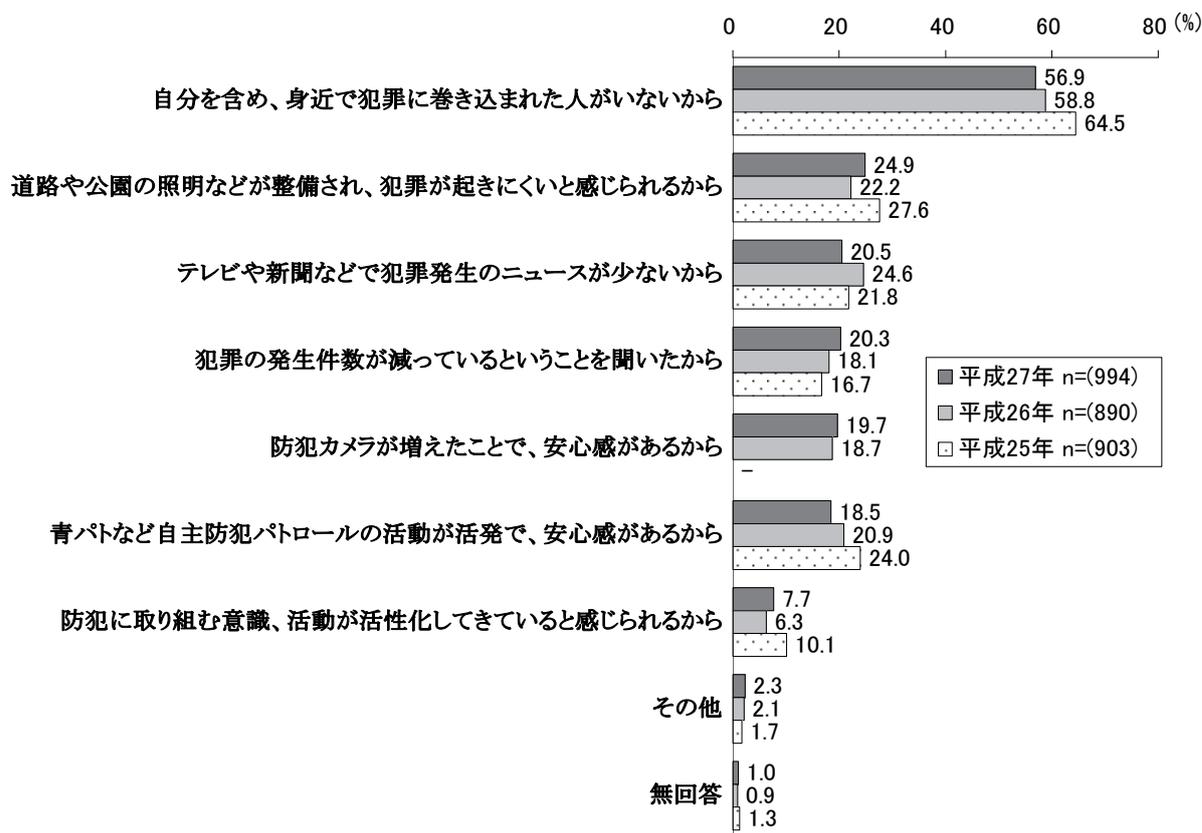


(4) 区内の治安が良いと感じる点

■ 特に多いのが“犯罪に巻き込まれた人がいないから”で、減少傾向も5割台半ば

問25で「1. 良い」、または「2. どちらかといえば良い」とお答えの方に
 問25-1 どのような点で治安が良いと感じますか（〇は2つまで）。

図6-4-1 経年比較／区内の治安が良いと感じる点



※「防犯カメラが増えたことで、安心感があるから」は、26年度新設。

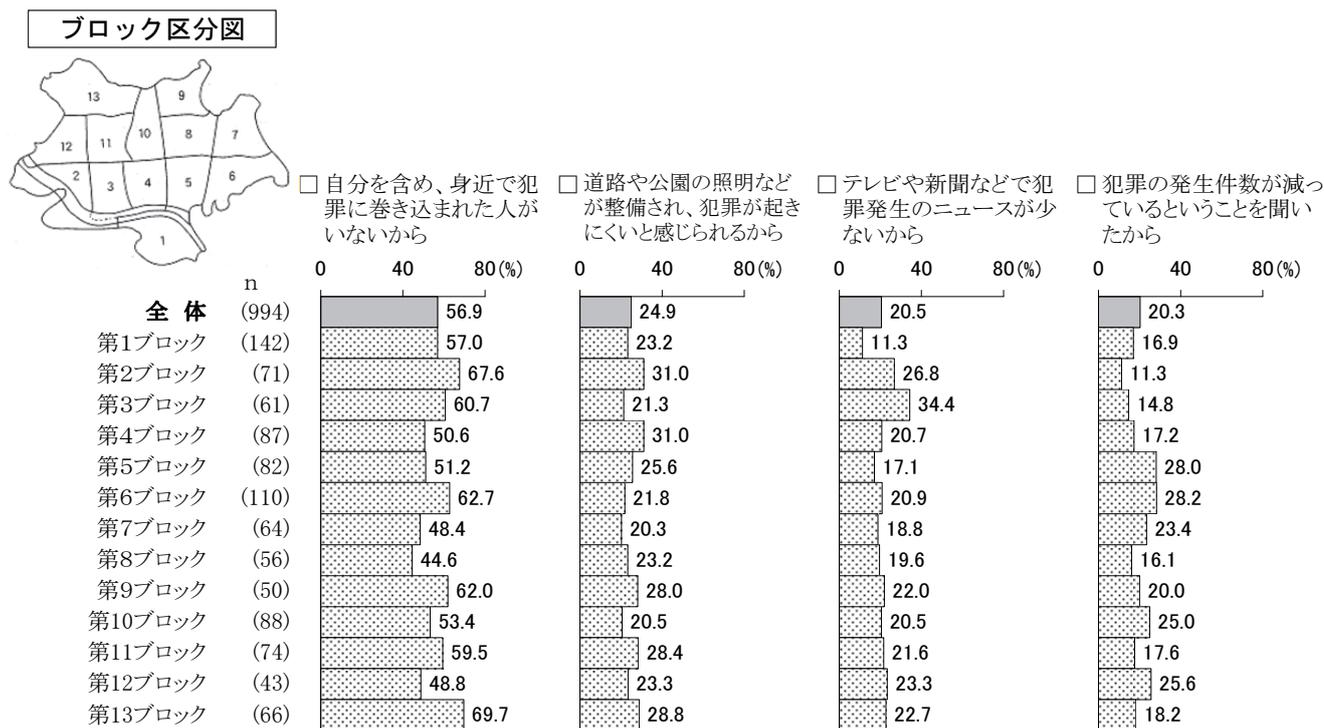
※「防犯に取り組む意識、活動が活性化してきていると感じられるから」は、25年度では「区全体の防犯に取り組む意識、活動が活性化してきていると感じられるから」。

【良い】と評価した人に、その理由を聞くと、「自分を含めて、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」が56.9%で最も高く、以下「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくいと感じられるから」（24.9%）、「テレビや新聞などで犯罪発生のニュースが少ないから」（20.5%）の順となっている。

経年でみると、「自分を含めて、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」は今回56.9%と、平成26年の58.8%より1.9ポイント低くなっており、平成25年以降の減少傾向が続いている。

地域ブロック別で見ると、「自分を含めて、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」は、第2ブロック、第13ブロックで、それぞれ67.6%、69.7%と高くなっている。「テレビや新聞などで犯罪発生のニュースが少ないから」は、第3ブロックで34.4%と高くなっている。また、「犯罪の発生件数が減っているということを聞いたから」は、第5ブロック、第6ブロックで、それぞれ28.0%、28.2%と、他のブロックよりやや高くなっている。

図6-4-2 地域ブロック別／区内の治安が良いと感じる点／上位4項目

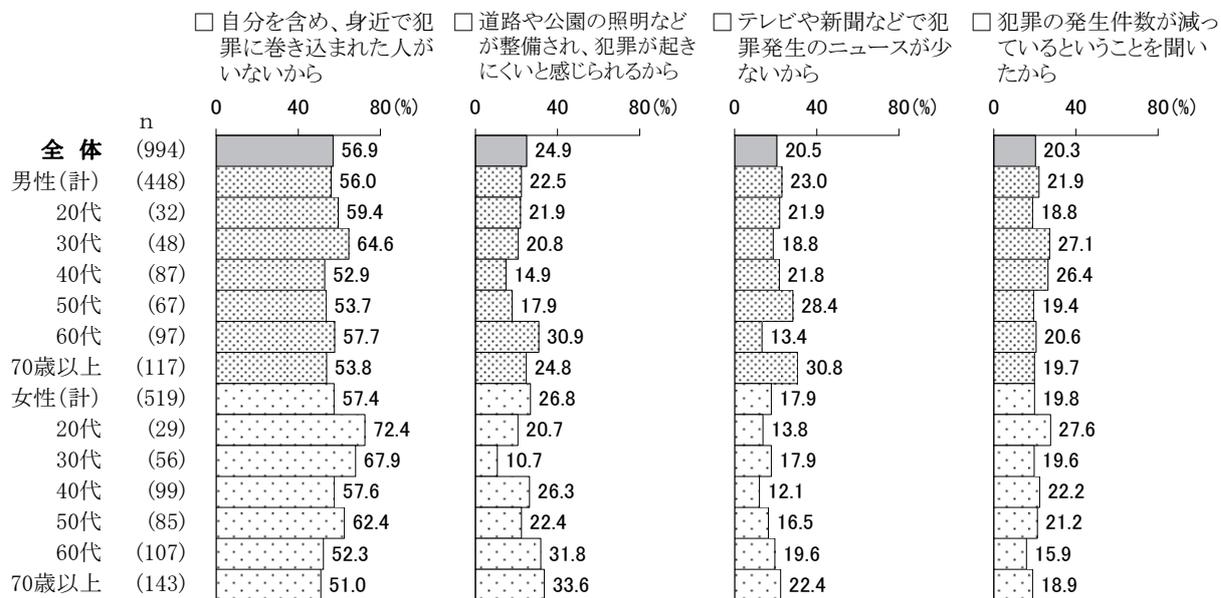


第3章 調査結果の分析

性別でみると、特に大きな差はみられない。

性・年代別でみると、「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」は男性の30代で6割台半ば、女性の20代、30代で7割前後と高くなっている。

図6-4-3 性別、性・年代別／区内の治安が良いと感じる点／上位4項目



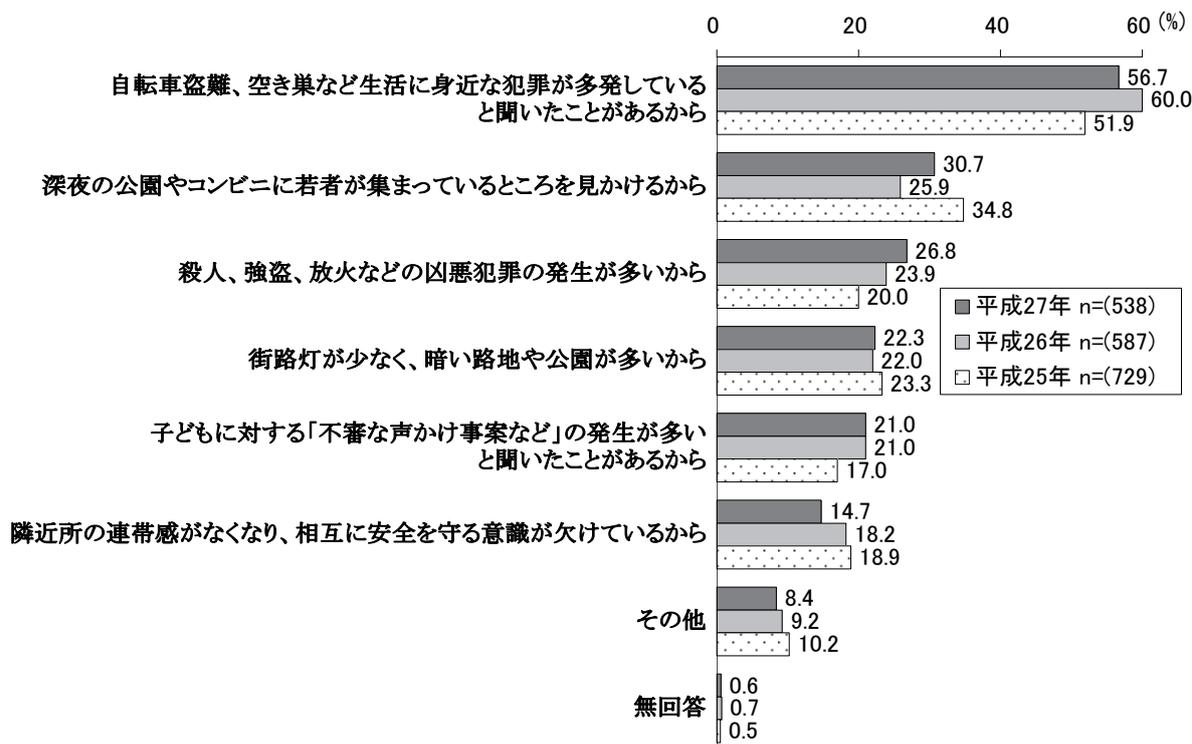
(5) 区内の治安が悪いと感じる点

■ “生活に身近な犯罪が多発している”と聞いたことがある”が5割台半ばで突出

問25で「3. どちらかといえば悪い」、または「4. 悪い」とお答えの方に

問25-2 どのような点で治安が悪いと感じますか（○は2つまで）。

図6-5-1 経年比較／区内の治安が悪いと感じる点



※「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発している」と聞いたことがあるから」は、25年度では「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発しているから」。

※「子どもに対する『不審な声かけ事案等』の発生が多い」と聞いたことがあるから」は、25年度では「子どもに対する『不審な声かけ事案等』の発生が多いから」。

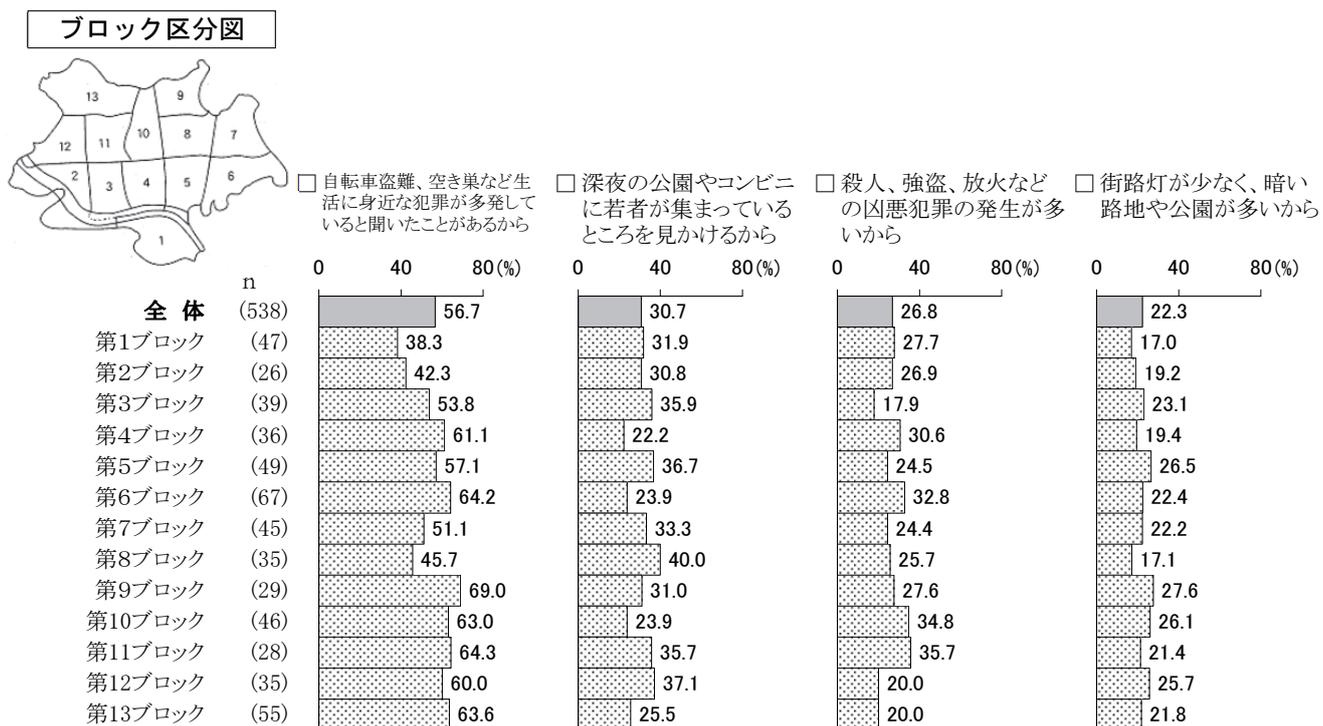
【悪い】と評価した人に、その理由を聞くと、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発している」と聞いたことがあるから」が56.7%で最も高く、以下「深夜の公園やコンビニに若者が集まっているところを見かけるから」（30.7%）、「殺人、強盗、放火などの凶悪犯罪の発生が多いから」（26.8%）の順となっている。

経年でみると、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発している」と聞いたことがあるから」は今回56.7%と、平成26年の60.0%から3.3ポイント減少している。一方、「深夜の公園やコンビニに若者が集まっているところを見かけるから」「殺人、強盗、放火などの凶悪犯罪の発生が多いから」は、いずれも微増している。

第3章 調査結果の分析

地域ブロック別でみると、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」は、第4ブロック、第6ブロック、第9ブロックから第13ブロックで6割を超えている。「深夜の公園やコンビニに若者が集まっているところを見かけるから」については、第8ブロックで40.0%と最も高くなっている。また、「殺人、強盗、放火などの凶悪犯罪の発生が多いから」については、第4ブロック、第6ブロック、第10ブロック、第11ブロックで3割を超えている。

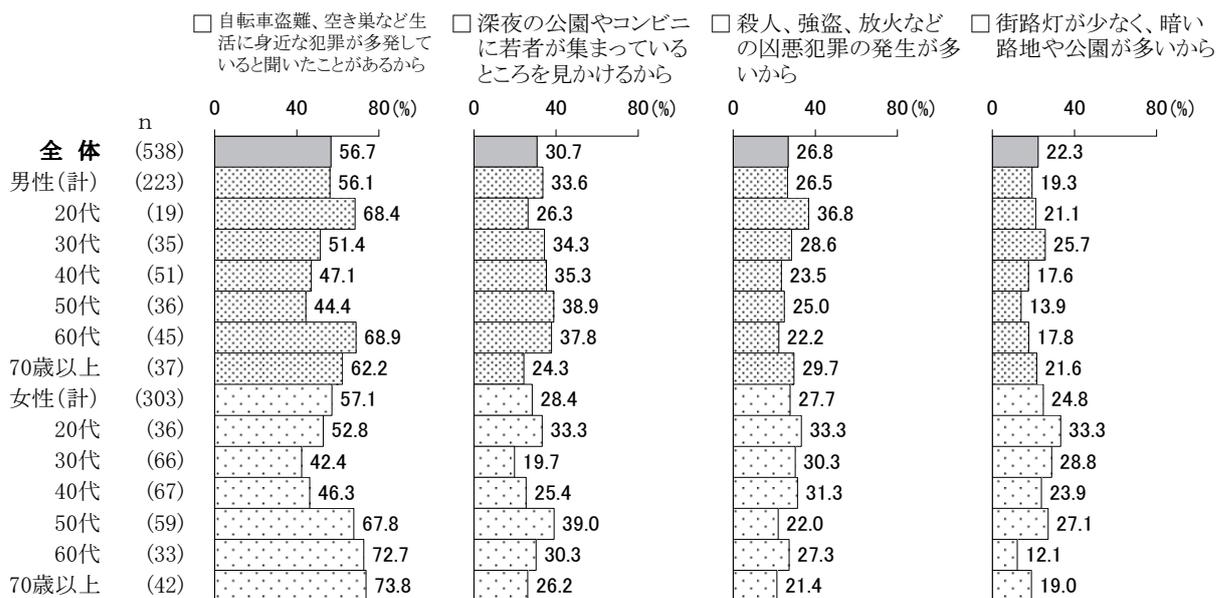
図6-5-2 地域ブロック別／区内の治安が悪いと感じる点／上位4項目



性別でみると、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発している」と聞いたことがあるから」では、男性56.1%、女性57.1%となっている。

性・年代別でみると、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発している」と聞いたことがあるから」は、女性の60代以上で7割を超えている。また、「深夜の公園やコンビニに若者が集まっているところを見かけるから」については、男性の50代、60代、女性の50代で4割弱と高くなっている。

図6-5-3 性別、性・年代別／区内の治安が悪いと感じる点／上位4項目

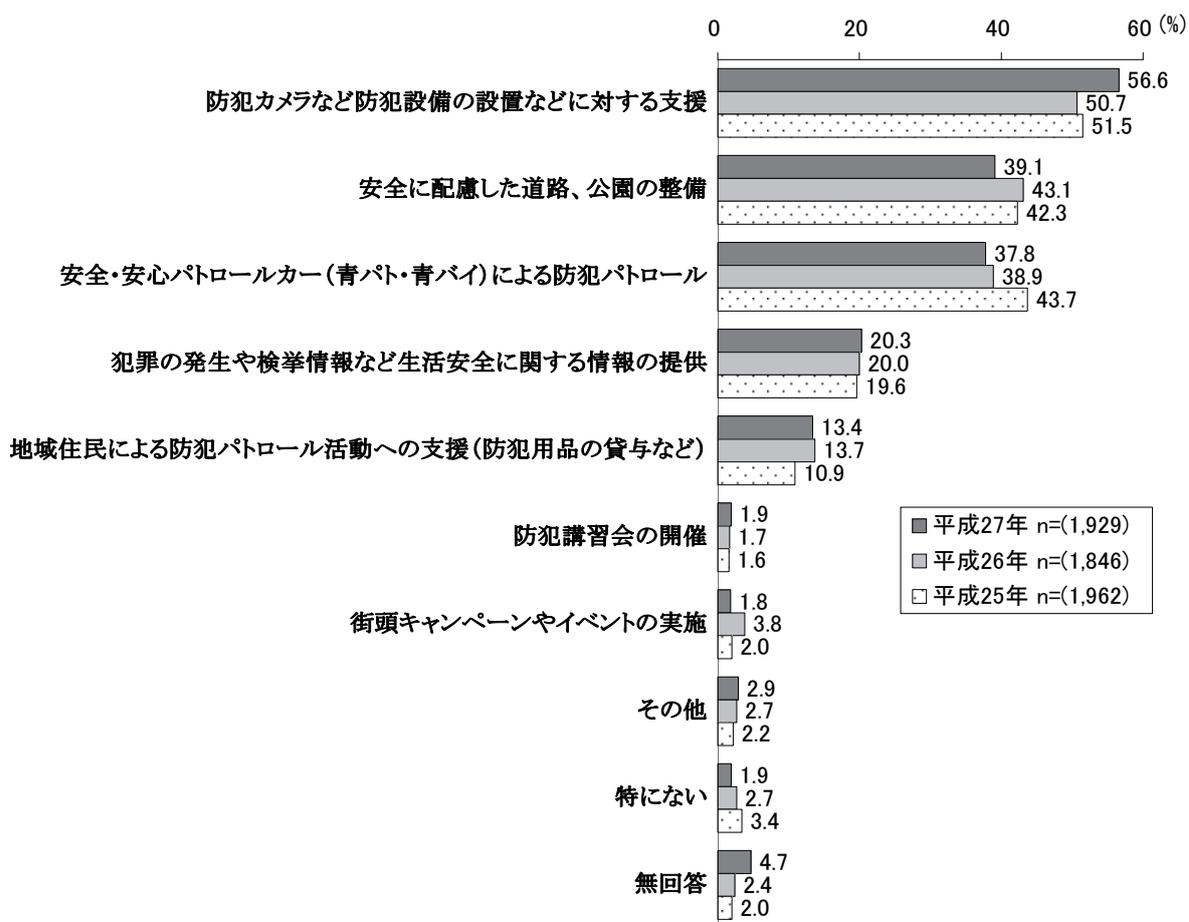


(6) 治安対策として区に力を入れてほしいこと

■ “防犯設備の設置等に対する支援”が5割台半ば、“安全に配慮した道路、公園の整備”“防犯パトロール”が4割弱

問26 あなたが、治安対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか（〇は2つまで）。

図6-6-1 経年比較／治安対策として区に力を入れてほしいこと

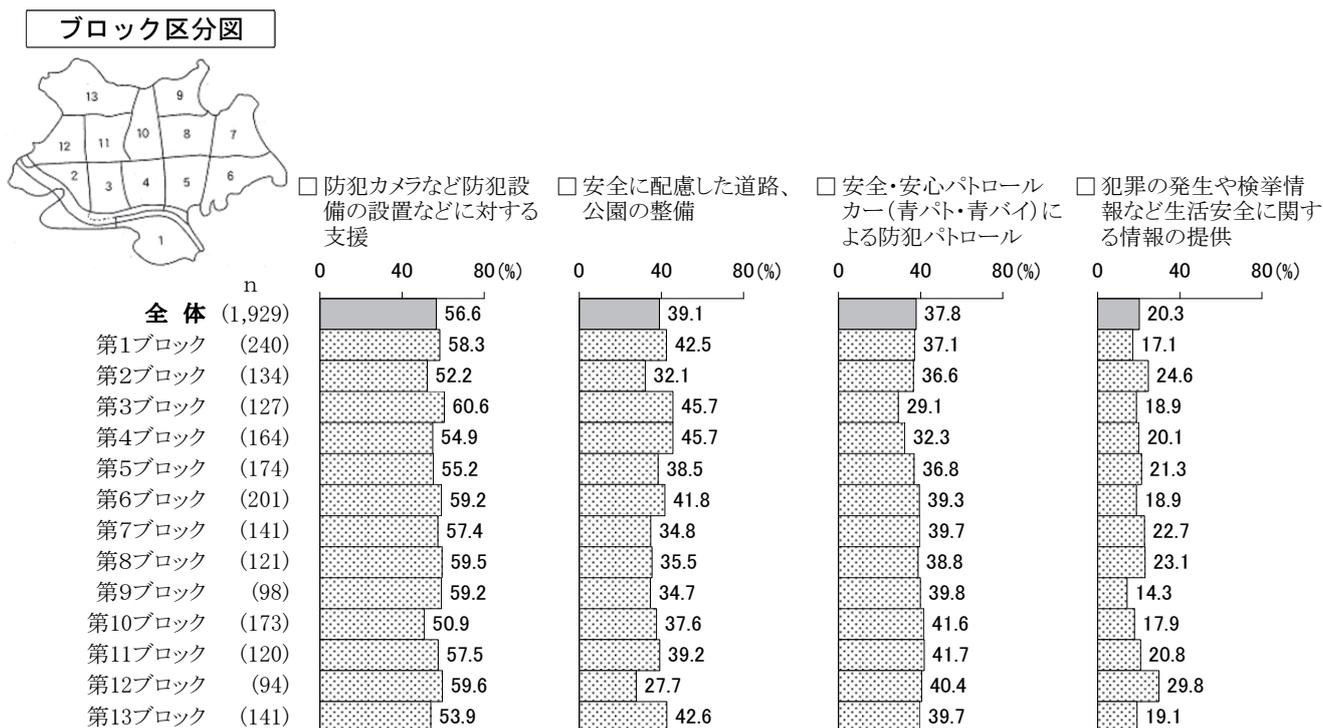


治安対策として足立区に力を入れてほしいこととしては、「防犯カメラなど防犯設備の設置などに対する支援」が56.6%で最も高く、以下「安全に配慮した道路、公園の整備」（39.1%）、「安全・安心パトロールカー（青パト・青バイ）による防犯パトロール」（37.8%）の順となっている。

経年でみると、「防犯カメラなど防犯設備の設置などに対する支援」については、今回56.6%と、平成26年の50.7%から5.9ポイント増加している。「安全に配慮した道路、公園の整備」は今回39.1%と平成26年の43.1%から4.0ポイント減少している。

地域ブロック別でみると、「防犯カメラなど防犯設備の設置などに対する支援」は、すべてのブロックで5割を超えている。「安全に配慮した道路、公園の整備」は、第3ブロック、第4ブロックで、それぞれ45.7%、45.7%と、他のブロックより高くなっている。「安全・安心パトロールカー（青パト・青バイ）による防犯パトロール」は、第3ブロック、第4ブロックで、それぞれ29.1%、32.3%と、他のブロックよりやや低くなっている。

図6-6-2 地域ブロック別／治安対策として区に力を入れてほしいこと／上位4項目



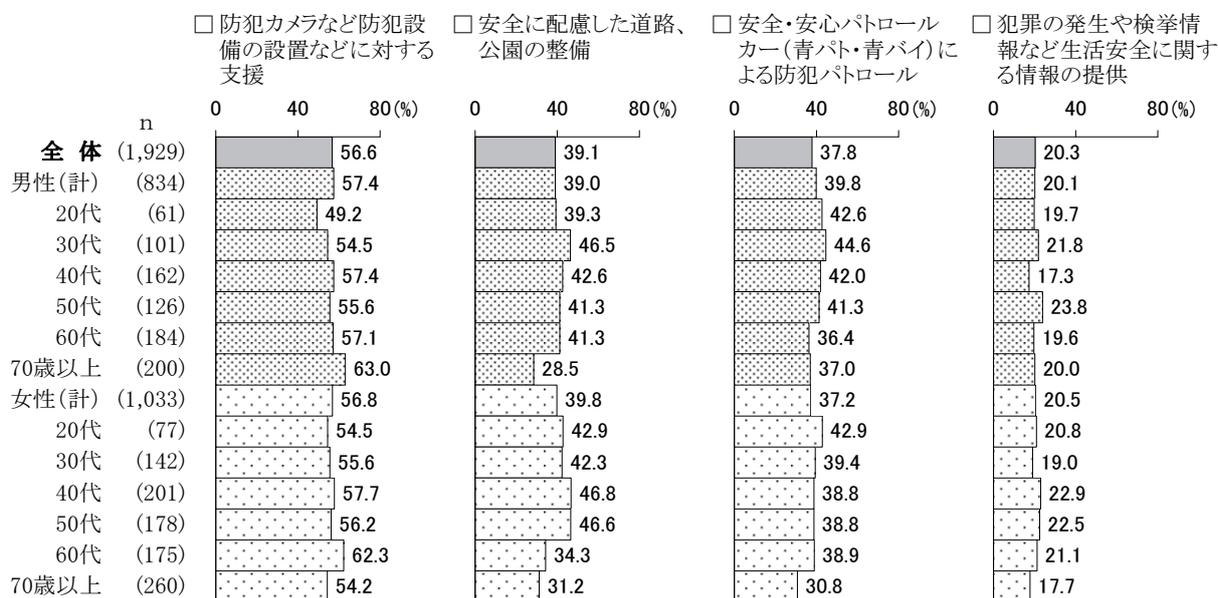
第3章 調査結果の分析

性別でみると、上位項目に大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性では、「防犯カメラなど防犯設備の設置などに対する支援」は、30代以降では5割を超え、とくに70歳以上では63.0%となっている。「安全に配慮した道路、公園の整備」は、30代で46.5%と高くなっている。また、「安全・安心パトロールカー（青パト・青バイ）による防犯パトロール」は、20代から50代で4割を超えている。

女性では、「防犯カメラなど防犯設備の設置などに対する支援」が、全年代で5割を超え、とくに60代では62.3%となっている。「安全に配慮した道路、公園の整備」は、20代から50代で4割を超えている。また、「安全・安心パトロールカー（青パト・青バイ）による防犯パトロール」は、70歳以上を除くといずれの年代でも4割前後を占めている。

図6-6-3 性別、性・年代別／治安対策として区に力を入れてほしいこと／上位4項目

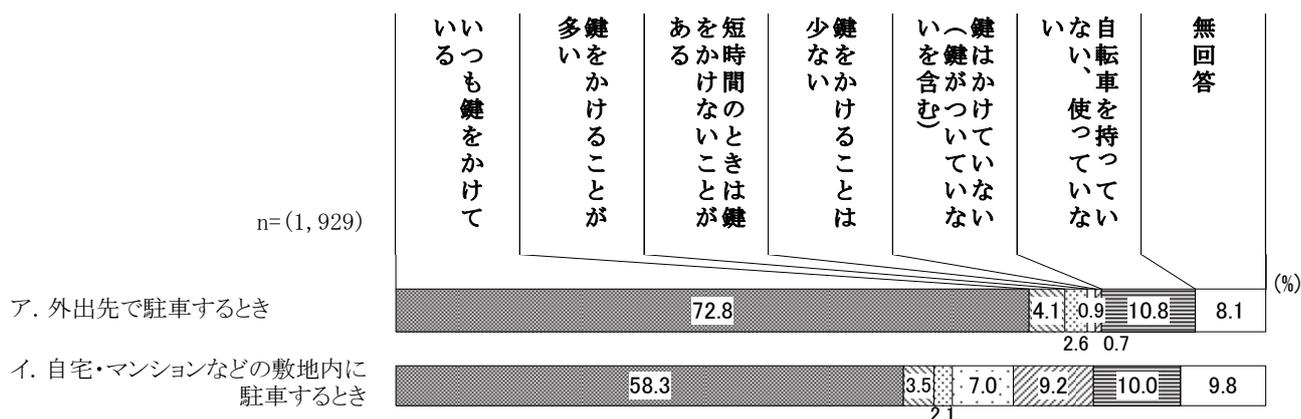


(7) 駐輪時の鍵かけ状況

■ 「いつも鍵をかけている」は、外出先の7割強に対し、敷地内では6割弱

問27 あなたは、自転車を駐車するときには、自転車に鍵をかけていますか（○はそれぞれ1つつつ）。

図6-7-1 駐輪時の鍵かけ状況



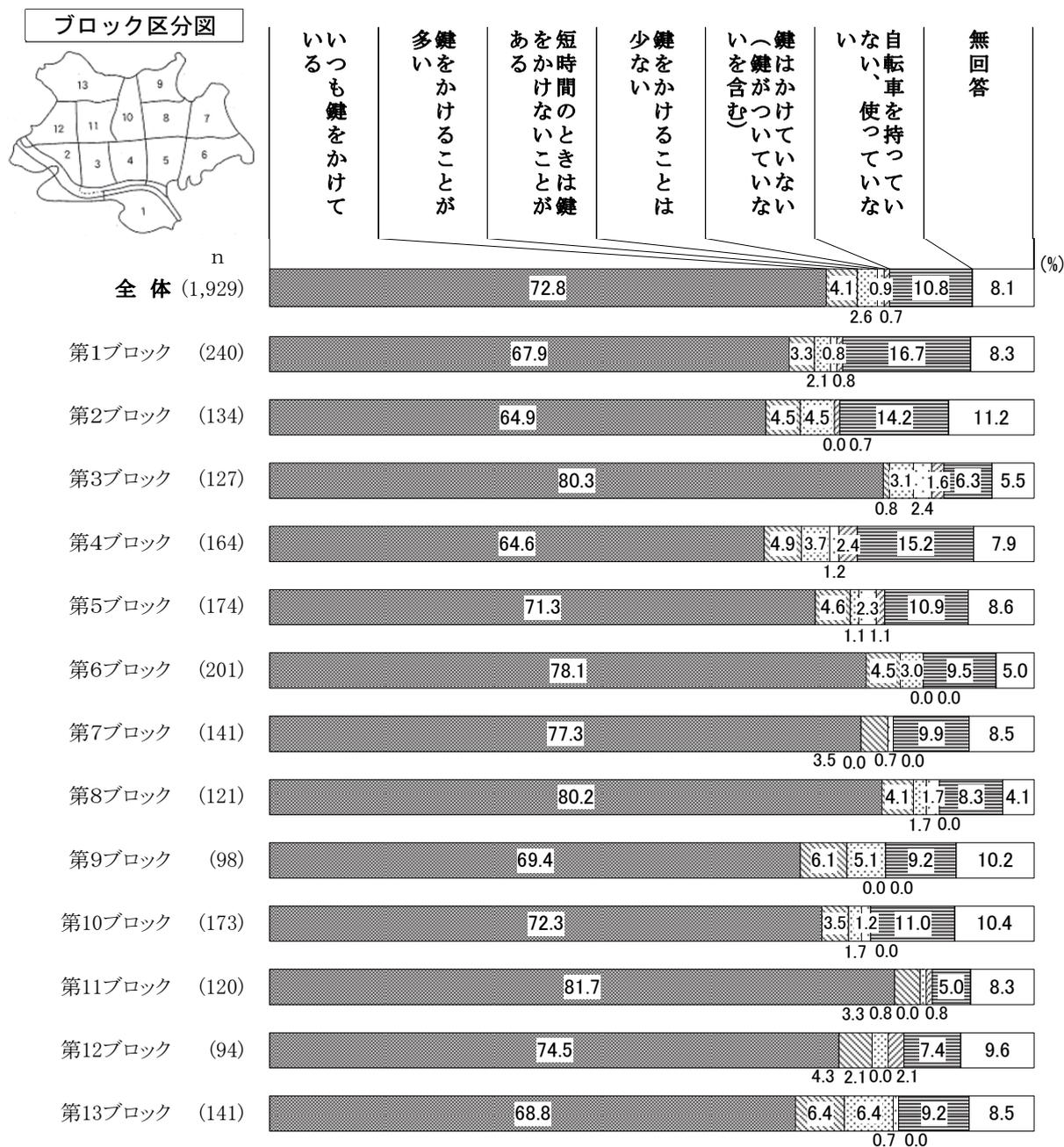
外出先で、自転車を駐車したときに鍵をかけているかについては、「いつも鍵をかけている」が72.8%で最も高く、次いで「鍵をかけることが多い」（4.1%）となっている。一方、「短時間のときは鍵をかけないことがある」は2.6%、「鍵をかけることは少ない」は0.9%、「鍵はかけていない（錠がついていないを含む）」は0.7%となっている。

自宅・マンションなどの敷地内に自転車を駐車したときに鍵をかけているか、については、「いつも鍵をかけている」が58.3%で最も高く、次いで「鍵をかけることが多い」（3.5%）となっている。一方、「短時間のときは鍵をかけないことがある」は2.1%、「鍵をかけることは少ない」は7.0%、「鍵はかけていない（錠がついていないを含む）」は9.2%となっている。

第3章 調査結果の分析

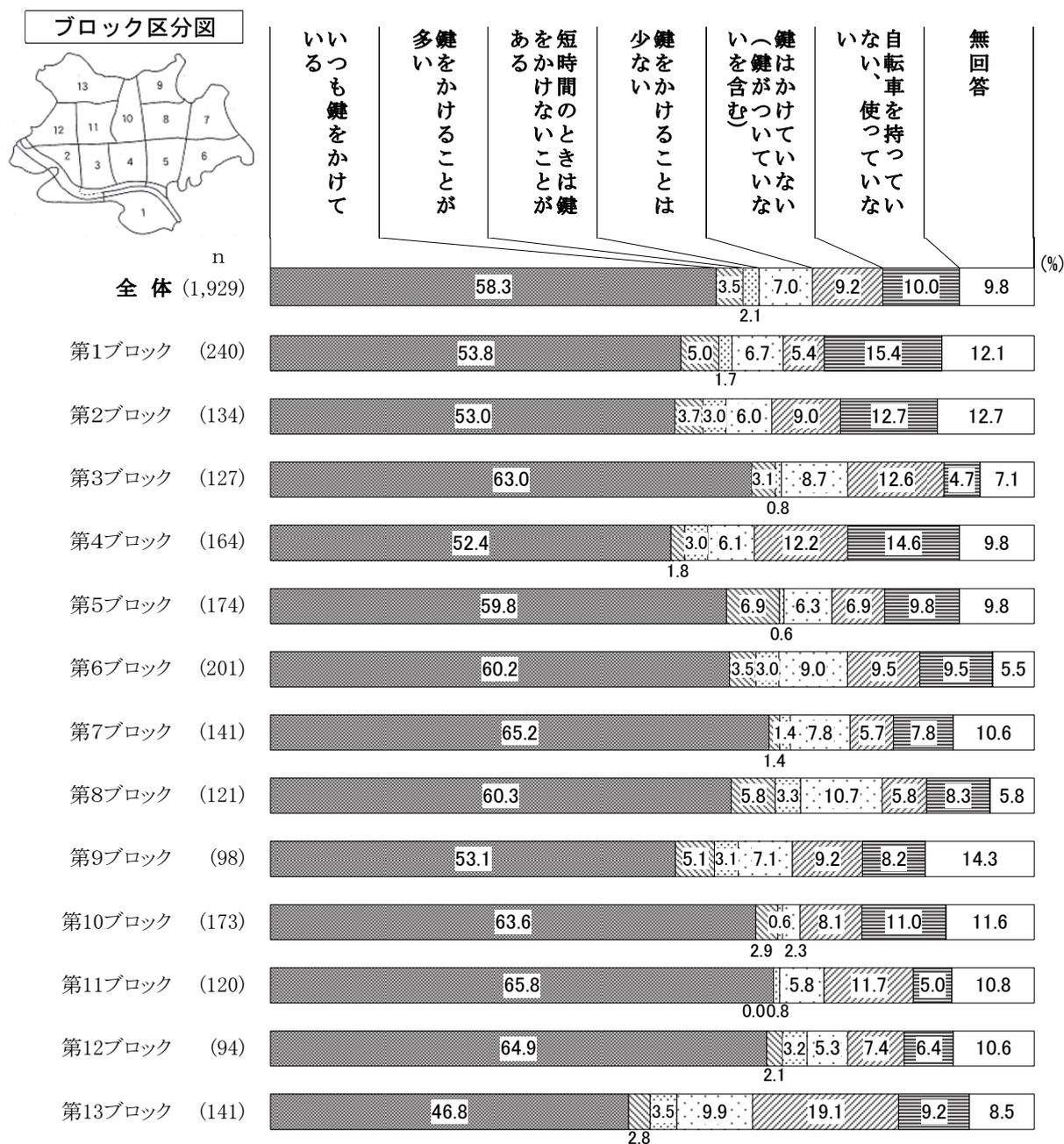
外出先で、自転車を駐車したときに鍵をかけているかについて、地域ブロック別でみると、第3ブロック、第8ブロック、第11ブロックでは「いつも鍵をかけている」が8割を超えている。

図6-7-2-① 地域ブロック別／駐輪時の鍵かけ状況／外出先



自宅・マンションなどの敷地内に自転車を駐車したときに鍵をかけているかについて、地域ブロック別でみると、第3ブロック、第7ブロック、第10ブロックから第12ブロックでは、「いつも鍵をかけている」が6割台半ば前後を占めている。

図6-7-3-② 地域ブロック別／駐輪時の鍵かけ状況／敷地内

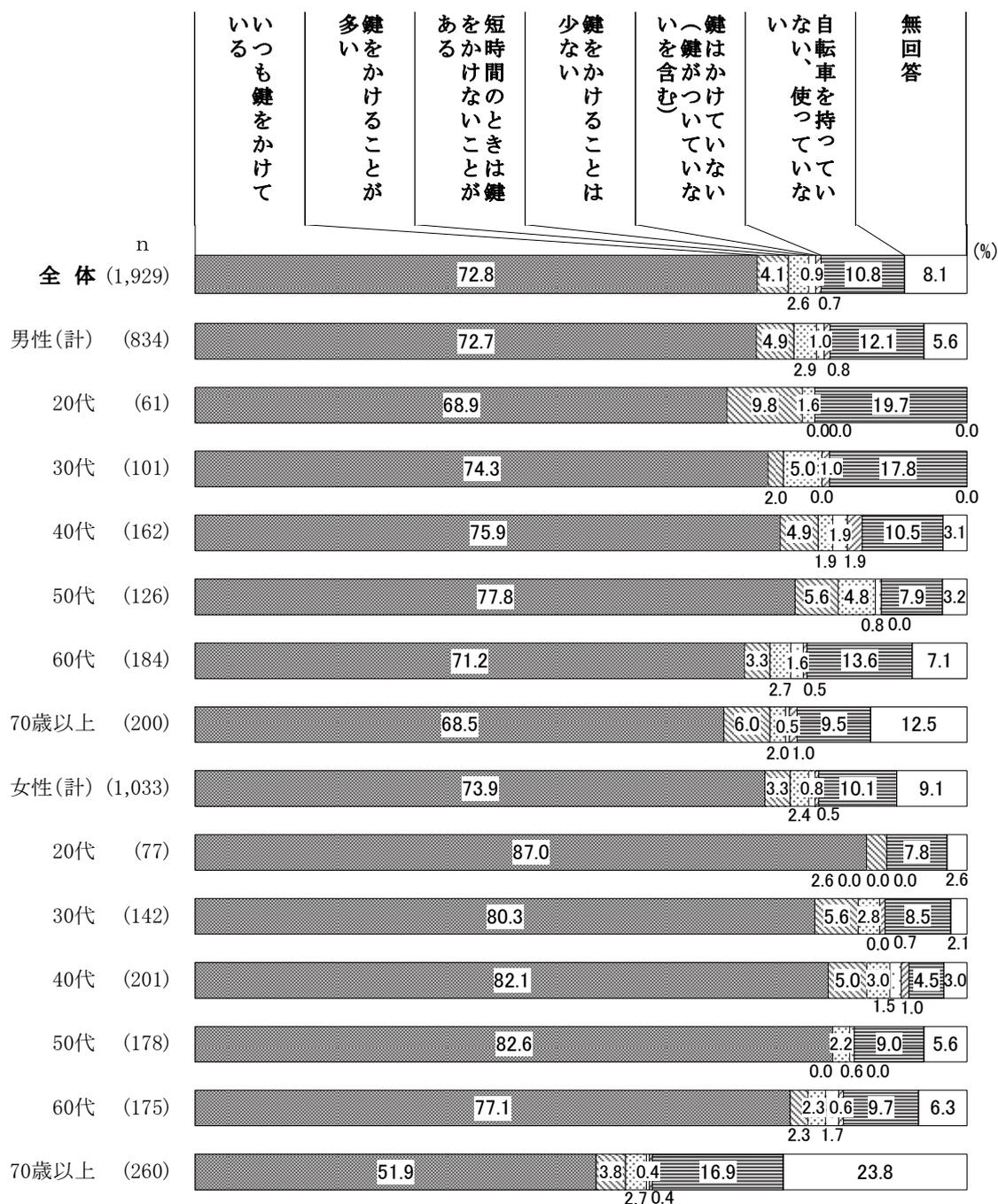


第3章 調査結果の分析

外出先で、自転車を駐車したときに鍵をかけているかについて、性別でみると、「いつも鍵をかけている」は男性72.7%、女性73.9%となっている。

性・年代別でみると、70歳以上の女性を除くと、男女各年代とも「いつも鍵をかけている」が高くなっている。

図6-7-4-① 性別、性・年代別／駐輪時の鍵かけ状況／外出先

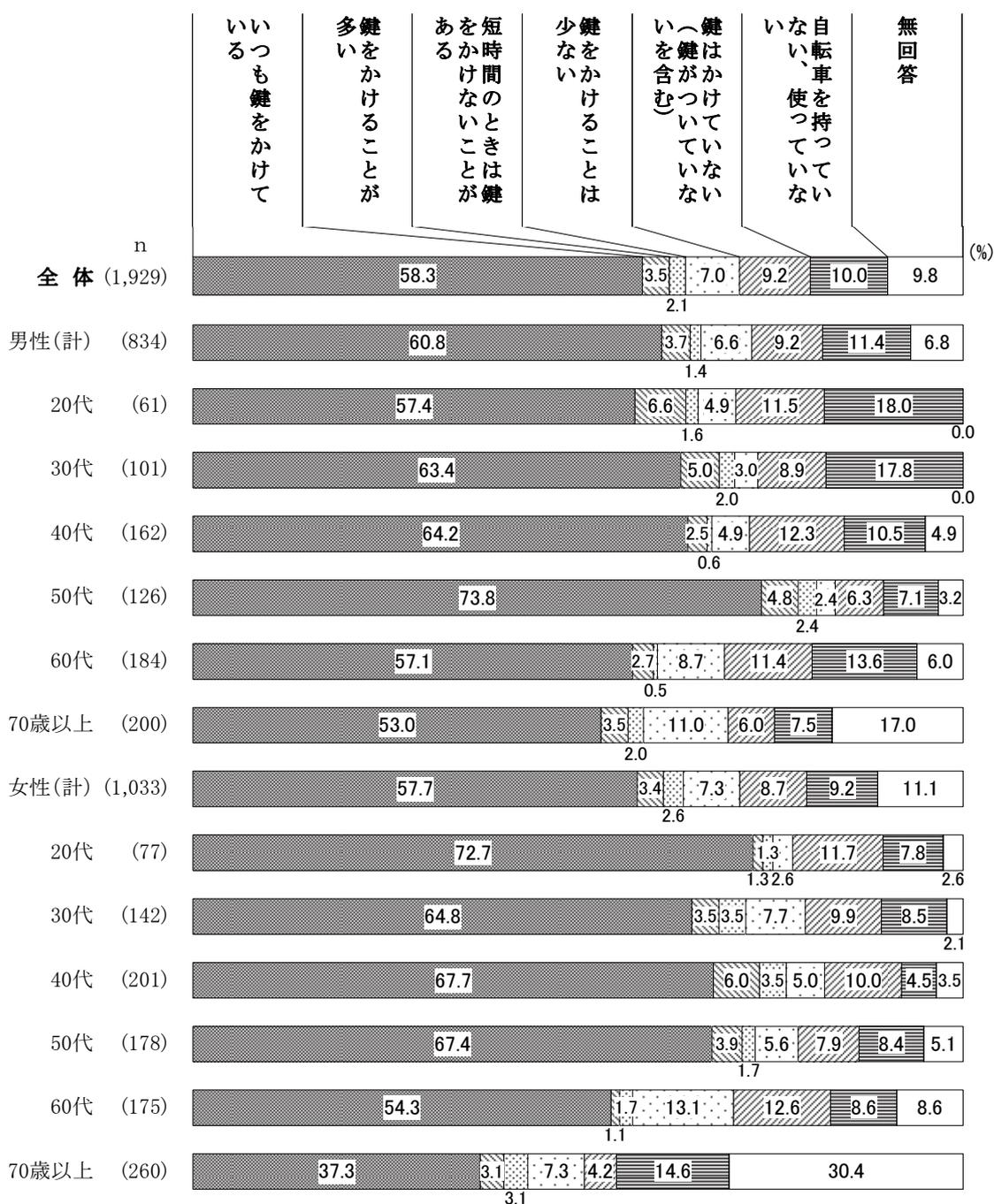


自宅・マンションなどの敷地内に自転車を駐車したときに鍵をかけているかについて、性別で見ると、「いつも鍵をかけている」は男性60.8%、女性57.7%となっている。

性・年代別で見ると、男性では、50代で「いつも鍵をかけている」が73.8%と高くなっている。一方、20代、60代、70歳以上では「いつも鍵をかけている」は5割台となっている。

女性では、20代では「鍵をかけている」が72.7%と高く、30代から50代でも6割を超えているが、70歳以上では37.3%と低くなっている。

図6-7-5-② 性別、性・年代別／駐輪時の鍵かけ状況／敷地内



7 環境・地域活動

-
- (1) 環境のために心がけていること
 - (2) この1年間に参加した活動と今後の参加意向
 - (3) 区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業推進の評価
-

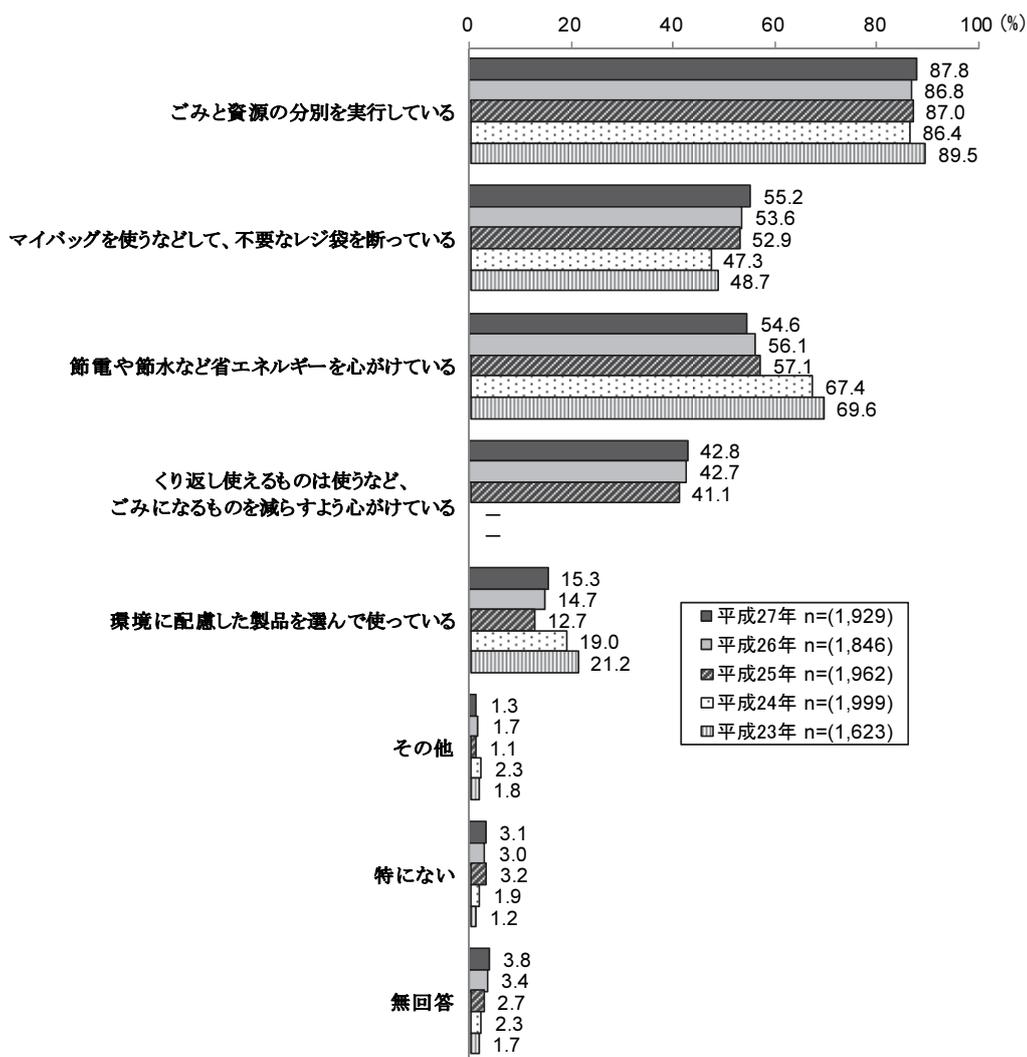
7. 環境・地域活動

(1) 環境のために心がけていること

■ 「ごみと資源の分別を実行している」が8割台後半を維持

問28 あなたが環境のために心がけていることは何ですか（○はあてはまるものすべて）。

図7-1-1 経年比較／環境のために心がけていること



環境のために心がけていることとしては、「ごみと資源の分別を実行している」が87.8%で最も高く、以下「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」（55.2%）、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」（54.6%）の順となっている。

経年でみると、上位項目について、順位、数値に大きな変動はみられない。

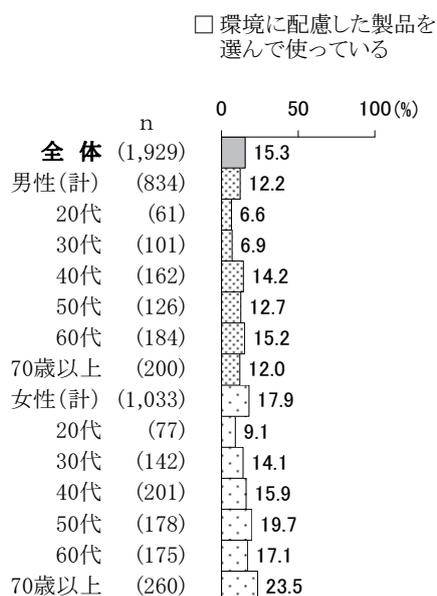
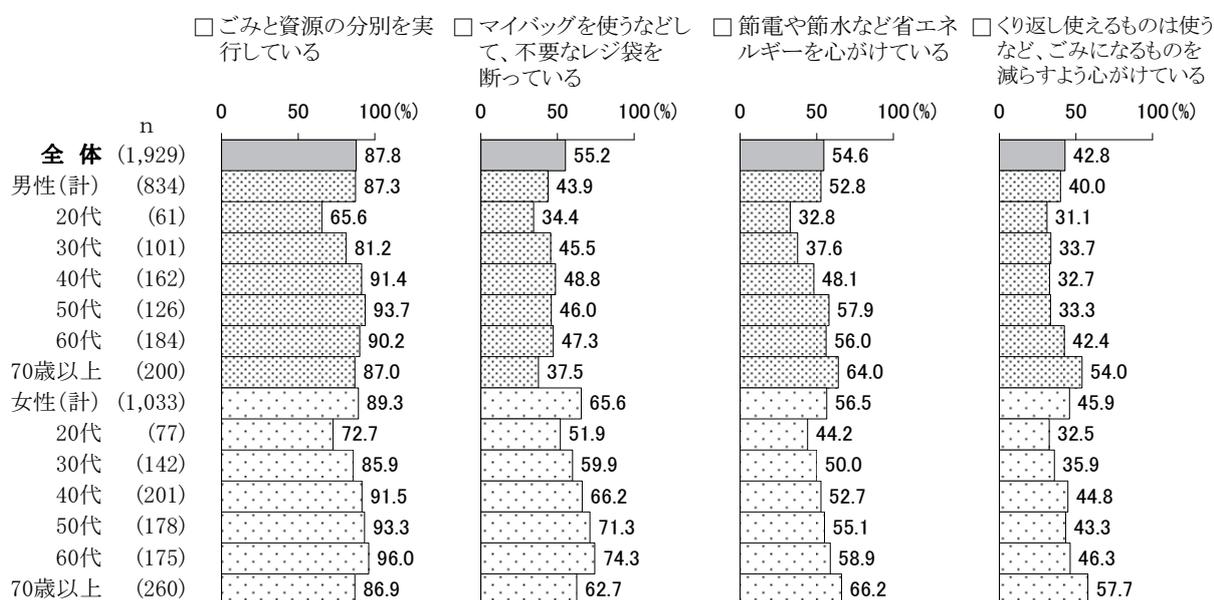
第3章 調査結果の分析

性別でみると、女性では「マイバックを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」が65.6%と、男性（43.9%）より高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、「ごみと資源の分別を実行している」は、40代から60代で9割を超えている。「節電や節水など省エネルギーを心がけている」は、加齢とともに増加し、70歳以上では64.0%となっている。

女性では「ごみと資源の分別を実行している」は、40代から60代で9割を超えている。「マイバックを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」については、50代、60代でそれぞれ71.3%、74.3%と、他の年代より高くなっている。「節電や節水など省エネルギーを心がけている」は、加齢とともに増加し、70歳以上では66.2%となっている。

図7-1-2 性別、性・年代別／環境のために心がけていること

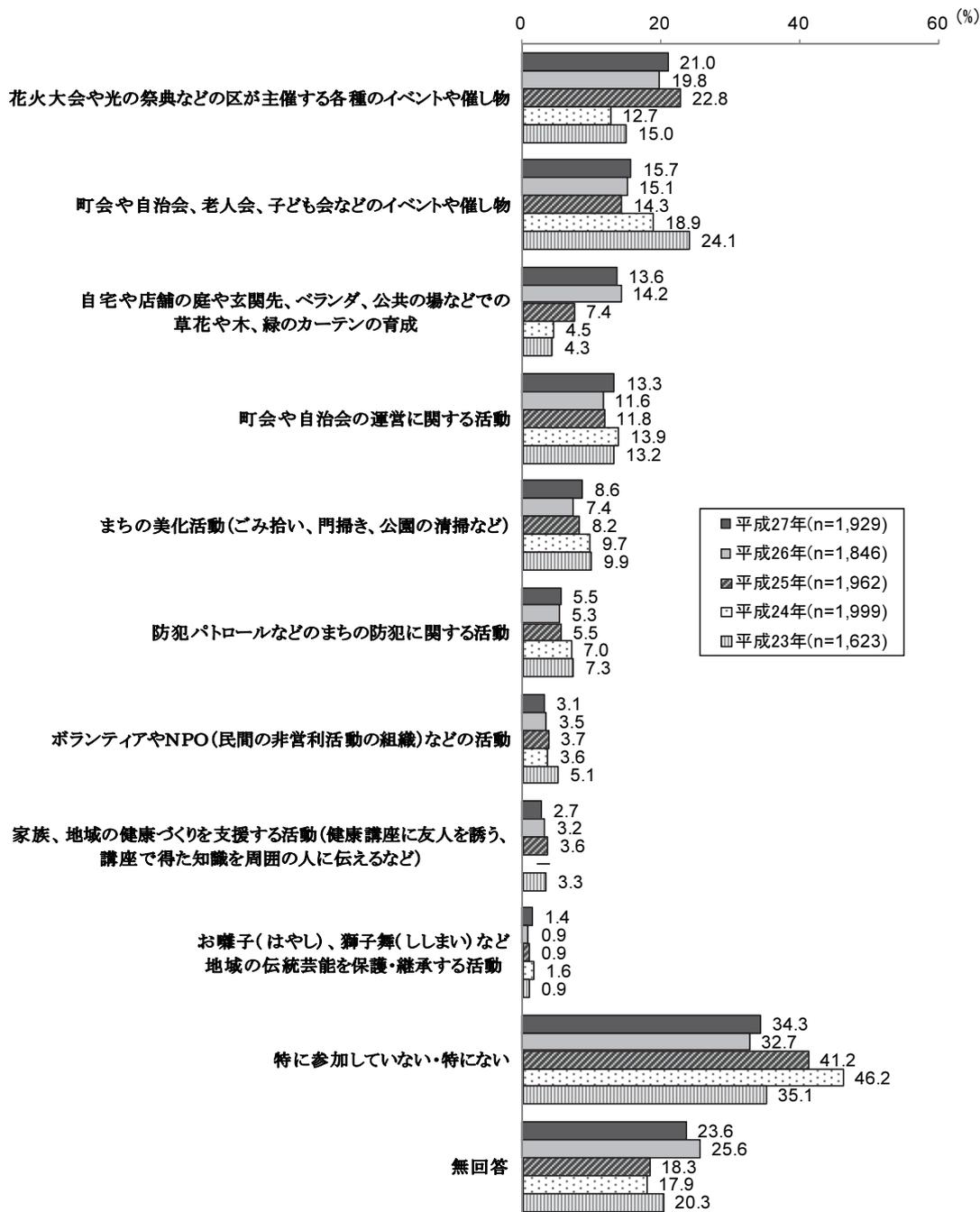


(2) この1年間に参加した活動と今後の参加意向

■ 活動経験・参加意向とも“区が主催する各種のイベントや催し物”が最多

問29 あなたがこの1年間に参加された活動と、引き続き、または今後あなたが参加したいと思う活動はどれですか（〇はいずれも、あてはまるものすべて）。

図7-2-1 経年比較／この1年間に参加した活動



※24年度は、「家族、地域の健康づくりを支援する活動」を設けていない。

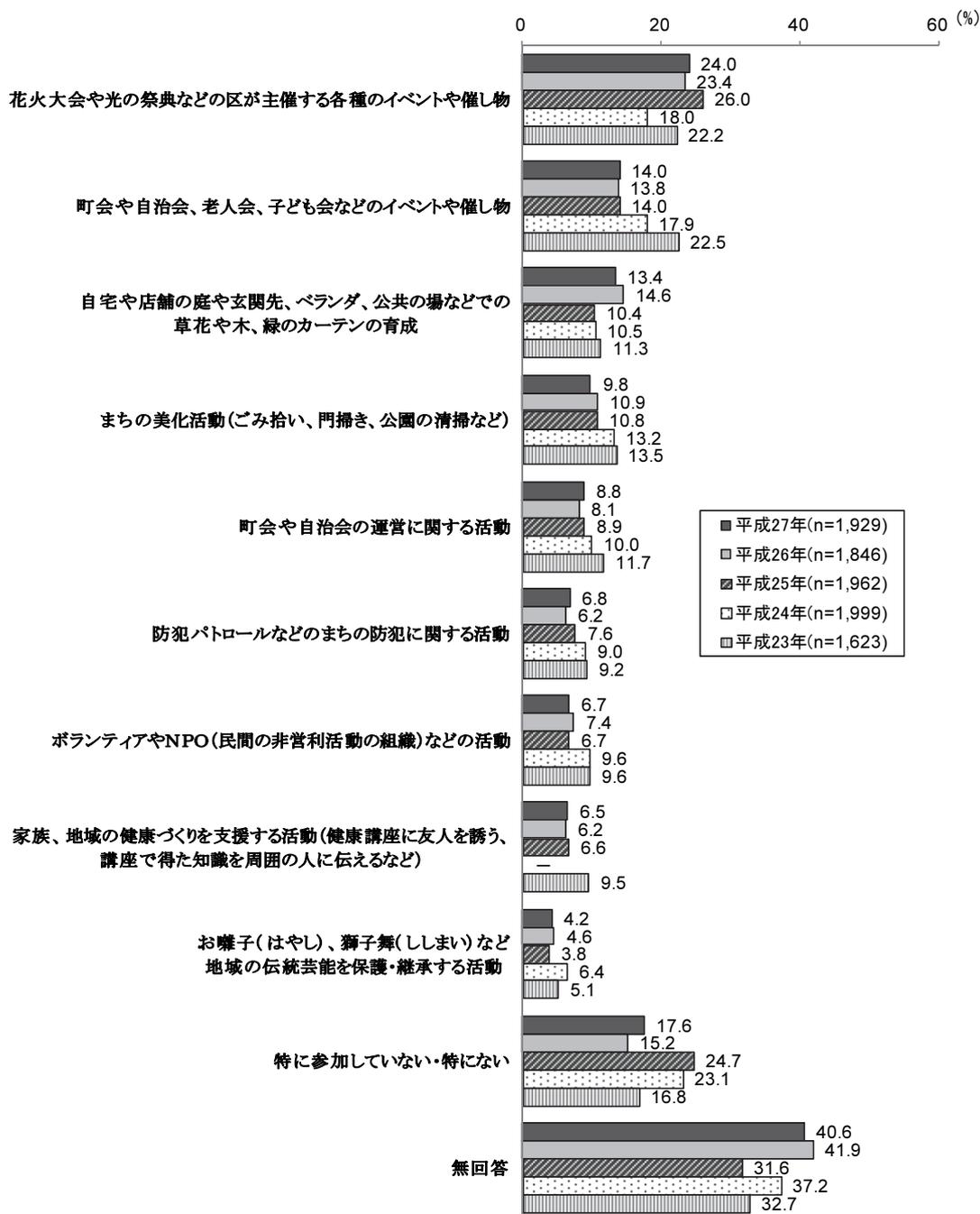
※「自宅や店舗の庭や玄関先、ベランダ、公共の場等での草花や木、緑のカーテンの育成」は、25年度まで「自宅や公共の場での花壇づくり、緑のカーテンの設置など緑化活動」。

第3章 調査結果の分析

この1年間で参加した活動としては、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が21.0%で最も高く、以下「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」（15.7%）、「自宅や店舗の庭や玄関先、ベランダ、公共の場などでの草花や木、緑のカーテンの育成」（13.6%）の順で続いている。

経年でみると、上位項目の順位、数値に大きな変動はみられない。

図7-2-2 経年比較/今後の参加意向



※24年度は、「家族、地域の健康づくりを支援する活動」を設けていない。

※「自宅や店舗の庭や玄関先、ベランダ、公共の場等での草花や木、緑のカーテンの育成」は、25年度まで「自宅や公共の場での花壇づくり、緑のカーテンの設置など緑化活動」。

今後、参加したい活動としては、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が24.0%で最も高く、以下「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」（14.0%）、「自宅や店舗の庭や玄関先、ベランダ、公共の場などでの草花や木、緑のカーテンの育成」（13.4%）の順で続いている。

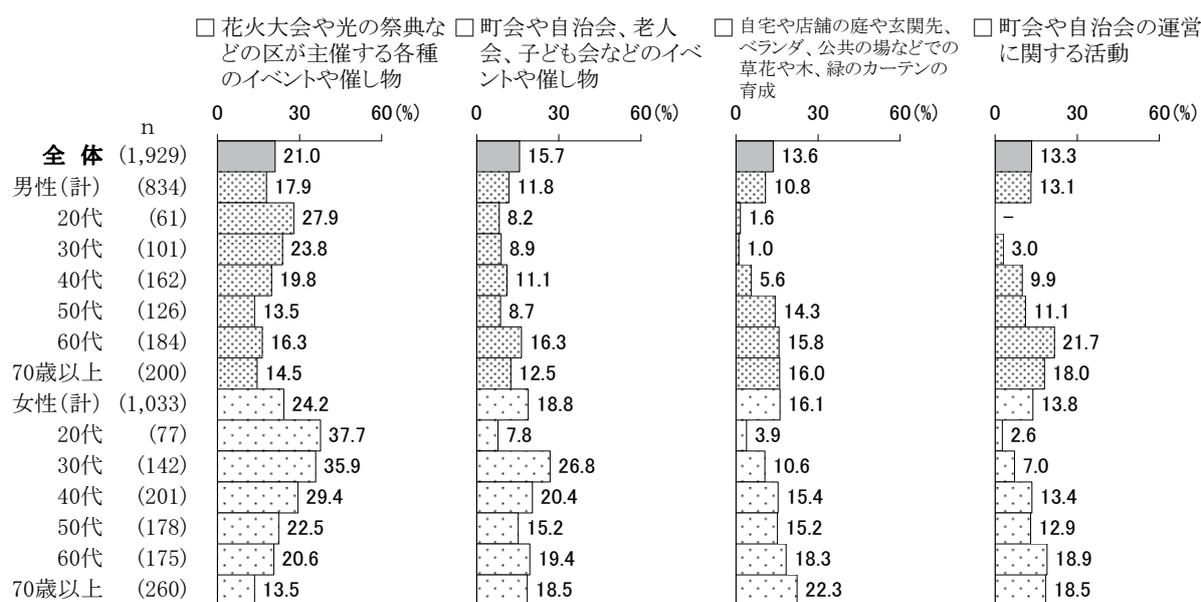
経年でみると、上位項目の順位、数値に大きな変動はみられない。

〈参加した活動〉について、性別でみると、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が男性17.9%、女性24.2%と、男性より女性で高くなっている。

性・年代別でみると、男性では20代で「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が27.9%と3割近くと高くなっている。

女性では、20代、30代で「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が、それぞれ37.7%、35.9%と、他の年代より高くなっている。

図7-2-3 性別、性・年代別／この1年間に参加した活動／上位4項目



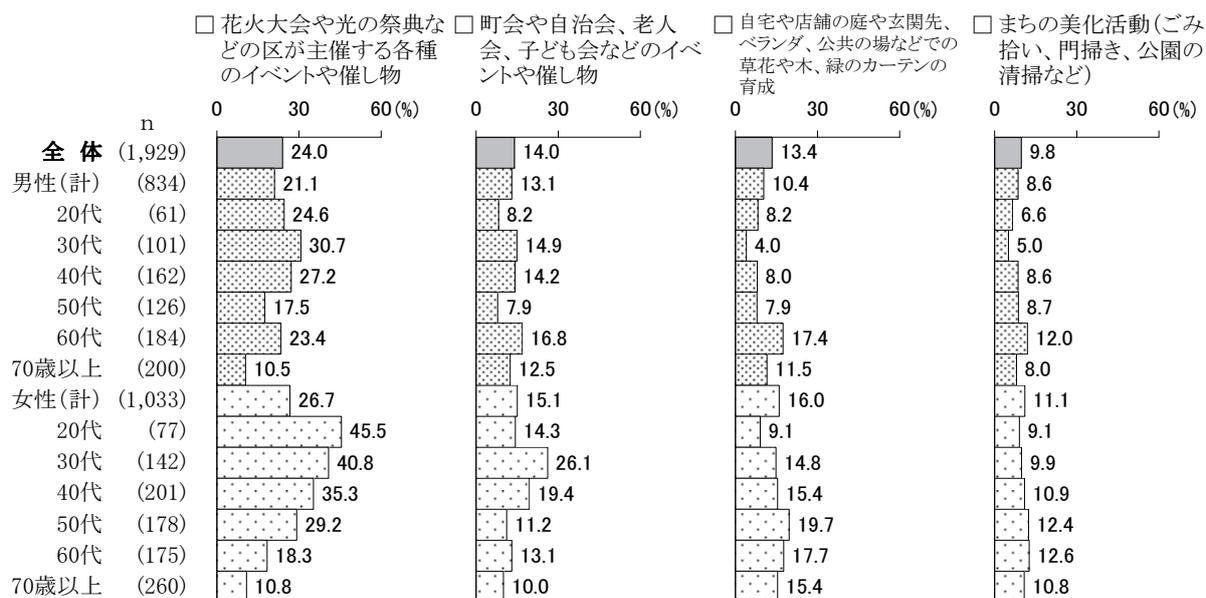
第3章 調査結果の分析

〈今後の参加意向〉について、性別で見ると、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が男性21.1%、女性26.7%と、男性より女性で高くなっている。

性・年代別で見ると、男性では「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が30代で30.7%と高くなっているほか、20代、40代、60代も2割を超えている。

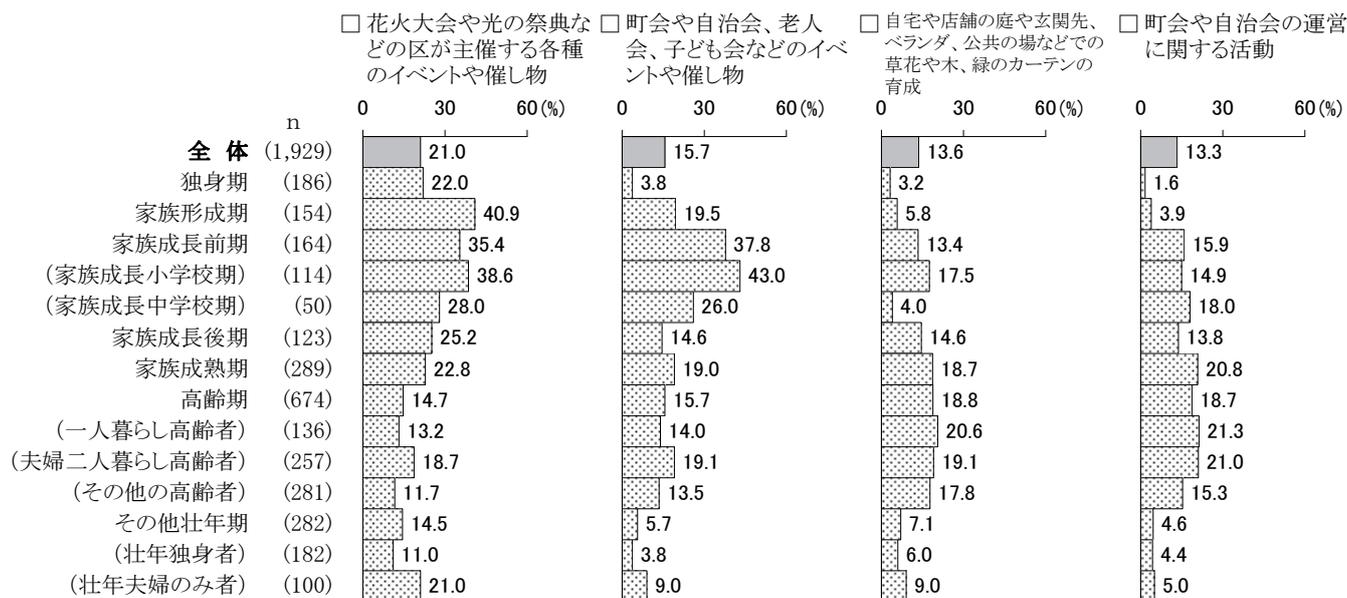
女性では、若い年代ほど「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が増加する傾向があり、20代では45.5%となっている。

図7-2-4 性別、性・年代別／今後の参加意向／上位4項目



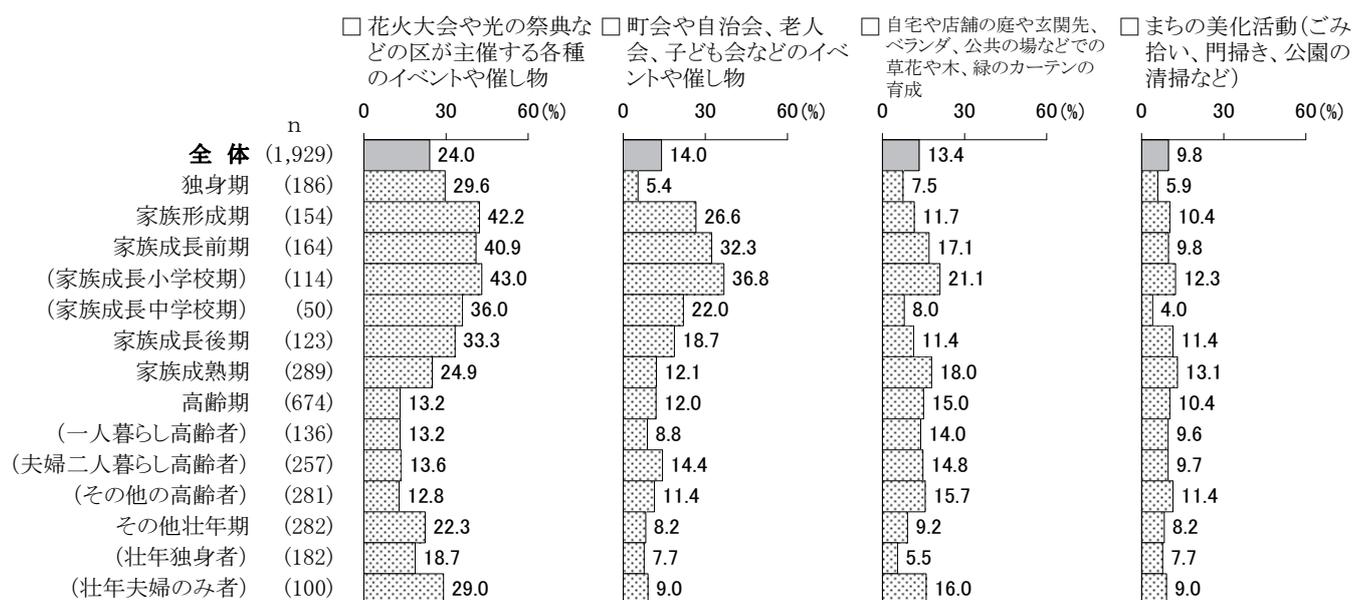
〈参加した活動〉について、ライフステージ別で見ると、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」は、家族形成期で40.9%と高くなっているほか、家族成長前期でも35.4%を占めている。また、「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」についても家族成長前期では37.8%となっている。

図7-2-5 ライフステージ別／この1年間に参加した活動／上位4項目



〈今後の参加意向〉について、ライフステージ別でみると、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」は、家族形成期、家族成長前期で、それぞれ42.2%、40.9%と高くなっている。また、「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」についても、家族成長前期で32.3%となっている。

図7-2-6 ライフステージ別／今後の参加意向／上位4項目

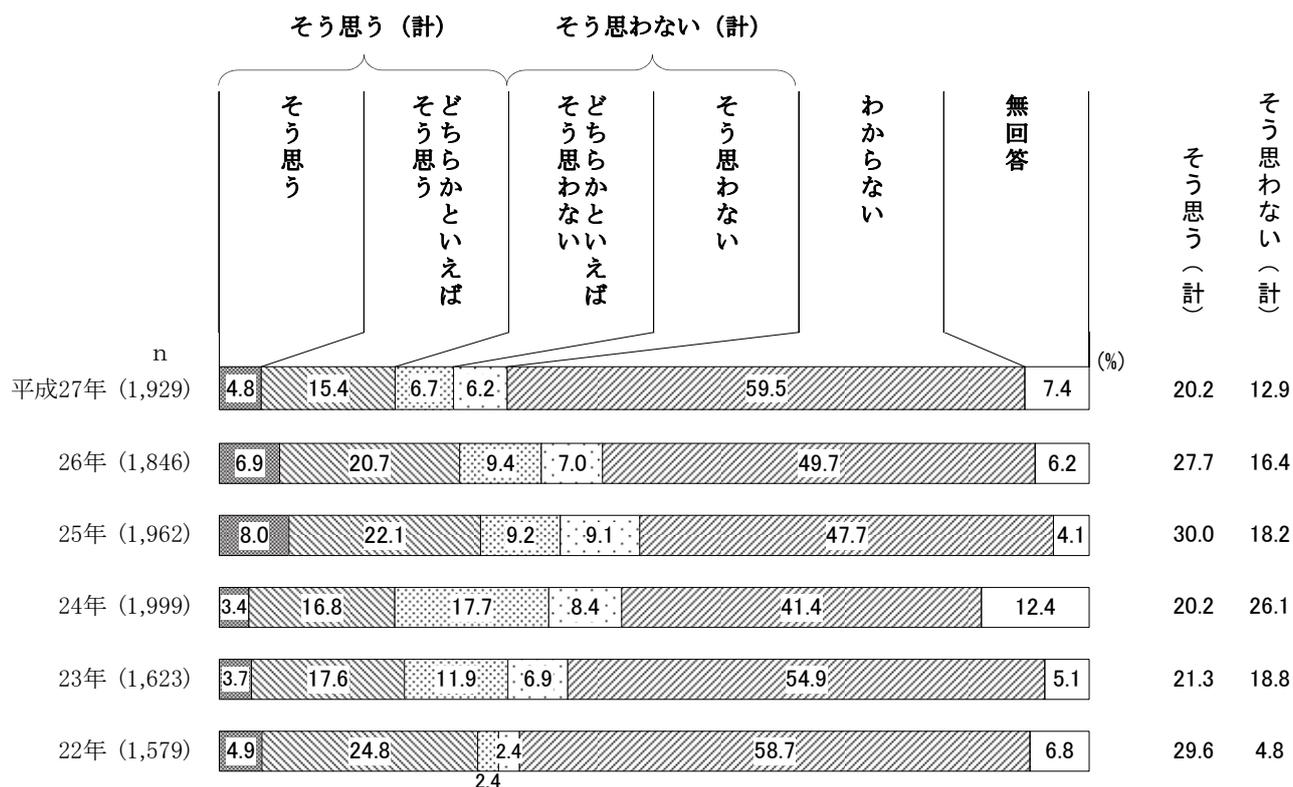


(3) 区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業推進の評価

■ 【そう思う】が【そう思わない】を上回るも、「わからない」が6割で急増

問30 あなたは、区役所が孤立ゼロプロジェクトやビューティフル・ウィンドウズ運動など区民・団体と協力・連携（協働）して事業を進めていると感じていますか（○は1つだけ）。

図7-3-1 経年比較／区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業推進の評価

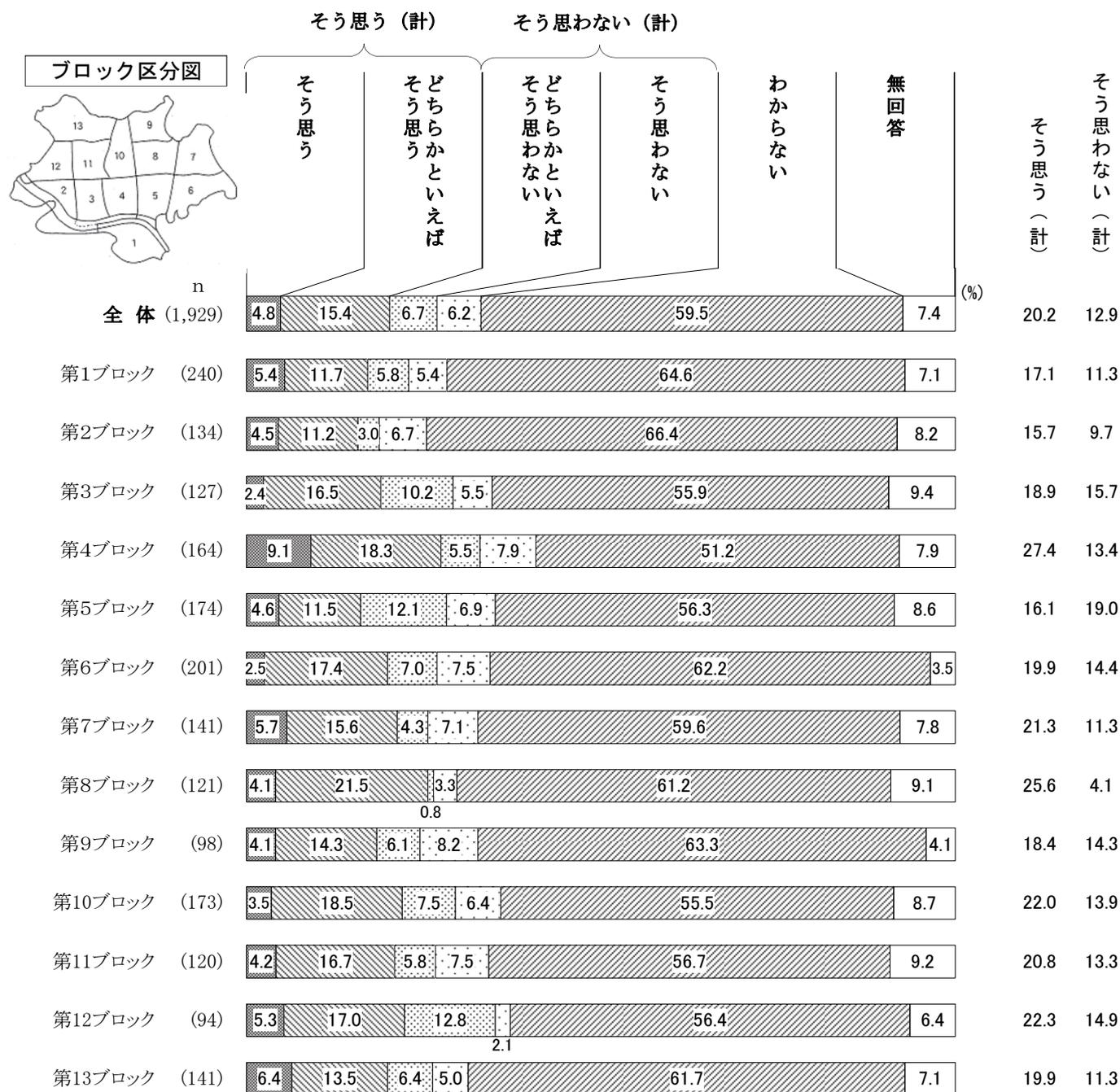


区役所が区民・団体と協力・連携（協働）して事業を進めていることについて、「そう思う」は4.8%で、これに「どちらかといえばそう思う」の15.4%を合わせた【そう思う】は20.2%となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」（6.7%）と「そう思わない」（6.2%）を合わせた【そう思わない】は12.9%となっている。また、「わからない」が59.5%と、6割近くを占めている。

経年でみると、【そう思う】は今回20.2%と、平成26年の27.7%から7.5ポイント減少している。一方、「わからない」が今回59.5%と、平成26年の49.7%から9.8ポイントと大きく増加している。

地域ブロック別で見ると、【そう思う】は、第4ブロック、第8ブロックで、それぞれ27.4%、25.6%と、他のブロックよりやや高くなっている。

図7-3-2 地域ブロック別／区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業推進の評価



第3章 調査結果の分析

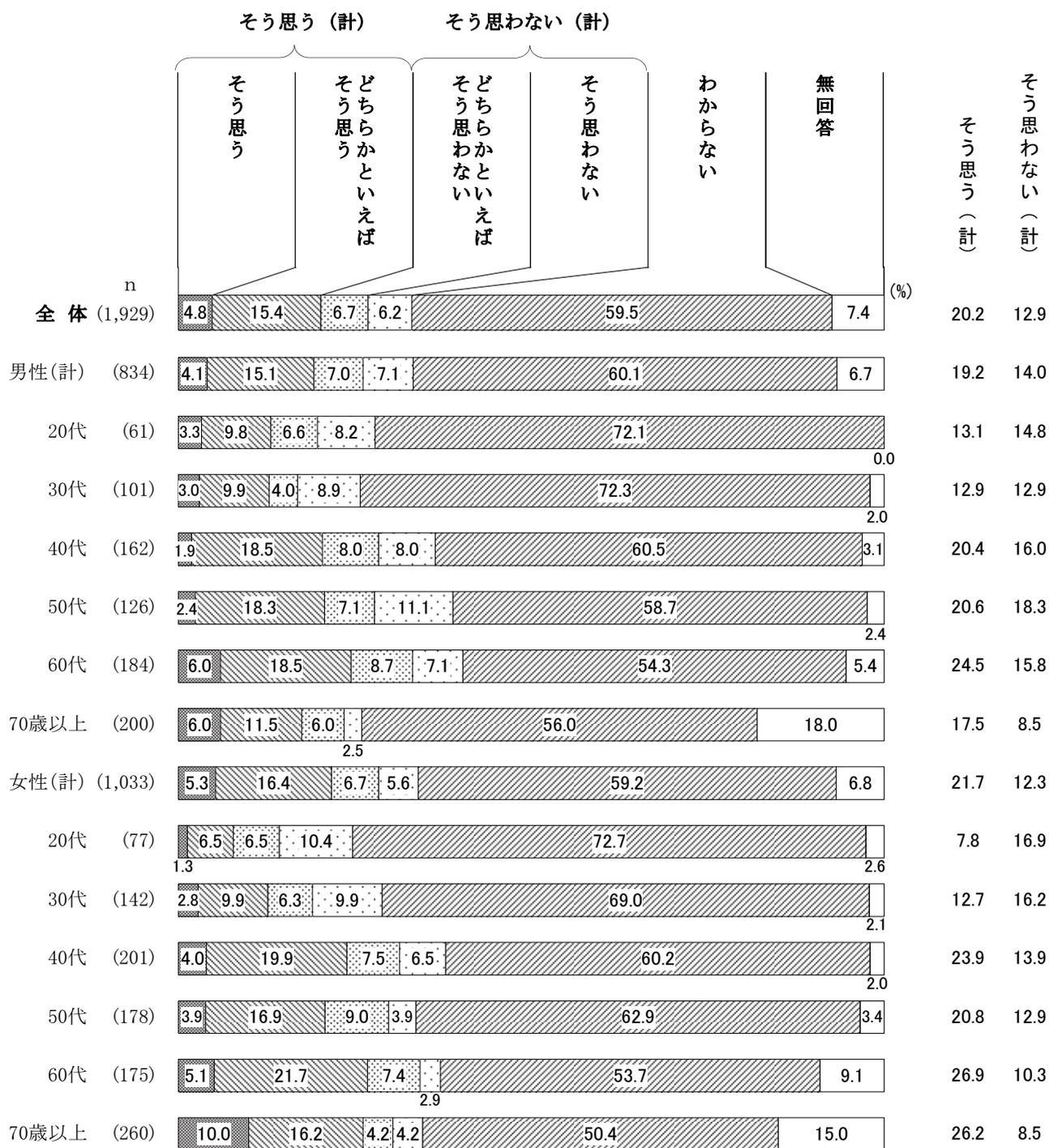
性別でみると、【そう思う】は男性19.2%、女性21.7%となっている。

男性では、60代で【そう思う】が24.5%と、他の年代より高くなっている。

女性では、60代、70歳以上で【そう思う】が、それぞれ26.9%、26.2%と、他の年代より高くなっている。

図7-3-3 性別、性・年代別

／区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業推進の評価



8 「孤立ゼロプロジェクト」など

-
- (1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況
 - (2) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知経路
 - (3) 「地域包括支援センター」の認知状況
 - (4) 「地域包括支援センター」の認知経路
 - (5) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向
 - (6) 協力意向がある活動内容
 - (7) 「成年後見制度」の認知状況
-

8. 「孤立ゼロプロジェクト」など

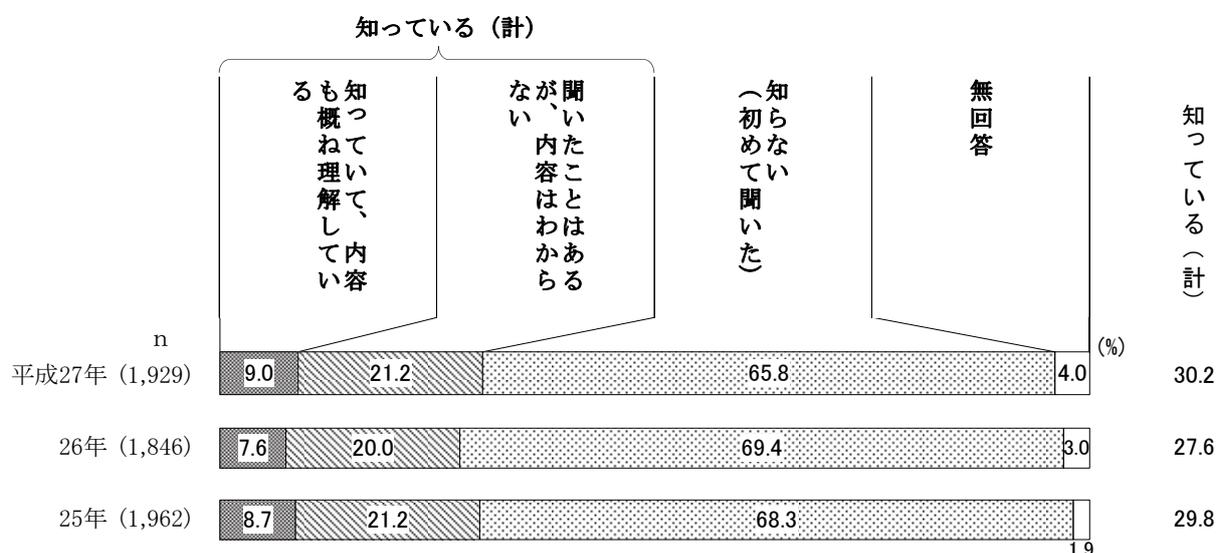
(1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

■ 【知っている】が3割

問31 あなたは、足立区の「孤立ゼロプロジェクト（※）」という取り組みを知っていますか（○は1つだけ）。

※ 「孤立ゼロプロジェクト」とは地域における見守り活動を支援するとともに、日常的な寄り添い支援活動を通じて、支援を必要とする方を早期に発見し、必要なサービスにつなぎ、地域活動などへの社会参加を促す一連の活動をいいます。

図8-1-1 経年比較／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



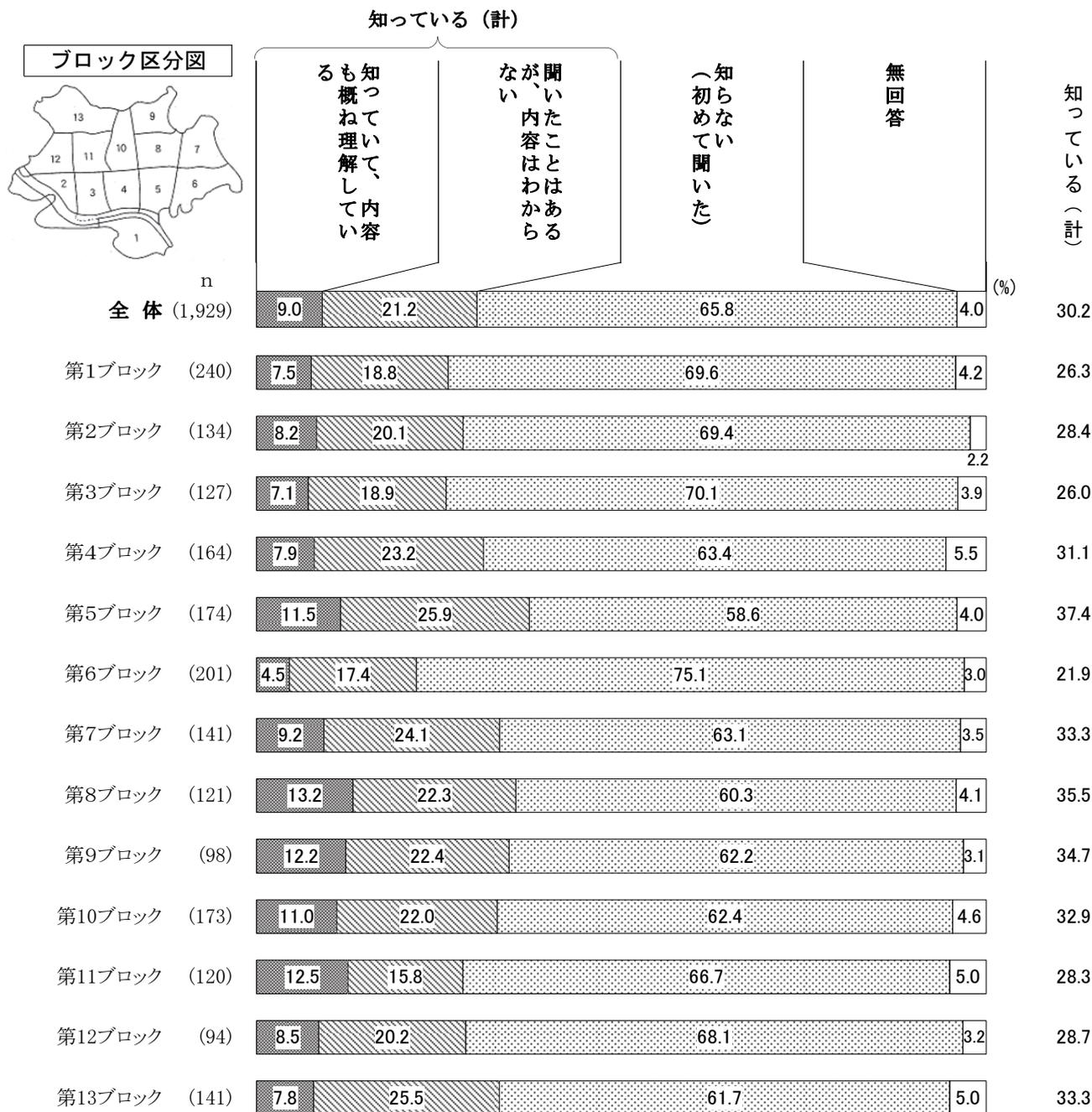
『孤立ゼロプロジェクト』について、「知っている、内容も概ね理解している」が9.0%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」の21.2%を合わせた【知っている】は30.2%となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は65.8%を占めている。

経年でみると、【知っている】は今回30.2%と、平成26年の27.6%から2.6ポイント微増している。

第3章 調査結果の分析

地域ブロック別でみると、【知っている】は、第5ブロックで37.4%となっているほか、第4ブロック、第7ブロックから第10ブロック、第13ブロックで3割を超えている。地区ブロック間の差は、第5ブロックと第6ブロックの間で最も大きく、両者の間には15.5ポイントの差がある。

図8-1-2 地域ブロック別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

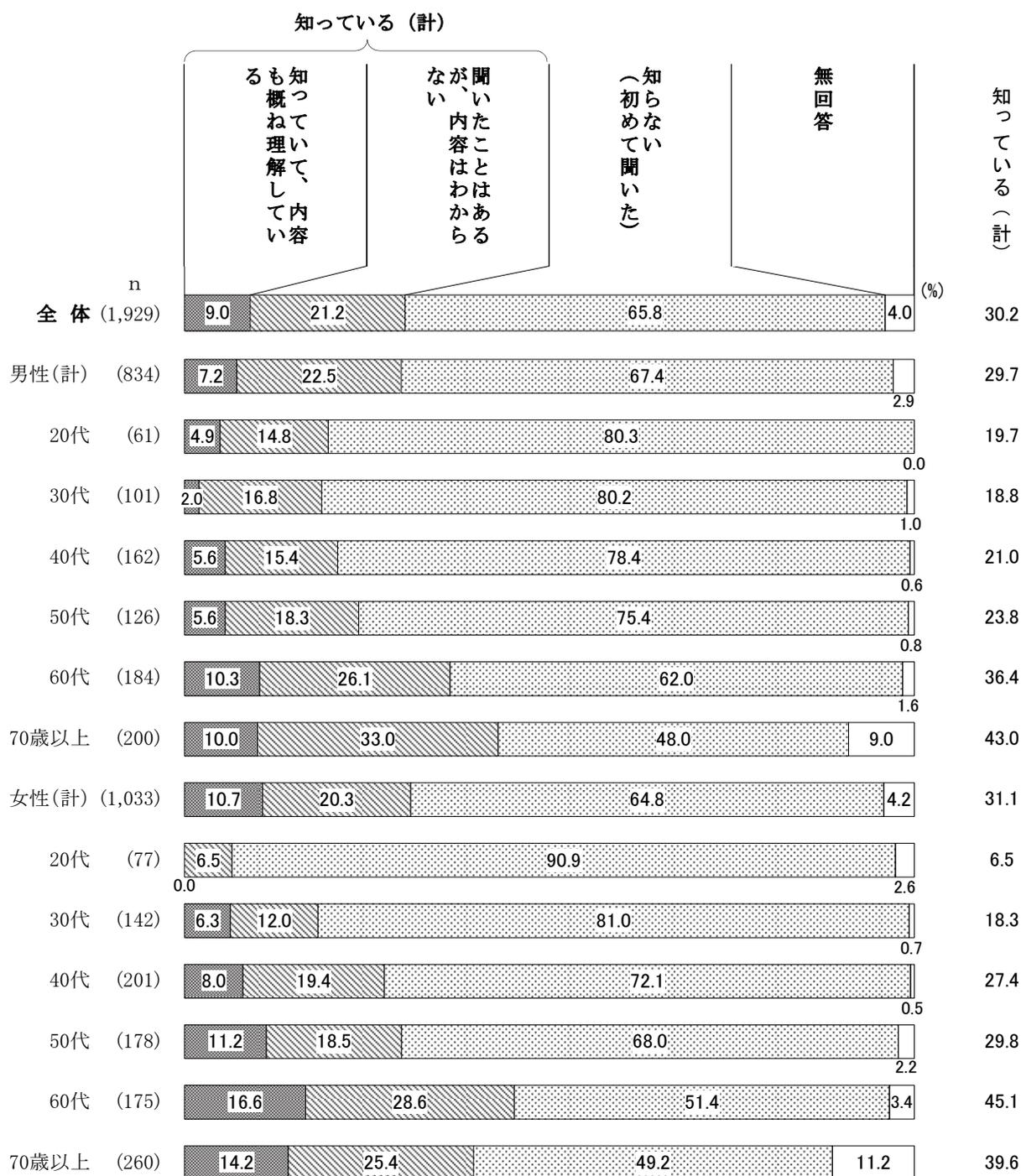


性別で見ると、【知っている】は男性29.7%、女性31.1%となっている。

性・年代別で見ると、男性で【知っている】は、40代で2割を超え、以降、加齢とともに増加し、60代で36.4%、70歳以上で43.0%となっている。

女性でも、ほぼ同様の増加傾向を示し、60代で45.1%、70歳以上で39.6%となっている。

図8-1-3 性別、性・年代別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



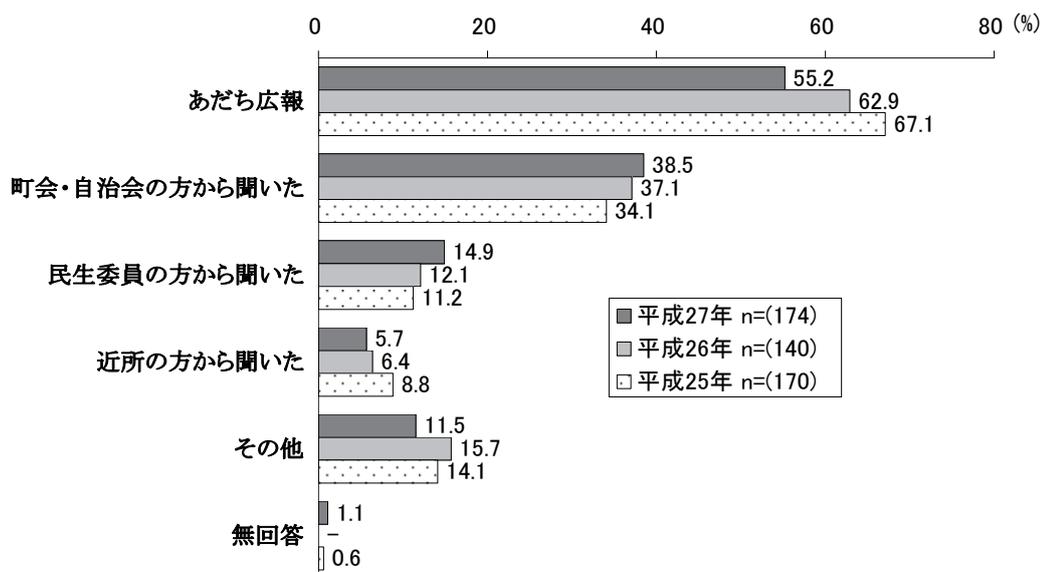
(2) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知経路

■ 「あだち広報」が5割台半ばも減少傾向

問31で「1. 知っていて、内容も概ね理解している」とお答えの方に

問31-1 プロジェクトのことをどのようにして知りましたか（〇はあてはまるものすべて）。

図8-2-1 経年比較／「孤立ゼロプロジェクト」の認知経路

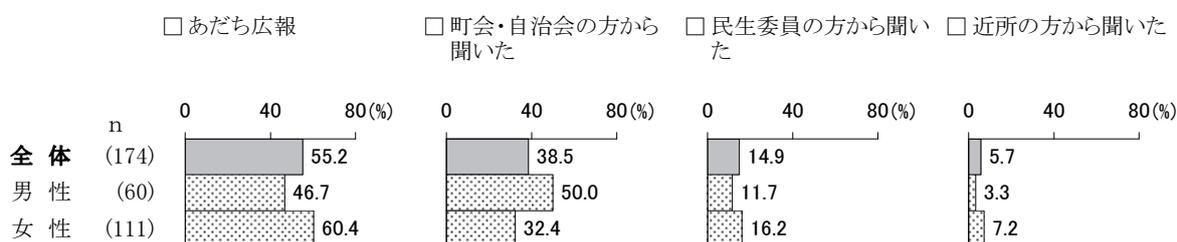


「知っていて、内容も概ね理解している」人に、情報媒体を聞いたところ、「あだち広報」が55.2%で最も高く、次いで「町会・自治会の方から聞いた」（38.5%）となっている。

経年でみると、「あだち広報」は今回55.2%と、平成26年の62.9%から7.7ポイント減少している。

性別でみると、女性では「あだち広報」が60.4%と、男性（46.7%）より高くなっている。一方、男性では「町会・自治会から聞いた」が50.0%と、女性（32.4%）を上回っている。

図8-2-2 性別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知経路

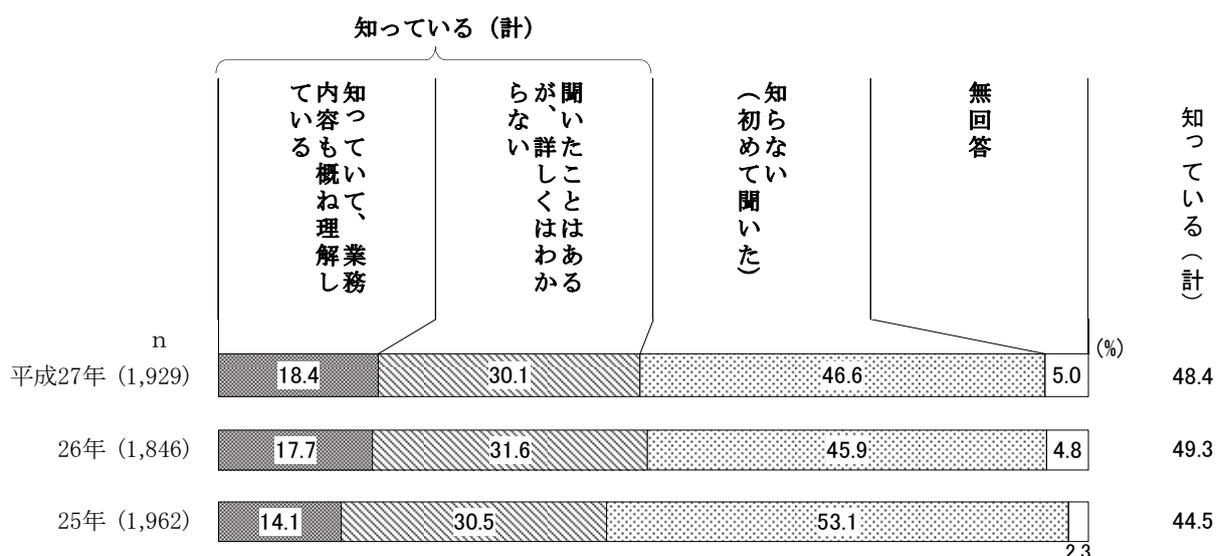


(3) 「地域包括支援センター」の認知状況

■ 【知っている】は約半数

問32 あなたは、「地域包括支援センター（※）」を知っていますか（○は1つだけ）。
 ※ 「地域包括支援センター」とは足立区から委託を受けた公的な「高齢者の総合相談窓口」です。高齢者やご家族の方の様々なご相談に応じて、公的な保健福祉サービスの紹介や申請手続きのお手伝いをします。

図8-3-1 経年比較／「地域包括支援センター」の認知状況



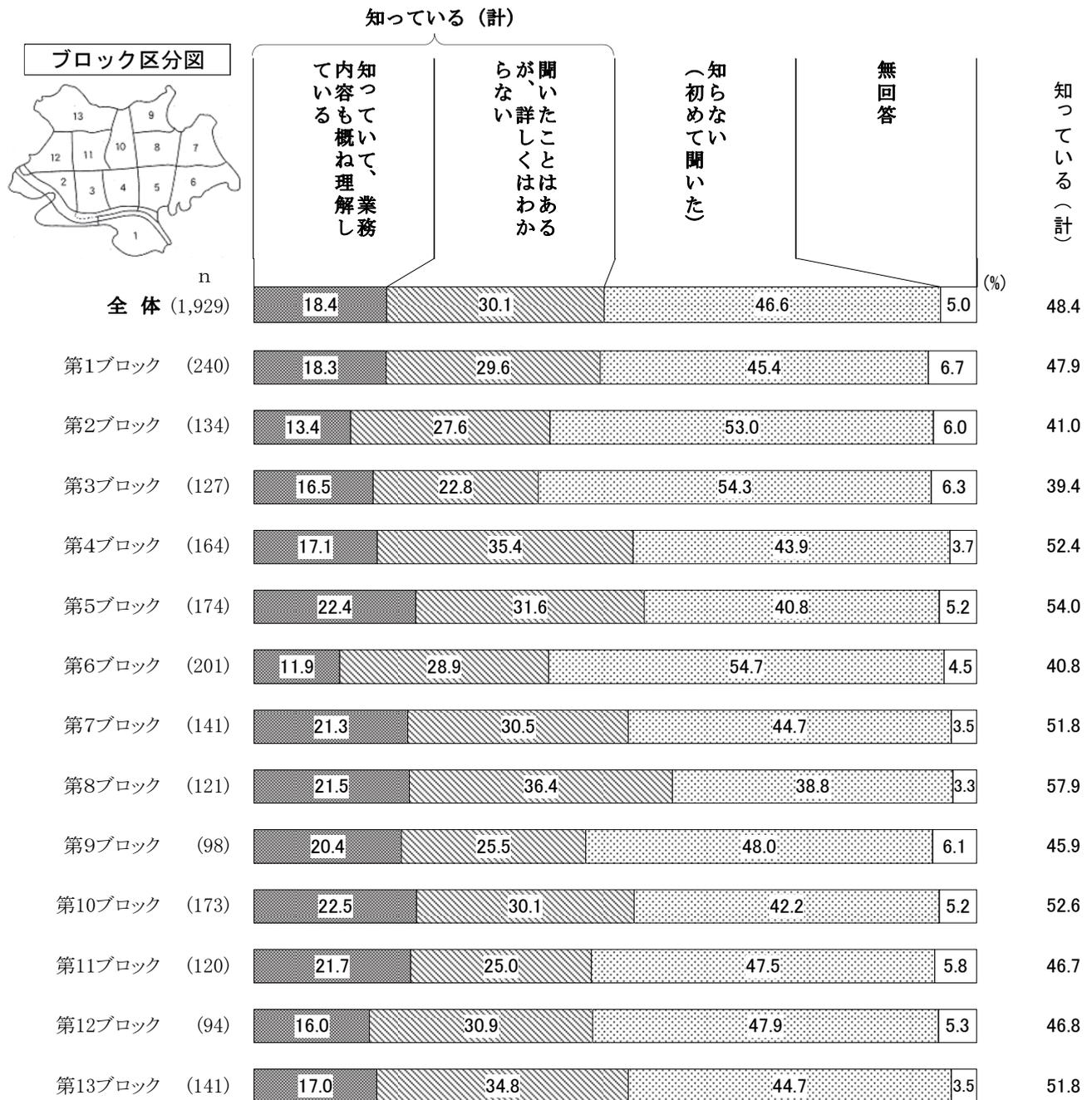
『地域包括支援センター』について、「知っている、業務内容も概ね理解している」が18.4%で、これに「聞いたことはあるが、詳しくはわからない」の30.1%を合わせると【知っている】は48.4%である。一方、「知らない（初めて聞いた）」は46.6%を占めている。

経年でみると、【知っている】は平成26年49.3%、今回48.4%とほぼ横ばいとなっている。

第3章 調査結果の分析

地域ブロック別で見ると、第8ブロックで、【知っている】が57.9%と6割近くを占めているほか、第4ブロック、第5ブロック、第7ブロック、第10ブロック、第13ブロックでも5割を超えている。

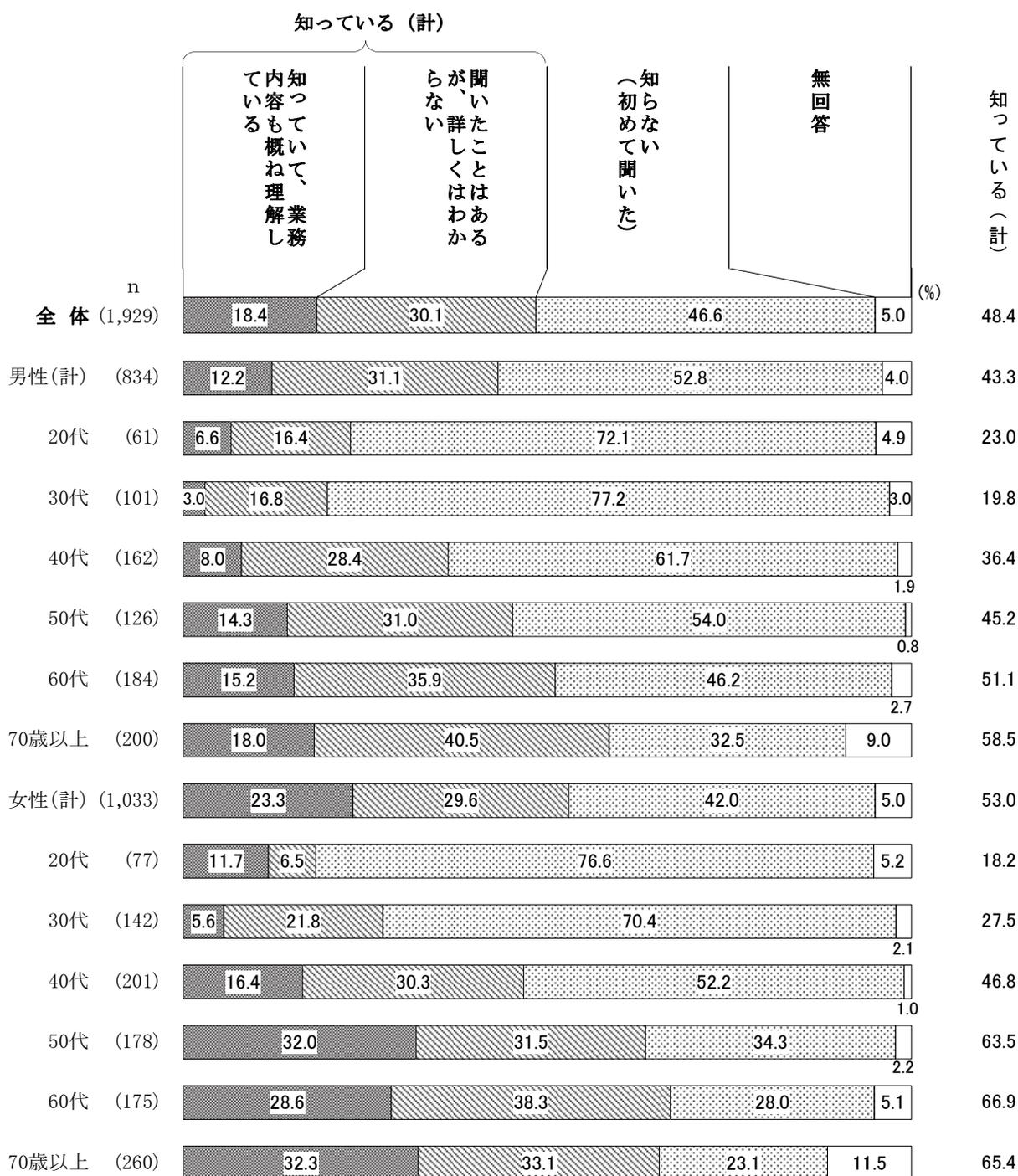
図8-3-2 地域ブロック別／「地域包括支援センター」の認知状況



性別で見ると、【知っている】は男性43.3%、女性53.0%と、男性より女性で高くなっている。性・年代別で見ると、男性では、加齢とともに【知っている】が増加し、70歳以上では58.5%となっている。

女性では、50代から70歳以上で【知っている】が6割を超え、他の年代より高くなっている。

図8-3-3 性別、性・年代別／「地域包括支援センター」の認知状況



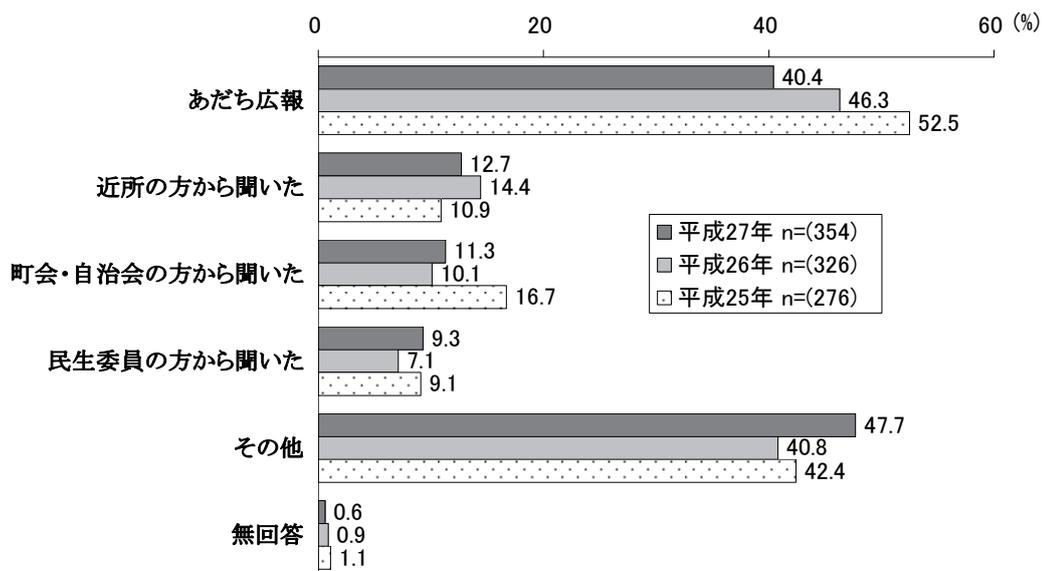
(4) 「地域包括支援センター」の認知経路

■ 「あだち広報」が4割も減少傾向

問32で「1. 知っていて、業務内容も概ね理解している」とお答えの方に

問32-1 「地域包括支援センター」のことをどのようにして知りましたか（〇はあてはまるものすべて）。

図8-4-1 経年比較／「地域包括支援センター」の認知経路

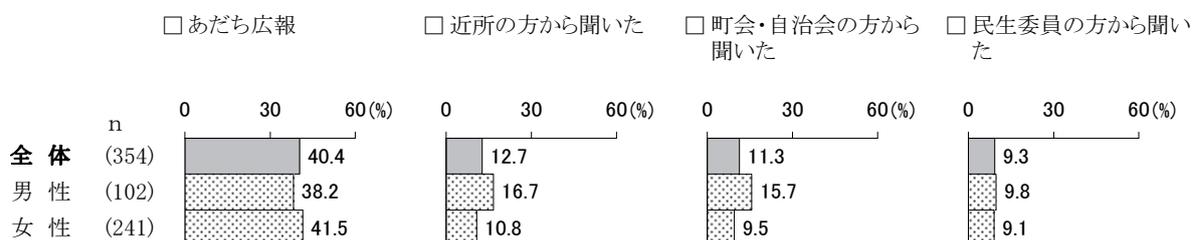


「知っていて、業務内容も概ね理解している」という人に、情報媒体を聞いたところ、「あだち広報」が40.4%で最も高く、以下「近所の方から聞いた」（12.7%）、「町会・自治会の方から聞いた」（11.3%）の順で続いている。

経年でみると、「あだち広報」は今回40.4%と、平成26年の46.3%より5.9ポイント低く、平成25年以降、減少傾向が続いている。

性別でみると、「あだち広報」は男性38.2%、女性41.5%となっている。また、「近所の方から聞いた」は男性16.7%、女性10.8%と、男性が女性より高くなっている。

図8-4-2 性別／「地域包括支援センター」の認知経路

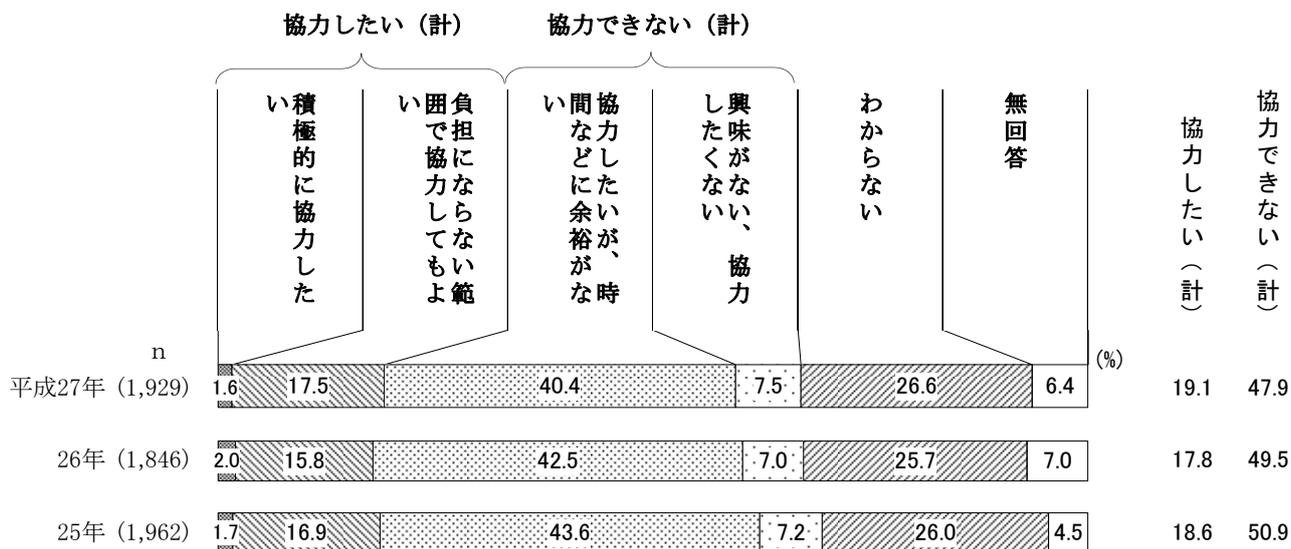


(5) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

■ 【協力したい】の2割弱に対し、【協力できない】は5割弱

問33 あなたは、高齢者の孤立防止や見守り活動に協力してみたいですか（○は1つだけ）。

図8-5-1 経年比較／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向



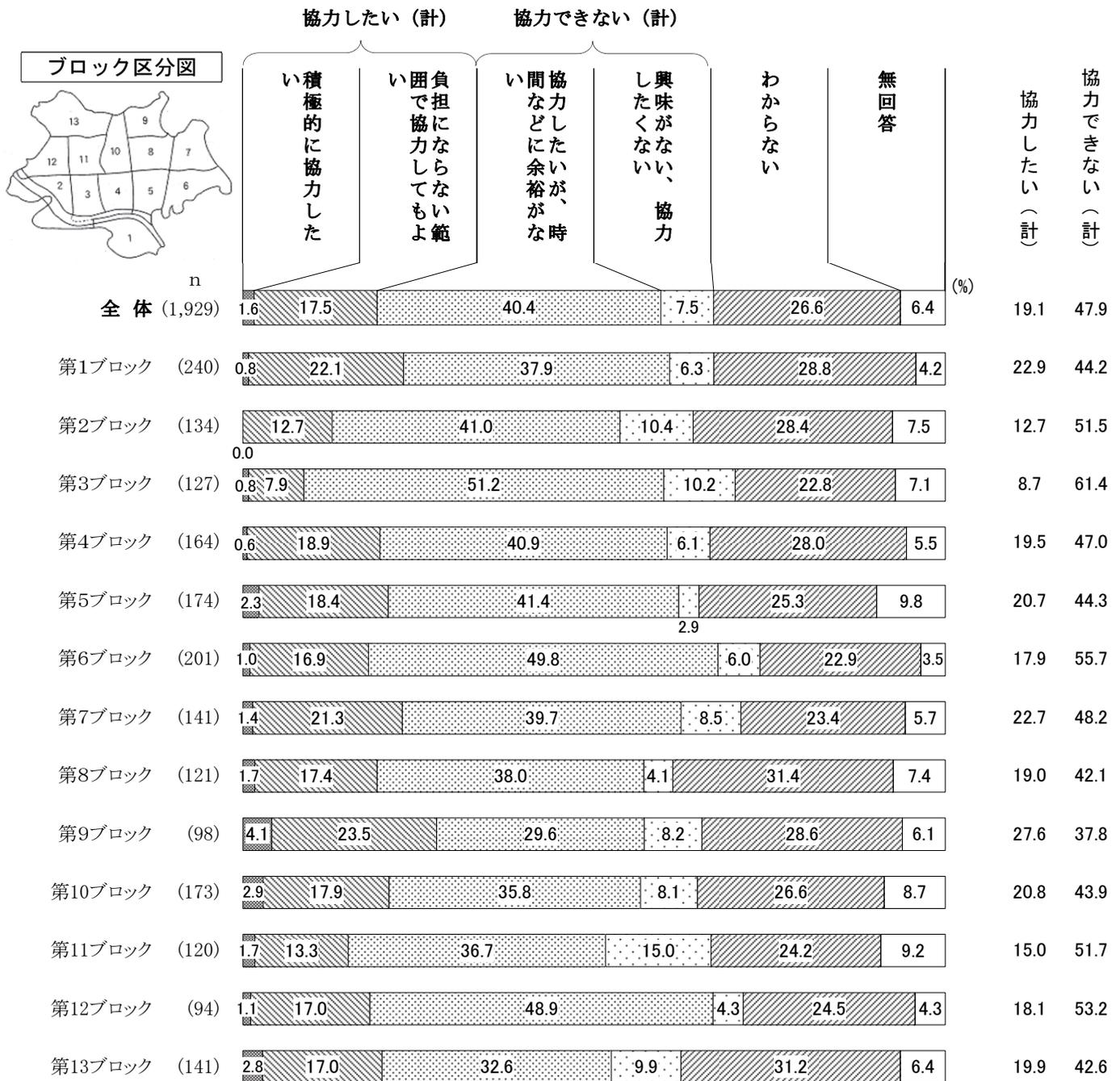
高齢者の孤立防止や見守り活動に「積極的に協力したい」は1.6%で、これに「負担にならない範囲で協力してもよい」の17.5%を合わせた【協力したい】は19.1%である。一方、「協力したいが、時間などに余裕がない」は40.4%、「興味がない、協力したくない」は7.5%となっている。

経年でみると、【協力したい】は平成26年17.8%、今回19.1%とほぼ横ばいとなっている。

第3章 調査結果の分析

地域ブロック別で見ると、第9ブロックでは、【協力したい】が27.6%と高くなっているほか、第1ブロック、第5ブロック、第7ブロック、第10ブロックでも2割を超えている。

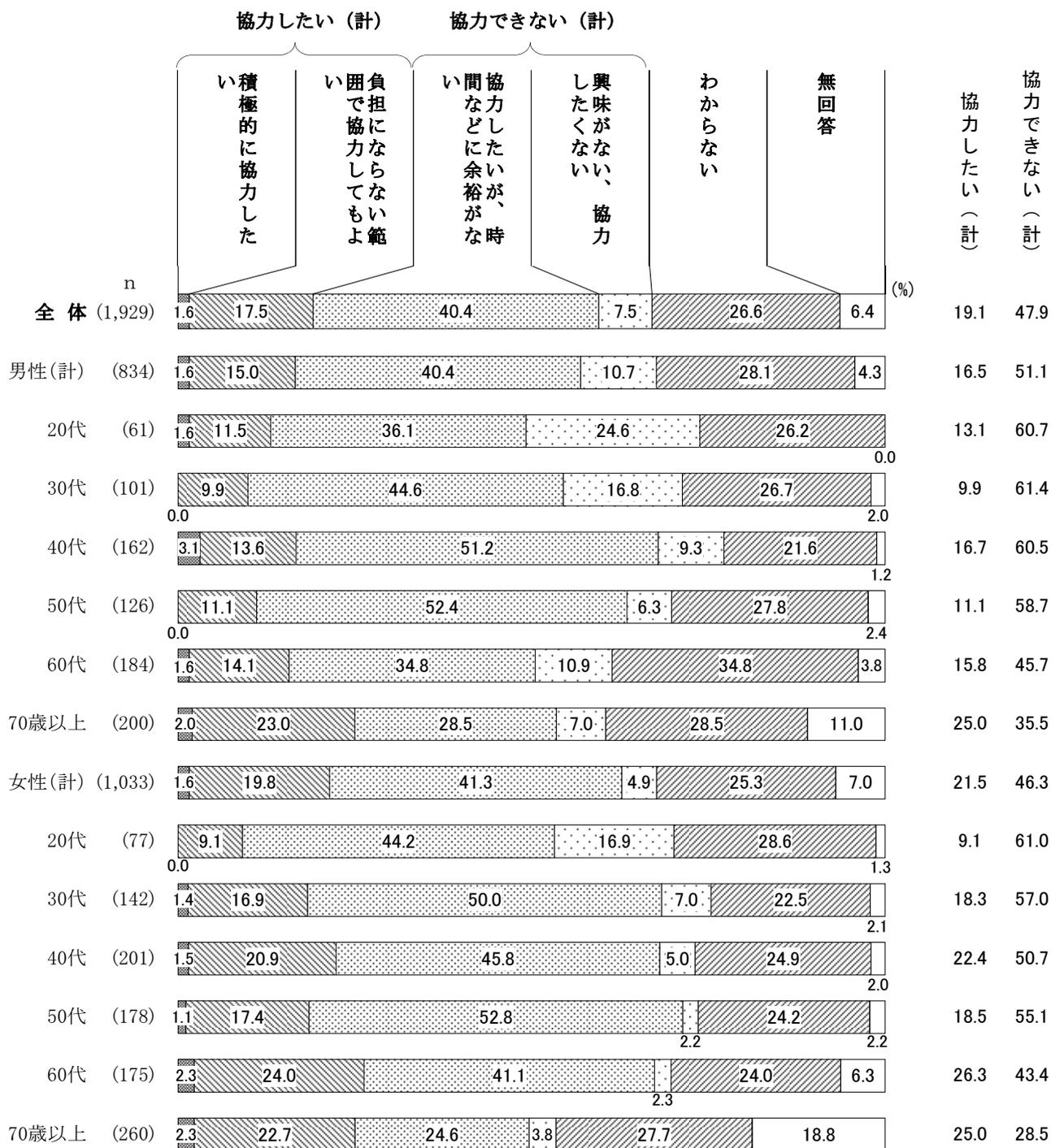
図8-5-2 地域ブロック別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向



性別でみると、【協力したい】は男性16.5%、女性21.5%と、男性より女性が高くなっている。
 性・年代別でみると、男性では、70歳以上で【協力したい】が25.0%と、他の年代より高くなっている。

女性では、60代、70歳以上で【協力したい】が、それぞれ26.3%、25.0%と、他の年代より高くなっている。

図8-5-3 性別、性・年代別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

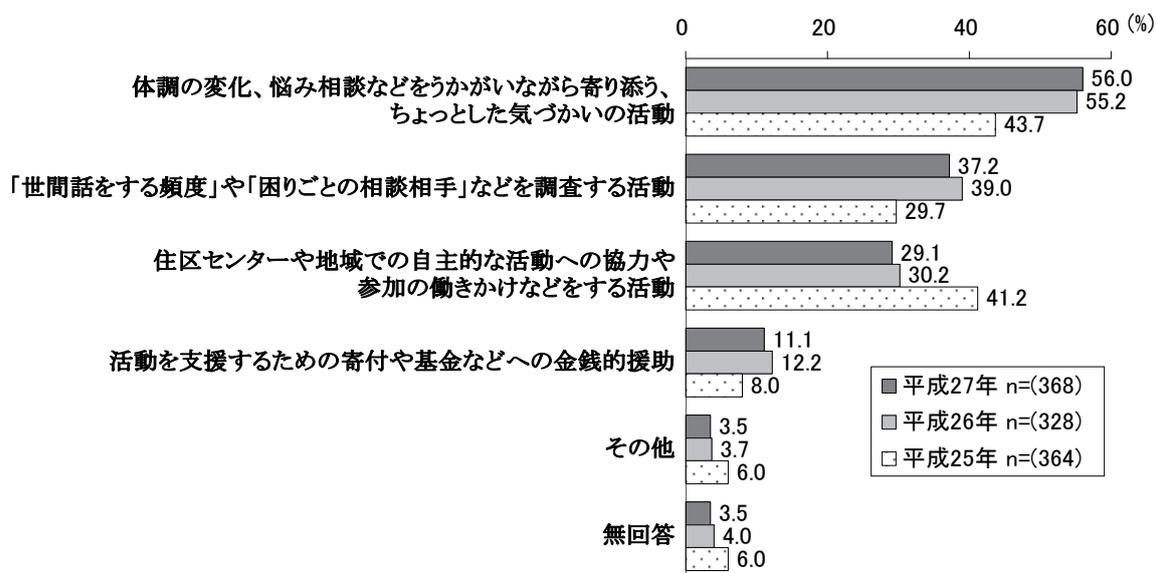


(6) 協力意向がある活動内容

■ “ちょっとした気づかひの活動”が5割台半ば

問33で「1. 積極的に協力～」、または「2. 負担にならない範囲で協力～」とお答えの方に
問33-1 どのような活動に協力したいですか（○はあてはまるものすべて）。

図8-6-1 経年比較／協力意向がある活動内容



平成25年調査の選択肢について

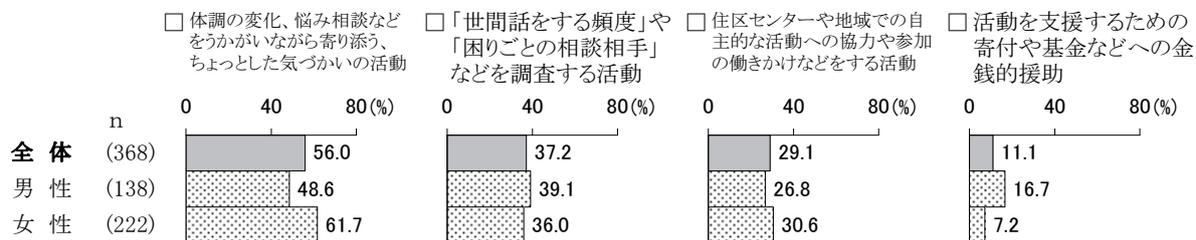
- 体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかひの活動＝平成25年調査：寄り添い支援活動
- 「世間話をする頻度」や「困りごとの相談相手」などを調査する活動＝平成25年調査：調査活動
- 住区センターや地域での自主的な活動への協力や参加の働きかけなどをする活動＝平成25年調査：居場所づくりや活動の場での協力
- 活動を支援するための寄付や基金等への金銭的援助＝平成25年調査：財政的協力

【協力したい】という人に、その活動内容を聞くと、「体調の変化、悩み相談などをうかがいながら寄り添う、ちょっとした気づかひの活動」が56.0%で最も高く、以下「『世間話をする頻度』や『困りごとの相談相手』などを調査する活動」（37.2%）、「住区センターや地域での自主的な活動への協力や参加の働きかけなどをする活動」（29.1%）の順で続いている。

経年でみると、上位項目の順位、比率に大きな変動はみられない。

性別でみると、「寄り添い支援活動」は男性48.6%、女性61.7%と、男性より女性で高くなっている。

図8-6-2 性別／協力意向がある活動内容

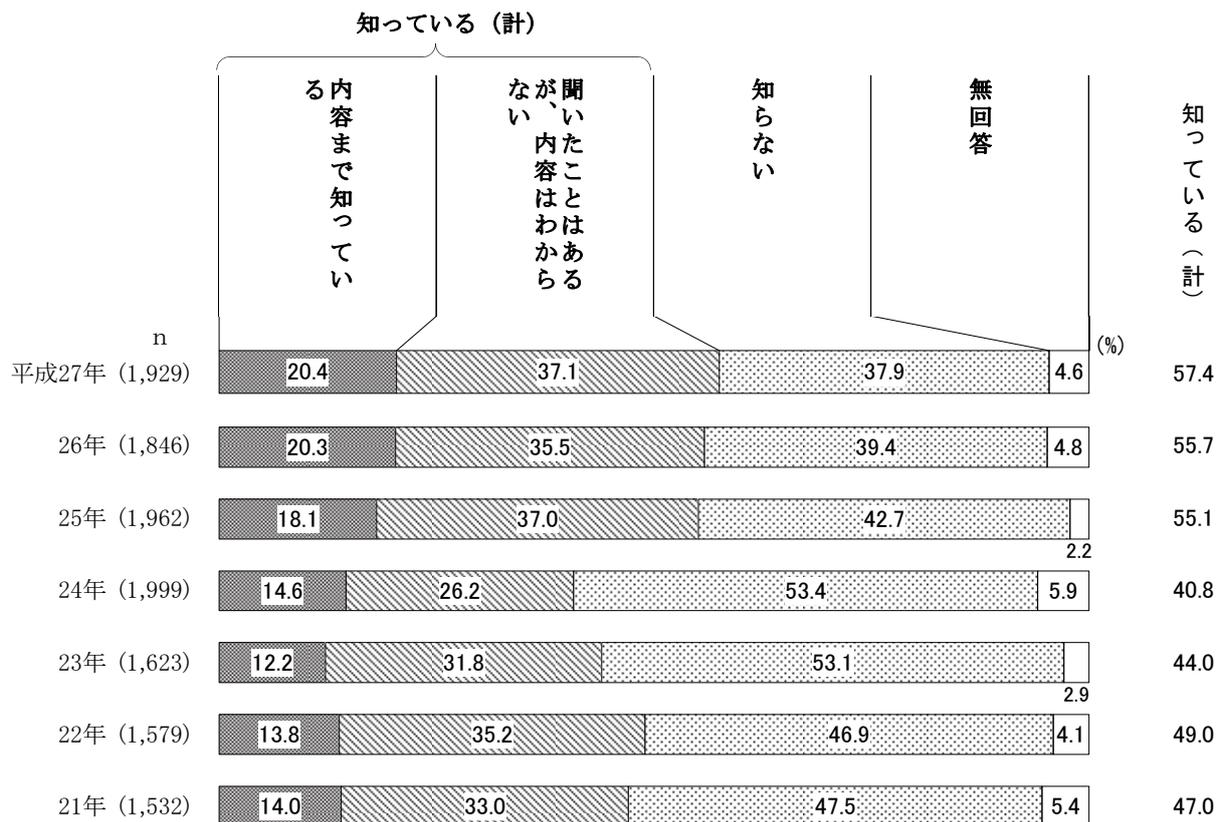


(7) 「成年後見制度」の認知状況

■ 【知っている】は5割台後半

問34 あなたは、高齢者などの権利を守るしくみとして、「成年後見制度」を知っていますか（○は1つだけ）。

図8-7-1 経年比較／「成年後見制度」の認知状況



※ 「聞いたことはあるが、内容はわからない」は、25年度まで「名前は知っているが、内容はわからない」。

成年後見制度について、「内容まで知っている」は20.4%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」の37.1%を合わせた【知っている】は57.4%を占めている。一方、「知らない」は37.9%となっている。

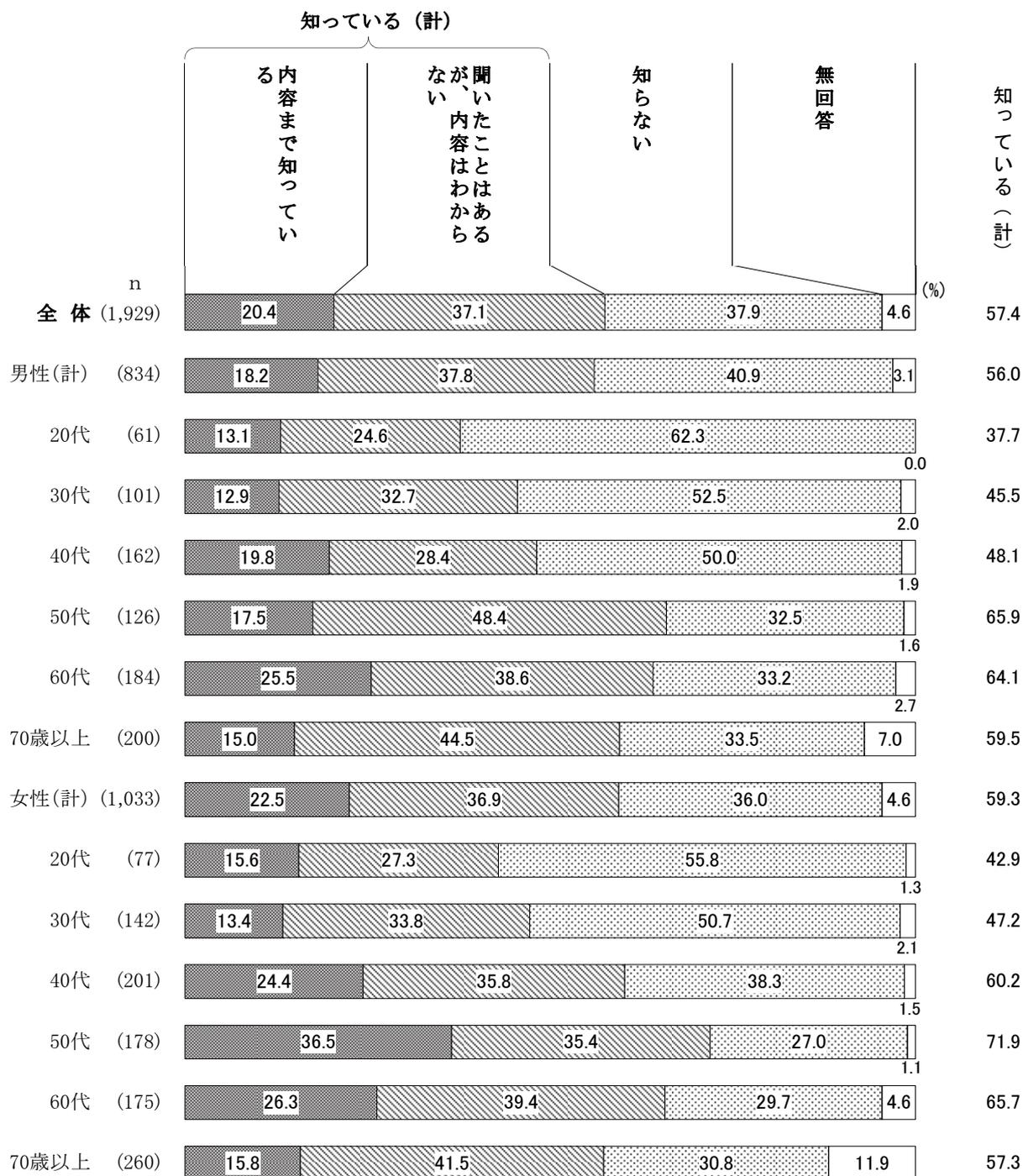
経年でみると、【知っている】は平成26年55.7%、今回57.4%とほぼ横ばいになっている。

性別でみると、【知っている】は男性56.0%、女性59.3%となっている。

性・年代別でみると、男性では、50代、60代で【知っている】が、それぞれ65.9%、64.1%と高くなっている。

女性では、50代では【知っている】が71.9%と高くなっているほか、40代、60代でも6割を超えている。

図8-7-2 性別、性・年代別／「成年後見制度」の認知状況



9 区の取り組み

-
- (1) 満足度と重要度
 - (2) 区政への区民意見の反映度
 - (3) 区に対する気持ち
 - (4) 区に愛着や誇りをもてない、区を人に勧めたくないと思う理由（自由回答）
 - (5) 区政についてのご意見、ご要望（自由回答）
 - (6) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度
-

9. 区の取り組み

(1) 満足度と重要度

■ 満足度は「資源環境対策」が、重要度は「高齢者支援」が最上位

問35 足立区の取り組みについて、あなたの現状評価（満足度）と今後の取り組みの重要度について、最も近いものを選んでください（○はいずれも、それぞれ1つずつ）。

選択肢（区の取り組み）	内 容
ア. 子育て支援	保育サービス、子ども医療費助成や子育て相談の充実など
イ. 学校教育対策	教育内容の充実、施設の改修など
ウ. 地域活動支援	町会・自治会活動の支援、青少年の健全育成など
エ. 社会参加支援	NPOやボランティアの育成や支援など
オ. 男女共同参画推進	男女が平等に社会参加できるしくみづくりなど
カ. 生涯学習振興	文化・芸術・スポーツ活動の支援、施設の充実など
キ. 高齢者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、生きがい対策など
ク. 障がい者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、就労支援など
ケ. 保健衛生対策	健康づくり、健康診査、生活衛生など
コ. 低所得者対策	生活の援助や自立支援など
サ. 産業振興	商工業の支援、企業起こしの支援、消費者対策など
シ. 治安対策	防犯パトロールやビューティフル・ウィンドウズ運動、警察との連携など
ス. 資源環境対策	省エネルギー、ごみ処理、リサイクルなど
セ. 都市開発	開発・再開発、美しい街並みや景観づくりなど
ソ. 住宅対策	良質な住宅の供給支援など
タ. 交通対策	道路や交通網の整備、交通安全対策など
チ. 防災対策	防災活動の充実、都市の不燃化など
ツ. 自然・緑化対策	公園や緑地、河川の整備など
テ. 情報提供	広報やホームページなどによる区政情報の提供など
ト. 職員の接客態度	窓口や仕事での区民対応における接客態度など
ナ. 行政改革	区政の透明化や区民サービスの向上など
ニ. 区政全体として	

図9-1-1-① 経年比較/現状評価(満足度)

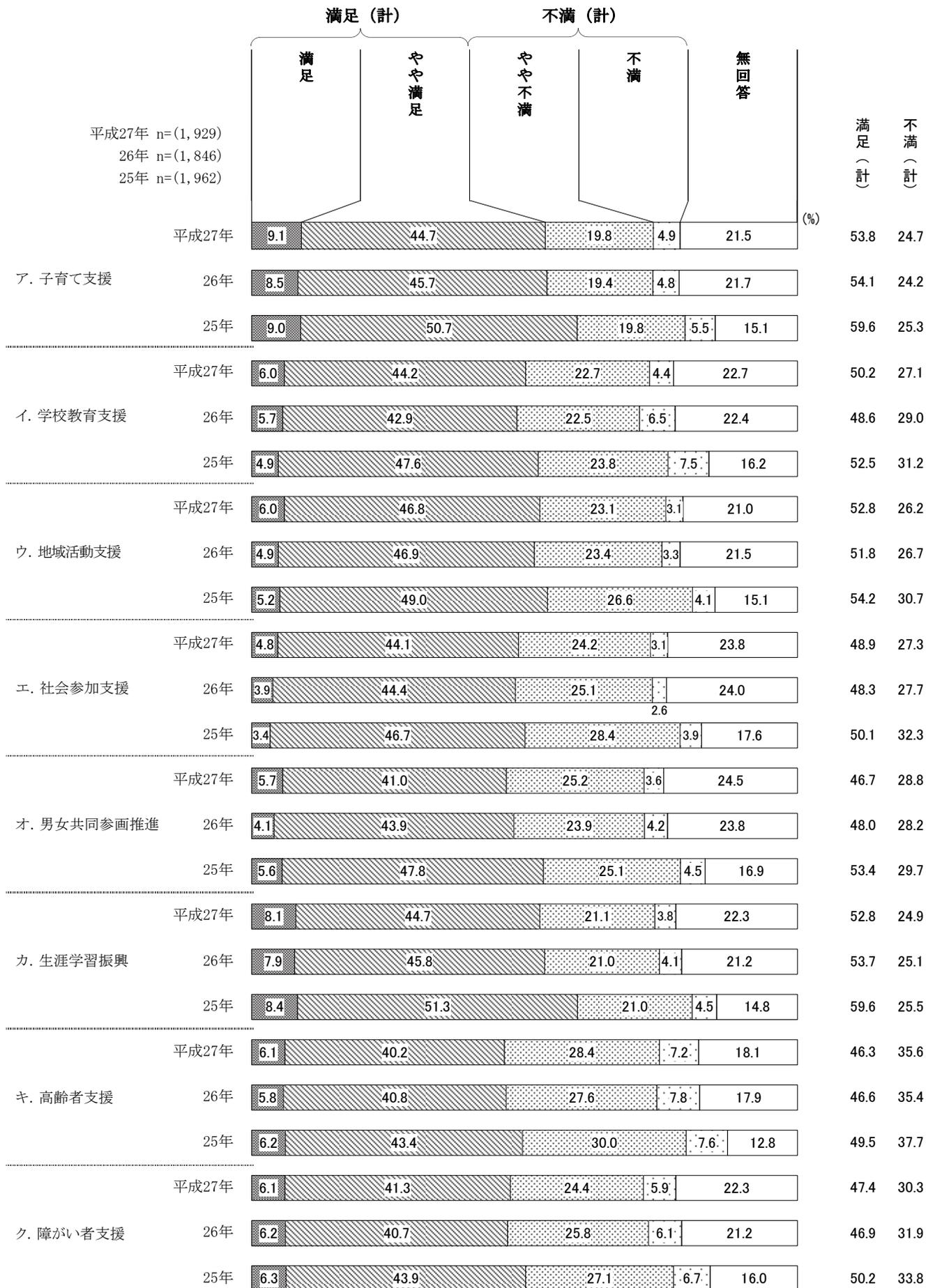


図9-1-1-② 経年比較/現状評価(満足度)

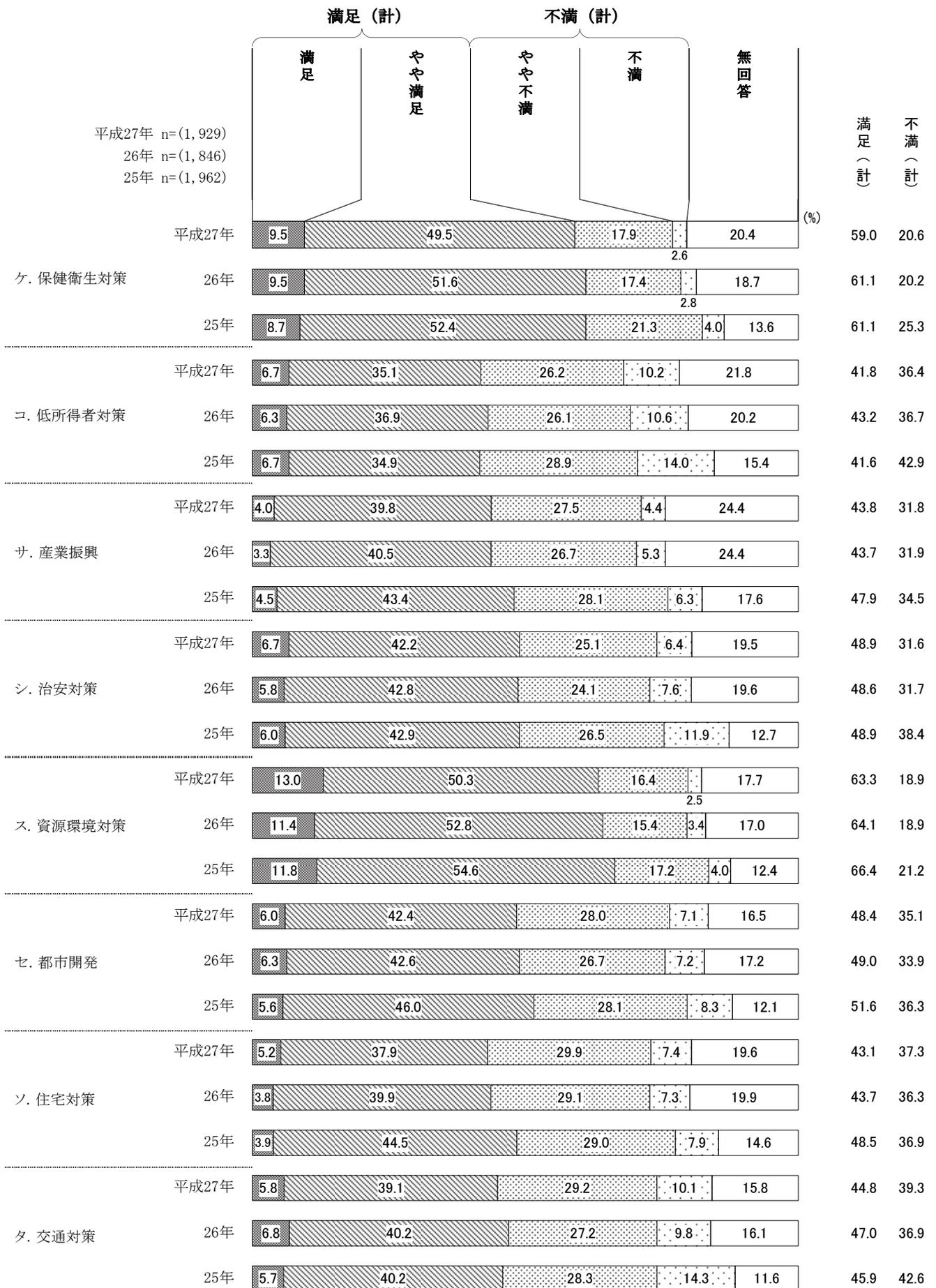
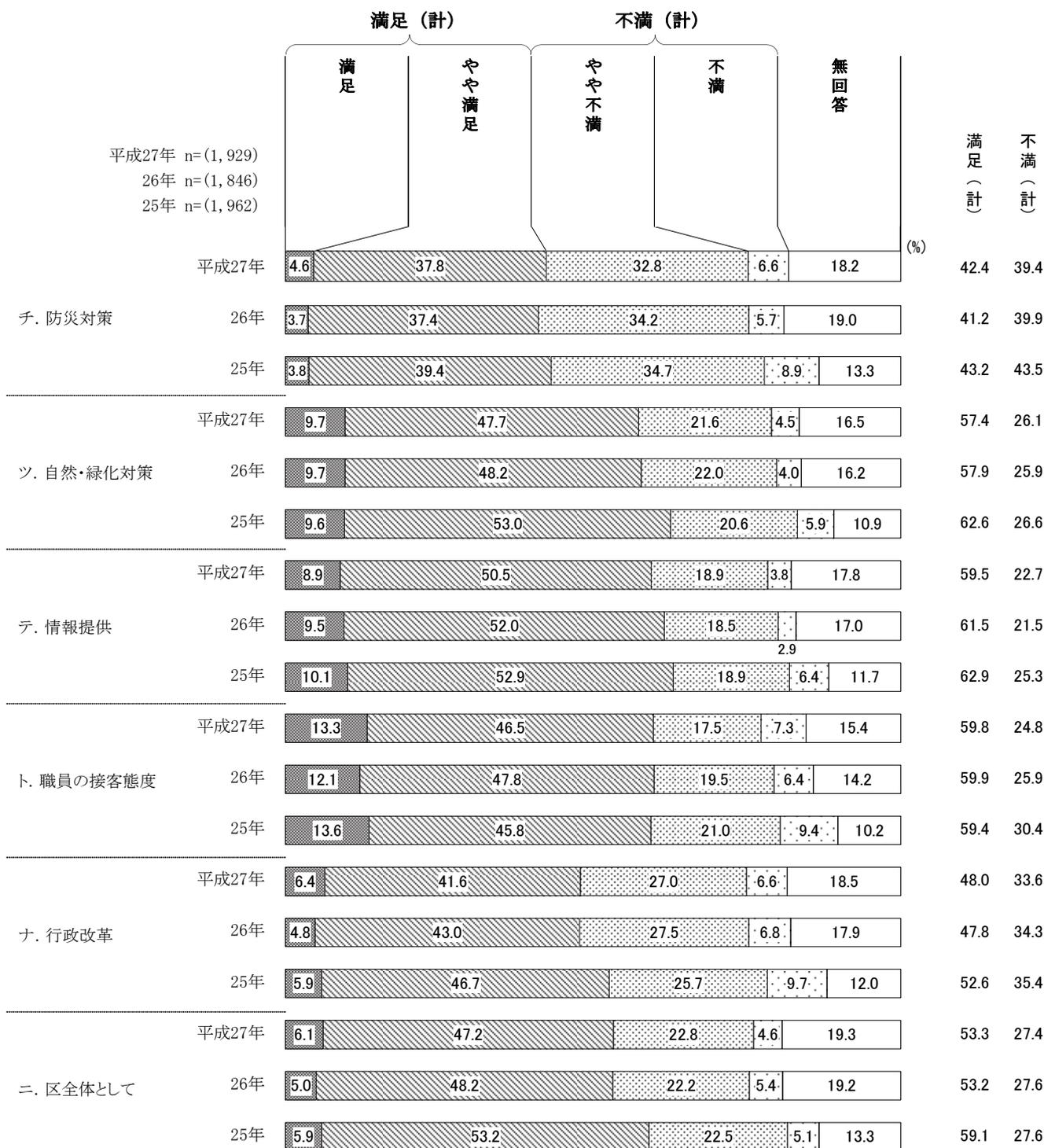


図9-1-1-③ 経年比較/現状評価(満足度)



区の取り組みについて、各分野に対する現状評価(満足度)を聞いた。【満足】(「満足」+「やや満足」)の高い順でみると、「資源環境対策」が63.3%で最も高く、以下、「職員の接客態度」(59.8%)、「情報提供」(59.5%)、「保健衛生対策」(59.0%)の順が続いている。

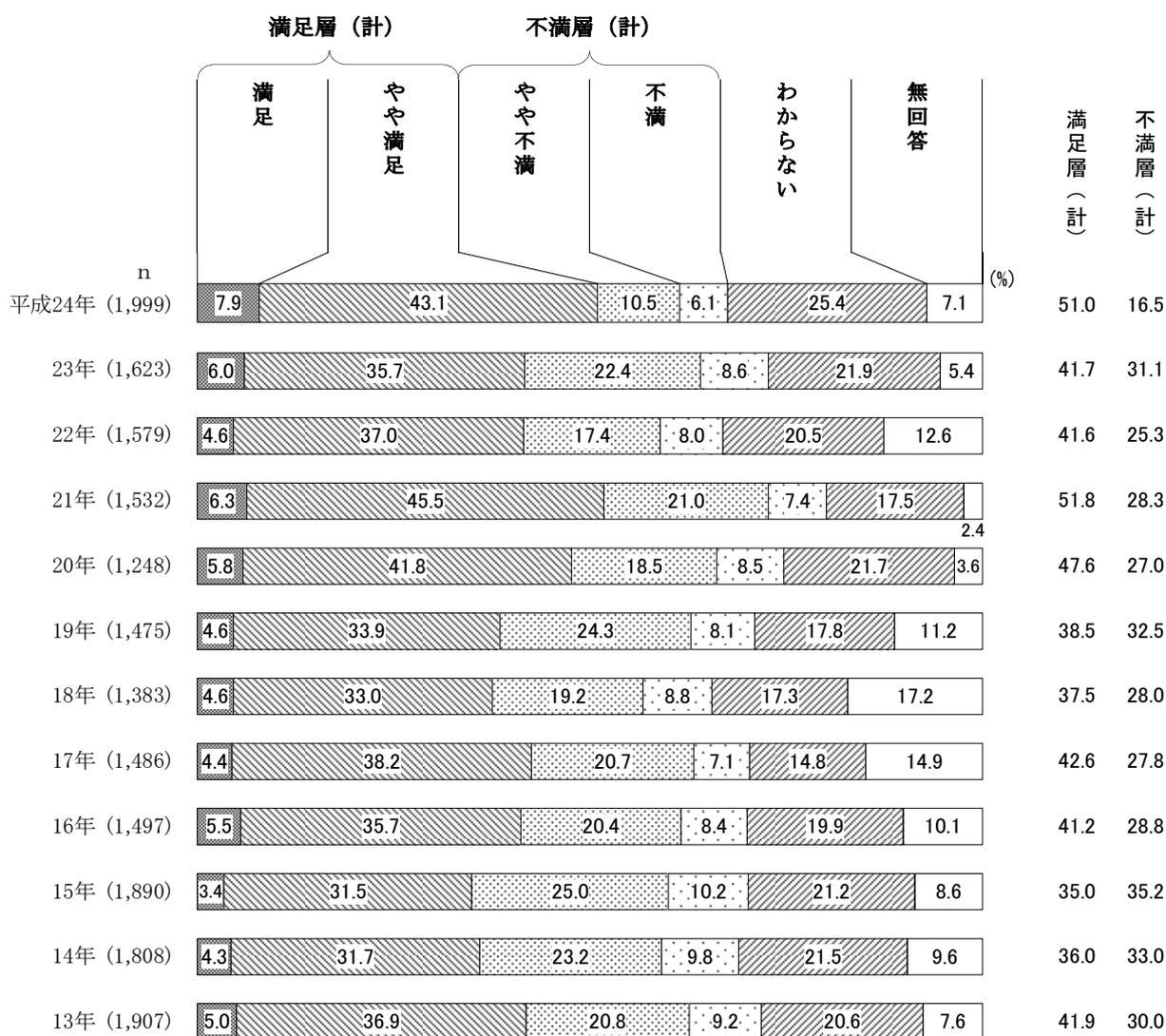
一方、【不満】(「やや不満」+「不満」)の高いものとしては、「防災対策」(39.4%)、「交通対策」(39.3%)、「住宅対策」(37.3%)、「低所得者対策」(36.4%)があげられる。

経年でみて、前回結果と比較すると、【満足】が高くなっているものとして、「学校教育支援」（前回48.6%→今回50.2%）、「地域活動支援」（前回51.8%→今回52.8%）、「防災対策」（前回41.2%→今回42.4%）などがあげられる。

一方、【不満】が高くなっているものとしては、「都市開発」（前回33.9%→今回35.1%）、「交通対策」（前回36.9%→今回39.3%）、「情報提供」（前回21.5%→今回22.7%）などがあげられる。

参考／区政に対する満足度

問 あなたは、現在の足立区政に満足していますか。（○は1つだけ）



※平成24年までは「わからない」という選択肢があるため、結果を単純に比較することはできない

図9-1-2-① 経年比較／重要度

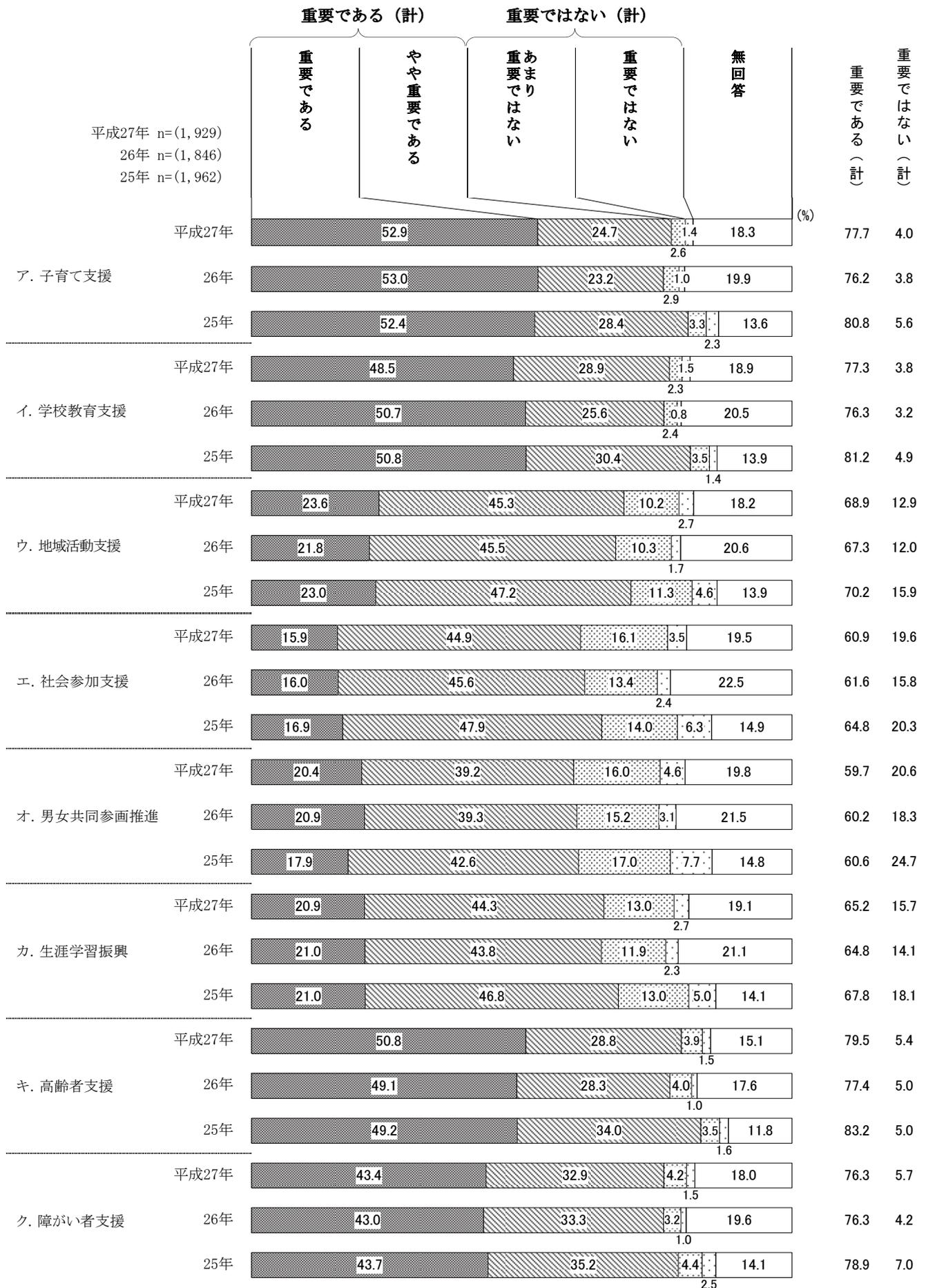


図9-1-2-② 経年比較／重要度

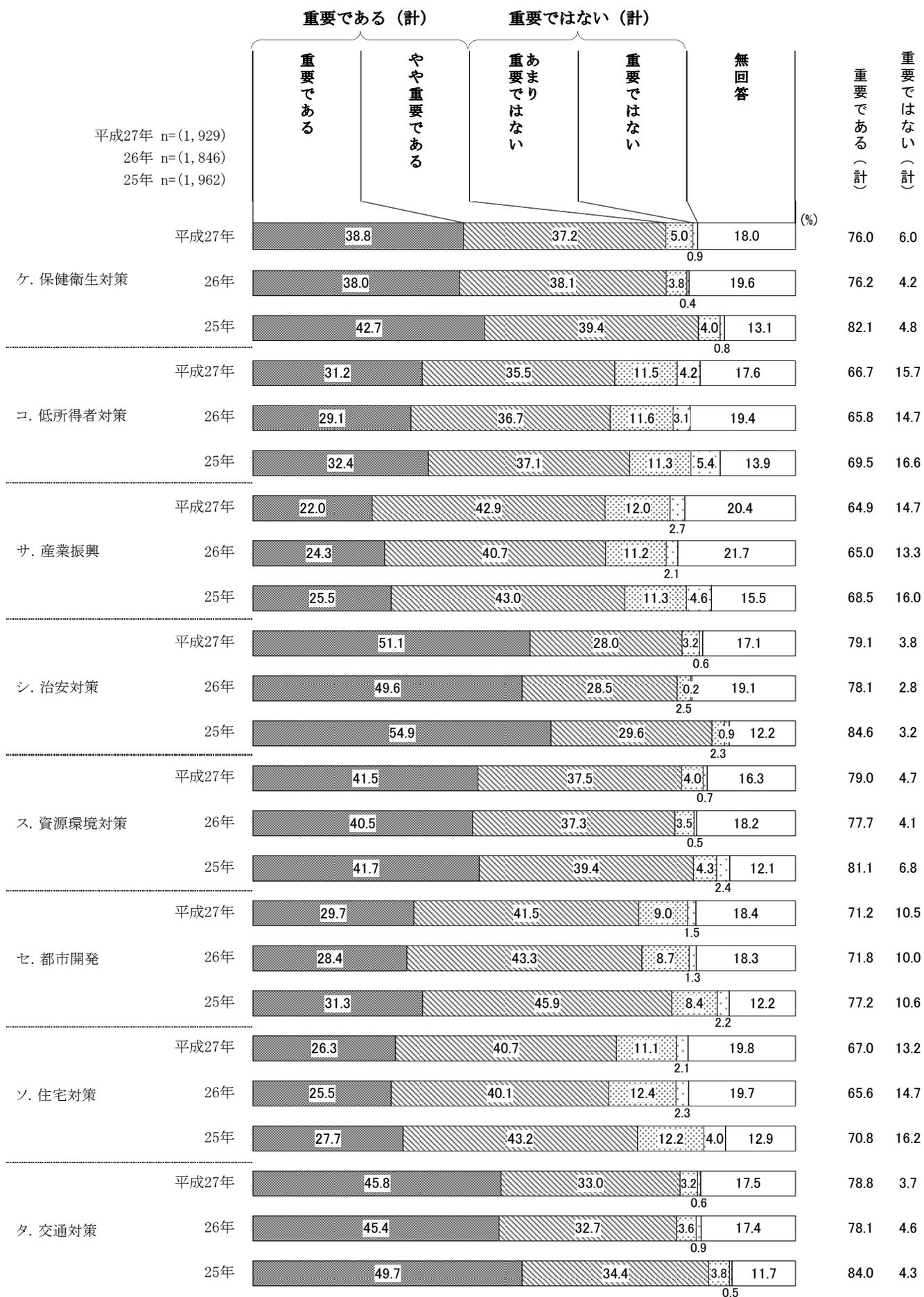
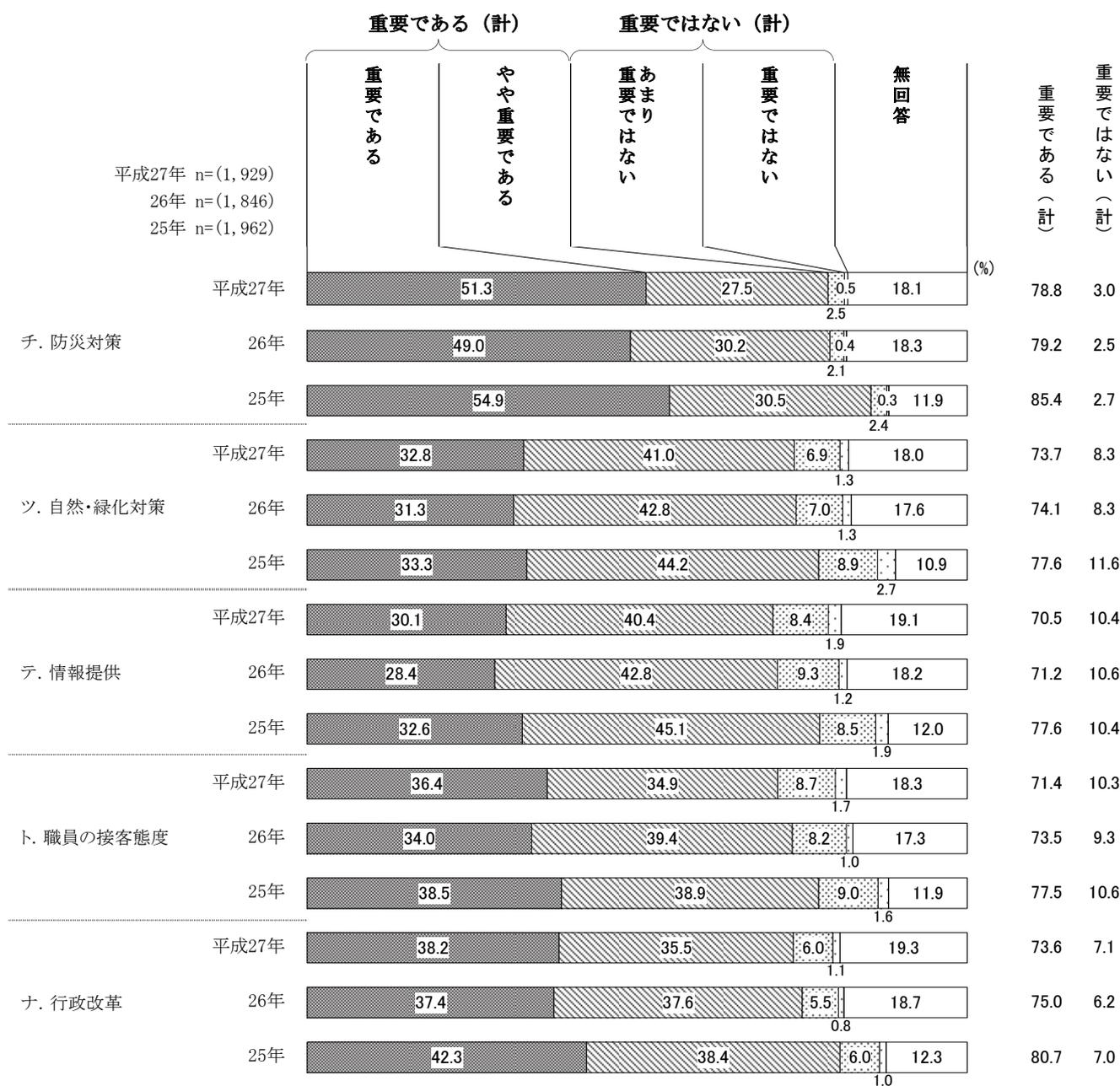


図9-1-2-③ 経年比較／重要度



区の取り組みについて、各分野に対する重要度を聞いた。【重要である】（「重要である」＋「やや重要である」）の高い順でみると、「高齢者支援」が79.5%で最も高く、以下「治安対策」（79.1%）、「資源環境対策」（79.0%）の順が続いている。

経年でみて、前回結果と比較すると、【重要である】が高くなっているものとして、「子育て支援」（前回76.2%→今回77.7%）、「地域活動支援」（前回67.3%→今回68.9%）、「高齢者支援」（前回77.4%→今回79.5%）などがあげられる。

表9-1-1 満足度・重要度の上位5項目

満足度				重要度			
1	—	資源環境対策	63.3%	1	↑	高齢者支援	79.5%
2	↑	職員の接客態度	59.8	2	—	治安対策	79.1
3	↓	情報提供	59.5	3	↑	資源環境対策	79.0
4	↓	保健衛生対策	59.0	4	↓	交通対策	78.8
5	—	自然・緑化対策	57.4		↓	防災対策	

※矢印は前回順位との比較

《 現状評価（満足度）、重要度について 》

(1) 現状評価（満足度）、重要度の評価点について

各分野の取り組みへの現状評価（満足度）と重要度意識の各選択肢に得点をつけ、現状評価（満足度）、重要度の評価点を算出した。これによって、区民の現状評価（満足度）や重要度意識を明確に捉え、分析することができる。

なお、各選択肢への点数の配分は下記の表のとおりである。

[得点配分]

現状評価（満足度）	重要度	得点
満足	重要である	4
やや満足	やや重要である	2
やや不満	あまり重要ではない	-2
不満	重要ではない	-4

※「無回答」は、母数から除くためポイントをつけない。

[計算式]

$$\text{現状評価} = \frac{\text{「満足」} \times 4 + \text{「やや満足」} \times 2 + \text{「やや不満」} \times (-2) + \text{「不満」} \times (-4)}{\text{「無回答」を除く有効回答者数}}$$

$$\text{重要度} = \frac{\text{「重要である」} \times 4 + \text{「やや重要である」} \times 2 + \text{「あまり重要ではない」} \times (-2) + \text{「重要ではない」} \times (-4)}{\text{「無回答」を除く有効回答者数}}$$

(2) 現状評価（満足度）について

21施策の現状評価（満足度）は、最も高い〈資源環境対策〉の1.34から、最も低い〈防災対策〉の0.02の間に分布している。

分野別でみると、資源や自然・緑化等の環境面、保健衛生面、子育て支援や生涯学習の環境面等で評価が高く、防災・所得・住宅・交通等については低くなっている。

(3) 重要度について

21施策の重要度は、最も高い〈防災対策〉の3.09から、最も低い〈社会参加支援〉の1.34の間に分布している。

分野別でみると、防災・治安・子育て支援等でポイントが高く、男女共同参画や社会参加等で低くなっている。

(4) 現状評価（満足度）、重要度のプロット図

現状評価（満足度）を横軸に、重要度を縦軸にとりて21項目を相対的に評価するため、平均値（満足度平均値0.56、重要度平均値2.37）を境として、4つの領域に分類した。

4つの領域の特性は、以下のとおりである。

A 現状評価（満足度）が平均値より低く、重要度が平均値より高い項目

グラフ左上のAゾーンに位置する項目は、施策の重要性が広く区民に認識され、とくに施策の推進や改善に対する区民のニーズが高い項目と考えられる。従来の取り組みの方向について検討を加え、改善していくことが求められる。

B 現状評価（満足度）、重要度ともに平均値より高い項目

グラフ右上のBゾーンに位置する項目は、施策の重要性が十分認識されているとともに、現在の取り組みにも満足している区民が多い項目と考えられる。今後も現在の水準を維持し、着実に取り組んでいくことが求められる。

現状評価（満足度）平均値（0.56）

≪重要度≫	《Aゾーン》 現状評価：平均値より低い 重要度：平均値より高い	《Bゾーン》 現状評価：平均値より高い 重要度：平均値より高い	重要度 平均値 (2.37)
	《Cゾーン》 現状評価：平均値より低い 重要度：平均値より低い	《Dゾーン》 現状評価：平均値より高い 重要度：平均値より低い	
≪ 現状評価（満足度）≫			

C 現状評価（満足度）、重要度ともに平均値より低い項目

グラフ左下のCゾーンに位置する項目は、取り組みの推進に対する期待は高いものの、他の施策と比較してその重要性の認識が低い項目と考えられる。施策の重要性に対する認知を高めるとともに、従来の取り組みの方向の改善を検討することが求められる。

D 現状評価（満足度）が平均値より高く、重要度が平均値より低い項目

グラフ右下のDゾーンに位置する項目は、他の施策と比較してその重要性の認識は低いものの、現状の取り組みには満足している項目と考えられる。今後も着実に取り組みの推進を図るとともに、施策の重要性についての認知を高めていくことが求められる。

表9-1-2-① 地域ブロック別／現状評価（満足度）

		区全体	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8	第9
ア	子育て支援	0.85	0.41	0.80	1.09	0.93	0.47	0.78	0.88	0.93	1.15
イ	学校教育対策	0.64	0.20	1.15	0.82	0.84	0.37	0.68	0.99	0.52	0.32
ウ	地域活動支援	0.75	0.74	0.96	0.77	0.79	0.20	0.88	1.05	0.92	0.61
エ	社会参加支援	0.61	0.55	0.76	0.55	0.84	0.29	0.67	0.92	0.65	0.27
オ	男女共同参画推進	0.53	0.56	0.80	0.19	0.51	0.40	0.51	0.62	0.46	0.64
カ	生涯学習振興	0.83	0.69	0.54	0.82	0.80	0.80	0.72	0.93	1.00	0.88
キ	高齢者支援	0.24	0.28	0.30	0.22	0.32	-0.41	0.01	0.61	0.16	0.22
ク	障がい者支援	0.45	0.38	0.47	0.27	0.49	0.03	0.36	0.86	0.45	0.51
ケ	保健衛生対策	1.14	1.23	1.26	0.94	1.08	0.79	1.05	1.13	1.02	1.31
コ	低所得者対策	0.05	0.02	0.47	-0.41	0.00	-0.04	0.00	0.11	0.02	0.13
サ	産業振興	0.31	0.73	0.32	-0.43	0.39	0.04	0.30	0.35	0.17	0.27
シ	治安対策	0.44	0.53	0.46	0.17	0.89	0.18	0.50	0.46	0.33	0.47
ス	資源環境対策	1.34	1.34	1.40	1.21	1.52	1.41	1.34	1.11	1.23	1.16
セ	都市開発	0.29	0.37	0.30	0.02	0.48	-0.15	-0.24	0.54	0.27	0.73
ソ	住宅対策	0.09	-0.39	0.19	-0.30	0.13	-0.33	0.38	0.45	-0.13	0.50
タ	交通対策	0.03	0.21	-0.13	-0.06	-0.27	-0.44	0.19	-0.16	0.06	-0.07
チ	防災対策	0.02	-0.14	-0.22	-0.48	-0.20	-0.05	0.05	0.41	0.12	0.48
ツ	自然・緑化対策	0.88	0.45	1.15	0.74	0.80	0.42	0.72	1.01	0.52	1.17
テ	情報提供	1.02	0.94	0.76	0.96	0.79	0.88	1.01	1.26	0.89	0.97
ト	職員の接客態度	0.97	0.91	1.10	1.13	0.97	0.95	0.85	0.97	0.83	0.72
ナ	行政改革	0.35	0.26	0.33	0.32	0.19	0.10	0.33	0.67	0.23	0.26
ニ	区政全体として	0.68	0.55	0.75	0.73	0.80	0.57	0.78	0.50	0.52	0.59

※ ブロックごとに、最も評価点の高いものを「文字白抜き」、低いものを「網掛け」で表示しています。

表9-1-2-② 地域ブロック別／現状評価（満足度）

		区全体	第10	第11	第12	第13
ア	子育て支援	0.85	0.91	0.89	1.09	1.24
イ	学校教育対策	0.64	0.60	0.45	0.88	0.77
ウ	地域活動支援	0.75	0.58	0.67	0.42	1.17
エ	社会参加支援	0.61	0.66	0.44	0.85	0.55
オ	男女共同参画推進	0.53	0.58	0.28	0.67	0.65
カ	生涯学習振興	0.83	1.02	0.70	0.97	1.04
キ	高齢者支援	0.24	0.49	-0.18	0.83	0.49
ク	障がい者支援	0.45	0.42	0.19	1.08	0.67
ケ	保健衛生対策	1.14	1.41	0.94	1.38	1.36
コ	低所得者対策	0.05	0.16	0.15	0.44	-0.22
サ	産業振興	0.31	0.52	0.26	0.51	0.25
シ	治安対策	0.44	0.61	0.49	0.49	0.02
ス	資源環境対策	1.34	1.31	1.31	1.56	1.43
セ	都市開発	0.29	0.33	0.41	0.99	0.38
ソ	住宅対策	0.09	0.09	0.34	0.23	0.45
タ	交通対策	0.03	0.35	-0.10	0.40	0.27
チ	防災対策	0.02	0.15	-0.12	0.18	0.39
ツ	自然・緑化対策	0.88	0.99	1.13	1.53	1.56
テ	情報提供	1.02	1.34	1.09	1.16	1.26
ト	職員の接客態度	0.97	0.81	1.00	0.99	1.46
ナ	行政改革	0.35	0.49	0.34	0.33	0.77
ニ	区政全体として	0.68	0.74	0.71	0.93	0.83

※ ブロックごとに、最も評価点の高いものを「文字白抜き」、低いものを「網掛け」で表示しています。

表9-1-3-① 地域ブロック別／重要度

		区全体	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8	第9
ア	子育て支援	3.06	3.06	2.96	3.26	3.22	3.19	3.27	2.53	3.36	2.70
イ	学校教育対策	2.97	2.88	2.78	3.15	3.17	3.05	3.00	2.58	3.24	2.72
ウ	地域活動支援	1.88	1.75	1.74	1.98	1.83	2.13	2.02	1.84	1.96	1.70
エ	社会参加支援	1.34	1.07	1.30	1.08	1.39	1.37	1.42	1.54	1.48	1.33
オ	男女共同参画推進	1.37	1.12	1.10	0.94	1.51	1.55	1.58	1.38	1.46	1.64
カ	生涯学習振興	1.67	1.66	1.47	1.38	1.72	1.73	1.81	1.80	1.84	1.49
キ	高齢者支援	2.91	2.86	2.77	2.93	2.98	3.17	3.10	2.77	3.20	2.45
ク	障がい者支援	2.74	2.70	2.81	2.69	2.80	2.97	2.93	2.38	2.88	2.59
ケ	保健衛生対策	2.63	2.43	2.59	2.47	2.84	2.74	2.83	2.46	2.63	2.40
コ	低所得者対策	1.89	1.64	2.02	1.80	2.10	2.10	2.07	1.81	1.96	2.02
サ	産業振興	1.74	1.43	1.39	2.00	1.92	1.93	1.54	1.75	1.73	1.45
シ	治安対策	3.03	2.95	2.96	3.02	3.05	3.15	3.10	3.04	3.00	2.89
ス	資源環境対策	2.75	2.68	2.84	3.06	2.70	2.72	2.74	2.81	2.74	2.58
セ	都市開発	2.18	2.19	2.24	1.94	2.09	2.26	2.29	2.09	2.02	1.97
ソ	住宅対策	1.95	1.92	1.80	2.02	1.95	1.89	2.04	2.06	2.02	1.79
タ	交通対策	2.92	2.72	3.02	2.97	2.81	2.95	2.99	2.95	2.96	2.67
チ	防災対策	3.09	3.04	2.96	3.17	3.13	3.07	3.19	2.91	3.28	2.60
ツ	自然・緑化対策	2.36	2.29	2.06	2.25	2.33	2.55	2.54	2.64	2.22	2.10
テ	情報提供	2.18	2.13	1.77	2.16	2.17	2.03	2.28	2.29	2.33	1.87
ト	職員の接客態度	2.35	2.16	2.37	2.61	2.17	2.27	2.25	2.63	2.29	2.30
ナ	行政改革	2.57	2.61	2.20	2.69	2.43	2.49	2.61	2.64	2.39	2.46

※ ブロックごとに、最も評価点の高いものを「文字白抜き」、低いものを「網掛け」で表示しています。

表9-1-3-② 地域ブロック別／重要度

		区全体	第10	第11	第12	第13
ア	子育て支援	3.06	2.87	2.83	2.96	3.39
イ	学校教育対策	2.97	2.91	2.73	3.18	3.28
ウ	地域活動支援	1.88	1.91	1.72	1.87	1.89
エ	社会参加支援	1.34	1.49	1.30	1.12	1.50
オ	男女共同参画推進	1.37	1.44	0.85	1.67	1.59
カ	生涯学習振興	1.67	1.76	1.24	1.59	2.04
キ	高齢者支援	2.91	2.67	2.70	2.96	3.03
ク	障がい者支援	2.74	2.62	2.41	2.79	2.95
ケ	保健衛生対策	2.63	2.67	2.61	2.70	2.77
コ	低所得者対策	1.89	1.77	1.67	1.82	1.86
サ	産業振興	1.74	1.85	1.98	1.85	2.07
シ	治安対策	3.03	2.77	3.20	2.98	3.29
ス	資源環境対策	2.75	2.51	2.79	2.77	2.95
セ	都市開発	2.18	2.11	2.61	1.95	2.36
ソ	住宅対策	1.95	1.92	2.04	1.89	1.91
タ	交通対策	2.92	2.72	3.24	3.04	3.04
チ	防災対策	3.09	3.07	3.41	3.14	3.19
ツ	自然・緑化対策	2.36	2.12	2.64	2.28	2.53
テ	情報提供	2.18	2.22	2.34	2.51	2.34
ト	職員の接客態度	2.35	2.47	2.33	2.26	2.61
ナ	行政改革	2.57	2.62	2.50	2.73	2.92

※ ブロックごとに、最も評価点の高いものを「文字白抜き」、低いものを「網掛け」で表示しています。

第3章 調査結果の分析

全21施策の現状評価（満足度）と重要度の関係を見た。

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」「交通対策」「高齢者支援」などは、現状評価が低く、重要度が高くなっている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」「保健衛生対策」「子育て支援」などは、現状評価、重要度の両面で高くなっている。

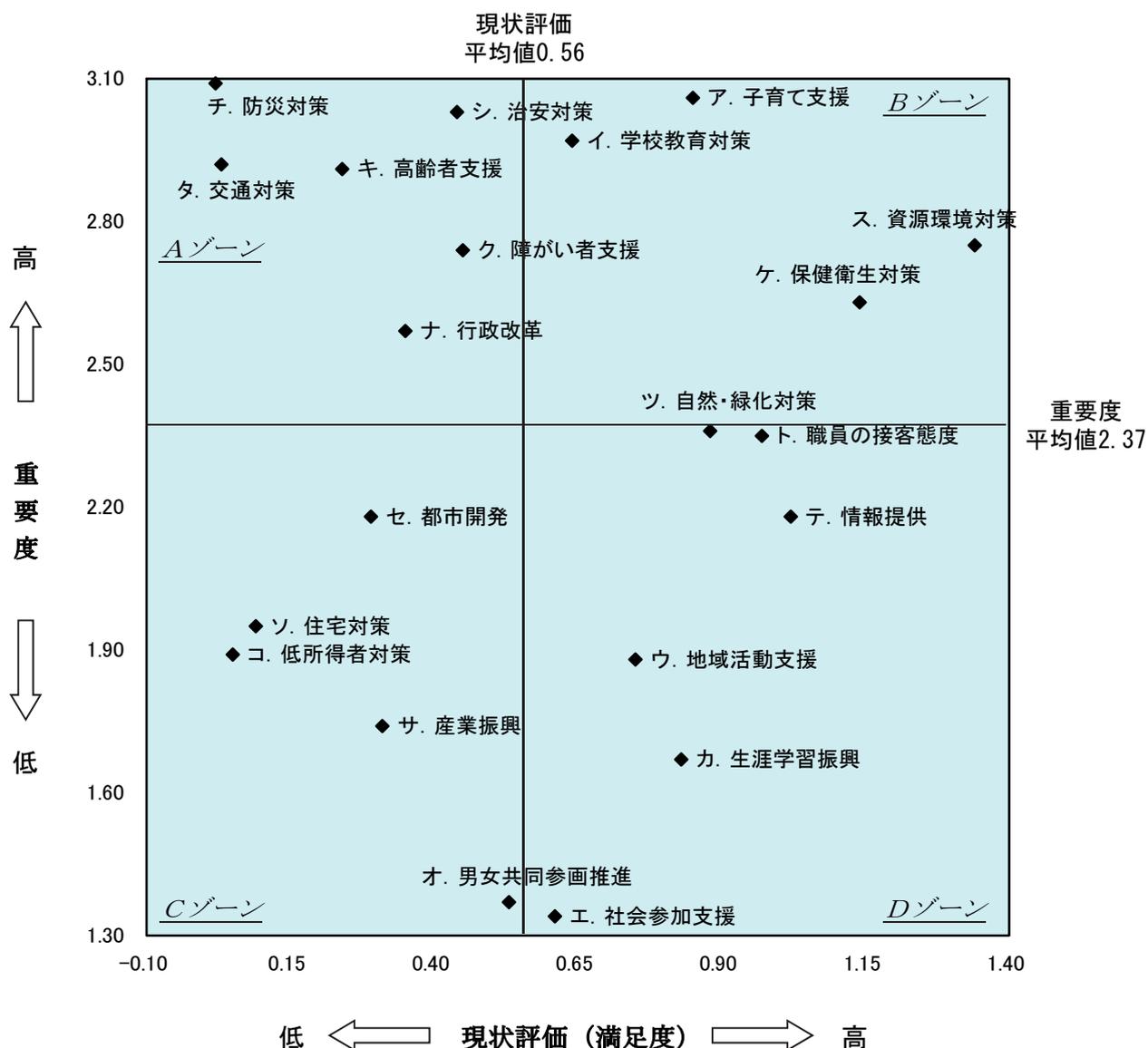
C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

「住宅対策」「低所得者対策」などは、現状評価、重要度の両面で低くなっている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「生涯学習振興」「情報提供」「地域活動支援」などがあげられている。

図9-1-3 重要度と現状評価（満足度）の関係



各ブロックの現状評価（満足度）と重要度の関係を見た。《第1ブロック》では、

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」の満足度が低く、重要度は極めて高くなっているほか、「学校教育対策」「高齢者支援」「交通対策」などもあげられている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」の満足度が特に高く、重要度も高くなっているほか、「保健衛生対策」もあげられている。

C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

「住宅対策」の満足度が特に低く、重要度も低くなっているほか、「低所得者対策」もあげられている。

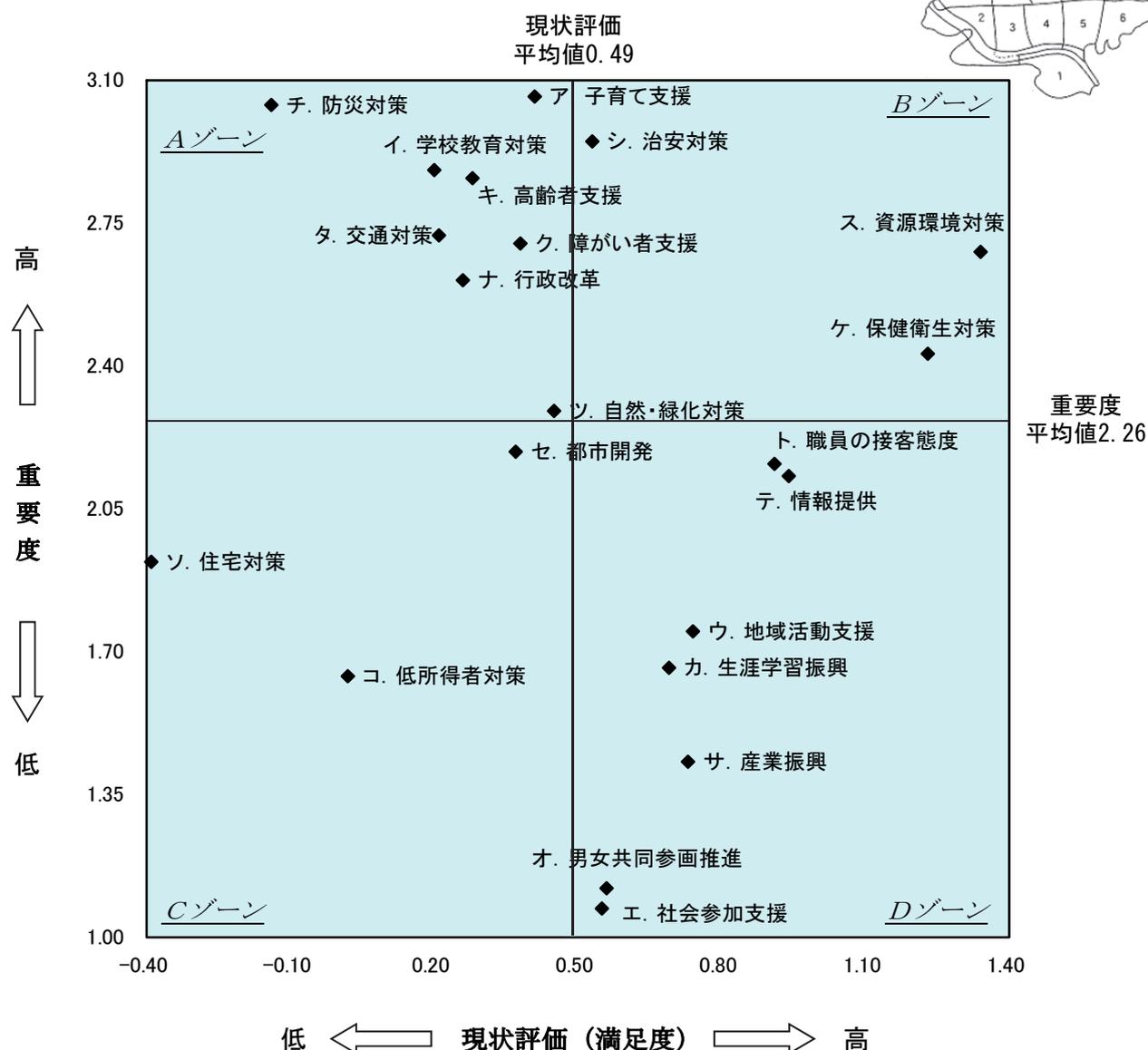
D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「地域活動支援」「生涯学習振興」「産業振興」などがあげられている。

ブロック区分図



図9-1-4-① 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係／第1ブロック



《第2ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」とともに「交通対策」の満足度が特に低く、重要度は極めて高くなっているほか、「高齢者支援」「障がい者支援」「治安対策」もあげられている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」「保健衛生対策」などの満足度が高く、「子育て支援」の重要度が高くなっている。

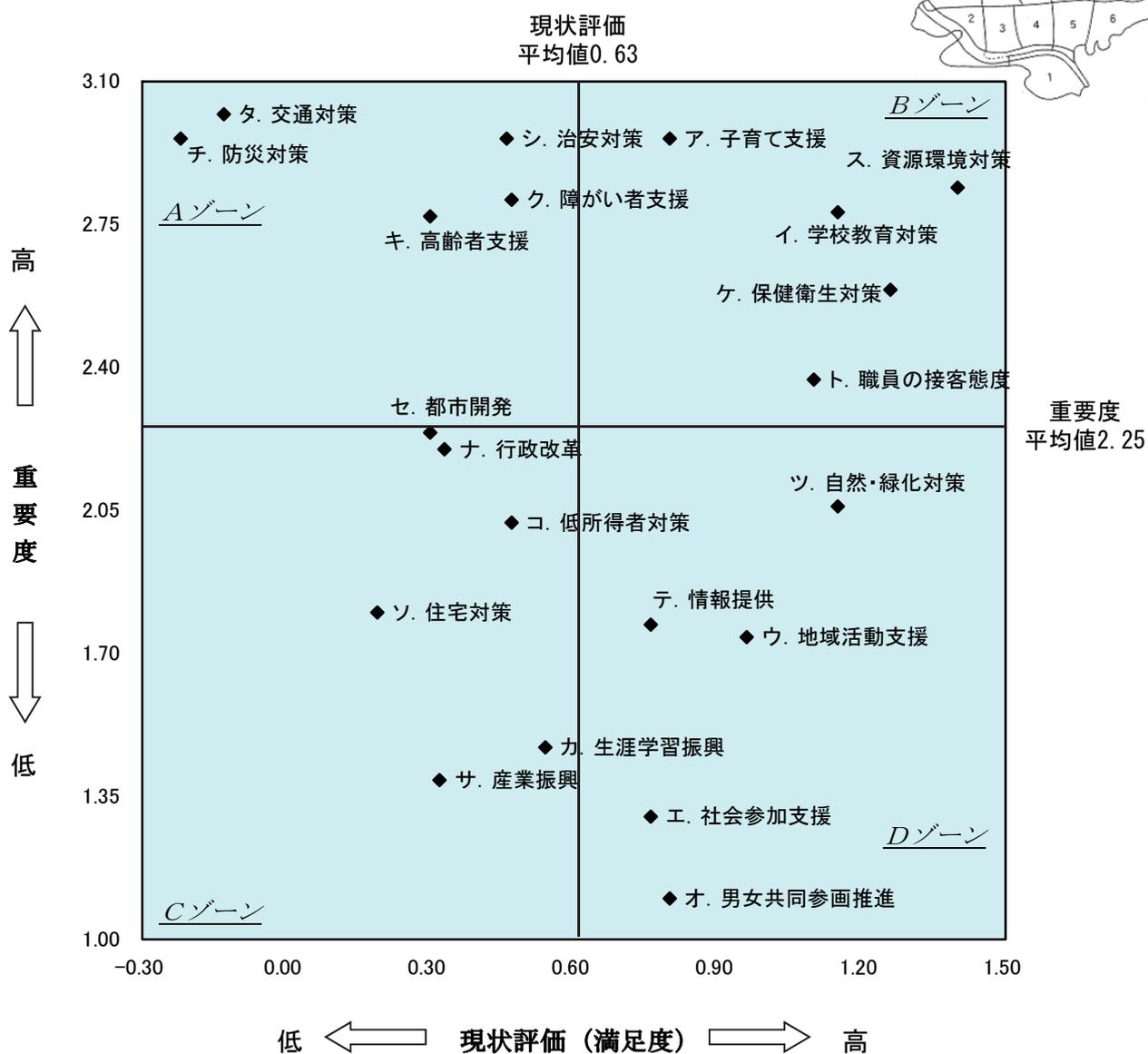
C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

「住宅対策」「産業振興」などがあげられている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「自然・緑化対策」「地域活動支援」「情報提供」などがあげられている。

図9-1-4-② 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第2ブロック



《第3ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」が特に満足度が低く、極めて重要度が高くなっている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「子育て支援」が満足度が高く、重要度も極めて高くなっているほか、「資源環境対策」の満足度・重要度も高くなっている。

C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

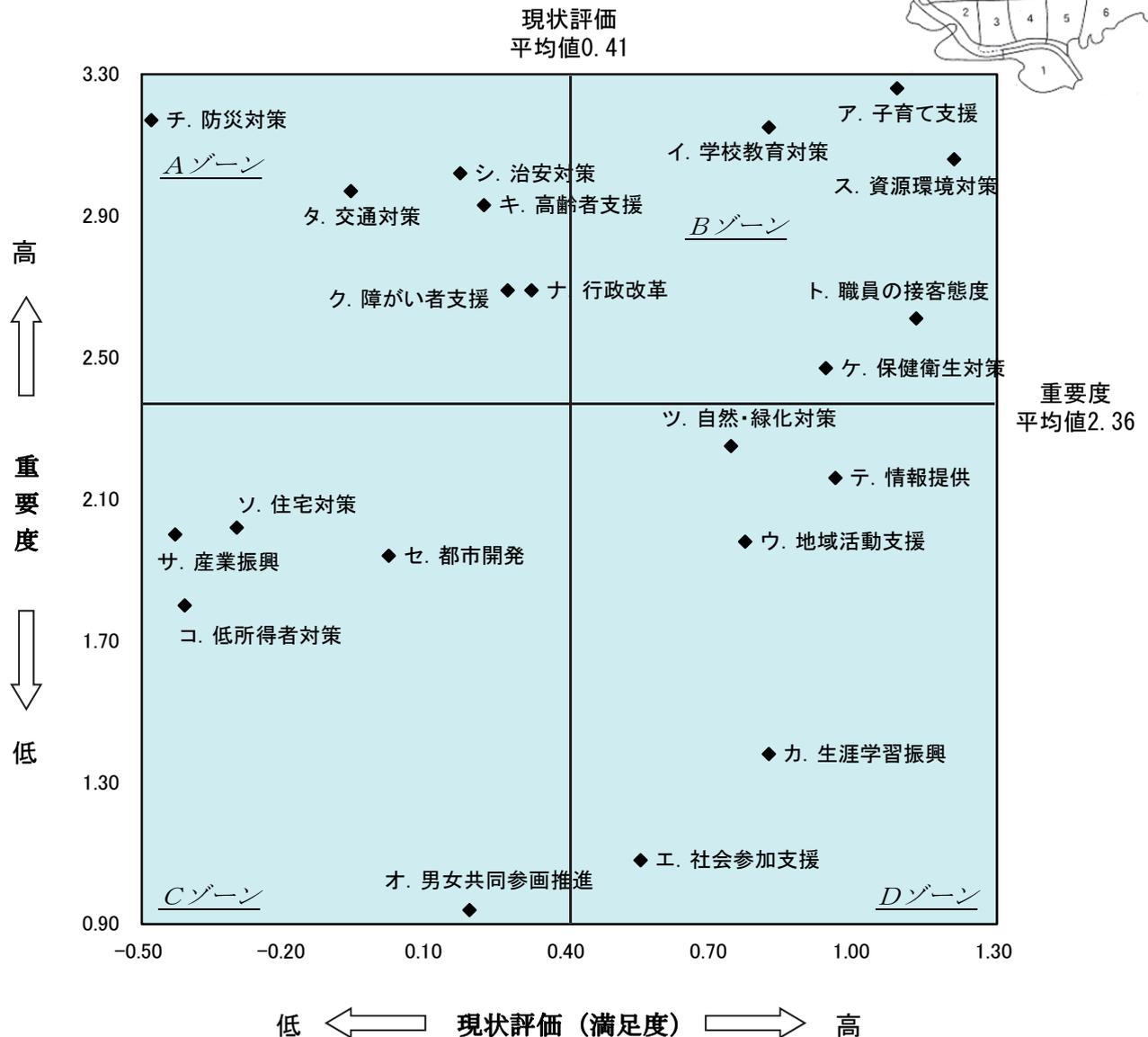
「住宅対策」「産業振興」「低所得者対策」などがあげられている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「情報提供」「地域活動支援」「生涯学習振興」があげられている。



図9-1-4-③ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係／第3ブロック



《第4ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」の満足度が低く、重要度は高くなっているほか、「交通対策」の満足度も低くなっている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」「保健衛生対策」「子育て支援」などがあげられている。

C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

「住宅対策」「低所得者対策」などがあげられている。

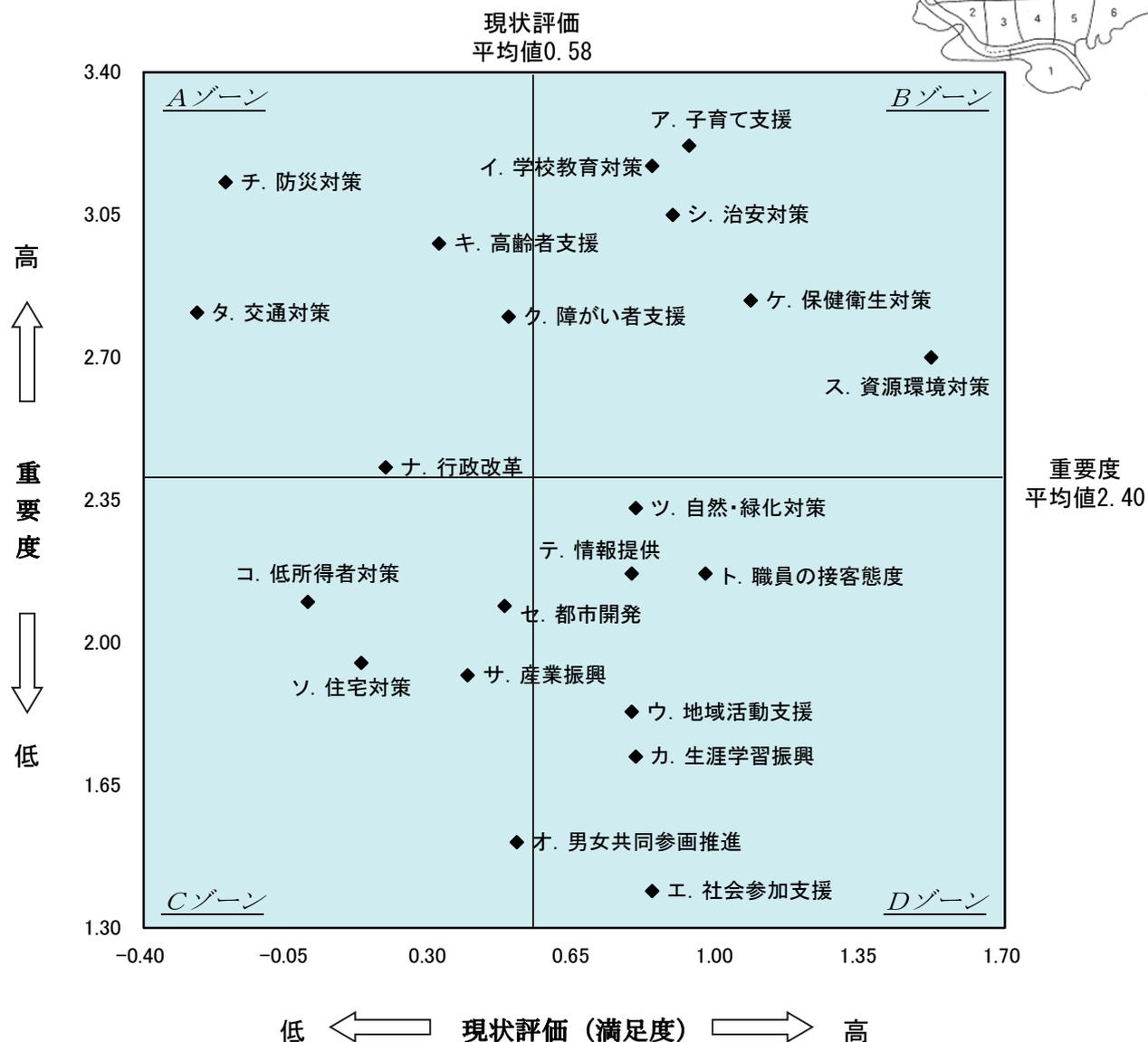
D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「社会参加支援」「生涯学習振興」「地域活動支援」などがあげられている。

ブロック区分図



図9-1-4-④ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第4ブロック



《第5ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「高齢者支援」「防災対策」「交通支援」の満足度が低く、重要度が高くなっている

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」の満足度が高くなっている。

C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

「住宅対策」「低所得者対策」「産業振興」などがあげられている。

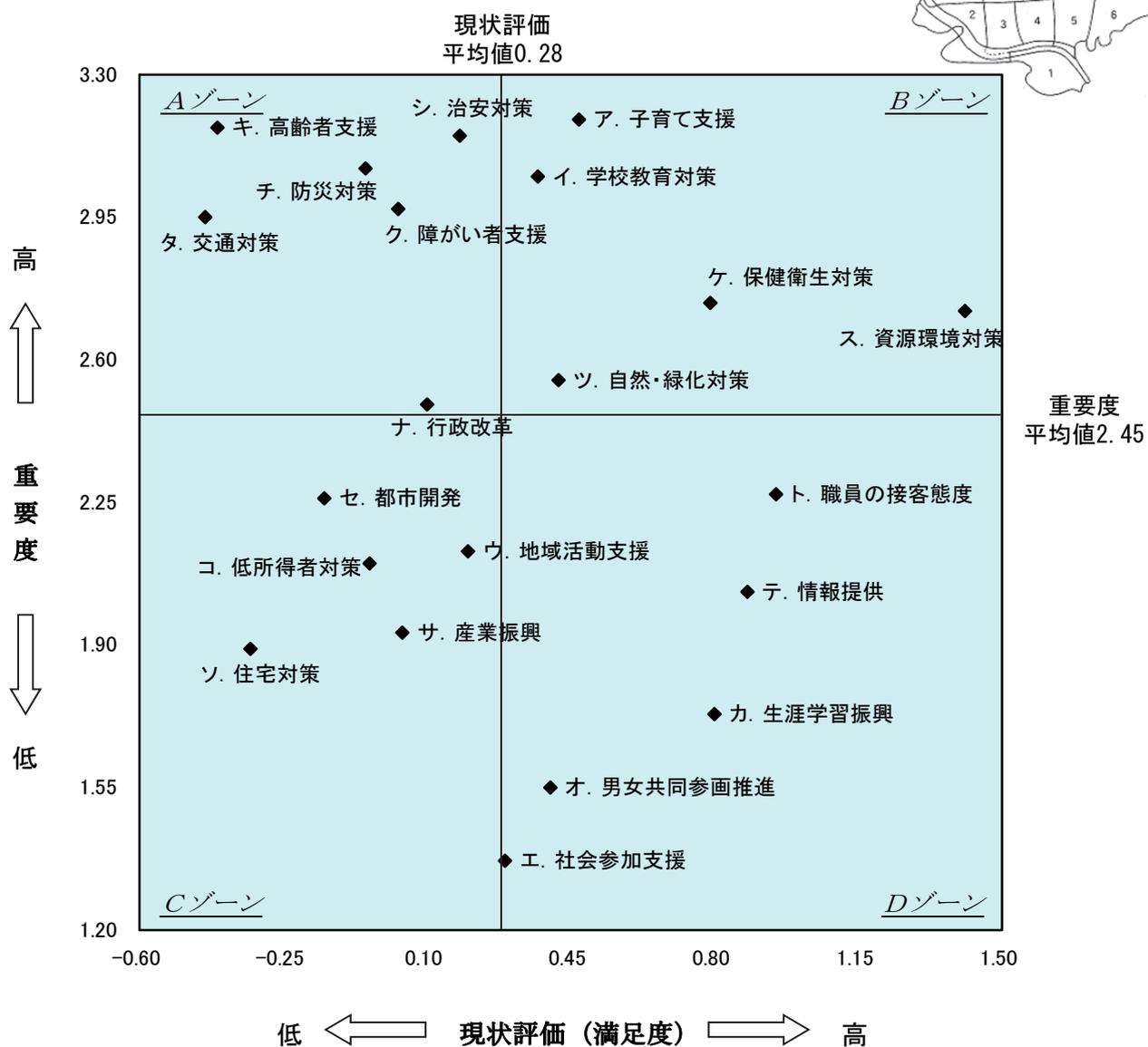
D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「生涯学習振興」「情報提供」などがあげられている。

ブロック区分図



図9-1-4-⑤ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第5ブロック



《第6ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」「高齢者支援」の満足度が低く、重要度は高くなっている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」の満足度が高く、「子育て支援」の重要度が高くなっている。

C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

「都市開発」の満足度が低く、「産業振興」の重要度が低くなっている。

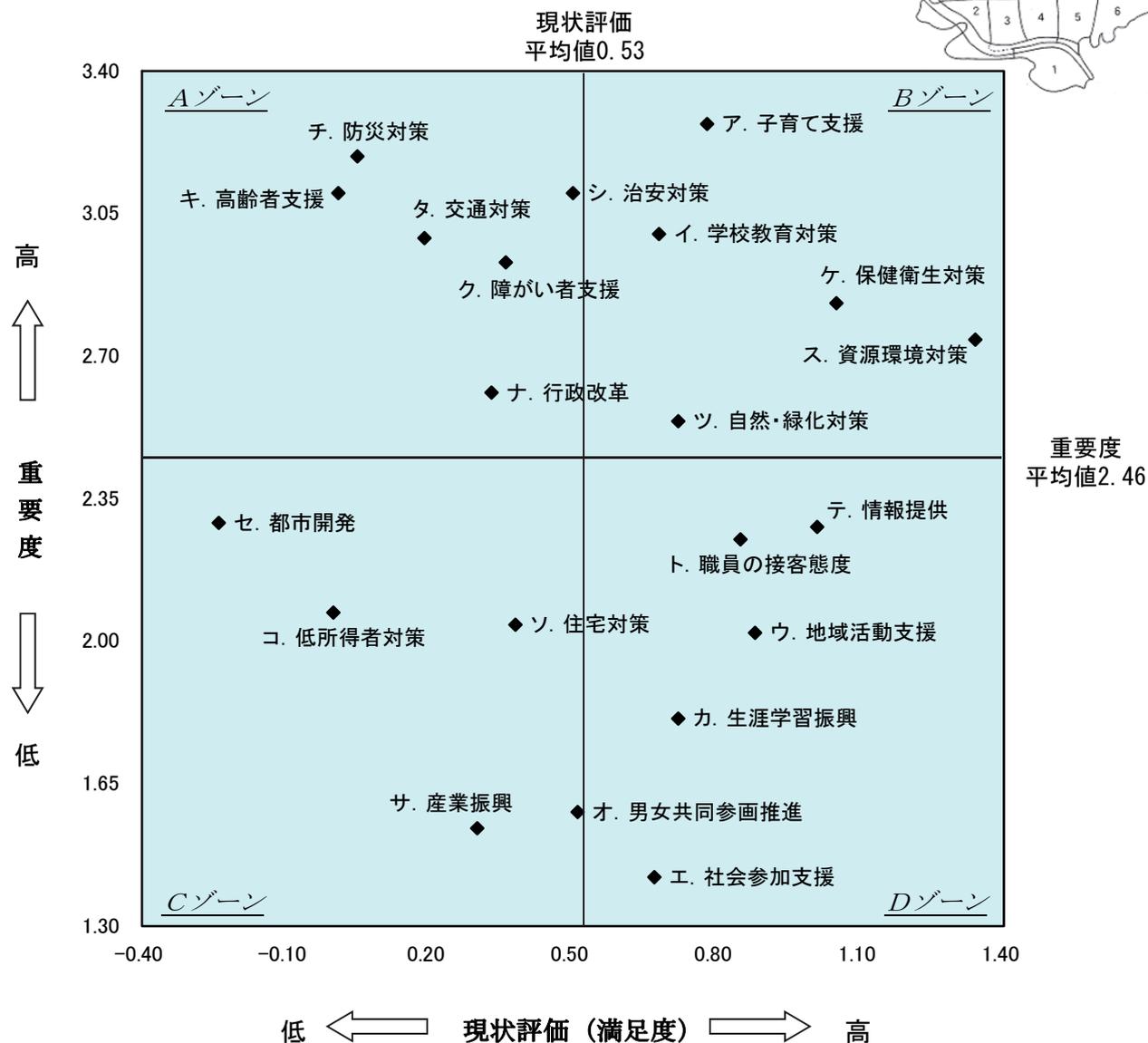
D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「地域活動支援」「生涯学習振興」などがあげられている。

ブロック区分図



図9-1-4-⑥ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第6ブロック



《第7ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「交通対策」の満足度が突出して低く、重要度が高くなっている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」「保健衛生対策」などがあげられている。

C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

「低所得者対策」が、満足度、重要度とも低くなっている。

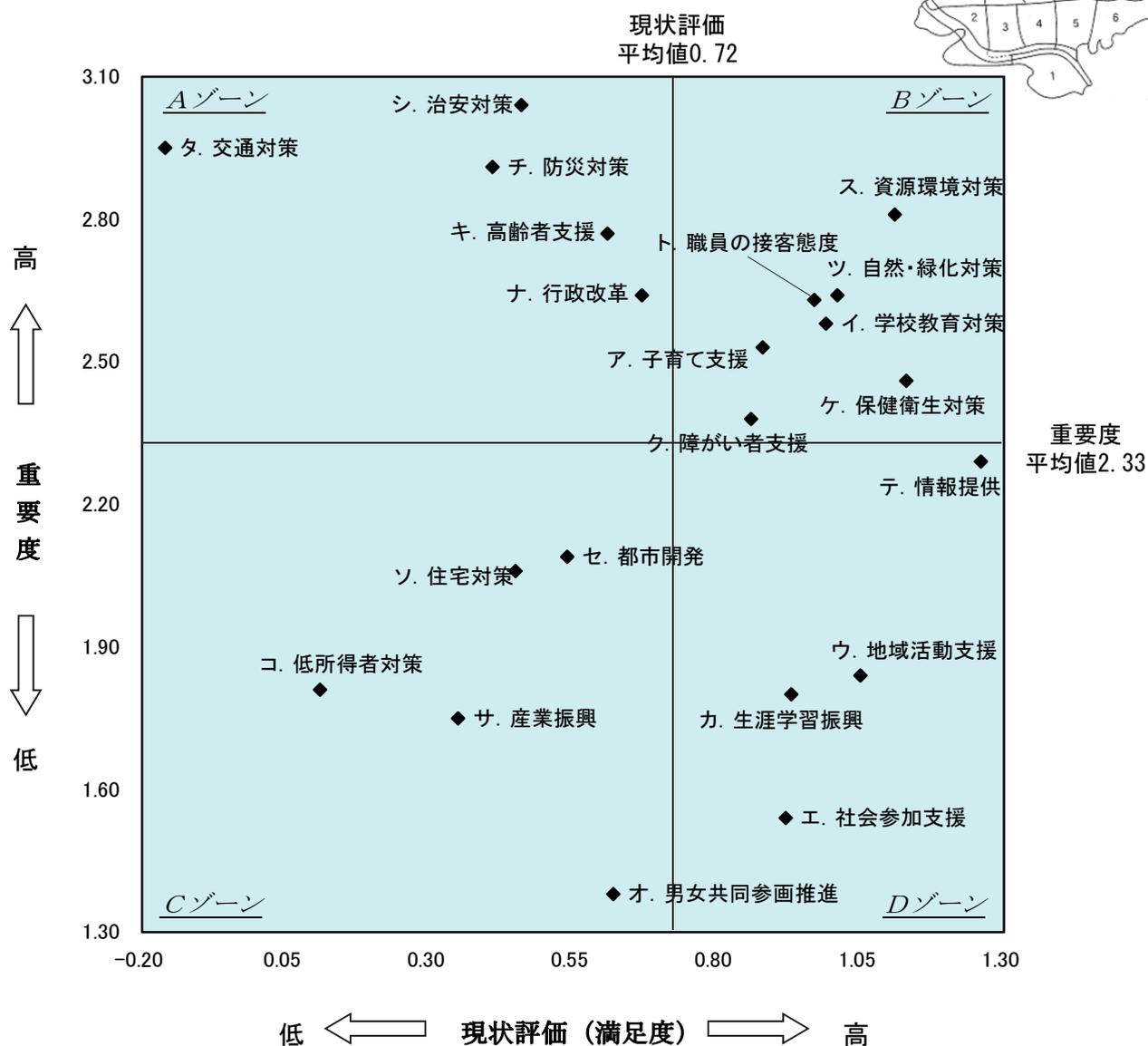
D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「情報提供」の満足度が高くなっている。

ブロック区分図



図9-1-4-⑦ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第7ブロック



《第8ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」は満足度が低く、重要度が高くなっているほか、「高齢者支援」「交通対策」もあげられている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」の満足度が高く、「子育て支援」の重要度が高くなっている。

C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

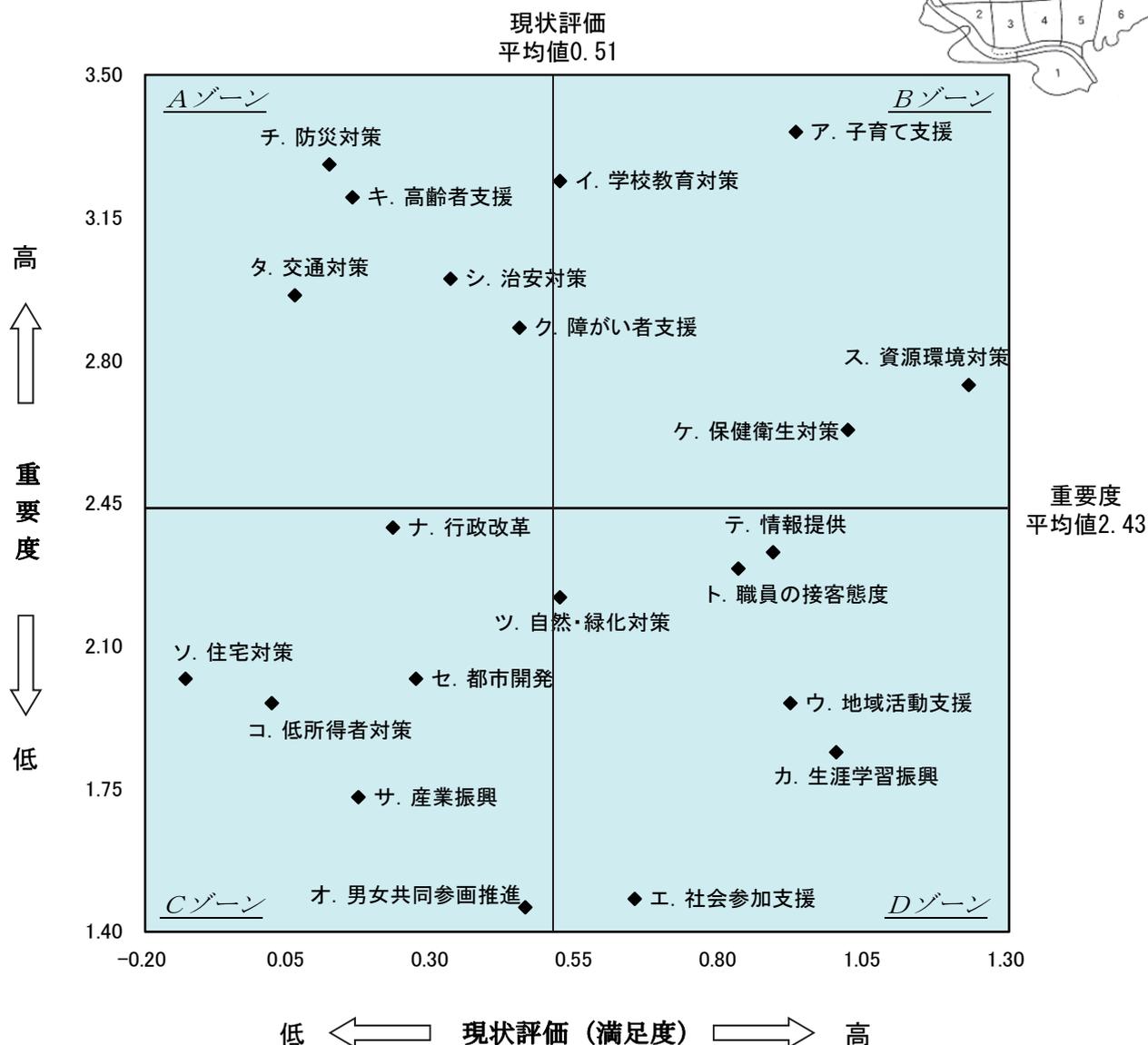
「住宅対策」「低所得者対策」「産業振興」などがあげられている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「地域活動支援」「生涯学習振興」の満足度が高く、重要度が低くなっている。



図9-1-4-⑧ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第8ブロック



《第9ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「交通対策」の満足度が低く、「治安対策」の重要度が高くなっている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「保健衛生対策」の満足度が高くなっているほか、「子育て支援」「資源環境対策」があげられている。

C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

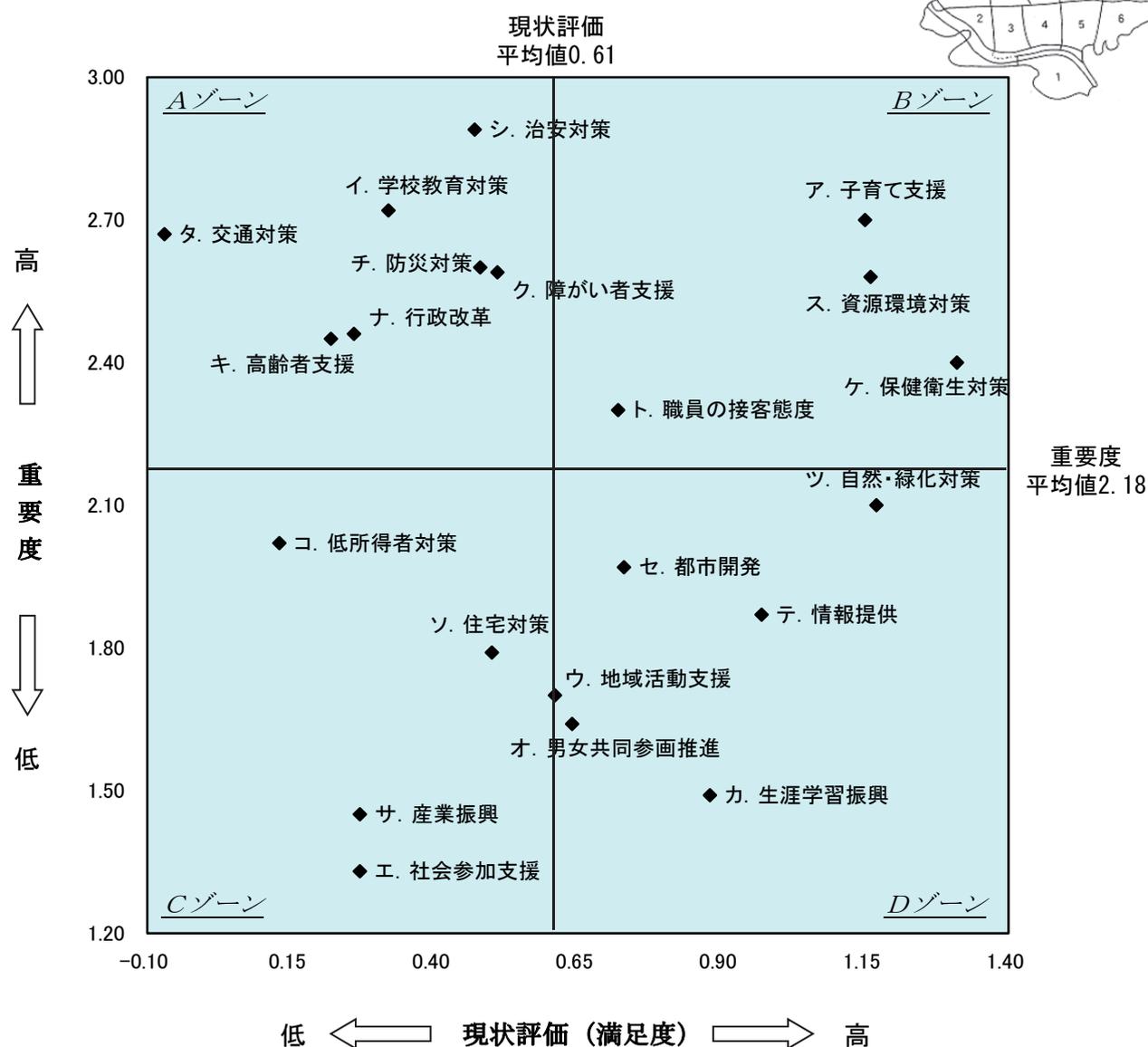
「産業振興」「社会参加支援」「低所得者対策」などがあげられている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「自然・緑化対策」の満足度が高くなっているほか、「情報提供」「生涯学習振興」があげられている。

図9-1-4-⑨ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第9ブロック

ブロック区分図



《第10ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」の満足度が低く、重要度が特に高くなっている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」「保健衛生対策」の満足度が高くなっている。

C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

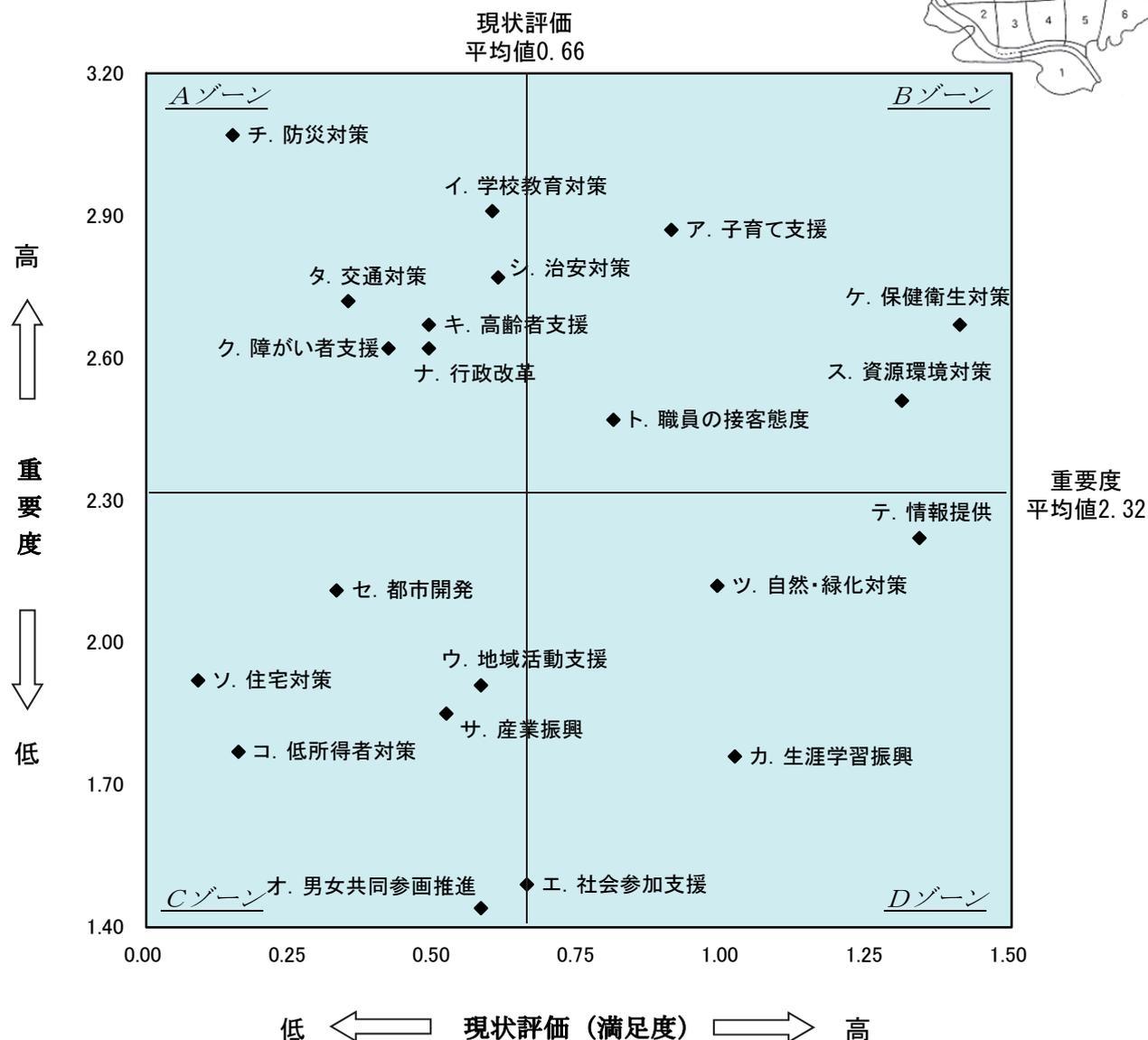
「住宅対策」「低所得者対策」で満足度、重要度も低くなっている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「情報提供」の満足度が高くなっているほか、「自然・緑化対策」「生涯学習振興」があげられている。



図9-1-4-⑩ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係／第10ブロック



《第11ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」「交通対策」の満足度が低く、重要度が特に高くなっている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」「自然・緑化対策」の満足度が高くなっている。

C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

「低所得者対策」「産業振興」「住宅対策」などがあげられている。

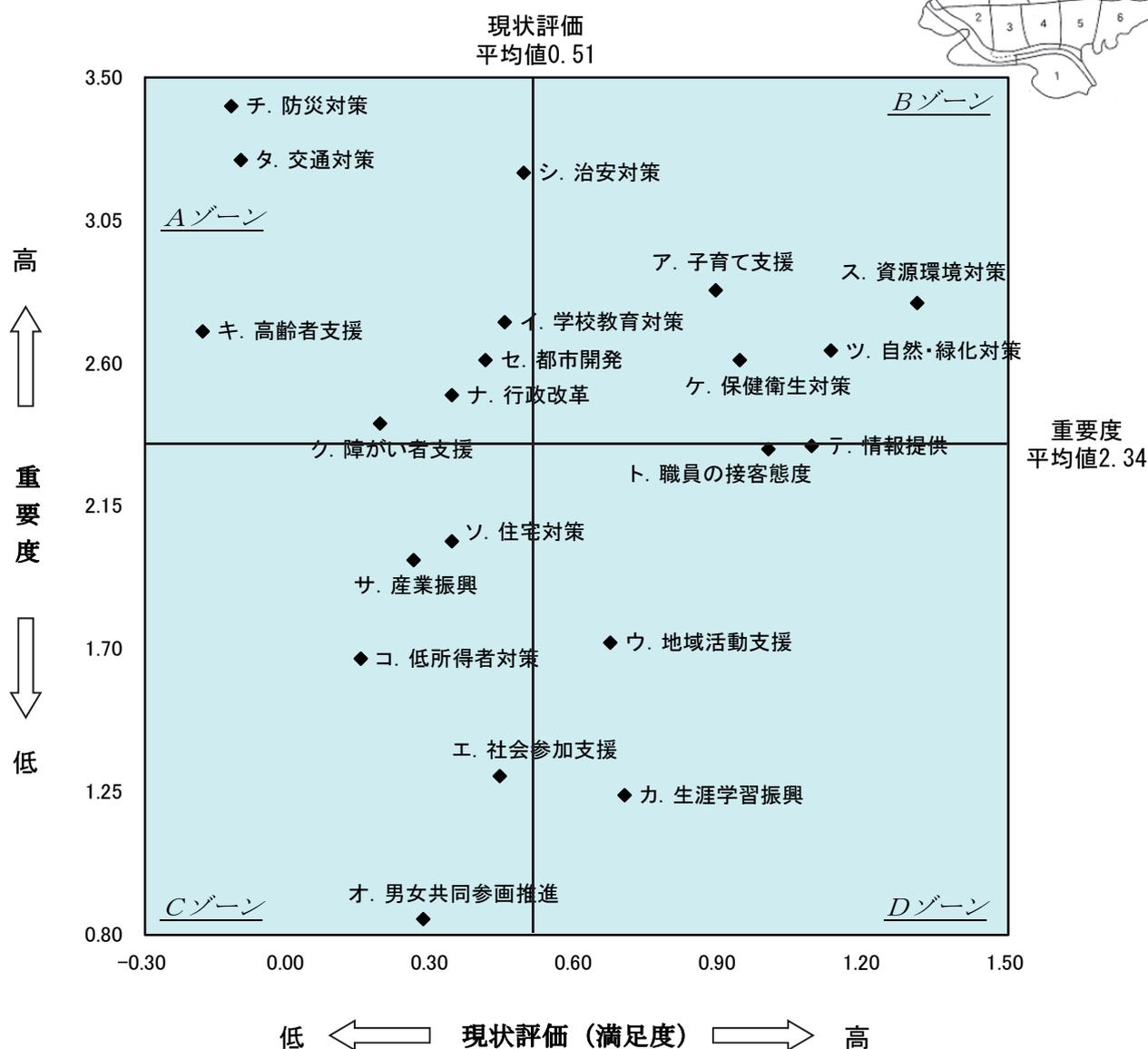
D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「地域活動支援」「生涯学習振興」があげられている。

ブロック区分図



図9-1-4-⑪ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第11ブロック



《第12ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」の満足度が特に低く、重要度が特に高くなっているほか、「交通対策」「治安対策」「行政改革」もあげられている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」は満足度が高く、「学校教育対策」は重要度が高くなっている。

C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

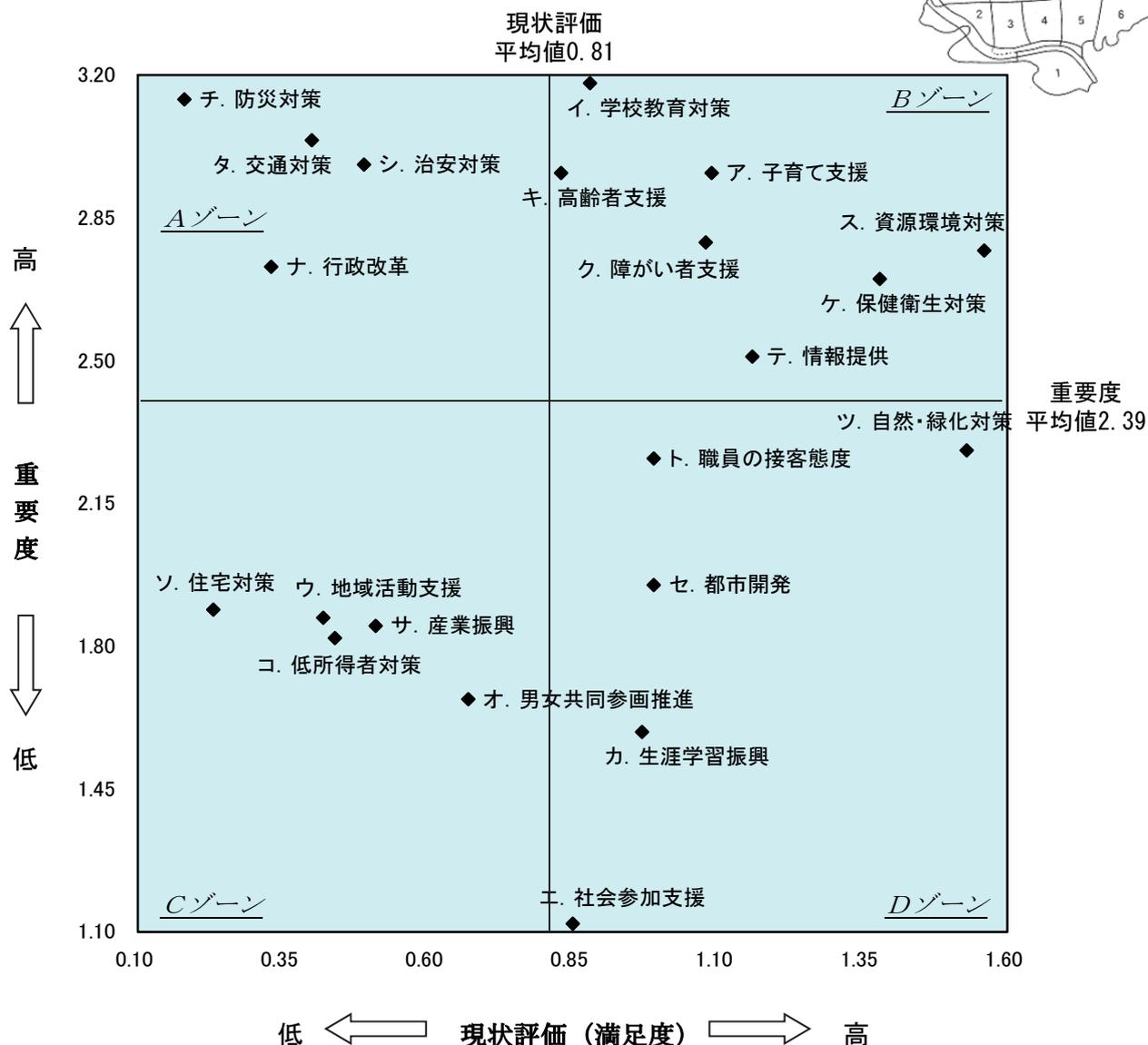
「住宅対策」のほか、「地域活動支援」「低所得者対策」「産業振興」があげられている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「自然・緑化対策」の満足度が高くなっている。



図9-1-4-⑫ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第12ブロック



《第13ブロック》

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「治安対策」は満足度が低く、重要度が高くなっている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「子育て支援」は満足度が高く、重要度は特に高くなっている。

C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

「低所得者対策」は満足度が特に低く、重要度も低くなっている。

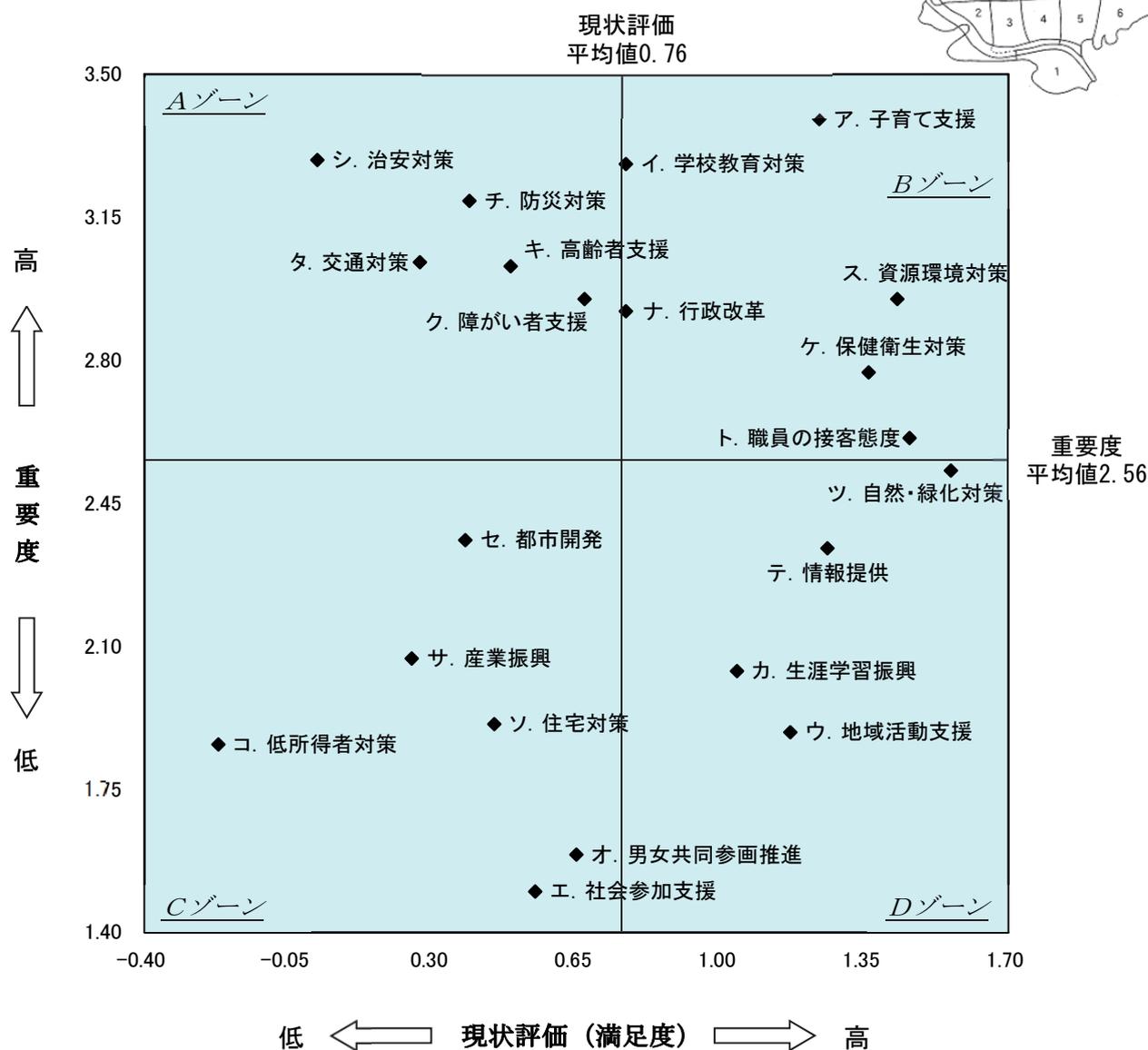
D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「自然・緑化対策」の満足度が高くなっているほか、「情報提供」などもあげられている。

ブロック区分図



図9-1-4-⑬ 地域ブロック別／重要度と現状評価（満足度）の関係
／第13ブロック

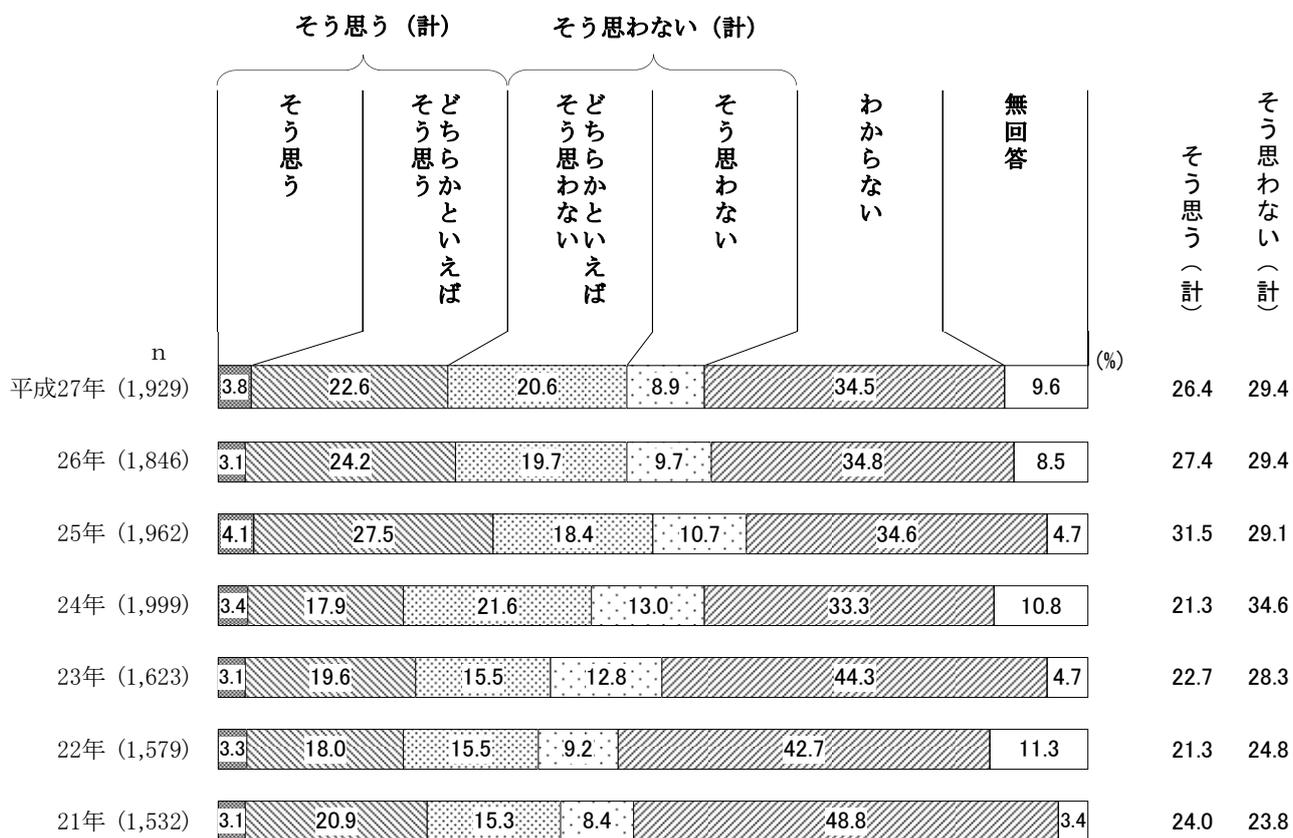


(2) 区政への区民意見の反映度

■ 【そう思う】は2割台半ば

問36 あなたは、区政に区民の意見が反映されていると感じていますか（○は1つだけ）。

図9-2-1 経年比較／区政への区民意見の反映度

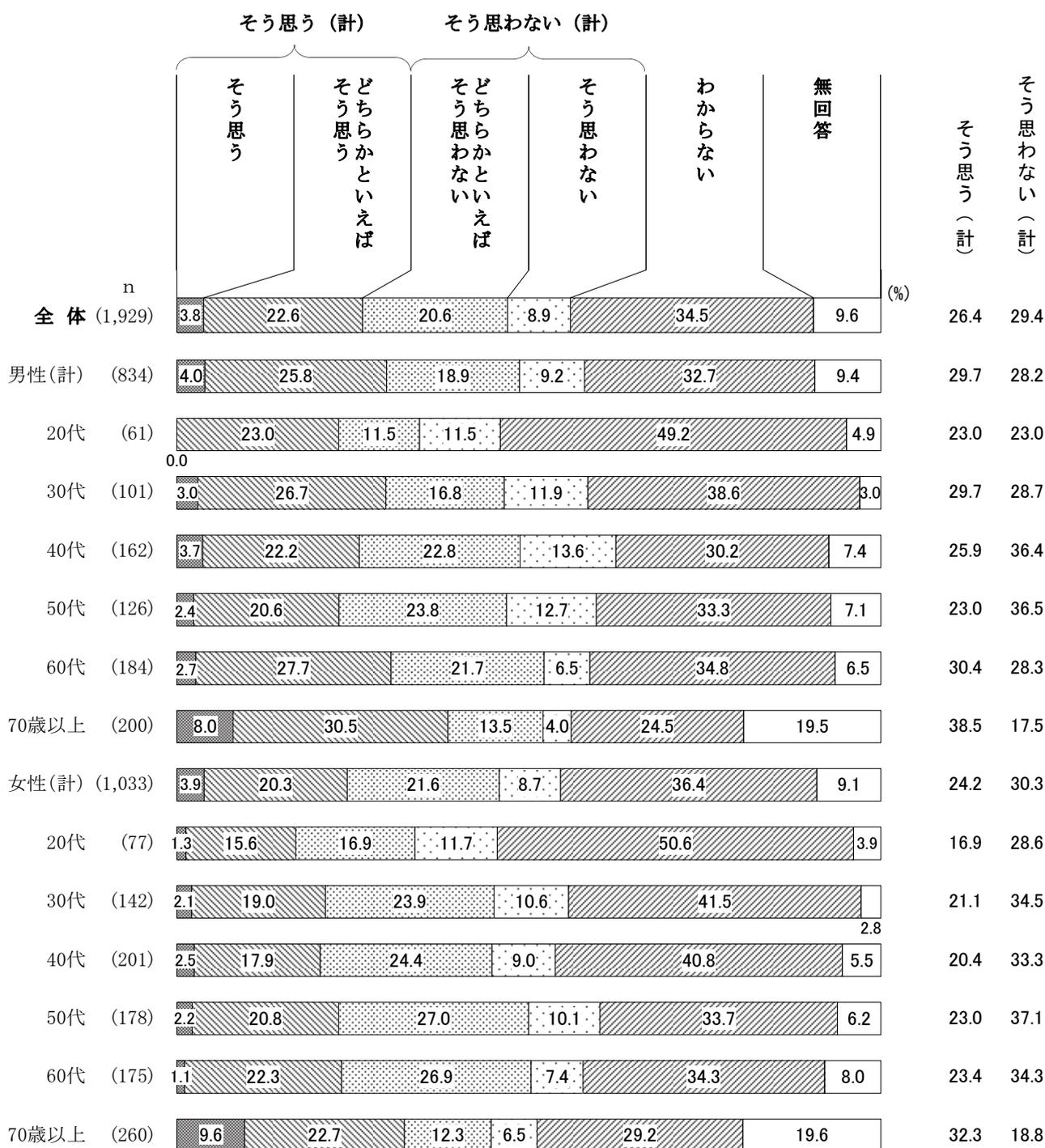


区政に区民の意見が反映されていると感じているか聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】は26.4%で、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【そう思わない】（29.4%）を下回っている。

経年でみると、【そう思う】は、平成26年27.4%、今回26.4%と横ばいとなっている。

性別で見ると、男性では【そう思う】が29.7%と、女性（24.2%）より高くなっている。
 性・年代別で見ると、男性では、70歳以上で【そう思う】が38.5%と高くなっているほか、30代、60代でも3割前後を占めている。
 女性では、70歳以上で【そう思う】が32.3%と、他の年代より高くなっている。

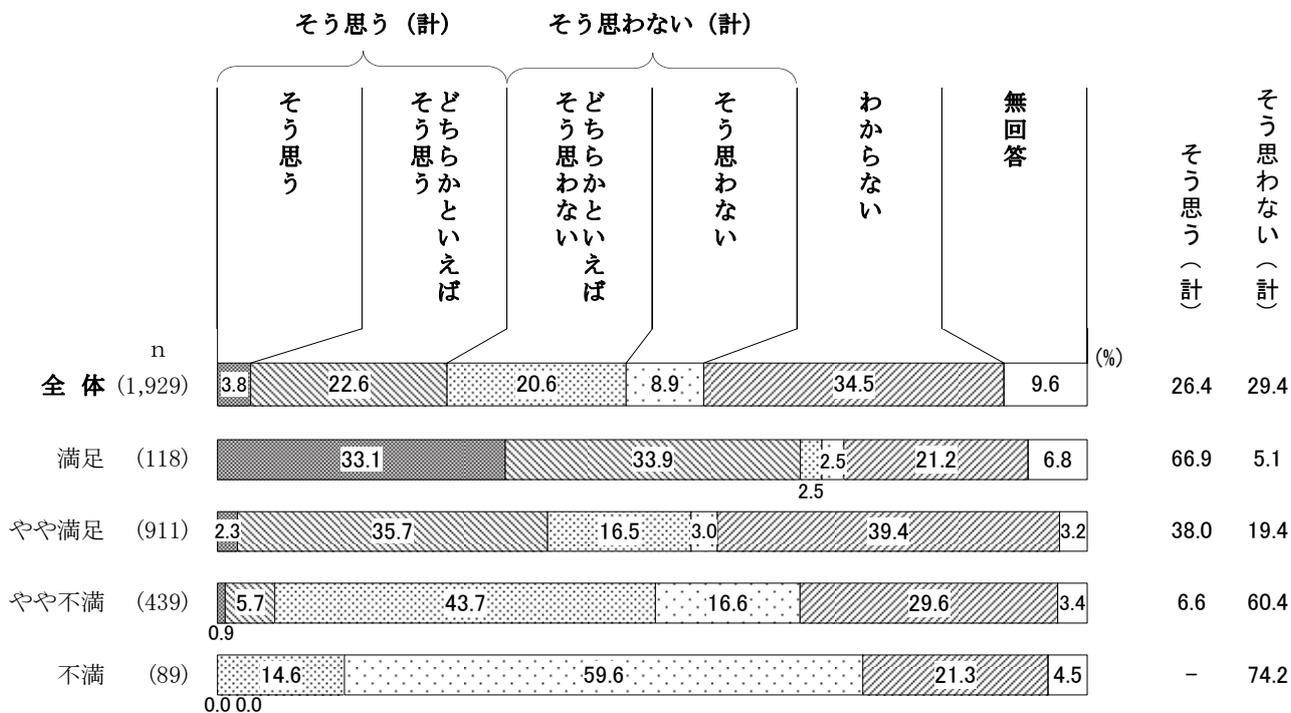
図9-2-2 性別、性・年代別／区政への区民意見の反映度



第3章 調査結果の分析

区政満足度別で見ると、満足度が高くなるほど【そう思う】は増加し、満足している層では66.9%と高くなっている。

図9-2-3 区政満足度別／区政への区民意見の反映度



(3) 区に対する気持ち

■ “愛着をもっている、誇りをもっている、人に勧めたい”は、昨年度の過去最高値から微減

問37 あなたの足立区に対する気持ちとして、以下の項目にどの程度あてはまりますか（○はそれぞれ1つずつ）。

図9-3-1-① 経年比較/区に対する気持ち

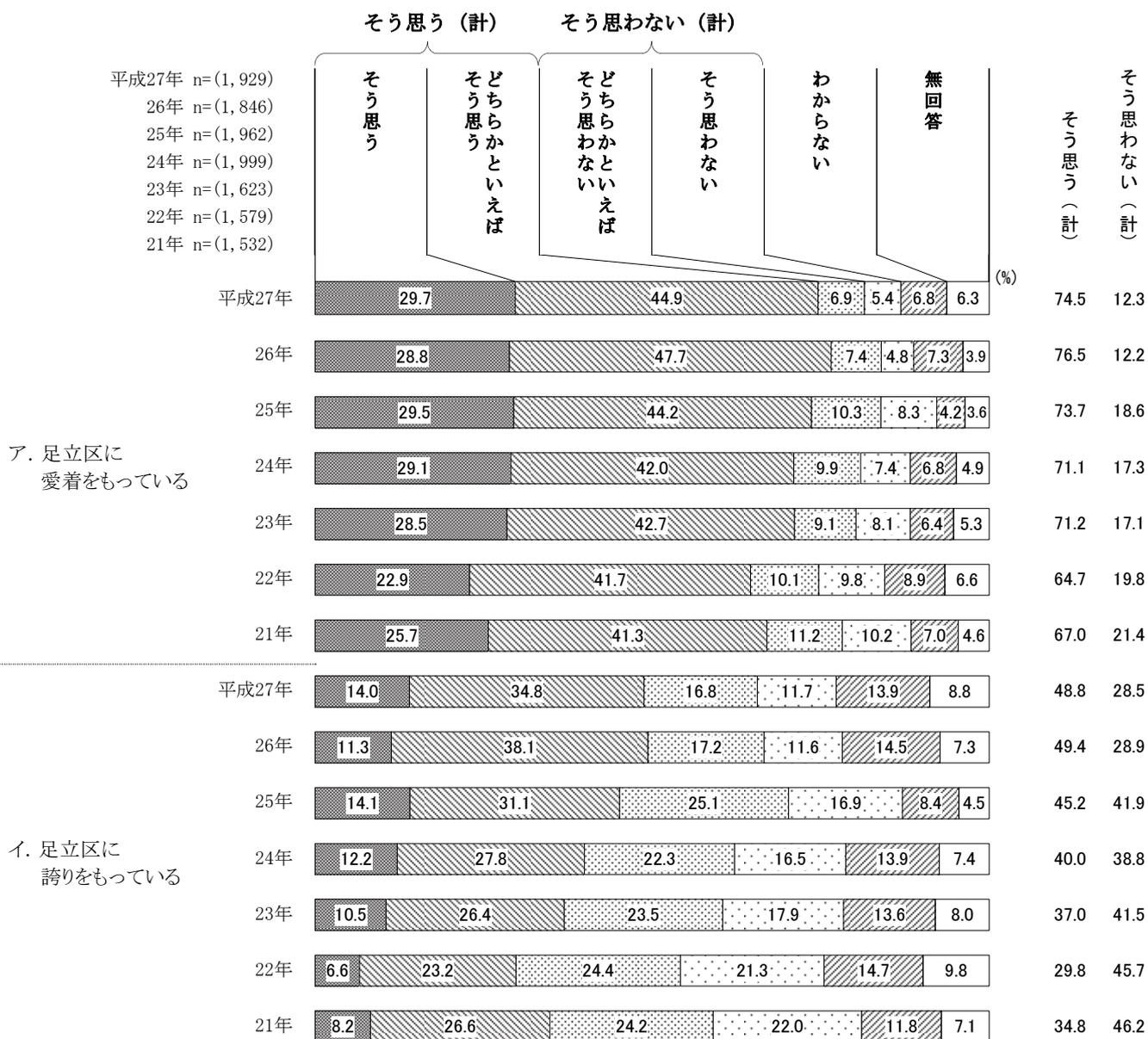
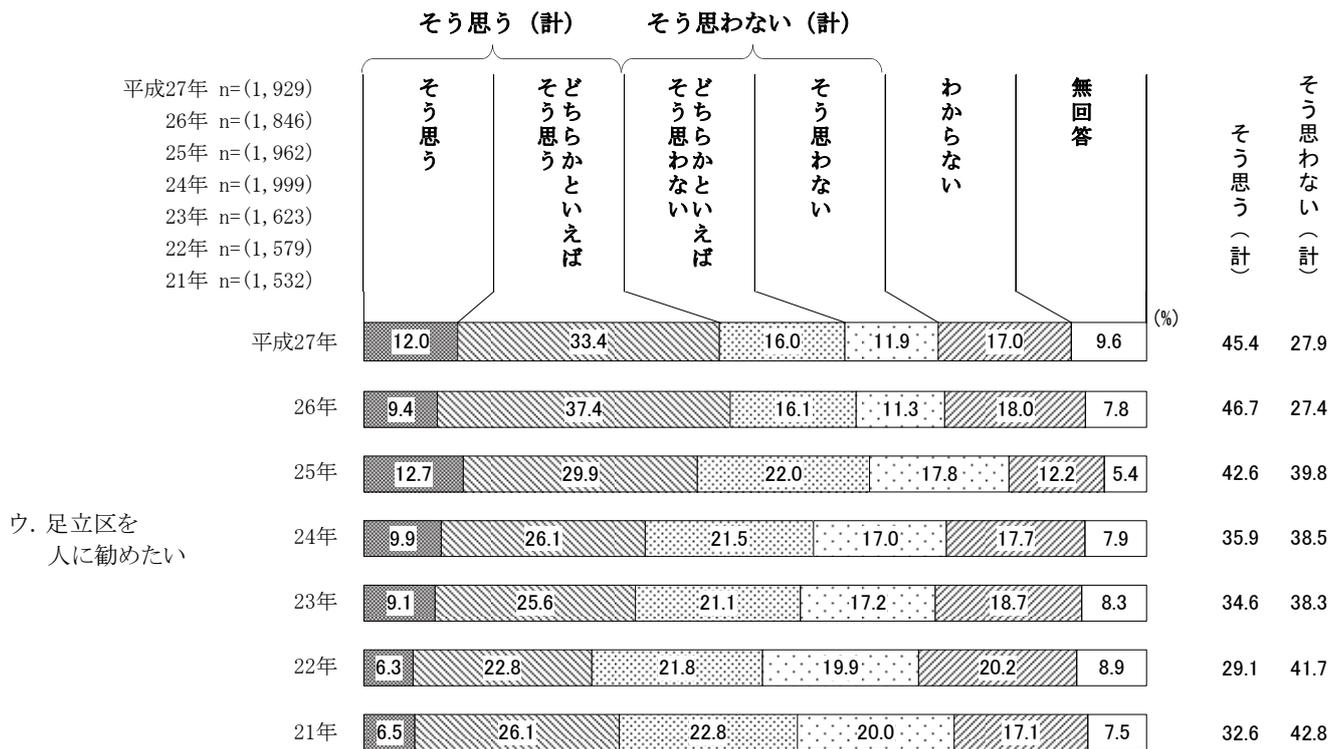


図9-3-1-② 経年比較/区に対する気持ち

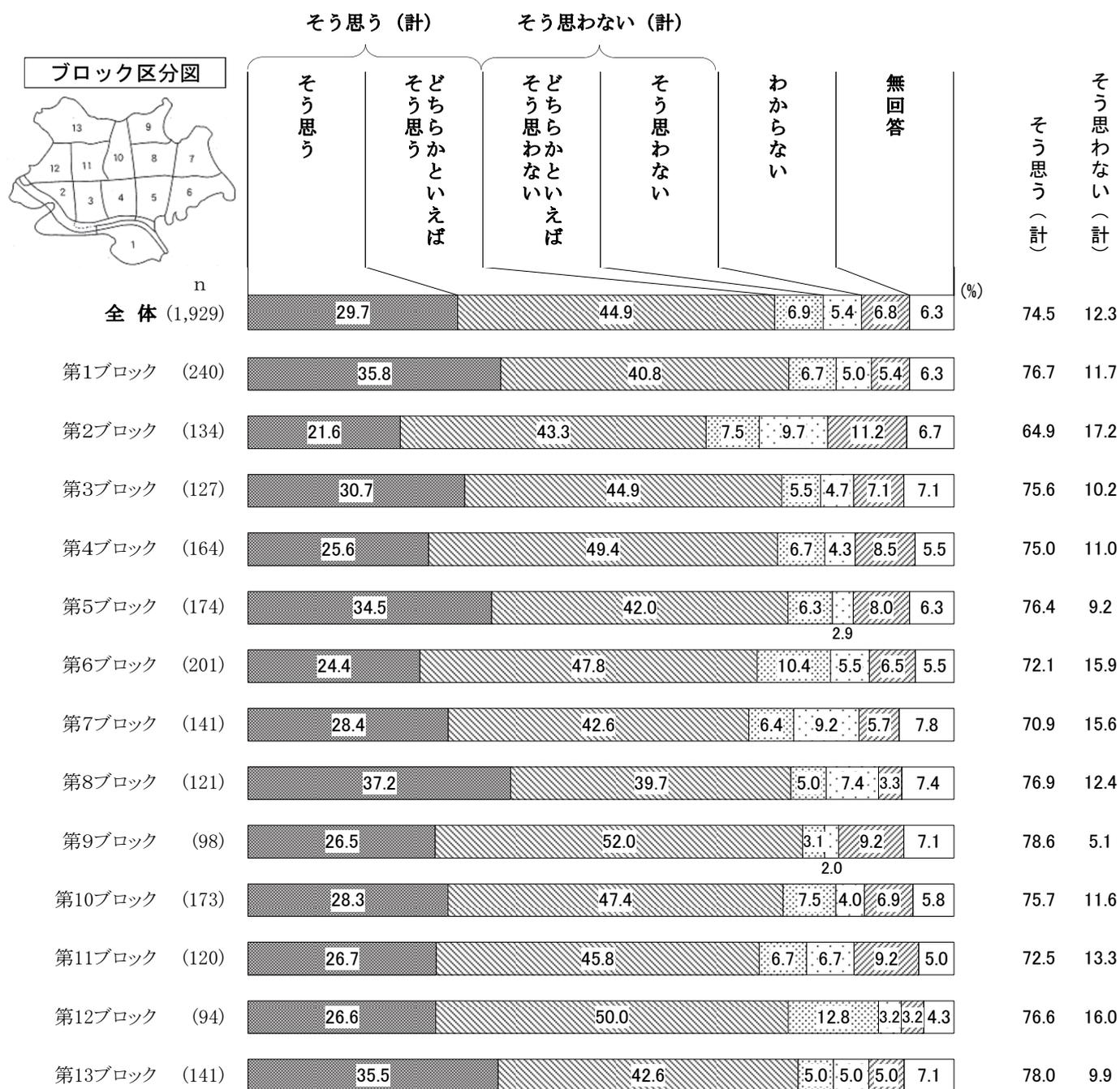


区に対する気持ちについて聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】は、〈足立区に愛着をもっている〉が74.5%で最も高く、以下〈足立区に誇りをもっている〉(48.8%)、〈足立区を人に勧めたい〉(45.4%)の順が続いている。

経年でみると、どの項目も、ほぼ横ばいとなっている。

地域ブロック別でみると、〈足立区に愛着をもっている〉では、第2ブロックを除くと、いずれのブロックでも【そう思う】が7割を超えている。一方、第2ブロックでは【そう思う】が64.9%と、7割以下に留まっている。

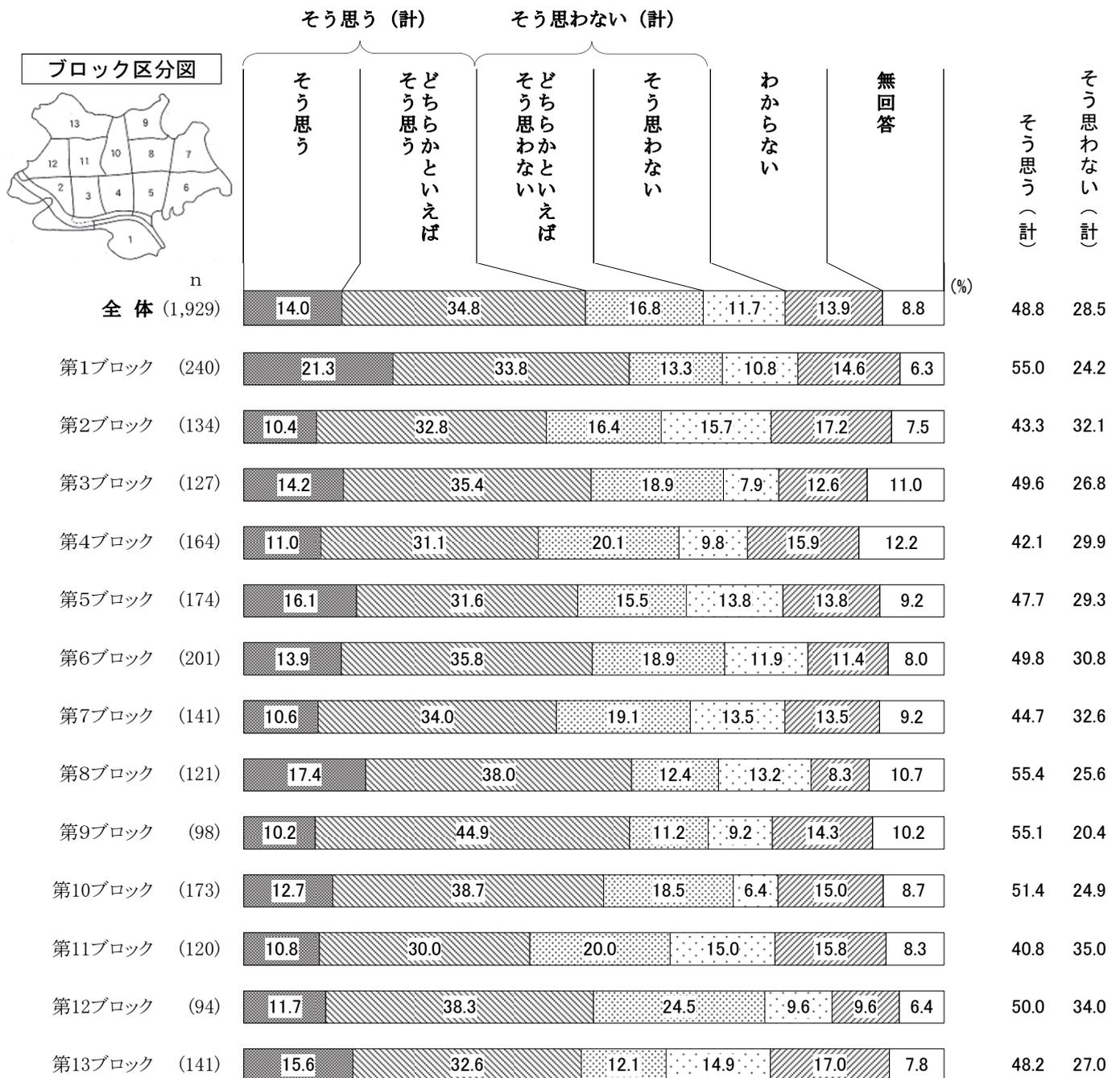
図9-3-2-① 地域ブロック別/区に対する気持ち/足立区に愛着をもっている



第3章 調査結果の分析

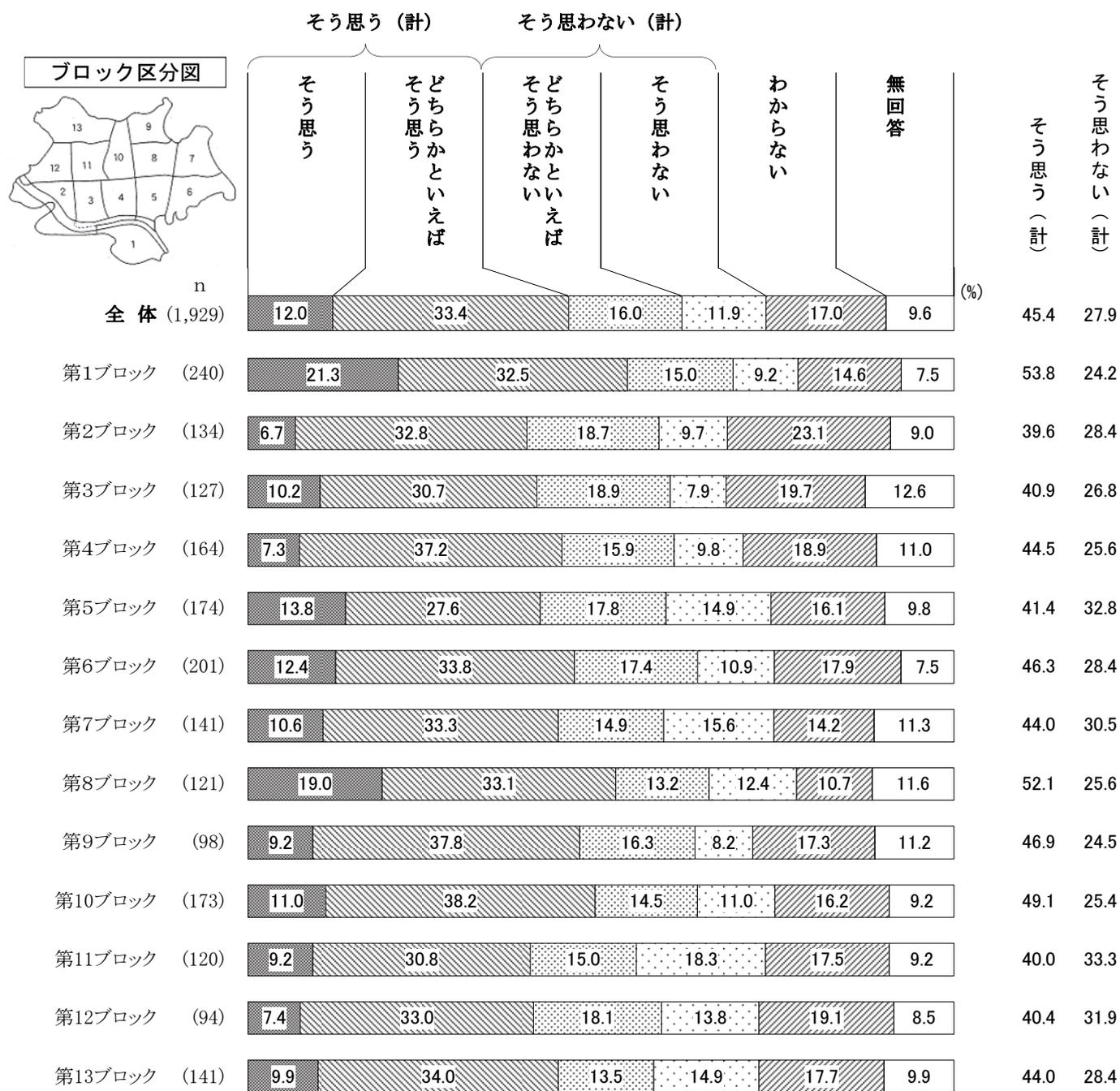
〈足立区に誇りをもっている〉では、第1ブロック、第8ブロック、第9ブロックで【そう思う】が、それぞれ55.0%、55.4%、55.1%と、他のブロックより高くなっている。

図9-3-2-② 地域ブロック別/区に対する気持ち/足立区に誇りをもっている



〈足立区を人に勧めたい〉では、第1ブロックでは【そう思う】が53.8%と過半数を占めているほか、第10ブロックでも5割近くとなっている。

図9-3-2-③ 地域ブロック別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい



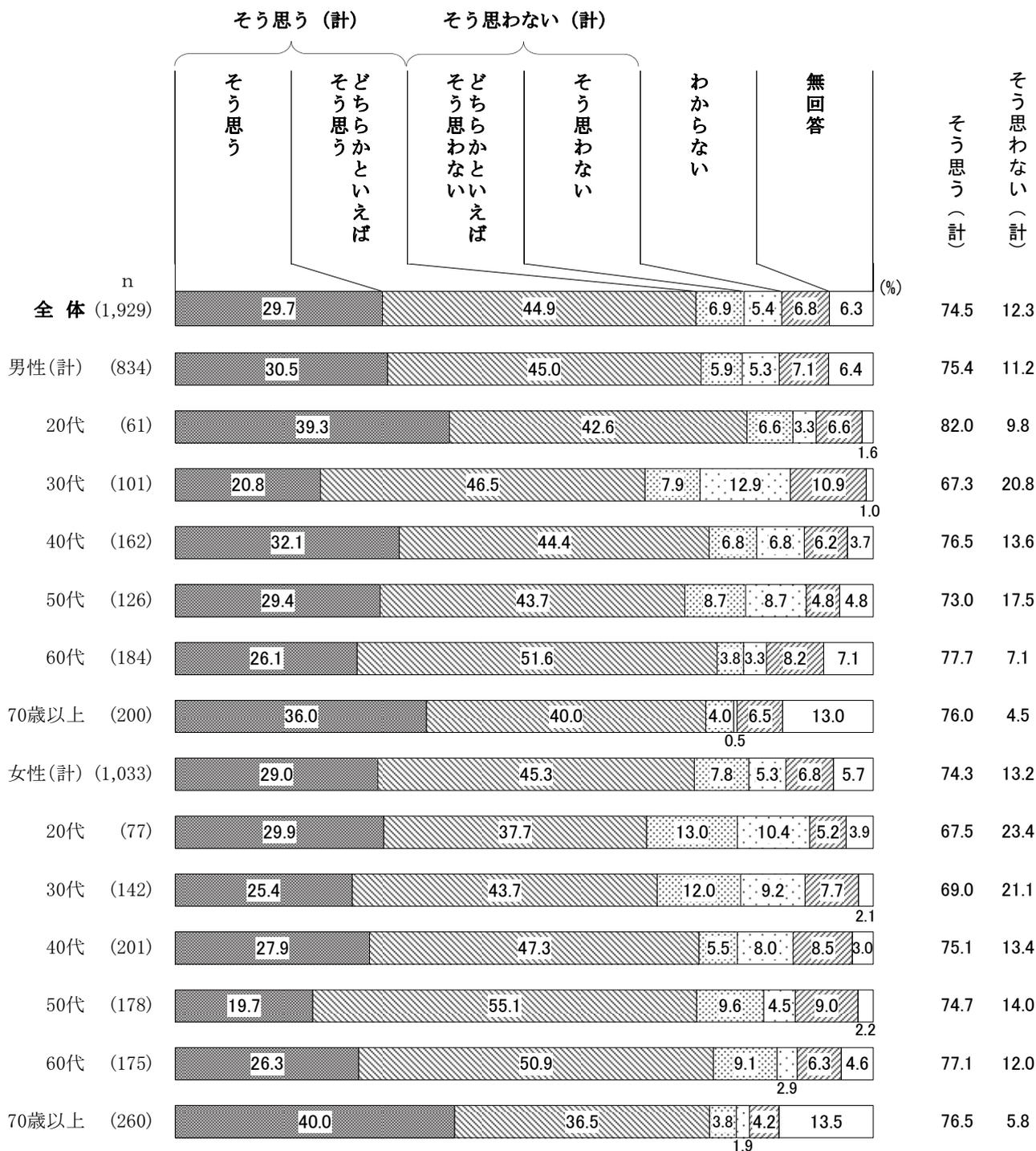
第3章 調査結果の分析

〈足立区に愛着をもっている〉について性別でみると、【そう思う】は男性75.4%、女性74.3%となっている。

性・年代別でみると、男性では、20代で【そう思う】が82.0%と高くなっているほか、40代から70歳以上でも7割を超えている。

女性では、40代から70歳以上で【そう思う】は7割を超えている。

図9-3-3-① 性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている

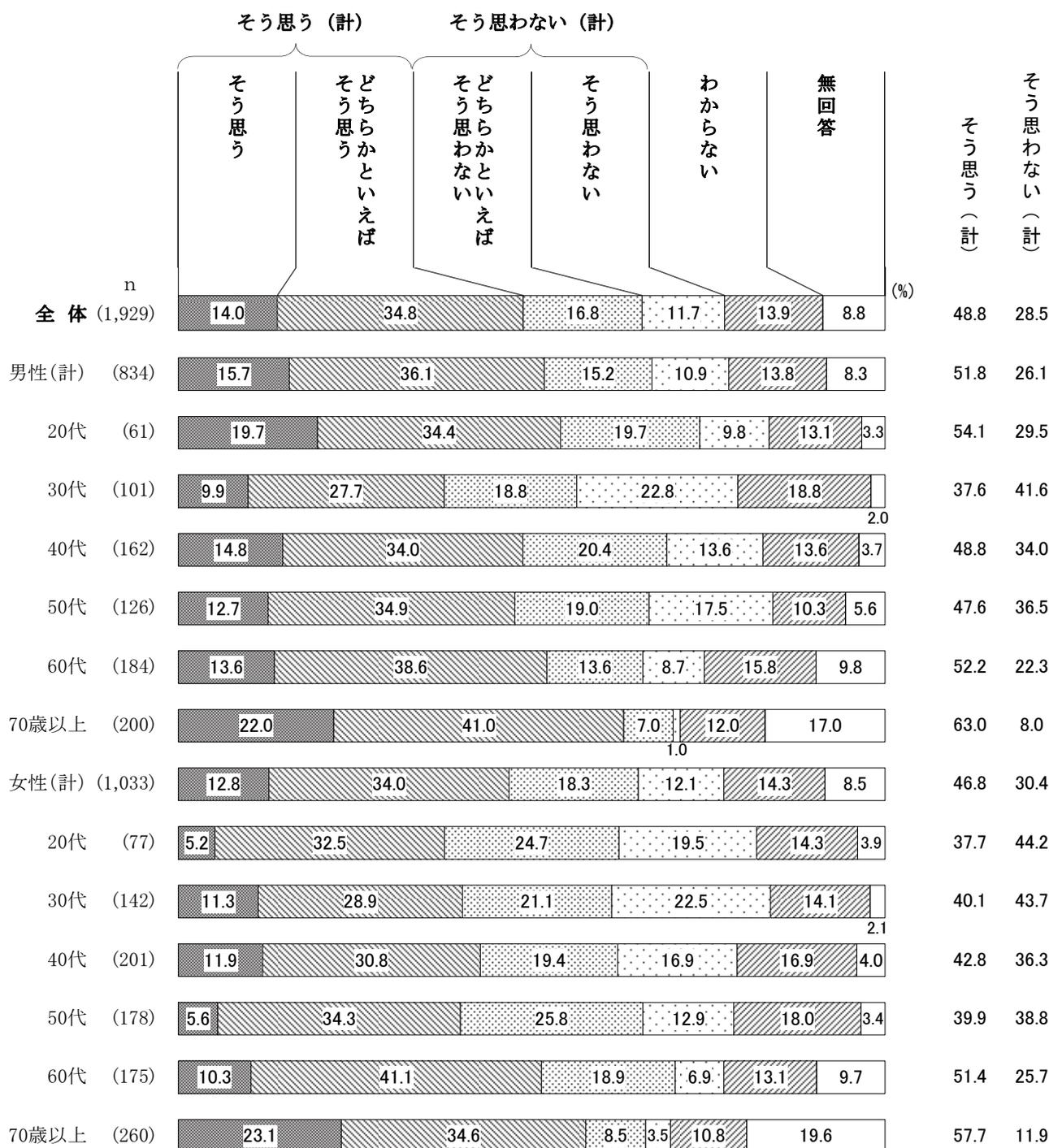


〈足立区に誇りをもっている〉について性別でみると、男性では【そう思う】が51.8%と、女性（46.8%）より高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、70歳以上で【そう思う】が63.0%と高くなっているほか、20代、60代でも5割を超えている。

女性では、60代、70歳以上で【そう思う】が、それぞれ51.4%、57.7%と、他の年代より高くなっている。

図9-3-3-② 性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている



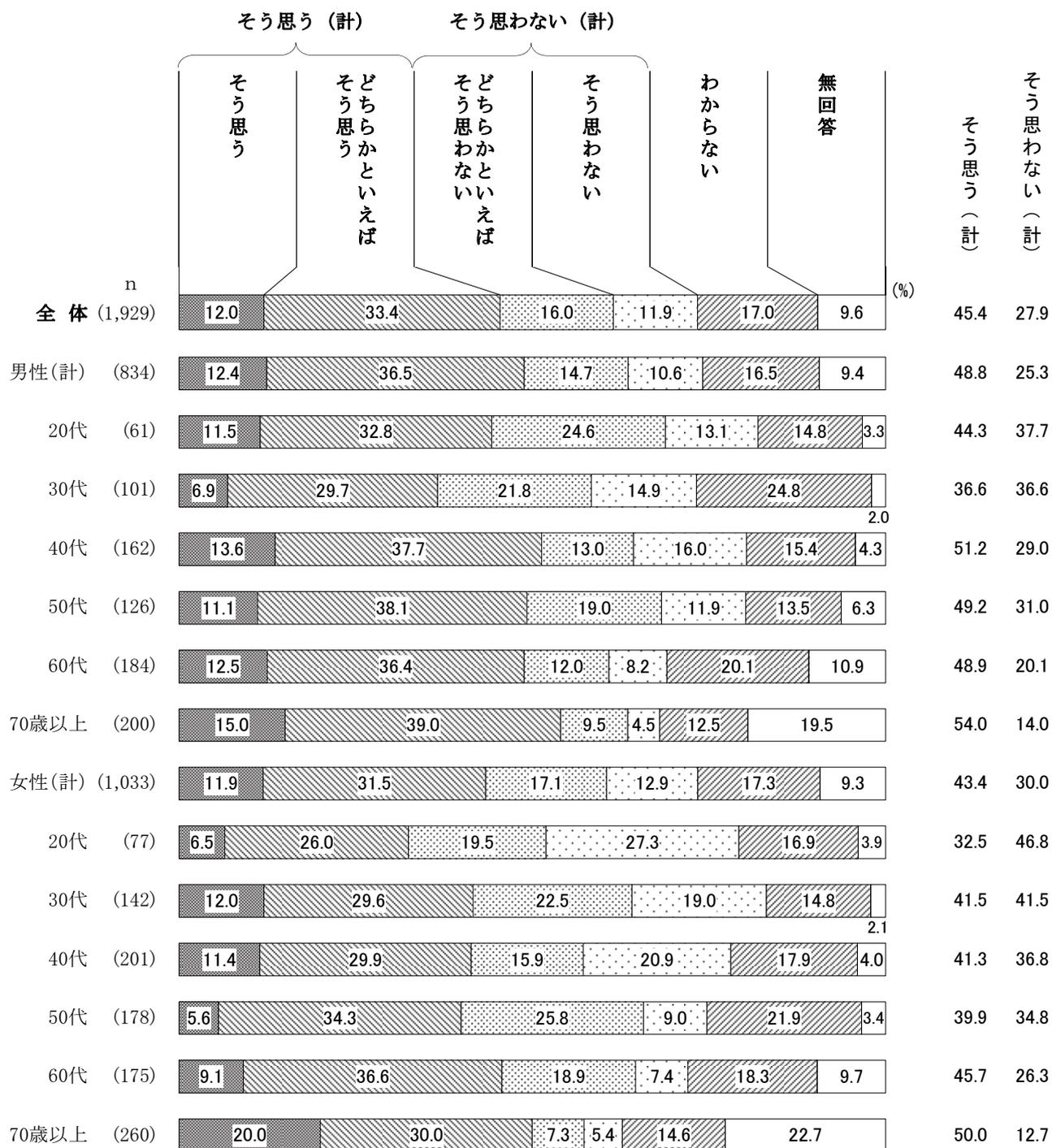
第3章 調査結果の分析

性別で見ると、男性では【そう思う】が48.8%と、女性（43.4%）より高くなっている。

性・年代別で見ると、男性では、70歳以上で【そう思う】が54.0%と高くなっているほか、40代から60代でも5割前後となっている。

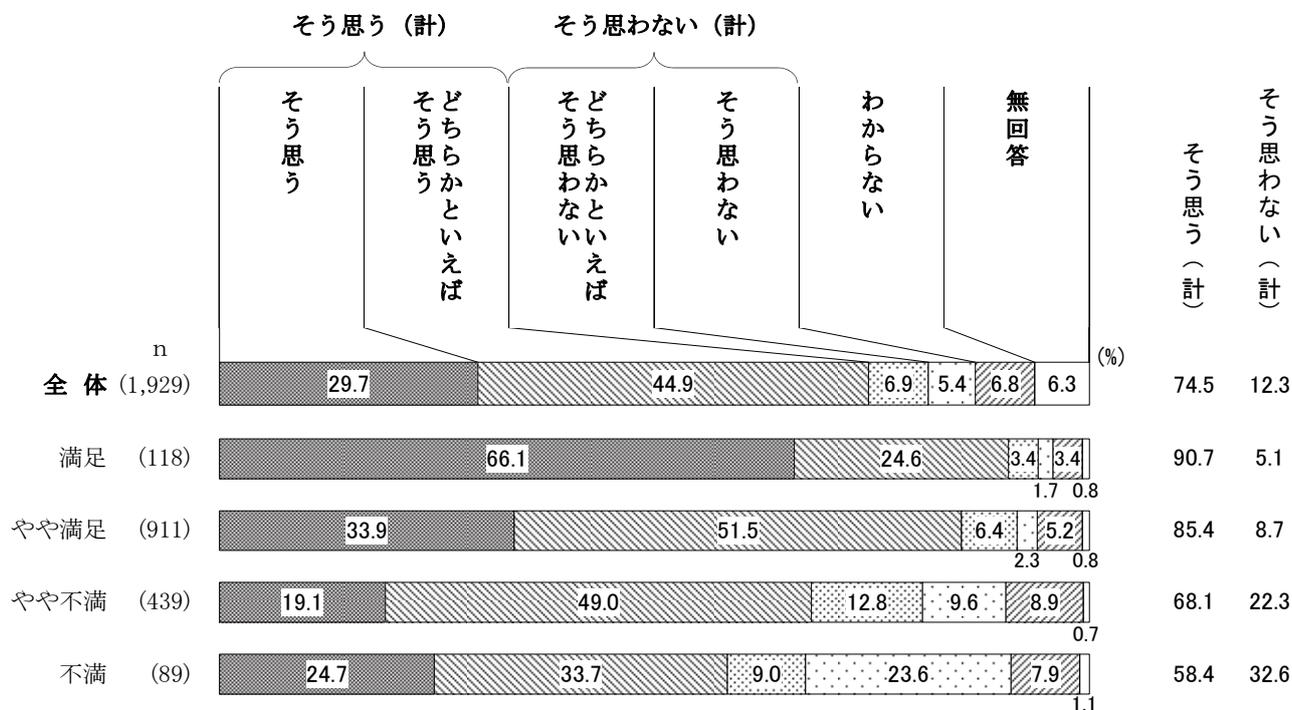
女性では、70歳以上で【そう思う】が50.0%を占めているほか、60代でも45.7%となっている。

図9-3-3-③ 性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい



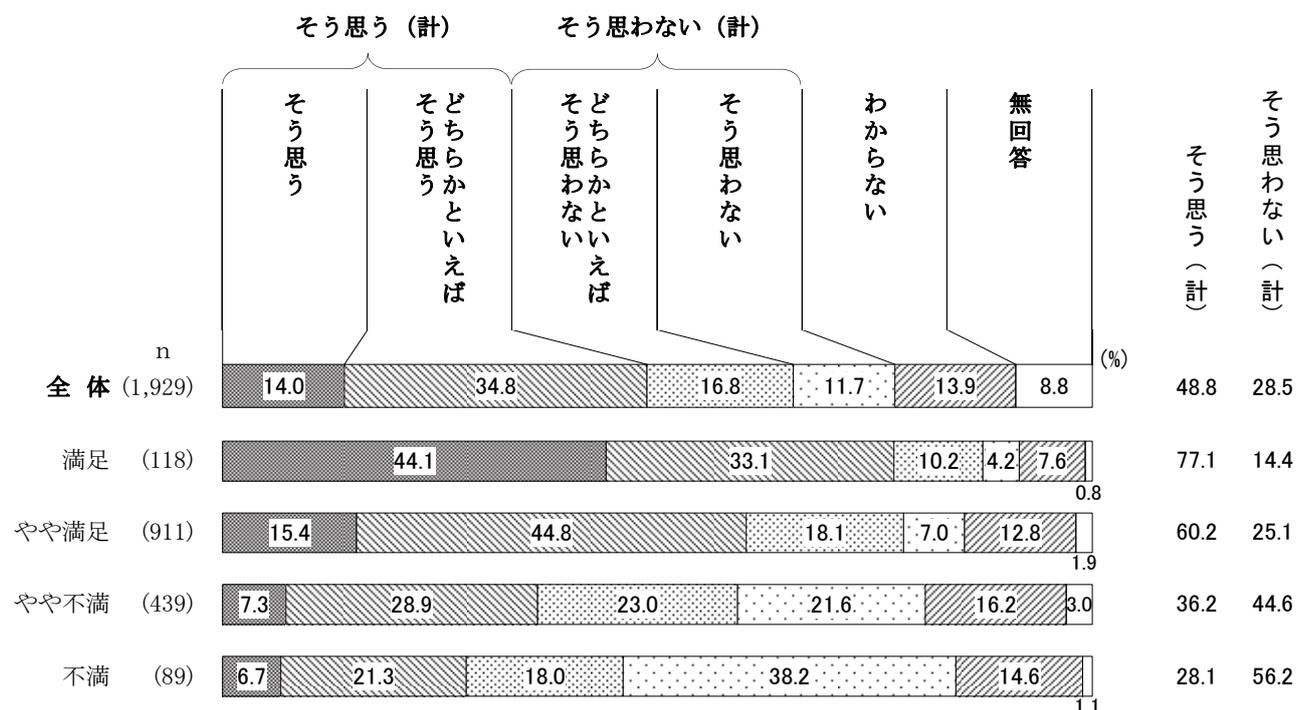
〈足立区に愛着をもっている〉について区政満足度別でみると、満足している層では【そう思う】が90.7%に達している。

図9-3-4-① 区政満足度別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている



〈足立区に誇りをもっている〉について区政満足度別でみると、満足している層では【そう思う】が77.1%と8割近くを占めている。

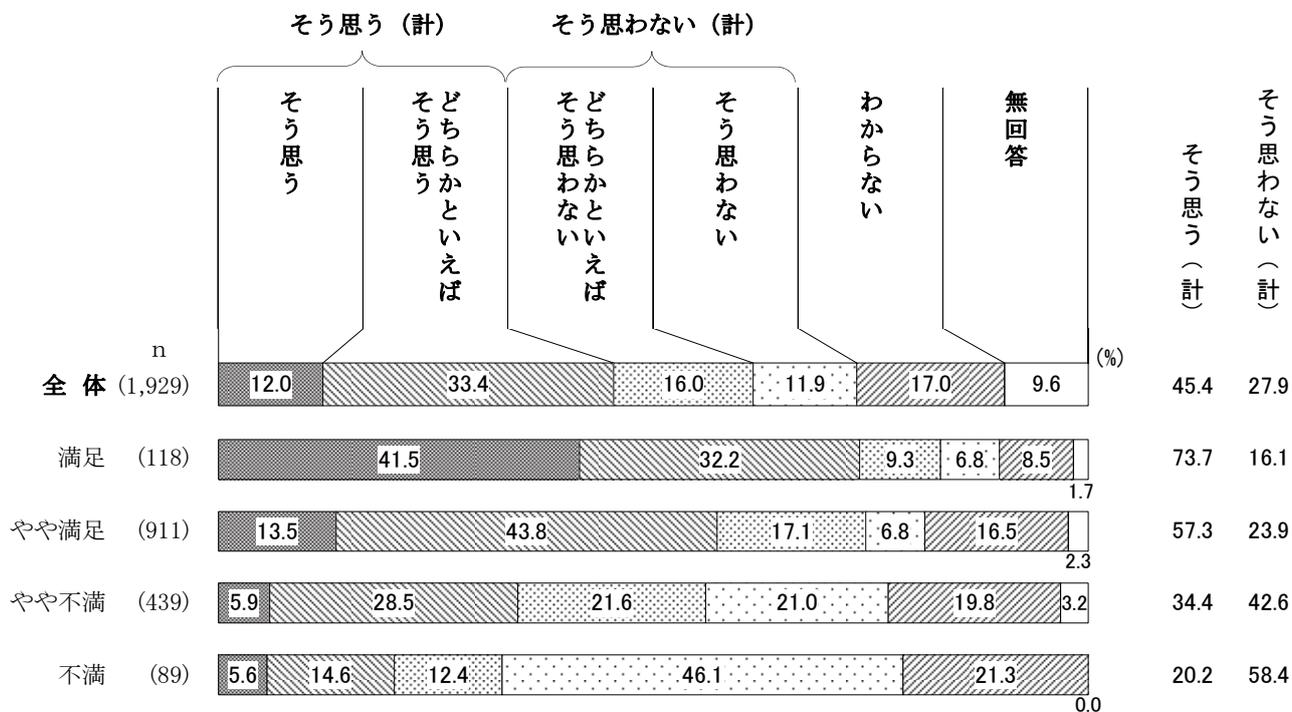
図9-3-4-② 区政満足度別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている



第3章 調査結果の分析

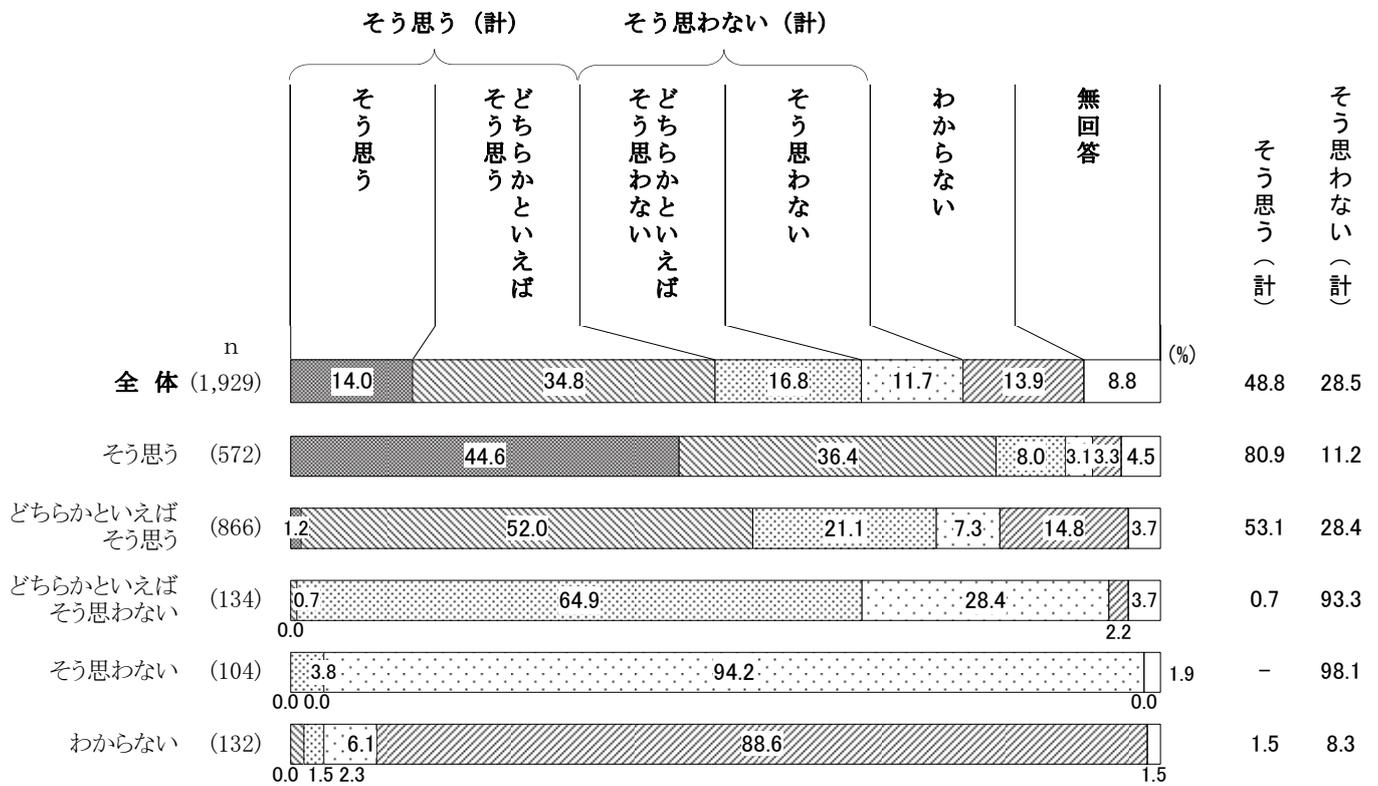
〈足立区を人に勧めたい〉について区政満足度別でみると、満足している層では【そう思う】が73.7%と高くなっている。

図9-3-4-③ 区政満足度別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい



区への愛着度別に区への誇りをみると、愛着が強まるにつれて【そう思う】は増加し、愛着をもっている〈そう思う〉という層では80.9%に達している。

図9-3-5 区への愛着度別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている



(4) 区に愛着や誇りをもてない、区を人に勧めたくないと思う理由（自由回答）

問37で「3. どちらかといえばそう思わない」、または「4. そう思わない」に1つでも○をつけた方に

問37-1 足立区に愛着をもてない、誇りをもてない、足立区を人に勧めたくないと思うのは、どうしてですか。理由をお書きください。

足立区に愛着をもてない、誇りをもてない、足立区を人に勧めたくないと思う理由を記述していただいたところ、559名から延べ821件の回答を得られましたので、一部抜粋してご意見を掲載いたします。

■治安・防犯（136件）

- ・治安が悪く、ニュースにもよくでるので人に勧めたいとは思わない。
- ・安全な所があまりなく、子供が心配になる。治安が悪いから、あまり住みやすい場所ではない。
- ・治安のよい街ということがいえないため。（広いということもあるが）事件が多い区だと思う。

■足立区のイメージ（134件）

- ・足立区のイメージが悪すぎる。
- ・住んでみれば決して悪い場所ではないが、一般的にあまり良いイメージは無いので、あえて他人に勧める事はありません。
- ・犯罪が多いイメージ、不良が多いイメージが他区民からしたら強いから。堂々と足立区民です！とはまだ言いにくい。

■道路・交通（73件）

- ・道路の整備が悪く、自動車と歩行者との危険が多い。
- ・地域によって交通の便が非常に悪く、通勤・通学がしにくく、住むには快適とは言えないので。個人的には生まれてからずっと足立区で過ごし、不便にも慣れていますが、人には勧められない。
- ・第一が交通の便であると思います。車を持たない人にとっては、バス・自転車が移動手段に限られてしまいますが、私はバス利用者として残念なのは交通状況があるにせよ、時間通りに来ないことです。

■住民の質や意識面（57件）

- ・住民のモラルが低いと感じる事が多いため。
- ・区民の質の悪さ。社会的常識のない区民が多すぎる。
- ・民度が低いということが払拭されていない。

■学校・教育（41件）

- ・子育てしている親として、学生（小・中・高）の学力レベルが低い。小学生でも言葉遣いが悪く、通学させたくない。
- ・教育に対する意識の低さに驚きます。他の区から引越してきましたが、子供だけではなく、親の意

識がとても低いと感じます。自分に子供ができたなら足立区で育てたくないです。友人から足立区をバカにされています。愛着を持ってません。

- ・学校の教育レベルが低いと感じる。

■マナー（41件）

- ・マナーが悪い人が多いと思う。
- ・生まれ育った場所なので愛着はあります。誇りが持てるか？と聞かれると難しいです。毎日タバコの吸殻の多い道を掃除しながら、ゴミだらけの公園を通りながら悲しくなります。
- ・バイク、自動車の騒音。犬のふんの置きざり。タバコの投げ捨て。野良猫への餌やり。

■環境・衛生・公園（36件）

- ・街並みが良くない。景観が全く恥ずかしい。
- ・足立区は遊ぶところが少ない。もうすこし明るく安心して遊ぶ所がほしい。
- ・広いせいか隅々まで手も目も行き届いていない。公園は多々あるが、夏は特に草ボウボウ、ゴミも散らかる。それでは人も来ない。小さすぎる公園が必要でしょうか？あるなら徹底的に整備してほしい。壊れそうなボロ家が多い。空き屋なら何とかすべき。

■区の見どころ・観光・文化・施設（28件）

- ・生活しやすいと思うが庶民的すぎて高級住宅街もなく、町全体に高級感がない。おしゃれな店、高級レストランを誘致してほしいと思う。
- ・目立つ施設もなく、目新しいことには先んじて手をつけるが中身が薄い。
- ・特に自慢出来るショッピングモールがあるとか、レクリエーション施設がある訳でもないため、活気がない。美化センスやメンテナンスが悪い（されていない）。

■足立区以外に良い区がある（24件）

- ・足立区は23区の中では、いろいろな面で下位層となるので、自分が生活するには満足だが、人に勧めたいほどの区ではない。
- ・他区に比べて、足立区は支援が物足りない。
- ・他の区から引越して来た時に、いろいろと比較すると劣る点があったので、もっと改善されるべき点があると思った。他県から見ると「やはり東京都」というネームバリュー的余裕を感じてしまうが、区の良い所をもっと売り出していけるようにがんばってほしいから。

■医療・福祉（23件）

- ・足立区は救急医療体制が整っておらず、救急車での“たらい回し”もよく目に付いている。（小児救急を含め）
- ・大学病院等、医療機関の充実がまだできていないため。
- ・障がい児支援が全て整っていなかった。

第3章 調査結果の分析

■所得や収入の低さ（21件）

- ・区民の平均年収の低さなど、23区内では常に上位ということで恥かしい思いをする事があるため。
- ・低所得者に対する補助が多いので、不公平感が非常に強い。
- ・低所得層の老人が多い区と言われて、反論できなかった。

■生活保護（21件）

- ・生活保護世帯が多いと聞いている。他の区から移ってきて生活保護を受ける人もいるという。一生懸命働いて税金を納めている者としては、他の有意義な事に使ってもらいたいと思う。
- ・仕事ができるのに仕事をせず、生活保護を受けている人が多数いること。
- ・生活保護世帯が多く、最悪といわれているので、就労支援等で改善する。

■税金（19件）

- ・税金が他の区に比べると少し高いので、勧めにくい。
- ・一生懸命働いている人には、優しくない区。税金ばかりで、保護されている人が優遇されているように思えてならない。
- ・老人も素行の悪い人が多いのに、この人に私の税金が使われているかと思うと、悔しくて転出した。

■住宅・住環境・住みやすさ（15件）

- ・ボロ家の持家で苦勞している身には都営住宅が連立し、そこで生活している人が多く、足立区は住環境も経営面でも優遇されているように思う。
- ・特別に住みやすいと感じたこともない。足立区で誇れるものがない。古くから住んでいる人の考え方が、新しく移ってきた人に対してよそ者と考える風潮がある。
- ・住環境があまり良いとは言えない。

■子育て・保育（15件）

- ・待機児童が多い。（保育園に入れない）
- ・かなり保育園が少ない。入れていない子が多いため、母親が安心して働けるようにしてほしい。
- ・子供がいる世帯に、もう少し優遇があってもいいと思う。

■都市開発（14件）

- ・東京のベットタウンというような町になりつつある気がする。
- ・都市開発も部分的で、本当に不便なところがどこで何なのか、区長が理解できているとも思えない。
- ・行政としてきちんと綾瀬の街をブランディングした上で施策をしてほしい。駅前のビルの改装などで、街のイメージをかえる良いチャンスだと思う。

■災害・防災（14件）

- ・足立区（だけではないが）には、地盤の弱い（埋め立て地が多い）エリアが多いと感じる。防災上、リスクが高いと思う。

- ・防災対策などやっているとは言うけれど、実際はあまり変わっていない。
- ・私の住まいは、家屋が密集しており、災害や火災などがとても心配なため。

■区や区政（12件）

- ・足立区は生まれ育った町で個人的には大好きだが、いろんな対策・支援の面で納得させてもらえるような事がない。
- ・弱者対策（例えば、生活保護者とか）の対策が大きくて、強者対策が不十分である。
- ・愛着は持っているが、物事を部分にこだわって見たりして、根本的な解決ができていない取り組みが多く、はずかしいです。

■外国人（11件）

- ・現在、外国人も非常に増え、あまり良い環境ではなくなっている。
- ・差別するつもりはありませんが、この数年で日本人以外の方が、かなり足立区に移住している様な気がしてなりません。

■その他（86件）

- ・団地も店が減り、歩いて行かないと買い物ができなくなって来たので！ 舍人ライナーやエクスプレスが走ってもこの地域は関係ありません。周りに何もなくて本当に不便です。
- ・高齢者が多い地区なのに特養などの施設が少なく老後が心配である。
- ・職員の態度が悪く、勧める事はしたくありません。
- ・住みやすい点では評価できるのですが、人口が増える事により、電車の混雑が多くなったり、健診の予約が取りづらくなったり等、今までスムーズになっていた事が不自由になっているのも現実問題としてあるので、少々窮屈な区になってきていると感じます。
- ・以前よりイメージ的には良くなって来ましたが、地域が広いし色々なところでまだまだと思う。

(5) 区政についてのご意見、ご要望（自由回答）

問38 区政についてのご意見、ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

区政への意見、要望を自由に記述していただいたところ、566人からの延べ711件の回答を得られましたので、一部抜粋してご意見を掲載いたします。

■区政全般に関する意見・区長や区役所への意見（134件）

- ・区政において大学の誘致やインフラの整備等、頑張っていることはすばらしい事です。若者を増やし、子育ての出来る安全な環境を作り、未来に向けて光ある区に出来るため、企業、大学、区との共同で、よりよい足立区を作って頂ければと思います。
- ・保育園、高齢者問題だけでなく、区民全体の事を考えて、区政を行ってほしいと思います。財政的に厳しい足立区だからこそ、箱物を整えるだけじゃだめだと思います。
- ・良い変化があるのを感じているので、一定の評価はしています。更なる行政改革を行い、透明性のある区政を期待しています。

■環境対策・公園（51件）

- ・毎年暮れにきれいな夜景。公園をあれだけきれいにするなら歩道の方をもう少し華やかにしてほしいです。公園までなかなか見に行かれないので、道を歩きながら楽しみたいです。
- ・公園からどんどん遊具が無くなっていく現代に不満感を持っています。ケガをしたから撤去、ではなく、ケガをしないよう正しく使うことを子どもたちに教える事の大切さを失っていると思います。
- ・北千住駅前、北テラス前、エレベーター横の喫煙所をなくしてほしい。煙がエレベーター前まで流れ、子供が喘息を起こしそうになった。不自由な人が使うエレベーターなのに使いづらいのはおかしい。二階ロータリーの喫煙所も煙が流れないように、工夫してほしい。受動喫煙の被害を軽減してほしいです。

■子育て支援（47件）

- ・足立区認可保育園へ入園するのにすごく苦労しました。（万が一に備えて、民間の無認可保育園をpushさせたが、お金もかかりますし）希望者が全て入園できるといいですね。自分の老後の事よりも子供たちが幸せに暮らせる環境を希望します。
- ・周りから足立区は子育てするには環境が悪いと良く言われ、公立の小・中学校に通わせないほうがいいと聞きます。子供はまだ小さいので少し先の話ですが、その頃になったら転居したほうが良いのかなと考えています。子育てが安心して出来る環境を作っていただきたいです。
- ・高齢者も大切ですが、これからの未来を支える今の子供にもっと支援してほしいです。女性が子どもを産んで育てやすい環境をもっともってほしいと思います。まずお金がなければ子どもがほしくても、作ろうと思うことができませんから…。

■治安対策（45件）

- ・犯罪が多い。深夜のバイク音、自転車の悪乗り。交通安全週間に警察官が少ないので、重点的に見回り、取締まることができないのか。住民が一番困っているのではないかと。

- ・犯罪減少のように、足立区の努力が如実に反映され、評価されることもありますが、子供の学校教育のように短期では評価できないものもあります。犯罪減少は喜ばしいことですが、長年にわたっての「犯罪ワースト区」の汚名を払拭するには到っていないように思います。
- ・犯罪や虐待をなくすため、パトロールを強化してほしい。交通ルール、ポイ捨て含め、悪い事ができないように、警察官、住民によるパトロール等を望みます。安心して暮らせる世の中になってほしいです、今はオートロックがないと不安なので。悪人は捕まえてください。

■交通機関・道路の整備（40件）

- ・自転車専用道路を作してほしい。自転車の傘さし運転など、徹底されていない。おまわりさんは見ても注意しない。
- ・区内横の交通網の整備。（メトロセブン等、バスでも良いと思う）
- ・歩道を安全に確保して下さい。車イスが通れない所があります。電信柱が邪魔しています。自転車の人がルールを守ってくれる人がほとんどいません。一人しか通行できない歩道を前から、後ろから平然と自転車が来て恐いです。

■高齢者支援・介護（35件）

- ・元気な高齢者が集える場所を増やしてほしい。誰しも元気で家族に迷惑をかけたくないと思っています。社会とのかかわりを持って楽しく過ごせる所があればいいと思います。
- ・学校給食の充実等、子育ての充実に力を入れていらっしゃるの大切だと思いますが、子供を持たない者にとっては、そこに力を入れていただいているのを知る機会も少なく、税金が年々高くなっていくのはいささか納得できない事で…。子供は宝ですが、高齢者の親を持つ身としては、介護の支援等の取り組みや住宅支援等も含め、対策をしていただけると助かります。
- ・高齢者が安心して相談出来る窓口がもっとほしい。

■医療・福祉（34件）

- ・救急病院のあり方がちょっとわからない。看板はかかっているのに、日曜日の夜間には電話で当直の先生が小児科の先生だとか、麻酔の先生だからといわれ、電話で調べてもらっても足立区の病院には行けませんでした。看板に救急の字は悲しい気がしました。こんな事でもしもがあつたらと思うと残念です。日曜日には病気になれませんね。
- ・病院（特に総合）が近所になく、通院するのが大変です。マンションなど、最近特に多くなっているので、病院を増やしてほしい。
- ・福祉事業内容が他区と比べて整っていないと感じます。もっと福祉に力を入れてほしいと思う。

■広報・情報公開（31件）

- ・保育園などの情報をどこで手に入れるのか、どこに相談するのかわからず不安です。情報が手に入れない人は、どうしたらいいのかと思います。
- ・広報紙などにおける、税金や区の年間予算などに対する収支のグラフなど、分かりやすくしてほしい等の提案はした事があります。実際、そのグラフなどを見て、読み取るのはあまりにもザックリとし過ぎています。収入に対して支出が同等と言う事は、帳尻を合わず為が無駄遣いしていますよ！と言っているようなものです。

第3章 調査結果の分析

- ・これからも（あだち広報、ときめき）で区民の情報を幅広くお知らせください。

■マナー（31件）

- ・自転車のマナーが悪い人が多く、ものすごいスピードで歩道を走って行く人がいます。またイヤホンをつけて乗っている人もまだいます。危険運転なので警察と連携し、厳しく取り締まって欲しい。
- ・自転車利用者が多い地域なので、自転車専用の道路を作ってほしい。自転車のマナーの悪さを取り上げられることが多いが、歩行者のマナーもかなり悪いので、自動車・自転車・歩行者を含めて交通ルールやマナーの冊子が全世帯に配られたらいいと思う。
- ・北千住の駅前に大学が出来て学生が多くなり、自転車での通行が大変です。路幅いっぱいに歩行し、スマホなど見ながら回りを見ずに歩いています。自転車ばかりが悪者になってしまうのは、どうかと思います。気を付けてはいますが、危険な事が多いのは困ります！

■足立区のイメージ（28件）

- ・イメージはいまだに良くないと思うが、実際に住んでいてとても愛着を感じられ、住み心地も良い。なので、これからより一層足立区は安全であり、住みやすいというアピールをしてもらいたいと感じる。
- ・足立区にとっても愛着はあるけど、世間の人にはイメージが悪すぎると思います。足立区の良いところをもっとアピールしてイメージアップを図ってほしい。
- ・区としてのイメージアップ、ビジネスのやりやすさをアピールして、結果的にすべての区民が潤うような区政を期待します。

■職員の対応（25件）

- ・職員の接客態度が悪すぎます。税金で生活している事をきちんと考えて行動してほしいです。職員の良いと一度も聞いた事がありません。いろいろな事をやる前に職員の教育をきちんとした方が良くと思います。私の周りの人達は、ほとんどがそう思っていると思います。
- ・もっとわかりやすく説明する事が大事だと思っている。区役所の対応は良くなく、ムカムカして帰って来る事が多い。役所の人間は、毎日同じ事をしているからわかると思うが、こちらはわからないから聞いているのに、対応が上からでは聞くに聞けなくなる。再度職員の教育をしてほしいと思う。
- ・職員の方々の対応がいつも非常によく、助かっております。これからもがんばってください。

■学校教育（25件）

- ・足立区の低学歴…。公立の小学校・中学校でも子どもに良い刺激と高い目標を持たせられるような教師と出会ってほしい。
- ・もっと教育面に力を入れてほしい。先生の数を充実させてほしいし、保育園や学校の中で行う内容も色々な事を取り組ませてほしい。保育園はただ預かっているだけ、学校は必要な勉強を教え、必要最低限の行事をこなしているだけに見えてしまう。もっと子供たちに何が必要かを考え、学内でどんどん取り組ませていただきたいです。
- ・小、中学生の学力の向上政策を何より最優先でお願いしたい。（区民の低所得と比例との報道など残念）子供の勉強環境が、保護者の所得に左右されるなど絶対にならないような教育施策をお願いいたします。

■生活保護（22件）

- ・生活保護受給者の見直しをもう1度調査して、本当に必要な方に支給してほしいです。
- ・生活保護を受給して、パチンコ屋にいる老人をなんとかしてほしい。時代は、これから、労働人口の問題になる。女性、外国人、老人が働かなきゃいけない環境に逆に作るべき。守りすぎると人は甘えて働かない。
- ・日本全国どこでもそうだが、生活保護などの基準があいまい。母子家庭も含め、わざと働かず収入を減らして給付金をもらったり、わざと離婚して母子手当をもらったり…そんな人を見ていると、どういう基準で税金を使っているのか不満に思う。働けるのに働かず、手当をあてにするような区民…一生懸命働いて税金を納めている方が、切り詰めた生活をしている。矛盾だらけで、腹立たしく感じるが多々ある。きちんと調査してほしい。

■税金（21件）

- ・税収にあった対策をしてください。
- ・税金のムダ使いはやめてくださいね！
- ・中小企業でまじめに働いて、税金ばかりかかり、生活が厳しい。

■議員・職員数（21件）

- ・区議の皆様は選挙近くになると駅前演説で猛アピールを致しますが、過ぎるとパツタリ。この方々は議会で区民を思っているのかの努力をしているのかも疑問に思えてきます。
- ・財政軽減の為、区議会議員の数を減らすこと。
- ・議員数が多いので減らしてほしい。選挙で「お願いします。やらせてください」と言っているのだから給与等、減額でよい。足立区民のために議員をしているのか、自分の利益のためなのか…。議員たる者、自己の利益度外視で区政のために力を尽してほしい。

■防災対策（20件）

- ・様々な災害時の足立区外の避難先の確保を周知。
- ・近々発生するかもしれない大震災に対して、特に密集している場所における火災の処置、各エリアの人々がどの場所へ避難した方が良いのかの周知、津波等の洪水に対しての溺死対策の周知、一刻も早い情報の方法の周知、これらを区民に年2回位、頭に入れておく方法を考えてほしい。
- ・災害などの時の情報手段がわからない。TVでしか確認できない。後は、警報などが出ても避難のタイミングや場所がわからない。避難所も。（荒川や隅田川が近いため、はん濫したら逃げる場所がない）

■都市開発（13件）

- ・北綾瀬、綾瀬駅前の開発を早め、活気ある所にしてほしい。
- ・都市再開発は、高層ビルを建てる事だけではないと思う。
- ・北千住も西新井もとてもキレイな街になり、商業施設も多くイメージも良くなったと思う。綾瀬は都心まで直結している千代田線の始発駅でもあり、すごく魅力的な街に成り得るはずなのに、今だにあまり良いイメージがない。駅前の大きなビルが次々閉店し、とても残念な現状です。区内の人でもバスの乗降や電車利用などで綾瀬を多く利用していると思うので、駅の近くにきちんとした区の

第3章 調査結果の分析

行政サービスを受けられるところ（保健センター、子育てサロン、図書館等）があってほしい。東和は遠すぎて歩いては行けません。（東和近隣の人にしか恩恵がないと思います）

■資源環境対策（13件）

- ・住んでいる近くの扇大橋の土手の下の土手周りはゴミだらけです。清掃してほしいです。
- ・資源ゴミの回収日の早朝、収集している方を見かけます（多分、違法者）。取締強化が必要かと思われます。
- ・資源ゴミの持ち去りをもっと取り締まってほしい。車のガソリンや他のものに金がかかりかえって税金のむだづかいになってしまう。

■プレミアム商品券（12件）

- ・足立区スーパープレミアム商品券購入を楽しみにしていましたが、当日販売店へ行くと、整理券をもらった人にしか買う権利はありませんでした。子育て世代の私たちが買えないとは疑問に思います。全国で同じ様なことがあったとわかっていますが、販売方法を考え、もう一度行ってほしいです。
- ・毎年のプレミアム商品券の販売方法が不平等…。事前申し込みなど皆に平等に行きわたる様にして頂きたいです！（各商店の販売数も非公表で内々に販売、事前予約など不平等です。）
- ・今回の足立区の商品券は税金が使われているにもかかわらず、特定の人のみが得をした感が否めない。区民に平等に権利があるのだから（その日仕事で並べない人もいます）上限金額を低く設定して希望者に行き渡るように考えてもらいたかった。不満を口にする人が大勢いました。希望者を募って抽選してほしい。

■その他（63件）

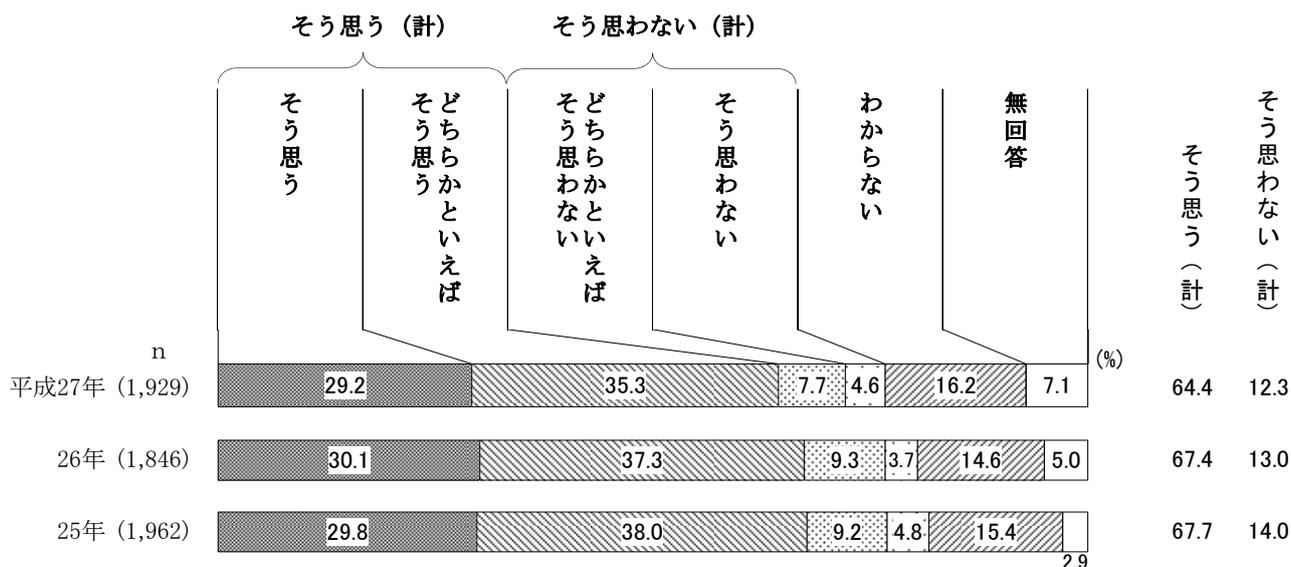
- ・障がい者の行き場がまだまだ少ない。希望の所に入れる人が少ないと思う。
- ・花火ですが、季節柄、雨などでお天気ははっきりしないのなら、中止にして予備日にやった方が良くと思う。皆で楽しめないなら税金の無駄遣い！
- ・業務の民間委託は時代の流れかもしれませんが、戸籍事務等の超プライバシーの守らなくてはいけない部門の委託は、しないでいただきたいです。業務委託で、戸籍謄本等の取得が出来る8業種でも使用についてはすごく注意をするように講習等で行なわれている。国民の基本権利はやはり、民間委託でなく区の正職員にしていいただきたいです。（事故等があつてからでは遅すぎます。）
- ・生涯スポーツ等を推進する上において、あまりにも環境整備がお粗末。もっと環境の充実を図ってほしい。学校開放等を見直す必要があると思う。
- ・若者の起業支援に関して、情報をもっと出してほしい。

(6) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度

■ 有効な内容だと思われる方は6割台半ば

問39 多数の質問にお答えいただき、ありがとうございました。最後におうかがいいたします。今回の調査の質問内容は、区民のニーズや意識を把握するうえで有効な内容だと思いますか（○は1つだけ）。

図9-6-1 経年比較／本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度



本調査の質問内容が、区民のニーズや意識を把握するうえで有効な内容か聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】が64.4%となっている。

経年でみると、【そう思う】は今回64.4%と、平成26年の67.4%から3.0ポイント減少している。

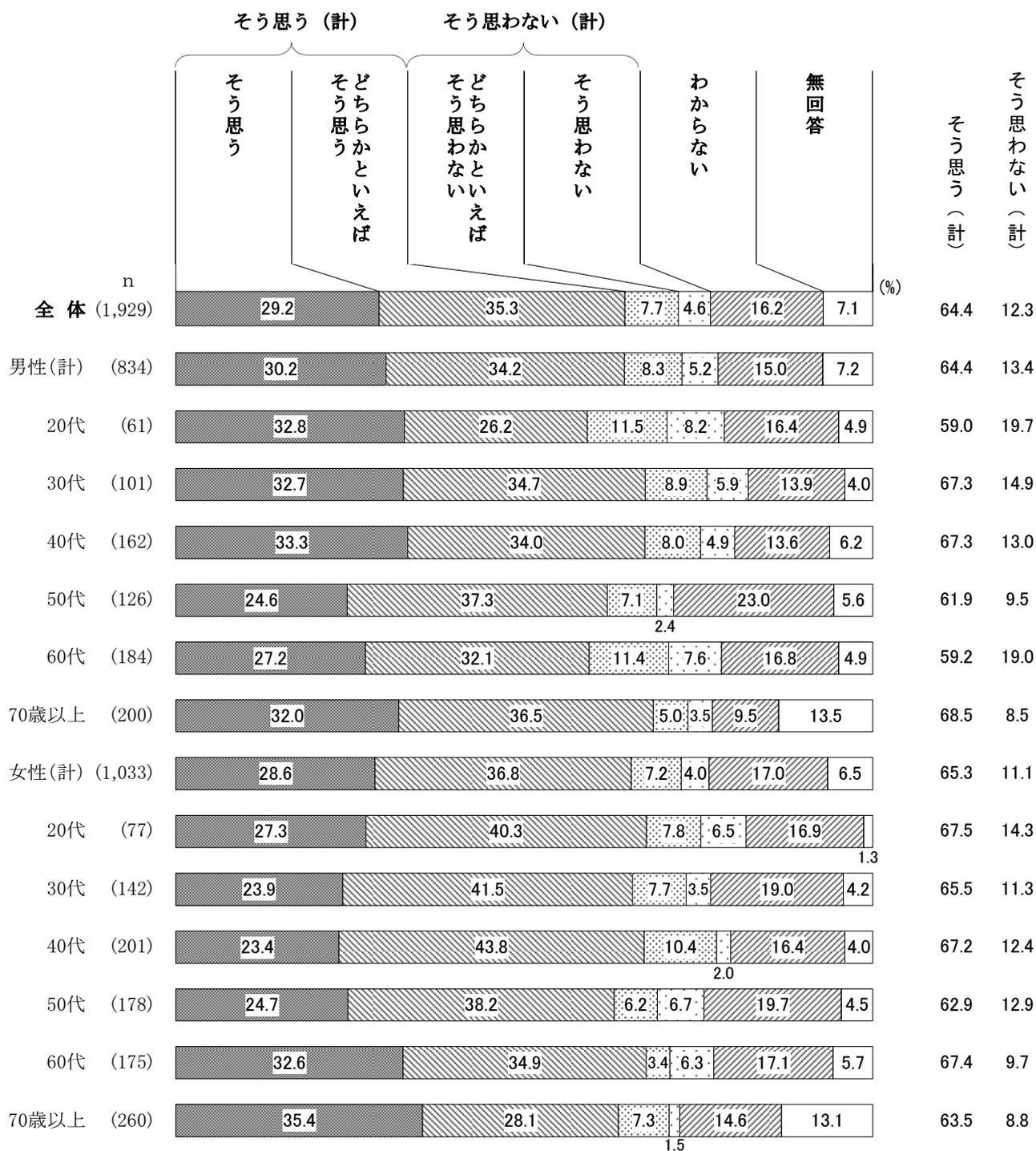
第3章 調査結果の分析

性別でみると、【そう思う】は、男性64.4%、女性65.3%となっている。

性・年代別でみると、男性では、30代、40代、70歳以上で【そう思う】が、それぞれ67.3%、67.3%、68.5%と7割近くを占めている。

女性では、全年代にわたって【そう思う】が6割を超えている。

図9-6-2 性別、性・年代別／本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度



第4章 使用した調査票

平成27年度（第44回）足立区政に関する世論調査

ご回答にあたって

1. 調査の回答は、あて名のご本人がご記入くださるようお願いいたします。
2. ご記入は、黒のボールペンまたは鉛筆でお願いします。
3. お答えは、あてはまる番号に○印をつけてください。
4. 質問によっては、回答していただく方や○をつける数を指定しておりますので、（ ）内のことわり書きをよくお読みください。
5. 「その他」にあてはまる場合は、（ ）内にできるだけ具体的にその内容を記入してください。
6. この調査票は、無記名式となっています。調査票と返信用封筒には、ご住所・お名前をご記入いただく必要はありません。
7. このページの右上の「ブロックNo.」は、区内を13の地域に分けて分析する際の区別のため用いるもので、これによってお名前や住所が判明するということはありません。
8. お聞かせいただいたご意見は、すべて個人が特定できないよう統計的に処理いたします。お名前や個別のご意見の内容などがそのまま公表されることは決してありませんので、ぜひ率直なご意見をお聞かせください。

ご記入が終わりましたら

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒にて、**9月25日（金）**までにご投函ください（切手を貼る必要はありません）。なお、調査の内容、考え方、記入のしかたなどについて、わからないことがございましたら、下記までご連絡ください。



[調査主体] 足立区政策経営部広報室区政情報課
区政情報係

足立区中央本町1-17-1

[お問合せ先] お問い合わせコール あだち
3880-0039

（受付時間：午前8時～午後8時／年中無休）

[調査受託機関] 株式会社 サーベイリサーチセンター

これからお聞きすることは、お答えいただく内容を統計的に分類するための質問です

F 1 あなたの性別は次のどちらですか（〇は1つだけ）。

1. 男性	43.2%	2. 女性	53.6%	無回答	3.2
-------	-------	-------	-------	-----	-----

F 2 あなたは何歳ですか（〇は1つだけ）。

1. 20～24歳	3.4%	6. 45～49歳	9.5	11. 70～79歳	16.9
2. 25～29歳	3.8	7. 50～54歳	8.3	12. 80歳以上	7.7
3. 30～34歳	6.0	8. 55～59歳	7.5	無回答	2.1
4. 35～39歳	6.7	9. 60～64歳	8.3		
5. 40～44歳	9.4	10. 65～69歳	10.4		

F 3 あなたは足立区に住んで何年になりますか（〇は1つだけ）。

1. 1年未満	0.1%	3. 5～10年未満	8.5	5. 20年以上	68.5
2. 1～5年未満	8.3	4. 10～20年未満	12.4	無回答	2.1

F 4 あなたのお住まい（住居）は次のどれにあたりますか（〇は1つだけ）。

1. 一戸建て持家	45.2%	6. 社宅・公務員住宅・寮	1.0
2. 一戸建て借家	2.0	7. 間借り・住み込み	0.4
3. 分譲マンション	19.6	8. その他	1.3
4. 賃貸マンション・アパート	15.6	無回答	2.1
5. 公団・公社・都営住宅・区営住宅	12.9		

F 5 あなたの職業は次のどれにあたりますか（〇は1つだけ）。

1. 自営業・事業主	9.7%	6. 学生	1.8
2. 自由業（開業医、弁護士、芸術家など）	1.4	7. 無職（年金生活を含む）	21.7
3. 会社員・公務員	29.9	8. その他	3.1
4. パート・アルバイト	15.1	無回答	2.3
5. 主に家事に従事（専業主婦など）	15.0		

F6 あなたの就労場所（就学場所）は次のどれにあたりますか（○は1つだけ）。

1. 自宅	6.4%	4. 23区以外の東京	1.6	無回答	2.4
2. 足立区内	17.5	5. 茨城、神奈川、埼玉、千葉	5.4		
3. 足立区外の東京22区	25.7	6. その他	1.2		

F7 現在、あなたと一緒に暮らしている方はどなたですか（○はあてはまるものすべて）。

1. ひとり暮らし	14.1%	4. 祖父・祖母	1.9	7. 兄弟・姉妹	7.3
2. 配偶者	59.9	5. 子ども	43.1	8. その他	2.9
3. 父・母	17.7	6. 孫	3.3	無回答	2.3

F8 あなたご自身は、次の1から12のどれにあたりますか（○は1つだけ）。

※「子ども」は同居・別居を問いません。

◎ 独身で子どもがいない	1	22.3%
◎ 離別・死別などにより配偶者はいないが子どもがいる			
一番上の子どもが小学校入学前	2	0.2
一番上の子どもが小学生	3	0.6
一番上の子どもが中学生	4	0.3
一番上の子どもが高校・大学生	5	0.9
一番上の子どもが学校卒業	6	8.1
◎ 配偶者がいて子どもがいない	7	11.4
◎ 配偶者がいて子どもがいる			
一番上の子どもが小学校入学前	8	5.9
一番上の子どもが小学生	9	5.4
一番上の子どもが中学生	10	2.4
一番上の子どもが高校・大学生	11	6.0
一番上の子どもが学校卒業	12	25.6
無回答			10.9

次のページからも引き続きお答えください ⇒



お住まいの地域について、おうかがいたします

問1 あなたはお住まいの地域について、どのように感じていますか（〇はそれぞれ1つずつ）。

	そう思う	どちらかといえば	どちらかといえは そう思わない	そう思わない	わからない	無回答
ア. 通勤や通学などの交通の便がよい	33.4%	35.3	12.5	12.6	1.2	5.1
イ. 子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている	13.2	33.9	13.2	7.4	25.3	7.1
ウ. 地域の施設は、高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている	8.6	32.1	18.5	11.1	24.4	5.3
エ. よく行く、または行きたい公園がある	15.8	26.2	17.8	22.7	12.4	5.0
オ. 普段の買い物が便利である	38.3	37.5	11.6	8.9	0.8	3.0
カ. 自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている	9.4	22.7	25.6	36.3	2.7	3.3
キ. 快適で安全なまちづくりが進められている	7.5	34.0	26.3	17.2	11.2	3.8
ク. 景観・街並みが魅力的になってきている	5.5	29.1	27.4	26.6	7.7	3.7

問2 あなたのお住まいの地域についてうかがいます。以下のア～エの項目について、現在は以前と比べてどのように感じていますか（〇はそれぞれ1つずつ）。

	減少		増加			わからない	無回答
	減 ら か い に る	明 ら か に な る	減 ら か い に る	ど ち ら か と い え は	ど ち ら か と い え は そ う 思 わ な い		
ア. ごみやタバコのポイ捨て	14.2%	40.9	30.5	4.4	2.4	5.1	2.5
イ. ペットのふん	10.7	35.3	32.9	8.8	4.4	5.2	2.8
ウ. まちなかの花や緑	3.5	8.3	49.2	25.5	4.4	6.3	2.8
エ. 防犯パトロール	2.5	7.4	45.5	21.7	4.9	15.2	2.9

問3 問1、問2を踏まえてお聞きします。あなたは、あなたのお住まいの地域について、暮らしやすいと感じますか（〇は1つだけ）。

1. 暮らしやすい	23.7%	3. どちらかといえば暮らしにくい	17.2
2. どちらかといえば暮らしやすい	55.6	4. 暮らしにくい	2.0
		無回答	1.6

（問3で「3. どちらかといえば暮らしにくい」、または「4. 暮らしにくい」とお答えの方に）

問3-1 特に暮らしにくいと感じることは何ですか（〇は3つまで）。

1. 自然が少ないこと	13.8%
2. 公共施設や介護・医療施設が不十分なこと	25.7
3. 交通の便が悪いこと	42.8
4. 買い物がしにくいこと	34.1
5. 子育て環境が悪いこと	11.7
6. 教育環境が整っていないこと	8.1
7. 住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと	40.7
8. 職場や学校から遠いこと	4.6
9. 災害対策が不十分なこと	8.9
10. 治安が良くないこと	28.2
11. 家の広さなどの居住環境が悪いこと	8.9
12. 地域の間人間関係が希薄なこと	13.8
13. 行政のサービスが良くないこと	11.7
14. その他	6.5

問4 あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか（〇は1つだけ）。

1. ずっと住み続けたい	37.1%	3. 区外に転出したい	7.2	無回答	1.0
2. 当分は住み続けたい	41.8	4. わからない	12.9		

大震災などの災害に備えていることについて、おうかがいたします

問5 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか（〇は1つだけ）。

1. 災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している	20.9%
2. 特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある	47.1
3. 特に用意していない ⇒ 問6へ	29.0
無回答	3.0

（問5で「1. 災害に備えて～」、または「2. 特に災害対策としてでは～」とお答えの方に）

問5-1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください。

（〇はあてはまるものすべて）

1. 水	91.7%	10. 消火器	25.8
2. 食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）	89.9	11. ペット対策用品（ケージ、エサ等）	8.8
3. あかり（ろうそく、懐中電灯等）	80.9	12. 水の確保用品（ポリタンク、水袋等）	26.5
4. 情報収集手段（携帯ラジオ等）	55.3	13. 救助用工具（バール、ハンマー等）	9.8
5. 医薬品（常備薬を含む）	39.6	14. ヘルメット	15.9
6. 衣類	24.4	15. 救急セット	22.2
7. 生理用品	17.8	16. 避難ロープ	7.5
8. 簡易トイレ	20.4	17. 防災袋（非常用持出袋）	34.6
9. 電池・予備バッテリー	49.0	18. その他	3.3
		無回答	0.7

（問5-1で「1. 水」、または「2. 食料」とお答えの方に）

問5-1-1 あなたのご家庭では備蓄の量はどれくらいありますか。

（〇はそれぞれ1つずつ）

	1週間分以上	3日以上 1週間分未満	1日以上 3日分未満	1日分程度	1日分未満	無回答
ア. 水	12.8%	27.9	42.9	12.4	2.9	1.1
イ. 食料	7.5	26.5	46.1	15.8	2.9	1.2

※ 水は大人1人1日3リットルで計算。水、食料は日常の買い置きなどを含まず。

《 問7へお進みください 》

問6は、問5で「3. 特に用意していない」とお答えの方におうかがいたします

問6 災害が発生した場合、水や食料をどのようにして確保するつもりですか（〇は1つだけ）。

1. 町会・自治会からもらう	13.4%	5. 考えていない	42.9
2. 知人、親戚からもらう	2.9	6. その他	6.8
3. 区役所からもらう	7.5	無回答	0.7
4. 通常どおりスーパーなどで購入する	25.9		

ここから再び、すべての方におうかがいたします

問7 あなたのご家庭では、つっぱり棒や壁止め金具などにより家具類（※）の転倒・落下・移動防止対策を行っていますか（〇は1つだけ）。

※ 家具類とは、タンス、食器棚、冷蔵庫、電子レンジ、ピアノ、本棚、テレビ、パソコン機器などを指します。

1. すべての家具類に対策を行っている	3.9%	3. 対策をしている家具類は少ない	36.5
2. 対策をしている家具類が多い	24.0	4. 対策を行っていない	32.7
		無回答	3.0

（問7で「3. 対策をしている家具類は少ない」、または「4. 対策を行っていない」とお答えの方に）
問7-1 どのような理由からですか（〇はあてはまるものすべて）。

1. 方法がわからない	12.4%
2. 金具などが高価である	11.8
3. 家具にキズをつけたくない	7.7
4. 建物の壁にキズをつけたくない	19.2
5. 建物に取り付ける場所がない	12.1
6. 室内に危険性のある家具類がないため不要である	23.2
7. 面倒である	30.7
8. 手が届かないなど、手助けがないと取り付けができない	15.4
9. 地震で家具が倒れたり移動するとは思わない	6.3
10. (賃貸のため) 勝手に取り付けられない	17.8
11. その他	9.1
無回答	1.6

第4章 使用した調査票

問8 足立区では、家具転倒防止器具取付工事、ブロック塀倒壊防止工事、窓ガラス飛散防止工事について、3万円を限度に助成する制度を設けています。この制度を知っていますか。

(〇は1つだけ)

※ 助成の対象者 ①60歳以上の方を含む世帯、②一定の障がいをお持ちの方を含む世帯、
③世帯全員が非課税の世帯、のいずれかに該当する世帯

1. 知っていて、既に利用した	0.7%	4. 知らない	84.2
2. 知っているが、利用したことはない	8.8	無回答	2.3
3. 知っているが、対象とならないので利用できない	3.9		

問9 あなたが大地震の際の防災対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか (〇は5つまで)。

1. 町会・自治会などへの地域の防災力向上に係る支援	25.7%
2. 子どもへの防災教育の充実	12.8
3. 講演会などによる普及啓発や区主催の訓練	2.7
4. 耐震診断・耐震改修事業などの促進	17.2
5. 木造密集地域など災害危険箇所の解消	16.8
6. ライフラインやエネルギーの確保	54.4
7. 津波対策	7.8
8. 関係機関・他自治体などとの応援体制の充実	11.0
9. 災害に関する情報提供体制の充実	26.6
10. 災害時医療体制の充実	40.6
11. 帰宅困難者対策	20.7
12. 避難所の管理運営体制の充実	17.3
13. 避難所施設の設備などの充実	33.2
14. 災害時における要配慮者(※)対策の充実	11.1
15. 女性の視点に立った防災対策	11.8
16. 災害時のペット対策	10.0
17. 水・食料の備蓄の充実	53.9
18. 非常用トイレの確保など衛生対策の充実	54.5
19. その他	1.7
20. 特にない	1.6
無回答	2.8

※災害時における要配慮者とは、高齢者、障がい者、外国人、難病患者、乳幼児、妊産婦など、災害発生時に避難行動を取る際や、避難所における生活などにおいて、特に配慮を要する方々を指します。

洪水対策について、おうかがいたします

足立区は低地で平らな土地であるため、台風などの大雨により河川がはん濫すると、最大で5mの浸水被害が起こる可能性があります。

問10 あなたは、足立区が発行（区のホームページにも掲載）している「足立区洪水ハザードマップ」をご覧になったことがありますか（○は1つだけ）。

1. 見たことがあって、自宅周辺の状況を理解した	16.8%	無回答	4.9
2. 見たが内容までは覚えていない	35.9		
3. そのような地図はみたことがない	42.3		

問11 河川がはん濫して、数メートルの浸水被害になるような大洪水が迫っていると仮定した場合、以下のア～オまでの情報を知ったとき、あなたは自宅から避難しますか。

（○はそれぞれ1つずつ）

	避難する	避難しない	わからない	無回答
ア. 足立区に大雨・洪水警報が出されたとき	18.2%	56.1	18.1	7.6
イ. 自宅付近が浸水したとき	45.6	28.3	18.0	8.1
ウ. 近所の人が避難をしているのを見たとき	50.6	17.0	23.4	9.0
エ. 数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき	27.0	42.7	21.4	8.9
オ. 区から避難勧告・指示が発令されたとき	81.3	4.7	9.4	4.5

問12 荒川がはん濫すると、最悪2階建ての建物の屋根まで浸水（5.0m以上）すると想定されます。そのとき、あなたは最初にどこに避難しようと思いますか（○は1つだけ）。

1. 自宅の高層階（3階以上）	24.6%	6. 区外の浸水しない高台など	1.2
2. 近くの高い建物	15.6	7. 自宅が高層階にあるため避難はしない	14.8
3. 近くの学校や公共施設	30.8	8. わからない	6.1
4. 区内の親戚や知人の家	1.7	9. その他	1.6
5. 区外の親戚や知人の家	1.6	無回答	2.1

区の情報発信のあり方について、おうかがいたします

足立区では、あだち広報やホームページ、メール配信システム(A-メール)などで区の情報を発信するほか、平成25年度からはツイッターやフェイスブックによる情報発信も開始しました。

問13 あなたは、足立区に関する情報をどのような手段で入手していますか。

(〇はあてはまるものすべて)

1. あだち広報	71.7%	7. 町会・自治会掲示板・回覧板	34.0
2. ときめき	39.0	8. 新聞(区内紙、一般紙)	18.4
3. タウンページ内の行政情報 (旧 わたしの便利帳)	10.4	9. テレビ、ラジオ	26.4
4. インターネット (区のホームページ、A-メール、 ツイッター、フェイスブック)	27.8	10. J:COM足立(ケーブルテレビ)	10.9
5. ポスター、チラシ	11.8	11. 人から聞く	14.0
6. 区民事務所などの窓口	5.9	12. 防災無線	7.9
		13. その他	0.5
		14. 特に入手していない	8.8
		無回答	3.0

問14 あなたは、区が発信するどのような情報が必要だと思いますか(〇はあてはまるものすべて)。

1. 財政状況や予算などに関する情報	26.1%
2. 国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報	53.0
3. 健診や生活支援など健康や福祉に関する情報	59.6
4. 出産や育児、就学など子どもや教育に関する情報	25.5
5. イベントやスポーツ施設、図書館など生涯学習や余暇活動に関する情報	26.6
6. 災害や気象に関する情報	59.5
7. 光化学スモッグや大気測定などの測定値情報	27.8
8. ごみ・リサイクルなど環境に関する情報	43.0
9. その他	2.1
10. 特にない	5.0
無回答	4.5

問15 あなたは、必要なときに必要とする区の情報を得られていますか（〇は1つだけ）。

1. 十分に得られている	1.9%	5. 必要と思ったことがない	10.3
2. ある程度得られている	62.9	6. 区の情報に関心がない	3.8
3. 得られないことが多い	13.5	無回答	5.1
4. まったく得られない	2.6		

（問15で「3. 得られないことが多い」、または「4. まったく得られない」とお答えの方に）

問15-1 どのような理由からですか（〇は1つだけ）。

1. 情報が探しにくい	28.9%	5. 情報量が少ない	12.5
2. 情報の探し方がわからない	31.2	6. その他	3.5
3. 情報伝達が遅い	3.5	無回答	4.5
4. 情報の内容がわかりにくい	15.8		

（同様に、問15で「3. 得られないことが多い」、または「4. まったく得られない」とお答えの方に）

問15-2 問15-1の回答のように思われるのは、どうしてですか。理由をお書きください。

あだち広報	
区ホームページ	
その他	

問16 あなたは、「お問い合わせコールあだち」を利用したことがありますか（〇は1つだけ）。

1. 利用したことがある	5.5%	無回答	5.1
2. 知っているが利用したことはない	26.6		
3. 「お問い合わせコールあだち」を知らない	62.7		

健康について、おうかがいたします

足立区では、患者数が多く、重症になると生活の質が低下してしまう糖尿病対策に、重点的に取り組んでいます。

問17 あなたは、糖尿病という病気を知っていますか（〇は1つだけ）。

1. 知っている	84.1%	3. 知らない	0.6
2. 詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある	13.4	無回答	1.9

※ 糖尿病とは血液中のブドウ糖の濃度（血糖値）が高くなり、その状態が続いてしまう病気です。インスリンという血糖値を調節するホルモンの量が不足したり、働きが悪くなったりすることが原因です。日本人の糖尿病の大部分は、過食・肥満・運動不足・ストレスといった生活習慣や遺伝が要因となっているため、予防が大切です。

問18 以下の項目の中で、糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいであると、あなたが思うものはどれですか（〇はあてはまるものすべて）。

1. 神経障がい （手足のしびれ）	31.3%	5. 脳梗塞 ^{こうそく}	27.0	10. 足の壊疽 ^{えそ}	64.5
2. 網膜症	28.9	6. 心筋梗塞 ^{こうそく}	28.5	11. その他	1.0
3. 白内障	24.0	7. 口の渇き	47.7	12. わからない	6.1
4. 腎不全	38.2	8. 人工透析	45.6	無回答	3.2
		9. 失明	69.5		

問19 あなたは、食事の際に野菜から食べ始めることが、糖尿病の予防に効果があることを知っていますか（〇は1つだけ）。

1. 知っている	48.5%	3. 知らない	18.8
2. 詳しくは知らないが、聞いたことがある	30.7	無回答	2.0

※ 糖尿病が進行して起こる様々な合併症は、食後に血糖値が急上昇し、血管を傷つけることが原因で起こります。このような血糖値の急上昇を抑えるためには、食事の最初に野菜を良くかんで食べるのが効果的です。

問20 1日の野菜摂取量の目標は350g以上（調理前の生の状態）です。あなたは、毎日350g以上の野菜が摂取できていますか（〇は1つだけ）。

※ 野菜350gとは、1例をあげると、レタス1枚、きゅうり1本、プチトマト2個、にんじん1/2本、たまねぎ1/2個の合計に相当する量です。

1. できている	9.7%	3. あまりできていない	37.8	5. わからない	4.3
2. だいたいできている	29.9	4. できていない	16.5	無回答	1.8

問21 あなたの体調や習慣、身近な医療機関についてお答えください（〇はそれぞれ1つずつ）。

	あてはまる	あてはまらない	無回答
ア. 現在の健康状態はよい	69.4%	24.5	6.1
イ. 疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある	21.7	71.2	7.2
ウ. 習慣的にタバコを吸っている	20.8	72.0	7.3
エ. 安心して受診できる医療機関が身近にある	66.0	28.9	5.0

問22 あなた自身が健康維持のために実行している、または心がけているものをお答えください。
（〇はあてはまるものすべて）

1. 毎年健康診断を受けている	63.6%
2. がん検診を定期的に受けている	15.6
3. 毎日朝ごはんを食べている	67.2
4. 毎食、野菜料理（サラダ、お浸し、野菜の煮物、野菜炒め、具たくさん味噌汁など）を食べるように心がけている	49.6
5. 主食、主菜、副菜をそろえて食べるように心がけている	43.1
6. 食品の表示（添加物、消費期限など）を見て購入している	42.6
7. 食品などの保管方法や調理前の手洗い、きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている	53.3
8. 健康のため仕事や家事以外で毎日30分は歩行する、またはそれと同等以上、身体を動かす習慣がある。	36.8
9. その他	4.5
10. 特にない	3.8
無回答	1.6

「ビューティフル・ウィンドウズ運動」について、おうかがいたします

問23 あなたは、足立区が取り組んでいる「ビューティフル・ウィンドウズ運動（※）」という取り組みを知っていますか（○は1つだけ）。

※ 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」とは「美しいまち」を印象付けることで犯罪を抑止しようという足立区独自の運動です。区は、警視庁や区民のみなさんと協働して、まちの美化活動や防犯パトロールなどの取り組みを推進し、犯罪のない住みよいまちの実現をめざしています。



イメージキャラクター「ビュー坊」

1. 知っていて、活動を実践している	5.0%	無回答	3.5
2. 知っているが、特に何も行っていない	19.0		
3. 名前は聞いたことはあるが、内容はわからない	20.0		
4. 知らない（初めて聞いた）	52.5		

問24 あなたは、平成26年の足立区内の刑法犯認知件数（※）が減少し、治安が改善していることを知っていますか（○は1つだけ）。

※ 警察が犯罪について、被害の届出などによりその発生を確認した件数。ただし、交通違反などを除きます。

1. 知っている	41.6%	2. 知らない（初めて聞いた）	54.6	無回答	3.8
----------	-------	-----------------	------	-----	-----

問25 あなたは、お住まいの地域の治安（※）について、どのように感じていますか。

（○は1つだけ）

※ 犯罪が少なく、世の中の秩序が保たれている状態のことです。

1. 良い	7.2%	3. どちらかといえば 悪い	22.8	5. わからない	17.3
2. どちらかといえば 良い	44.4	4. 悪い	5.1	無回答	3.3

（問25で「1. 良い」、または「2. どちらかといえば良い」とお答えの方に）

問25-1 どのような点で治安が良いと感じますか（○は2つまで）。

1. 防犯カメラが増えたことで、安心感があるから	19.7%
2. テレビや新聞などで犯罪発生ニュースが少ないから	20.5
3. 犯罪の発生件数が減っているということを知ったから	20.3
4. 自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから	56.9
5. 青パトなど自主防犯パトロールの活動が活発で、安心感があるから	18.5
6. 道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくいと感じられるから	24.9
7. 防犯に取り組む意識、活動が活性化してきていると感じられるから	7.7
8. その他	2.3
無回答	1.0

(問25で「3. どちらかといえば悪い」、または「4. 悪い」とお答えの方に)

問25-2 どのような点で治安が悪いと感じますか (〇は2つまで)。

1. 殺人、強盗、放火などの凶悪犯罪の発生が多いから	26.8%
2. 自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから	56.7
3. 子どもに対する「不審な声かけ事案など」の発生が多いと聞いたことがあるから	21.0
4. 街路灯が少なく、暗い路地や公園が多いから	22.3
5. 深夜の公園やコンビニに若者が集まっているところを見かけるから	30.7
6. 隣近所の連帯感がなくなり、相互に安全を守る意識が欠けているから	14.7
7. その他	8.4
無回答	0.6

ここから再び、すべての方におうかがいいたします

問26 あなたが、治安対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか。

(〇は2つまで)

1. 犯罪の発生や検挙情報など生活安全に関する情報の提供	20.3%
2. 防犯カメラなど防犯設備の設置などに対する支援	56.6
3. 地域住民による防犯パトロール活動への支援 (防犯用品の貸与など)	13.4
4. 防犯講習会の開催	1.9
5. 街頭キャンペーンやイベントの実施	1.8
6. 安全に配慮した道路、公園の整備	39.1
7. 安全・安心パトロールカー (青パト・青バイ) による防犯パトロール	37.8
8. その他	2.9
9. 特にない	1.9
無回答	4.7

問27 あなたは、自転車を駐車するときには、自転車に鍵をかけていますか。

(〇はそれぞれ1つずつ)

	いつも鍵をかけている	鍵をかけることが多い	短時間のときは鍵をかけないことがある	鍵をかけることは少ない	鍵はかけていない (鍵がついていないを含む)	自転車を持っていない、使っていない	無回答
ア. 外出先で駐車するとき	72.8%	4.1	2.6	0.9	0.7	10.8	8.1
イ. 自宅・マンションなどの敷地内に駐車するとき	58.3	3.5	2.1	7.0	9.2	10.0	9.8

環境・地域活動について、おうかがいたします

問28 あなたが環境のために心がけていることは何ですか（〇はあてはまるものすべて）。

1. ごみと資源の分別を実行している	87.8%
2. くり返し使えるものは使うなど、ごみになるものを減らすよう心がけている	42.8
3. マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている	55.2
4. 環境に配慮した製品を選んで使っている	15.3
5. 節電や節水など省エネルギーを心がけている	54.6
6. その他	1.3
7. 特にない	3.1
無回答	3.8

問29 あなたがこの1年間に参加された活動と、引き続き、または今後あなたが参加したいと思う活動はどれですか（〇はいずれも、あてはまるものすべて）。

内 容	この1年間に参加された活動	引き続き、または今後参加したいと思う活動
1. 町会や自治会の運営に関する活動	13.3%	8.8
2. 町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物	15.7	14.0
3. 花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物	21.0	24.0
4. ボランティアやNPO（民間の非営利活動の組織）などの活動	3.1	6.7
5. まちの美化活動（ごみ拾い、門掃き、公園の清掃など）	8.6	9.8
6. 自宅や店舗の庭や玄関先、ベランダ、公共の場などでの草花や木、緑のカーテンの育成	13.6	13.4
7. 防犯パトロールなどのまちの防犯に関する活動	5.5	6.8
8. お囃子、獅子舞など地域の伝統芸能を保護・継承する活動	1.4	4.2
9. 家族、地域の健康づくりを支援する活動（健康講座に友人を誘う、講座で得た知識を周囲の人に伝えるなど）	2.7	6.5
10. 特に参加していない・特にない	34.3	17.6
無回答	23.6	40.6

問30 あなたは、区役所が孤立ゼロプロジェクトやビューティフル・ウィンドウズ運動など区民・団体と協力・連携（協働）して事業を進めていると感じていますか（〇は1つだけ）。

1. そう思う	4.8%	4. そう思わない	6.2
2. どちらかといえばそう思う	15.4	5. わからない	59.5
3. どちらかといえばそう思わない	6.7	無回答	7.4

「孤立ゼロプロジェクト」などについて、おうかがいたします

問31 あなたは、足立区の「孤立ゼロプロジェクト（※）」という取り組みを知っていますか。
（〇は1つだけ）

※ 「孤立ゼロプロジェクト」とは地域における見守り活動を支援するとともに、日常的な寄り添い支援活動を通じて、支援を必要とする方を早期に発見し、必要なサービスにつなぎ、地域活動などへの社会参加を促す一連の活動をいいます。

1. 知っていて、内容も概ね理解している	9.0%	3. 知らない（初めて聞いた）	65.8
2. 聞いたことはあるが、内容はわからない	21.2	無回答	4.0

（問31で「1. 知っていて、内容も概ね理解している」とお答えの方に）

問31-1 プロジェクトのことをどのようにして知りましたか。

（〇はあてはまるものすべて）

1. あだち広報	55.2%	4. 近所の方から聞いた	5.7
2. 町会・自治会の方から聞いた	38.5	5. その他	11.5
3. 民生委員の方から聞いた	14.9	無回答	1.1

問32 あなたは、「地域包括支援センター（※）」を知っていますか（〇は1つだけ）。

※ 「地域包括支援センター」とは足立区から委託を受けた公的な「高齢者の総合相談窓口」です。高齢者やご家族の方の様々なご相談に応じて、公的な保健福祉サービスの紹介や申請手続きのお手伝いをします。

1. 知っていて、業務内容も概ね理解している	18.4%
2. 聞いたことはあるが、詳しくはわからない	30.1
3. 知らない（初めて聞いた）	46.6
無回答	5.0

（問32で「1. 知っていて、業務内容も概ね理解している」とお答えの方に）

問32-1 「地域包括支援センター」のことをどのようにして知りましたか。

（〇はあてはまるものすべて）

1. あだち広報	40.4%	4. 近所の方から聞いた	12.7
2. 町会・自治会の方から聞いた	11.3	5. その他	47.7
3. 民生委員の方から聞いた	9.3	無回答	0.6

問33 あなたは、高齢者の孤立防止や見守り活動に協力してみたいですか（○は1つだけ）。

1. 積極的に協力したい	1.6%
2. 負担にならない範囲で協力してもよい	17.5
3. 協力したいが、時間などに余裕がない	40.4
4. 興味がない、協力したくない	7.5
5. わからない	26.6
無回答	6.4

（問33で「1. 積極的に協力～」、または「2. 負担にならない範囲で協力～」とお答えの方に）

問33-1 どのような活動に協力したいですか（○はあてはまるものすべて）。

1. 「世間話をする頻度」や「困りごとの相談相手」などを調査する活動	37.2%
2. 体調の変化、悩み相談などをうかがいながら寄り添う、ちょっとした気づかひの活動	56.0
3. 住区センターや地域での自主的な活動への協力や参加の働きかけなどをする活動	29.1
4. 活動を支援するための寄付や基金などへの金銭的援助	11.1
5. その他	3.5
無回答	3.5

問34 あなたは、高齢者などの権利を守るしくみとして、「成年後見制度」を知っていますか。

（○は1つだけ）

1. 内容まで知っている	20.4%	3. 知らない	37.9
2. 聞いたことはあるが、内容はわからない	37.1	無回答	4.6

足立区の取り組みについて、おうかがいたします

問35 足立区の取り組みについて、あなたの現状評価（満足度）と今後の取り組みの重要度について、最も近いものを選んでください（〇はいずれも、それぞれ1つずつ）。

区の取り組み	内 容	現状評価（満足度）				
		満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
ア. 子育て支援	保育サービス、子ども医療費助成や子育て相談の充実など	9.1%	44.7	19.8	4.9	21.5
イ. 学校教育対策	教育内容の充実、施設の改修など	6.0	44.2	22.7	4.4	22.7
ウ. 地域活動支援	町会・自治会活動の支援、青少年の健全育成など	6.0	46.8	23.1	3.1	21.0
エ. 社会参加支援	NPOやボランティアの育成や支援など	4.8	44.1	24.2	3.1	23.8
オ. 男女共同参画推進	男女が平等に社会参加できるしくみづくりなど	5.7	41.0	25.2	3.6	24.5
カ. 生涯学習振興	文化・芸術・スポーツ活動の支援、施設の充実など	8.1	44.7	21.1	3.8	22.3
キ. 高齢者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、生きがい対策など	6.1	40.2	28.4	7.2	18.1
ク. 障がい者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、就労支援など	6.1	41.3	24.4	5.9	22.3
ケ. 保健衛生対策	健康づくり、健康診査、生活衛生など	9.5	49.5	17.9	2.6	20.4
コ. 低所得者対策	生活の援助や自立支援など	6.7	35.1	26.2	10.2	21.8
サ. 産業振興	商工業の支援、企業起こしの支援、消費者対策など	4.0	39.8	27.5	4.4	24.4
シ. 治安対策	防犯パトロールやビューティフル・ウィンドウズ運動、警察との連携など	6.7	42.2	25.1	6.4	19.5
ス. 資源環境対策	省エネルギー、ごみ処理、リサイクルなど	13.0	50.3	16.4	2.5	17.7
セ. 都市開発	開発・再開発、美しい街並みや景観づくりなど	6.0	42.4	28.0	7.1	16.5
ソ. 住宅対策	良質な住宅の供給支援など	5.2	37.9	29.9	7.4	19.6
タ. 交通対策	道路や交通網の整備、交通安全対策など	5.8	39.1	29.2	10.1	15.8

区の取り組み	内 容	現状評価（満足度）				
		満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
チ. 防災対策	防災活動の充実、都市の不燃化など	4.6%	37.8	32.8	6.6	18.2
ツ. 自然・緑化対策	公園や緑地、河川の整備など	9.7	47.7	21.6	4.5	16.5
テ. 情報提供	広報やホームページなどによる区政情報の提供など	8.9	50.5	18.9	3.8	17.8
ト. 職員の接客態度	窓口や仕事での区民対応における接客態度など	13.3	46.5	17.5	7.3	15.4
ナ. 行政改革	区政の透明化や区民サービスの向上など	6.4	41.6	27.0	6.6	18.5
二. 区政全体として		6.1	47.2	22.8	4.6	19.3

区での取り組み	内 容	重要度				
		重要である	やや重要である	あまり重要ではない	重要ではない	無回答
ア. 子育て支援	保育サービス、子ども医療費助成や子育て相談の充実など	52.9%	24.7	2.6	1.4	18.3
イ. 学校教育対策	教育内容の充実、施設の改修など	48.5	28.9	2.3	1.5	18.9
ウ. 地域活動支援	町会・自治会活動の支援、青少年の健全育成など	23.6	45.3	10.2	2.7	18.2
エ. 社会参加支援	NPOやボランティアの育成や支援など	15.9	44.9	16.1	3.5	19.5
オ. 男女共同参画推進	男女が平等に社会参加できるしくみづくりなど	20.4	39.2	16.0	4.6	19.8
カ. 生涯学習振興	文化・芸術・スポーツ活動の支援、施設の充実など	20.9	44.3	13.0	2.7	19.1
キ. 高齢者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、生きがい対策など	50.8	28.8	3.9	1.5	15.1
ク. 障がい者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、就労支援など	43.4	32.9	4.2	1.5	18.0
ケ. 保健衛生対策	健康づくり、健康診査、生活衛生など	38.8	37.2	5.0	0.9	18.0
コ. 低所得者対策	生活の援助や自立支援など	31.2	35.5	11.5	4.2	17.6
サ. 産業振興	商工業の支援、企業起こしの支援、消費者対策など	22.0	42.9	12.0	2.7	20.4
シ. 治安対策	防犯パトロールやビューティフル・ウィンドウズ運動、警察との連携など	51.1	28.0	3.2	0.6	17.1
ス. 資源環境対策	省エネルギー、ごみ処理、リサイクルなど	41.5	37.5	4.0	0.7	16.3
セ. 都市開発	開発・再開発、美しい街並みや景観づくりなど	29.7	41.5	9.0	1.5	18.4
ソ. 住宅対策	良質な住宅の供給支援など	26.3	40.7	11.1	2.1	19.8
タ. 交通対策	道路や交通網の整備、交通安全対策など	45.8	33.0	3.2	0.6	17.5

第4章 使用した調査票

区取り組み	内容	重要度				
		重要である	やや重要である	あまり重要ではない	重要ではない	無回答
チ. 防災対策	防災活動の充実、都市の不燃化など	51.3%	27.5	2.5	0.5	18.1
ツ. 自然・緑化対策	公園や緑地、河川の整備など	32.8	41.0	6.9	1.3	18.0
テ. 情報提供	広報やホームページなどによる区政情報の提供など	30.1	40.4	8.4	1.9	19.1
ト. 職員の接客態度	窓口や仕事での区民対応における接客態度など	36.4	34.9	8.7	1.7	18.3
ナ. 行政改革	区政の透明化や区民サービスの向上など	38.2	35.5	6.0	1.1	19.3

問36 あなたは、区政に区民の意見が反映されていると感じていますか（〇は1つだけ）。

1. そう思う	3.8%	4. そう思わない	8.9
2. どちらかといえばそう思う	22.6	5. わからない	34.5
3. どちらかといえばそう思わない	20.6	無回答	9.6

問37 あなたの足立区に対する気持ちとして、以下の項目にどの程度あてはまりますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	わからな い	無回答
ア. 足立区に愛着をもっている	29.7%	44.9	6.9	5.4	6.8	6.3
イ. 足立区に誇りをもっている	14.0	34.8	16.8	11.7	13.9	8.8
ウ. 足立区を人に勧めたい	12.0	33.4	16.0	11.9	17.0	9.6

(問37で「3. どちらかといえばそう思わない」、または「4. そう思わない」に1つでも○をつけた方に)

問37-1 足立区に愛着をもてない、誇りをもてない、足立区を人に勧めたくないと思うのは、どうしてですか。理由をお書きください。

問38 区政についてのご意見、ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

問39 多数の質問にお答えいただき、ありがとうございました。最後におうかがいいたします。

今回の調査の質問内容は、区民のニーズや意識を把握するうえで有効な内容だと思いますか。

(○は1つだけ)

1. そう思う	29.2%	4. そう思わない	4.6
2. どちらかといえばそう思う	35.3	5. わからない	16.2
3. どちらかといえばそう思わない	7.7	無回答	7.1

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

ご記入がお済みになりましたら、まことにお手数ですが、返信用封筒に入れて **9月25日(金)** までにご投函ください。



第44回 足立区政に関する世論調査

2016年3月発行

発行 足立区

編集 足立区政策経営部広報室区政情報課
東京都足立区中央本町1-17-1
電話 03-3880-5111 (代表)

実施 (株)サーベイリサーチセンター
東京都荒川区西日暮里2-40-10
電話 03-3802-6724

印刷登録番号27-460

この報告書は再生紙を使用しています。



世論調査報告書の《概要版》、本編、《集計表》は足立区ホームページでもご覧いただけます。
ホームページアドレス <http://www.city.adachi.tokyo.jp> 足立区政策経営部広報室区政情報課

この報告書は再生紙を使用しています。